三省堂編輯所編

中等 最近日本地理 三訂版

東京 三省堂 大阪

42823
教科書文庫
4
291
41-1941
20000
40709

昭和十六年二月十八日

文部省檢定濟

中學校理科用

教科書文庫
4
291
41-1941
2000040709

中等 最近日本地理

三訂版

三省堂編輯所編

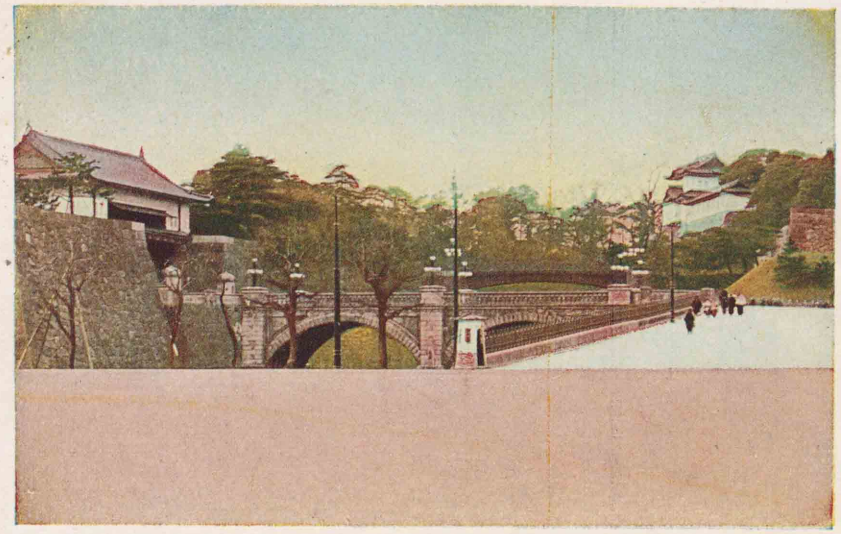
東京 三省堂 大阪

資料室

3759
Sa14

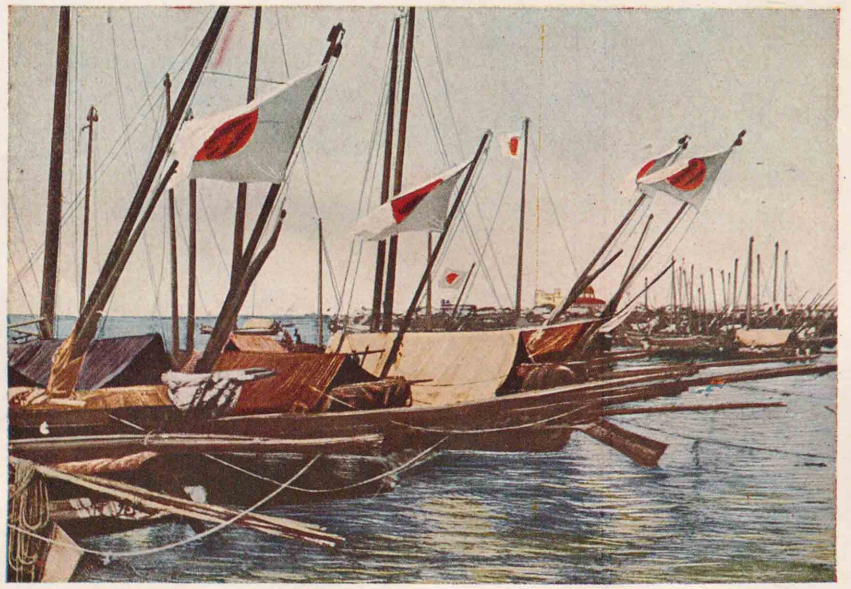
乃美中學校B組

積田敏吉



宮城の二重橋

遠景は鐵橋近景のは石橋であるる



海外の日本人

旗章日ぐ壽を日祝の國祖は圖で船漁人邦の島諸ーレマ

廣島大學圖書之印

廣島大学 教 40709 図書

広島大学図書

2000040709

辯言

本書は新定の教授要目に則り、中學校の地理教科書とする爲に編纂したもので、「中等最近世界地理」及び「中等最近地理概說」と緊密な連絡を保ち、一貫せる方針の下に、地理教授の本旨を、達成せしめんとするものである。

本書の編纂に當り、意を用ひた要點は、左の通りである。

一、初等教育との連絡を考慮して內容の程度を高め、日本の現狀を正しく把握せしめると共に、益〻將來の發展に奮起心を誘發せしめるやうに努めた。

一、教授の單元に意を加へ、通說にあつては、稍〻範圍を廣くして各項の知識を纏め、處誌にあつては、統計その他の便宜を考へ、府

縣に分けて更に適當な小單元に分け得られるやうにした。

一、近年經濟生活の重要性が加つたので、その記述に最も意を用ひ、外國と需給關係の密な生產品に對しては、特に一頁を費して各方面から我が產業的地位を觀察せしめ、又產業統計は、貿易の外、總て昭和十二年以前の分を採つた。

一、直觀材料として、本文中に多數の寫眞を加へた外、別丁を挿入して著しくその數を豐富にし、記事の理解と趣味の喚起とを助けた。

一、地方誌に於いては、市と朝鮮の府とに太字を用ひ、又地方廳所在地(□)、名勝舊蹟(▱)、地方名(○)及び區域外の都邑(、)等には、特殊の記號を附して一般都邑(•)と區別し、總說に於いては、主題となる品名名詞等に(•)を附して、一目瞭然たらしめた。

一、全卷を通じ、國民精神の作興に關する材料を隨處に採錄して、要旨の貫徹に努め、又保健上の必要から、本文及び圖表中の文

字を大きくし、總て文部省告示の活字印刷規定に據つた。

本書に使用した統計圖表は、中央氣象臺の調査、諸官省の統計表、諸會社の報告、理科年表、國勢グラフ等の數によつて作製したものが多く、又內容の修正に關しては、當事者諸賢の經驗に基く注意に負ふものである。茲に特記して感謝の意を表する。

昭和十五年十一月

編者識

目次

序說……一
前篇　地方誌……五
第一章　關東地方……五
第二章　奧羽地方……二七
第三章　中部地方……四二
第四章　近畿地方……六八
第五章　中國地方……八七
第六章　四國地方……一〇〇
第七章　九州地方……一〇八
第八章　北海道……一二六
第九章　樺太（南部）附北樺太……一三九
第十章　臺灣……一四六

第十一章　朝鮮……一六〇
第十二章　關東州……一七三
第十三章　南洋群島……一七七
後篇　總說……一八二
第一章　地勢……一八二
第二章　海洋……一八五
第三章　氣候……一八七
第四章　住民……一八九
第五章　產業……一九二
第六章　交通……一九九
第七章　政治……二〇三
結論……二〇四

目次終

廣島大學圖書之印

中等

最近日本地理　三訂版

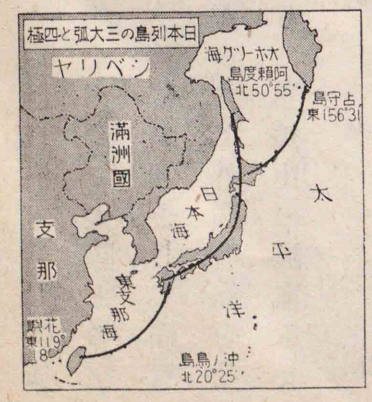
序說

帝國の位置　我が大日本帝國は、アジヤ大陸の東邊に沿ふ日本列島と、朝鮮半島とから成る。日本列島は、古く大八洲又は瑞穗國といはれ、氣候がよく、風景の秀でた樂土である。多くの島々は、三つの弓形をなして、その內側は、オホーツク海・日本海・東支那海を挾んで、近くアジヤ大陸と對し、外側は太平洋を隔てて、遙に新大陸及び大洋洲に對してゐる。

日本の四極

極北　千島の阿賴度島
極南　小笠原の沖ノ鳥島
極東　千島の占守島
極西　澎湖諸島の花嶼

新附の新南群島は最南北緯約七度、最西東經約一一一度半である



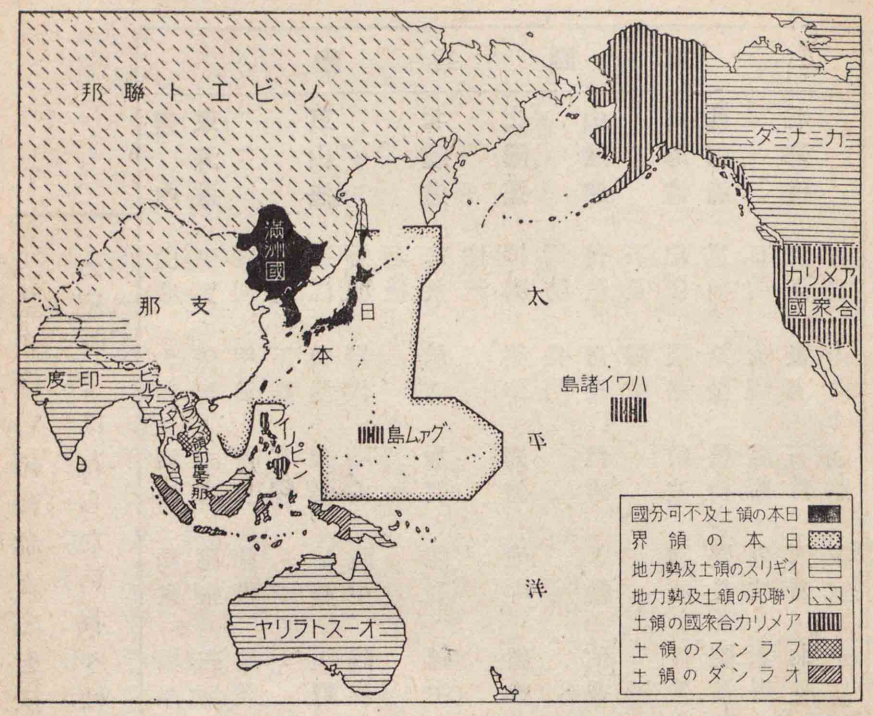
環海の島國　我が國は、永く

皇祖天照大神を奉祀せる伊勢神宮

島國の幸福に惠まれて來た。大陸との間は、海も著しく廣くない上に、壹岐・對馬等が飛石の如く列んで、大陸との交通を助け、早くその文明を傳へると共に、島國として固有の文化を產み、優越せる國民性を養ひ、嘗て外國の侮を受けたことなく、光輝ある歷史を作り、世界無比の國家をなしたのである。

萬邦無比の國家　古來の語事によれば、我が大八洲は、天神の造り給ひしものである。我々大和民族は、天神以來連綿たる皇統を戴いて、この國土に生育し、この國土を開發して、今日に至つたもので、肇國以來幾千年、祖先努力の足跡は、この土に印せられてゐる。されば皇室と臣民とは、同祖の關係があると共に、國土と國民とも、不離の親しみがある。この上下一體の大精神は、一貫して光輝ある歷史となり、萬邦無比の國家をなしてゐる。

國土の膨脹　明治以來、國運の發展が著しく、臺灣・樺太を加へ、朝鮮を併せ、關東州を租借地とし、版圖が益〻廣くなつた爲、ソビエト聯



邦・滿洲國とは境を接し、支那は對岸の隣國となつたが、更に南洋群島の統治を行つて、太平洋に於ける米・英・佛・蘭等の領土とも、關係が益〻深くなつた。

我が國の面積は、六十八萬方粁に近く、住民は約一億に達し、內地はその中の七割餘を占めて、人口密度は世界の第四位にある。

國勢の發展　我が國は、近來躍進的の進步を遂げ、今や總ての文化は、先進國の多くを凌駕し、世界の大强國、東亞の盟主として仰望されるに至つた。斯る異數の發展も、畢竟幾多の艱難を凌いで來た結果で、その間に於ける、歷代

天皇の深い御軫念(ゴシンネン)と、之を扶翼し奉つた祖先の忠誠とに基くことを忘れてはならない。我々は內外の地理を學んで、その情勢を理解し、皇國無窮の發展に力を盡さねばならぬ。

畿內	山城	大和	河內
東海道	伊賀	伊勢	志摩
	駿河	甲斐	伊豆
	上總	下總	常陸
東山道	近江	美濃	飛驒
	磐城	岩代	陸前
	羽後		陸中
北陸道	若狹	越前	加賀
	佐渡		能登
山陽道	播磨	美作	備前
	周防	長門	備中
山陰道	丹波	丹後	但馬
	石見	隱岐	因幡
南海道	紀伊	淡路	阿波
			讚岐
西海道	筑前	筑後	豐前
	日向	大隅	薩摩
	渡島	後志	石狩
北海道	日高	十勝	釧路

和泉	攝津	遠江	伊豆
尾張	三河	安房	上總
相模	武藏		
信濃	上野	下野	陸奥
陸中	陸奥	羽前	羽後
能登	越中	越後	佐渡
備中	備後	安藝	周防
因幡	伯耆	出雲	石見
伊豫	土佐	肥後	肥前
壹岐	對馬	琉球	北見
豐後	肥前	膽振	千島
天鹽	根室		

區分　本州・四國・九州は、北海道と共に內地と呼び、行政上一道・三府・四十三縣に分けるが、往時畿內(キナイ)・八道・八十五國に分れてゐたから、今もその名が用ひられる。本書は便宜上、內地を關東・奧羽・中部・近畿・中國・四國・九州・北海道に分け、之に新領土の樺太・臺灣・朝鮮と、租借地の關東州及び統治地の南洋群島とを加へて、十三地方に分ける。

東京府	(東京市)	
神奈川縣	(横濱市)	
埼玉縣	(浦和市)	
群馬縣	(前橋市)	
栃木縣	(宇都宮市)	
茨城縣	(水戸市)	
千葉縣	(千葉市)	

白根山・男體山・赤城山・榛名山[1]

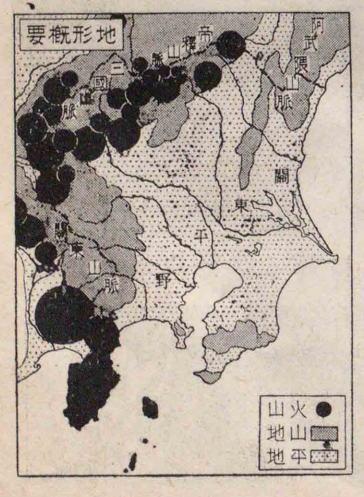
前篇　地方誌

第一章　關東地方

通說

本州の東南部に當り、昔は關八州と呼ばれた地方で、早くから政治上の中心であつたが、江戸幕府の頃から、發達が殊に著しく、今は帝都のある上に、あらゆる方面が全國の中心となつてゐる。行政上、一府・六縣に分ける。

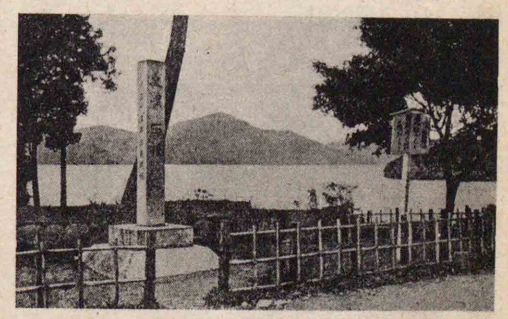
地勢　北部及び西部の山地と、關東平野とに分れ、別に離れて島嶼部がある。北部山地の東部は、阿武隈(アブクマ)・帝釋(タイシャク)・三國等の山脈から成り、那須(ナス)火山帶が殆ど之と並走し、多くの火山[1]を起してゐる。西部は關東山脈に屬し、

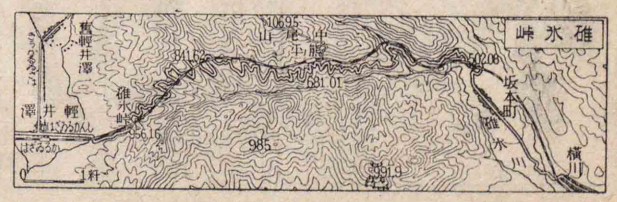


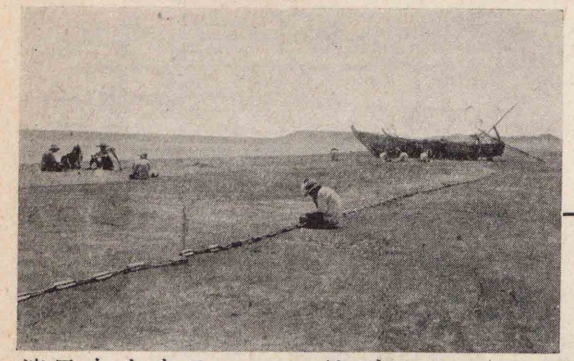
富士火山帶に屬する箱根山が、この南部に噴出し、餘勢は遙に豆南諸島を經て、南洋群島に延びてゐる。此等の山地は、殆ど一續きとなつて、他の地方とを分け、幕府時代には、軍事上の要害として、自然の嶮道(ケンダウ)や、人爲の關所を設けた處もある。

關東平野は、我が國第一の廣い平地で、多くの河川が流れ、細長い低地と、廣い臺地とに分れる。産業が發達して、交通機關は完備し、重要な都邑も多い。

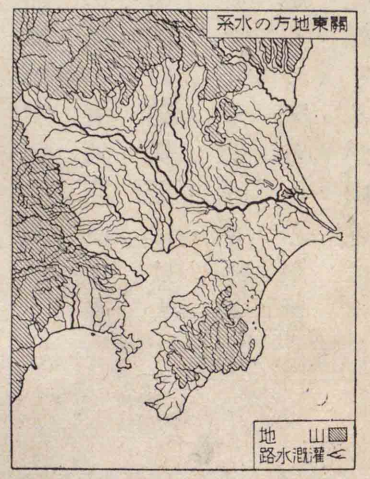
河の主なのは久慈(クジ)川・那珂(ナカ)川・利根川・荒川・多摩川・相模(サガミ)(馬入)川等で、上流は多く發電に利用


蘆湖の沿岸に残る箱根關の址




渡良瀬川・鬼怒川等

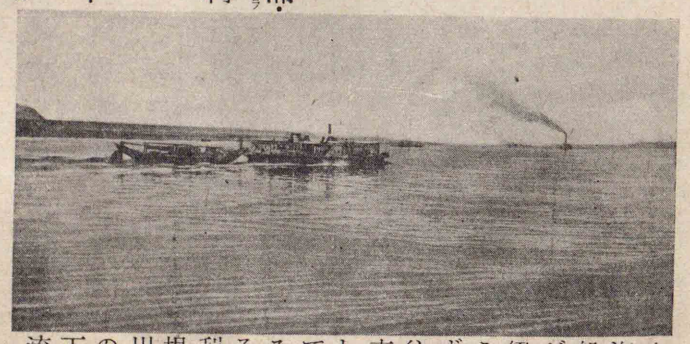
せられ、中流以下は灌漑(クワンガイ)・運輸の便が多い。中でも利根川は、大支流(1)が多く、

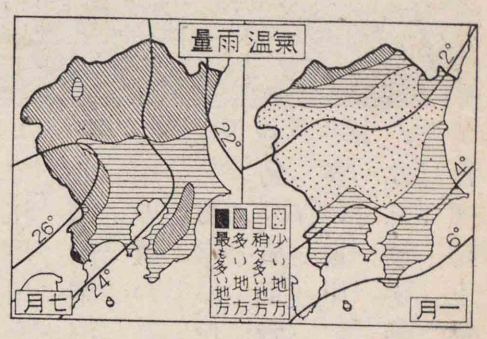


中流で江戸川を分け、運河を通じ、又霞浦(カスミガウラ)・北浦・印旛沼(インバヌマ)等の湖群とも連つて、利用の廣いことは、國内第一である。

海岸は、丘陵性の房總(バウソウ)・三浦の兩半島が、東京灣を抱く外、單調な砂濱が多い。東岸には犬吠崎(イヌボウ)が出て、鹿島灘(カシマナダ)と九十九里濱とを分け、三浦半島の西には、相模灣がある。東京灣口の浦賀海峽は、國防上極めて大切な處である。

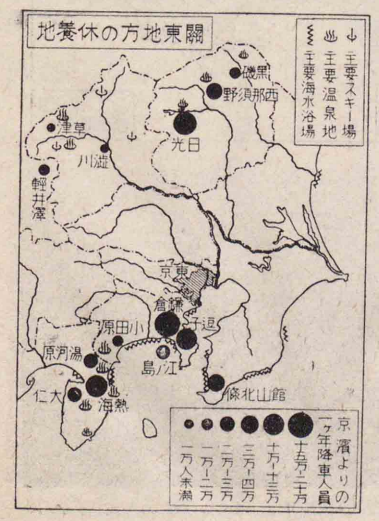
單調な砂濱が續いてゐる九十九里濱

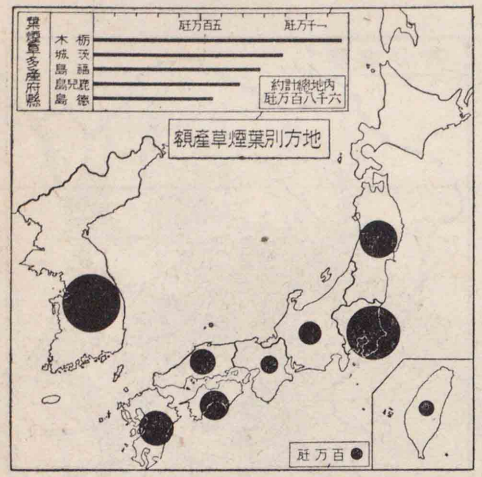

小汽船が絶えず往來してゐる利根川の下流



夏は南東季節風が吹いて、雨が一般に多く、殊に初夏の梅雨期には、濕潤(シツジュン)の日が續き、初秋の颱風期には、大雨の降ることがある。冬は北西季節風が、山地を吹越して來るから、平地は空風(カラカゼ)が吹き、乾燥するが、山地には暑の好適地である。

氣候 氣候は、海岸から山地に移るにつれて漸變するが、概ね溫和で雨も多い。殊に沿岸地方は、冬暖夏涼の好地で交通の便もよく、著名な靜養地帶をなし、夏季には海水浴も盛である。日光・箱根等の高地は、夏が涼しく、風景もよく、避

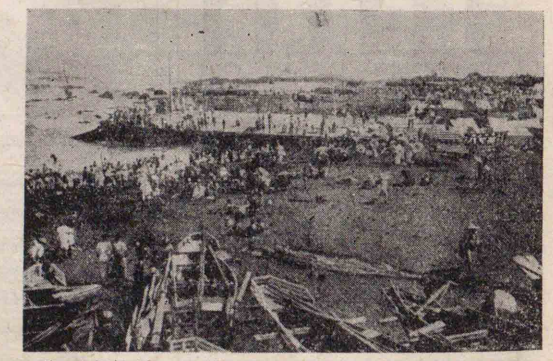




相當の降雪があり、スキー場として名高い處もある。

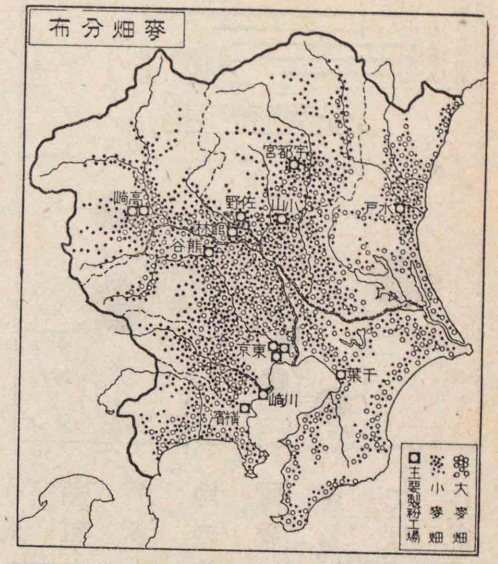
産業 土地が肥えて耕地が廣く、農業は極めて盛であるが、近年各種の工業が著しく發展した。

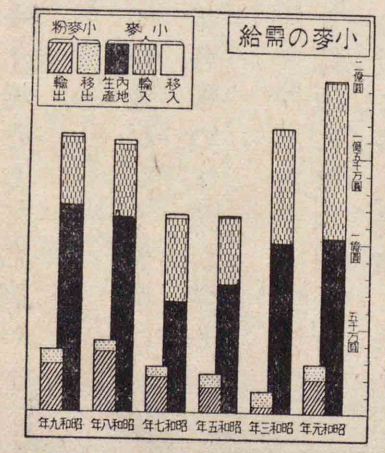
農業 灌漑に便利な低地には、水田が廣く米の産に富み、臺地には、麥類・大豆・甘藷(サツマイモ)・野菜等の産が多く、殊に麥の産額は、内地の約三割を占める。栃木・茨城の兩縣にかけて、全國第一の煙草産地があり、神奈川縣からも煙草を産し、栃木縣には大麻の特産がある。海に近い南部では、蜜柑(神奈川)・枇杷(ビハ)(千葉)・梨(神奈川)等の果實を出し、東京附近では、野菜・花卉(クワキ)等の園藝的農業が行は

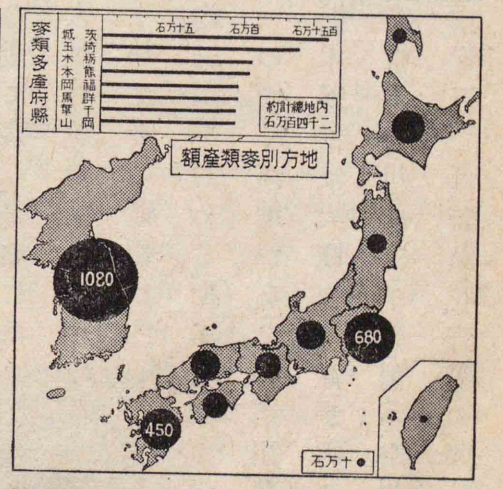


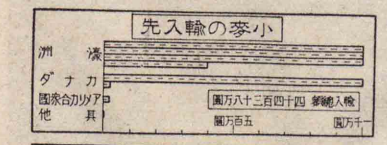
夏の海水浴に賑ふ湘南の海岸(大磯)

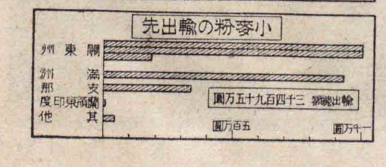
日本の麥　麥の產額は、米の約四割に達し、その約三分の一は關東地方から產する。大麥は食用の外、ビールの原料となり、小麥は醬油・味噌等の釀造にも用ひる。歐米では國民の主食物である爲、國際商品として大切である。我が大麥の需要は漸減するが、小麥は年々消費を增し、近年製粉業が發達した爲、その原料としての輸入は甚だ多い。

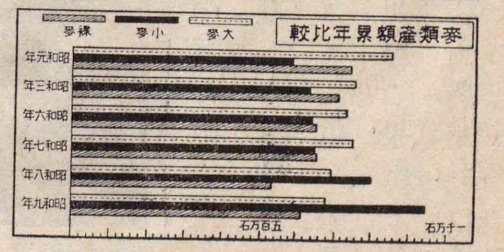


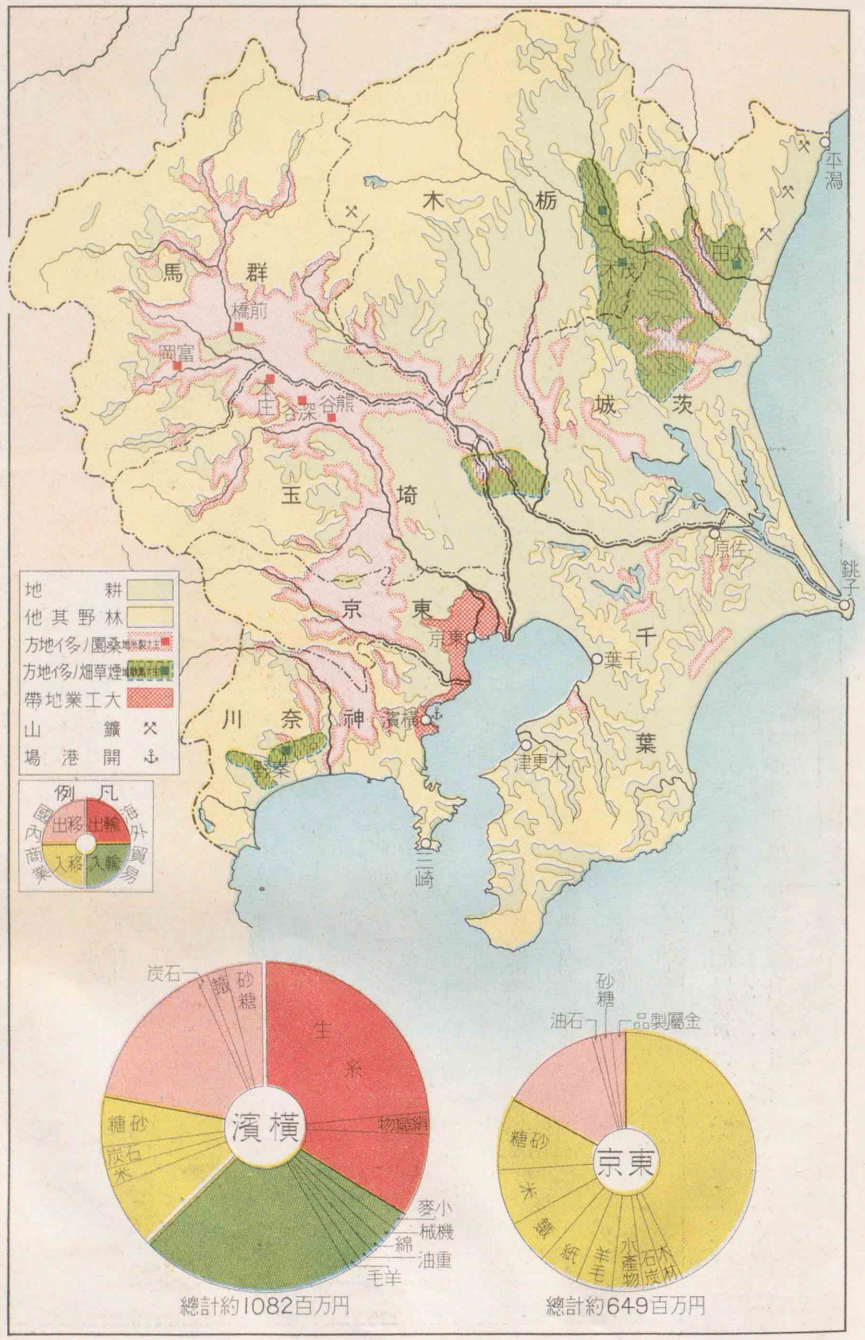






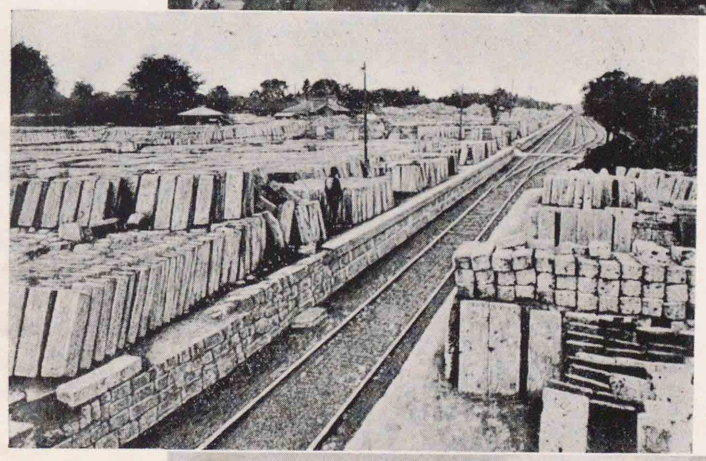




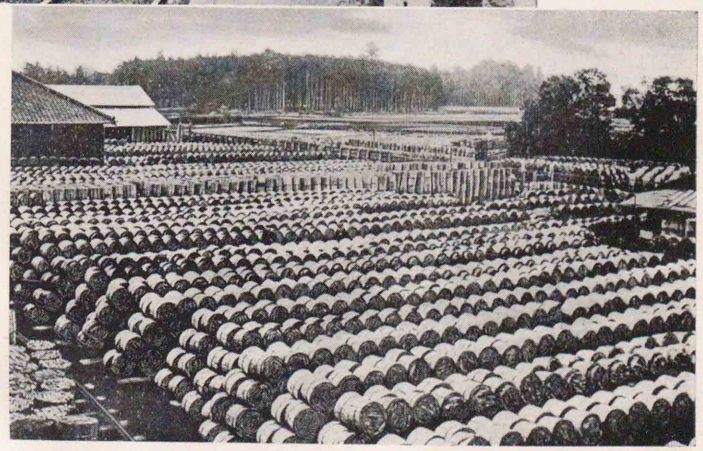


1 內外出入貨物の合計價額が二千万円以上に達する港のみを擧げた　2 貿易は輸出入共に各百万円以上のものを表中に區別し以下は移出入に加へ總計を示した

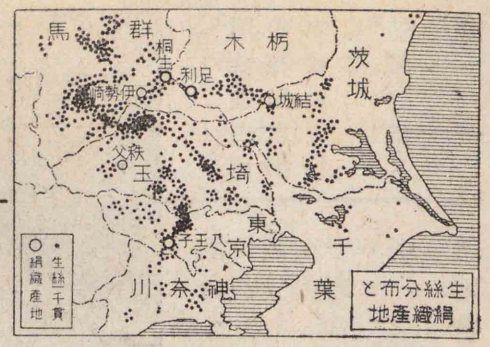
青物市場　東京市民の日常生活と關係が深く日々青物を積來る車、之を積去る車が雜沓する



石材の堆積　栃木縣から産する大谷石堆積の光景で各地方に轉送されて用途が廣い



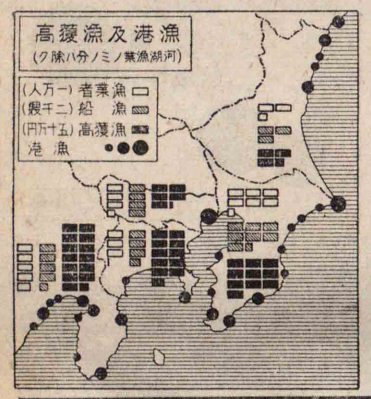
醤油樽材の乾燥　千葉縣の醤油は販路が甚だ廣く圖はその樽材を乾燥させる光景

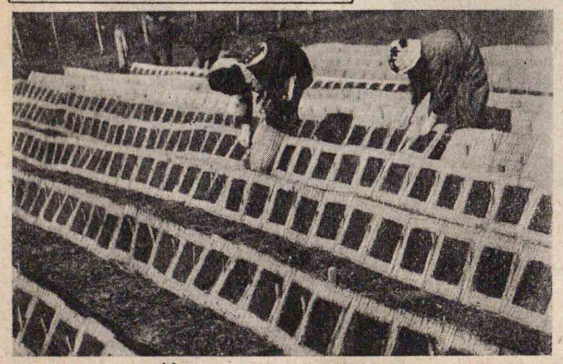


れる。西部・西北部の山麓地方には桑園が多く、全國樞要の養蠶地帶で、前橋(群馬)・熊谷(埼玉)を始め、製絲地が多い。

牧畜　牧畜・養鷄は、農家の副業であるが、都市の附近では、牛乳・鷄卵を目的として、之を專業とする者もあり、又處々に養豚が行はれ、神奈川縣ではハムを產する。

水產業　近海は各種の魚族に富み、且京濱の大消費地が近い爲に、漁業は盛に行はれ、鰯(イワシ)・秋刀魚(サンマ)・鮪(マグロ)・鰹(カツヲ)等の漁獲が多い。半島部及びその附近には、大小の漁港が列び、中でも利根川口の銚子(チョウシ)は、東日本の重要な漁港である。東

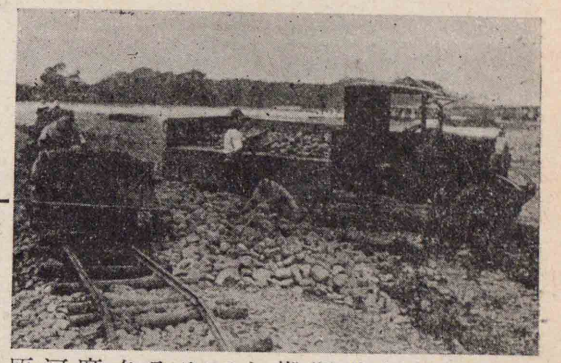




瀧上げた海苔を天日に乾してゐる

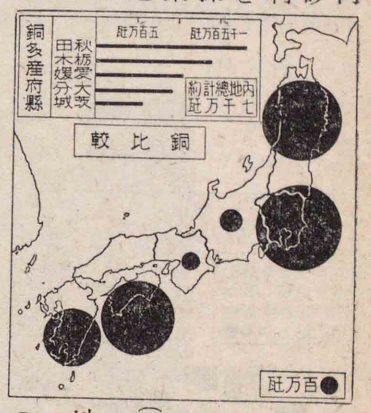
阿武隈山地の花崗岩・栃木縣の大谷石等[1]

紡績・綿織・メリヤス・毛織等[2]



河砂利を採集運搬してゐる多摩河原

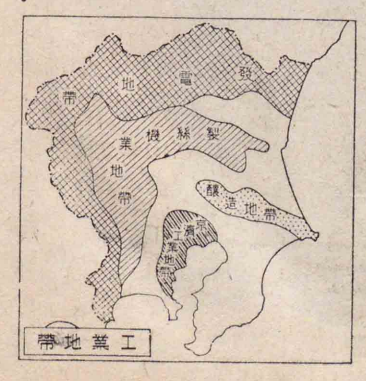
割合に勞力を得易く、交通が整つて、原料及び製品の輸送が便利な上に、電力の供給も容易であるから、東京から川崎を經て、横濱に至る海岸低地には、大小各種の工場が列んで、大工業地帶をなし、紡織工業[2]・化學工業[3]・食料品工業[4]・機械工業[5]・雜貨工業[6]等が盛に行はれ、特に印刷工業の盛大は、他の地方に卓越してゐる。西北部の養蠶・製絲地方では、原料の豐富に惠まれて、機業も大いに發達し、中でも桐生(群馬)・足利(栃木)・八王子(東京)は、關東の三大絹織産地で、栃木・埼玉の兩縣には、綿織の産も多い。利根川の下流地方は、古くから釀造業が發達し、千葉縣の醬油産額は、全國の第一位を占める。



工業　京濱地方は、人口が稠密で、常磐(ジャウバン)炭田の一部があつて、石炭の産に富み、その他、處處から石材を産し、河砂利(カハジャリ)の採收も少くない。

京灣の沿岸では、海苔(ノリ)(東京)・貝類(千葉)等の養殖が行はれる。

鑛業　鑛山は、多くないが、足尾(栃木)・日立(茨城)は全國屈指の銅産地で、日立では買鑛による金・銀等の製錬も行はれる。茨城縣の北部

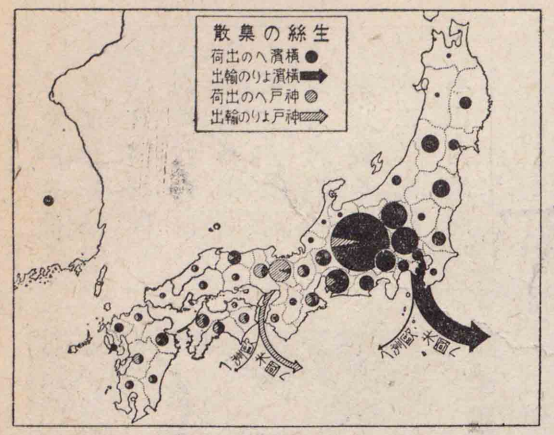


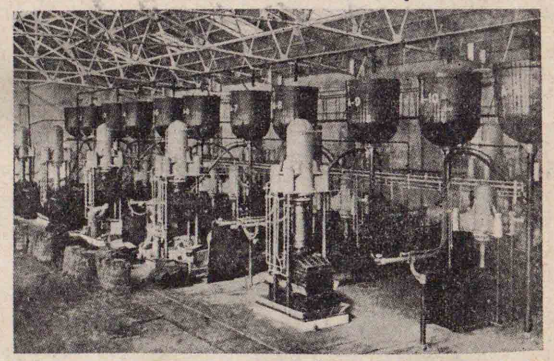
洋紙・藥品・肥料等[3]

砂糖・ビール等[4]

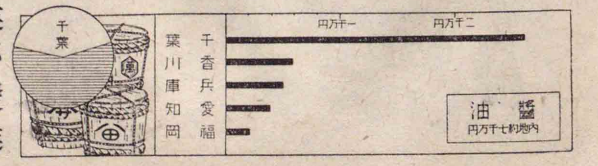
各種の機械・船舶等[5]

石鹸・玩具・化粧品等[6]



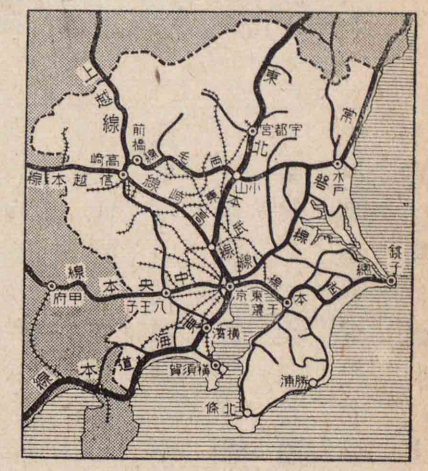


諸味を壓搾し醬油と粕に分けるる工場

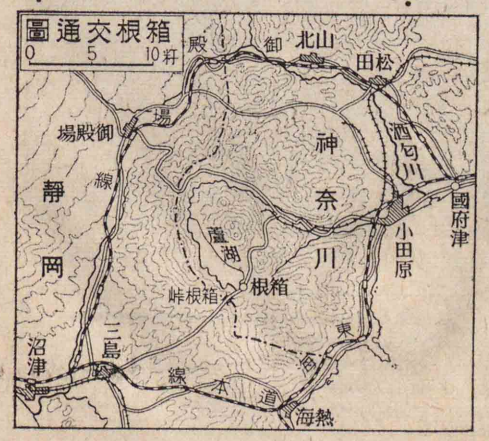


商業　工業の發達と共に、商業も活潑に行はれ、東京は內地商業の大中心として、大阪と對立し、横濱は神戸と共に、我が國の二大貿易港で、生絲・絹織物等の輸出が

1 東京・神戸間
2 東京・名古屋間
3 大宮・高崎間
4 高崎・宮内間
5 高崎・新潟間
6 東京・青森間
7 東京・岩沼間
8 東京・銚子間
9 八王子・高崎間
10 小山・高崎間



は全國第一で、[1]東海道・[2]中央・[3]高崎・[4]上越・[5]信越・[6]東北・[7]常磐・[8]總武等の主要な線路があり、その多くは東京を中心とし、[9]八高・[10]兩毛の諸線は、養蠶機業地を連ねる。東海道線は、丹那隧道の開通によつて、箱根越の急勾配が緩和せられ、設備も運轉回數も、全國第一である。この他、東京市の内外には、



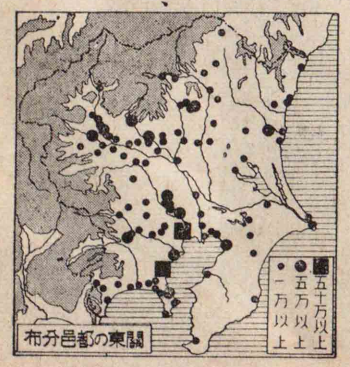
その特色である。

交通　東京は江戸時代から、主要道路の集點であつたが、近年自動車の普及と共に、道路の重要性を增し、その新設・改修が著しく進み、利用が盛になつた。鐵道網の密なことは、

地下鐵道及び電車網の發達が著しい。

航路は横濱を大中心として、廣く内外の要港と通じ、東京も内地海運の一中心となつてゐる。航空路は、東京を中心として、一方は奥羽及び北海道に通じ、一方は大阪を經て、大陸及び臺灣を連ね、又横濱を起點とする南洋線もあつて、利用が益〻廣くなつた。國際通信には、小笠原諸島に達する海底電線があつて、米國の太平洋横斷線と接續し、壯大な無線電信局も處々に設けられ、近年無線電話も、世界の諸國と開始された。

人口と都會　早くから政治上の中心となつてゐた上に、明治以來顯著な發達をなし、人口密度は全國第一で、人口一萬以上の都邑は八十に餘る。京濱地方は大商工都市が多い爲に、人口が最も稠密で、山麓地方には養蠶・機業都市が多い。海岸・山間には靜養地・遊覽地として小都會が發達し、平野の農業地方には、農産中心の小都市や散村が多い。

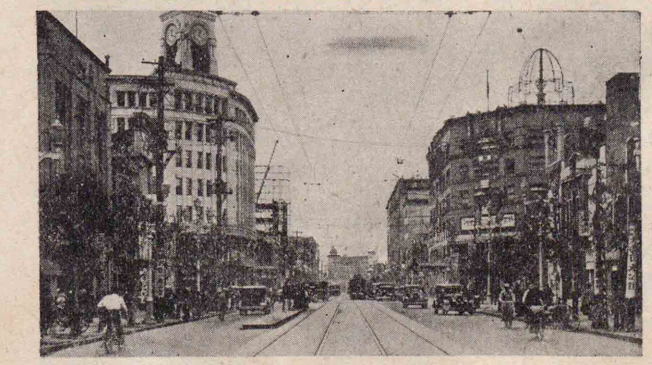


東京市は三十五區に分ける

東京帝大・商大・工大・文理大・女高師等各種の學校が多い

處誌

東京府 東京市及び附近の平野と、西部山地とに分れ、別に海上に離れて島嶼部がある。**東京**市はもと江戸と稱へたが、明治の初年に帝都となつて、東京と改められ、國勢の進展と共に急激な發達を遂げ、今は我が政治・軍事・經濟・學術・交通等の大中心をなし、世界屈指の大都會である。近年港灣の施設も整ひ、船舶の出入も頻繁となつた。地形上山手（臺地）と下町（低地）に分れ、宮城は臺地の縁



東京銀座通の光景で往來が甚だ雜沓する

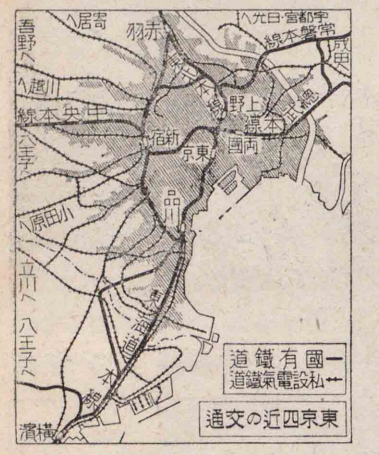
明治神宮　稀に見る幽邃な神域で國民の崇敬が極めて厚い　圖は拜殿の前の光景

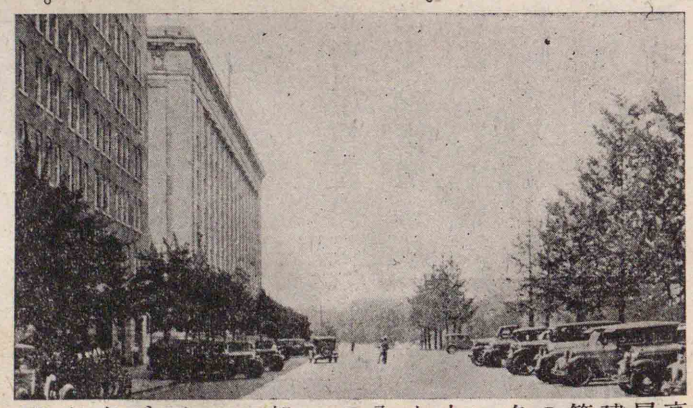
國會議事堂　白光輝く巍然たる大建築で東洋大帝國の議政府たるに愧ぢない威容を備へてゐる

丸之内　左は内濠石垣で昔ながらの老松が茂り右は近代的の高層建築が多く並んでゐる

著名の寺には淺草寺・泉岳寺・增上寺等があり又日比谷・上野等の公園がある

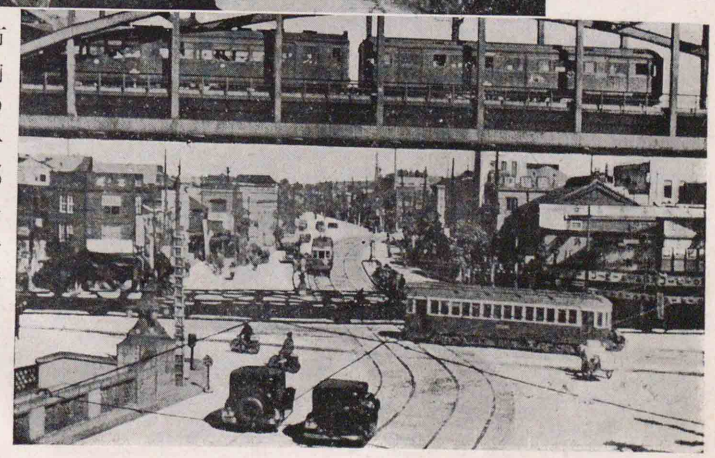
端に當る形勝の地を占め、官廳や諸外國の公館は、概ねこの附近に集つてゐる。臺地は主に住宅地で、學校等も多くはこの方面に散在し、隅田川以東の低地及び沿海地方は工業地區で、各種の工場が多い。其等の中間が主要の商業地區で、丸之内を中心とする附近には、近代式の高層建築が密集し、綠深き宮城の聖域と調和して、世界稀に見る美觀を呈してゐる。明治神宮・靖國神社等は、國民崇敬の中心で、その他、著名な社寺・勝地等が處々に散在し、交通機關もよく整つて、觀光



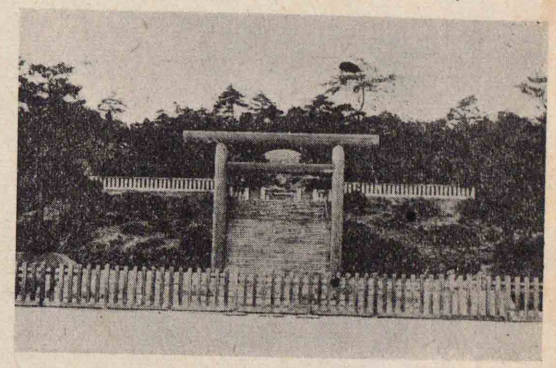

高層建築の多い丸之内の一部で正面が東京驛

東京帝國大學　正門の光景で兩側に公孫樹が茂り前方の高い建物は大講堂である

泉岳寺　寫眞には四十七士の墓の一部が現はれてゐる參詣者が多く香煙が常に絶えない

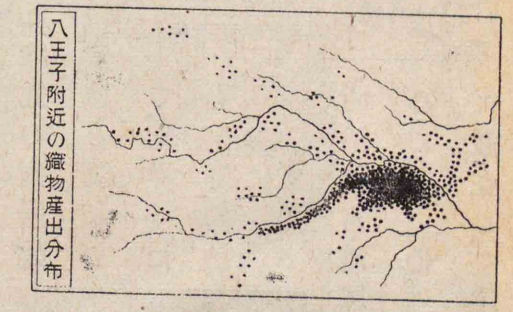

市内の一部（昌平橋附近）上には高架電車、下には電車や自動車の往來織るが如く交通の頻繁が察せられる

横濱は七區に分れる。*製粉・ビール等横須賀市の一部久里濱はペルリの上陸地

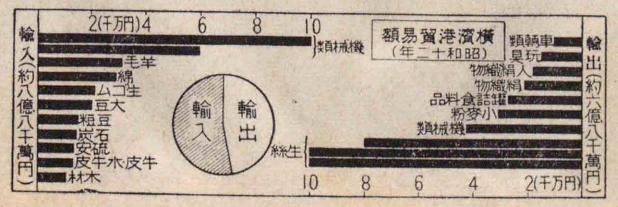


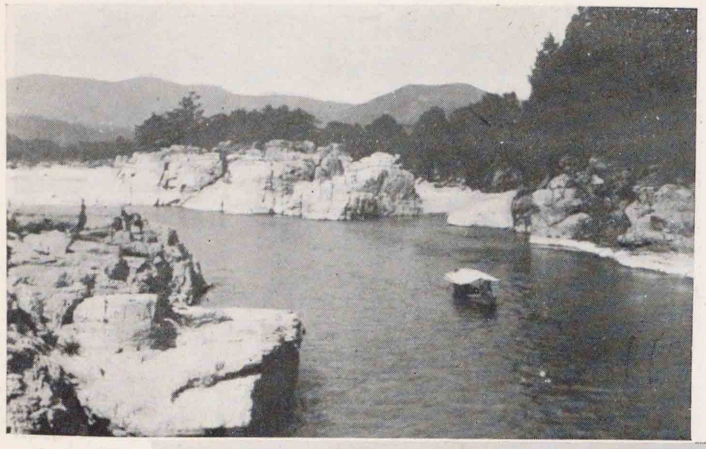
綠滴る丘陵を繞らし森嚴な多摩陵

岸及び背後の山丘地方に分れる。東京灣岸の**横濱**市(83.3)は、東京の門戸をなす大開港場で、港灣の施設(セッ)がよく整ひ、内外汽船の出入が多く、沿海方面には倉庫や*工場(コウジャウ)が多く、隣接の**川崎**市(19.2)(鋼材・電球・硫安等)と共に、京濱工業地帯の一部をなす。**横須賀**市(18.7)は軍港町で、壯大な工廠があり、



神奈川縣 東京灣岸・相模灣の客が常に多い。西部の**立川**市は、近年工業が盛となり(2.0)、**八王子**市は養蠶・機業の中心地で(5.9)、盛に絹織物を産し、附近の淺川に多摩陵(タマノミサゝギ)がある。

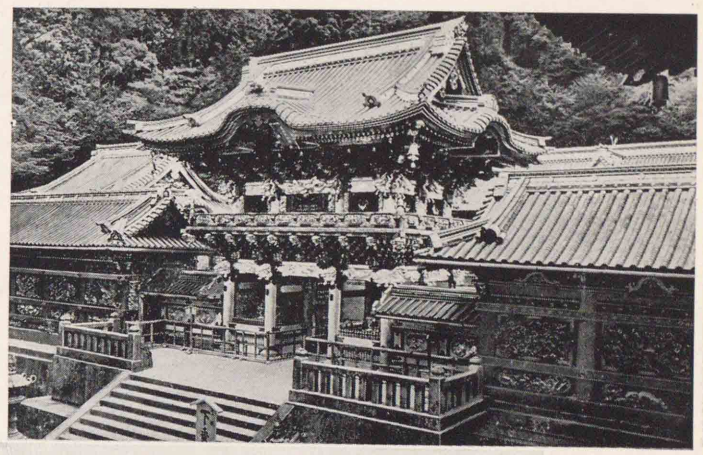




長瀞　千態萬様の結晶片岩が削立し清流奇岩の風景は秩父赤壁の稱に背かない

榛名富士　天神峠からの展望で正面の山は火口丘の榛名富士、湖水は榛名湖である

伊香保溫泉場　榛名山腹の急坂に沿つて旅館が階段狀に重なり特殊の景觀をなす



日光の陽明門　精巧な彫刻は終日觀るも倦くことなしとて俗に日暮門と呼ばれる

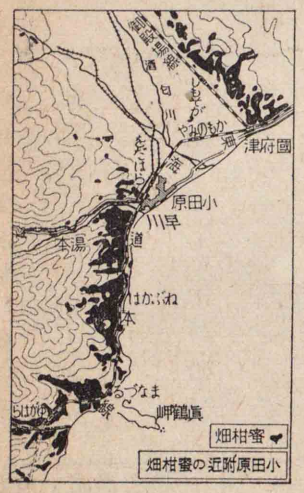
筑波山　關東平野の緣端に峙ち山頂は男體・女體の雙峯に分れて著しく人目をひく

水郷地方　大小の湖群間に小運河が四通し水運がよく水村が處々に點在する

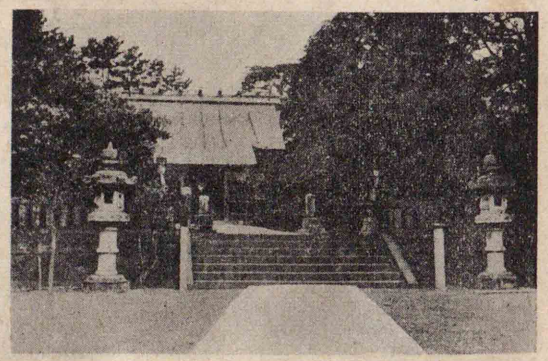
鶴ヶ岡八幡宮(1)・建長寺・圓覺寺・大佛・鎌倉宮等がある

平塚に近い大山は夏日登山者が多い

浦賀は造船が行はれ、三崎は漁業の一中心である。(23)　相模灣岸の地方は湘南と呼ばれ、氣候がよく風景も勝れ、京濱地方に對する第一の靜養地である。その中心をなす**鎌倉**市は、著名な史蹟が多く、(1)**藤澤**市(3.0)・**平塚**市(3.8)は、共に近年工業が發達した。**小田原**市(3.8)はもと箱根山麓の宿場(シュクバ)として榮えた城下町で、舊城址に二宮神社がある。海産物の加工が行はれ、又附近には蜜柑山が多い。



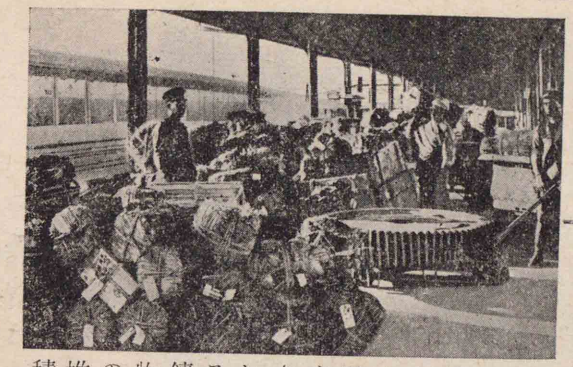
箱根山は代表的の複式火山で、大きな舊噴火口の中に、數箇の火口丘が聳え、火口原には蘆湖を湛へ、早川が此處から流出して、山水の景に富み、溫泉は處々に湧き、自動車路は縱横に通じ、登山電車・ケーブ



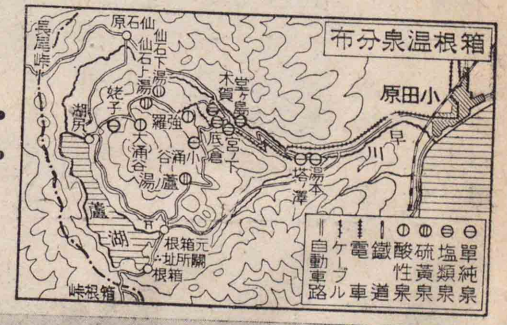
二宮尊德翁を祀つた報德二宮神社

ル等も設けられ、入浴・遊覽の客が多く、富士山と共に國立公園である。

埼玉縣　關東平野の低地・臺地と秩父盆地とに分れる。**川口**市は鑄物の產が多く、**浦和**市は東京の郊外都市として發達し、**大宮**市は鐵道の分岐點に當り、その工場がある。臺地の**川越**市は、養蠶機業の一中心で、所澤は我が航空術の發祥地である。**熊谷**市は繭の集散地で、又本庄・深谷等と共に、製絲業が盛である。秩父盆地は養蠶・機業が盛で、その中心の秩父は、絹織物を出し、附近に溪谷美に名高い長瀞がある。

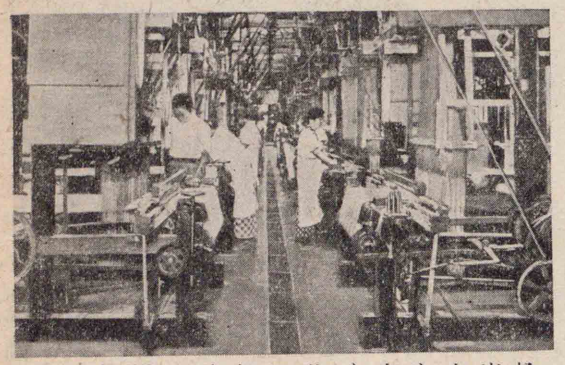


川口驛から積出される鑄物の堆積

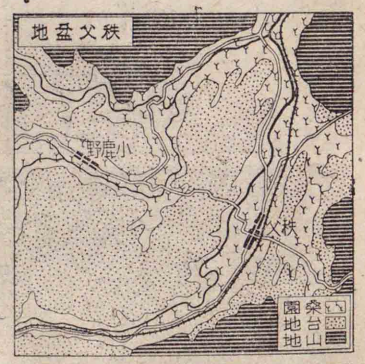


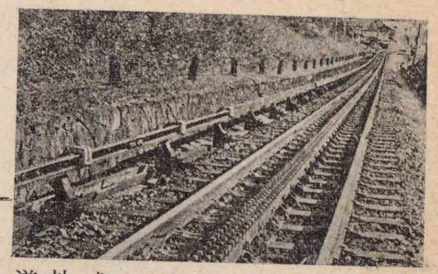
近景は蘆湖及び箱根町で正面の山は駒岳遙に左は富士山

群馬縣　狹い平野と、廣い山地とから成る。平野は山麓地方と共に、養蠶・機業地帶の主部で、盛大な製絲機業地や機業地が多い。**前橋**市は生絲の大市場として活況を呈し、**伊勢崎**市は銘仙の產に名高く、**桐生**市は關東第一の機業地で、館林には製粉その他の工場がある。**高崎**市は鐵道の要地を占める商工都市で、北走する上越線は、ループ線によって、我が國最長の清水隧道を通じ、西走する信越



輸出向を多く作る桐生の織物工場

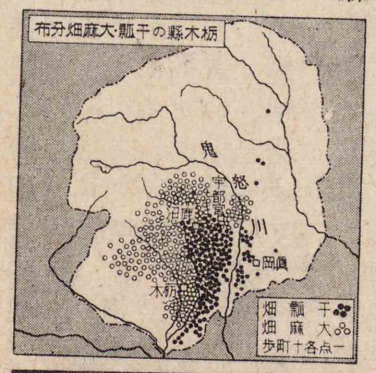




碓氷峠にあるアプト式軌道

線は、アプト式軌條によつて碓氷峠を越える。富岡は我が機械製絲の發祥地である。山地には妙義・赤城・榛名等の名山が聳え、榛名の山腹にある伊香保は、西北の草津と共に、著名な溫泉場である。

栃木縣 西南部は養蠶・機業地帶の續きで、足利市(絹織)・佐野(綿織)等の機業地があり、栃木市は大麻を集散し、小山は鐵道の要地である。宇都宮市は交通の要地を占め、附近から干瓢を出し、鹿沼には製麻の工場がある。日光は華麗な社廟と、山水の風景がよいので知られ、足尾は名高い鑛山町である。



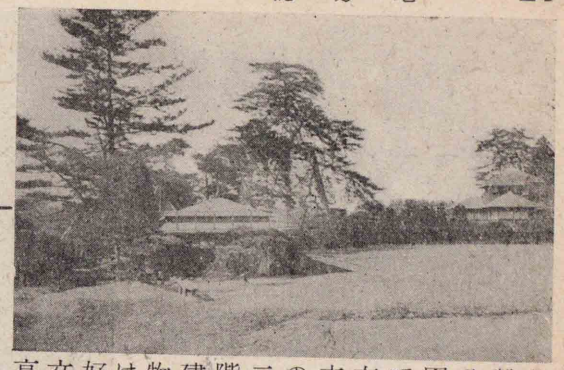
干瓢の乾燥(瓢の顆肉を剝いで作る)

華嚴瀧

水勢の壯觀で著名な日光は人工美と山水美とを兼備する國立公園である。美術建築を代表せる東照宮や大猷廟のある外、男體山の麓には、清き中禪寺湖を湛へ、その水は落ちて華嚴瀧となり、流れて大谷川となつて風景を添へ、電車・ケーブル・自動車等の遊覽機關も備つて、觀光の客が常に多く、殊に外人向の觀光地として、第一に數へられる。

那珂川上流の那須野は、灌漑の改善によつて、開墾が著しく進み、山地には那須・鹽原・鬼怒川等の溫泉場がある。東部は名高い煙草産地で、茂木・烏山はその中心である。

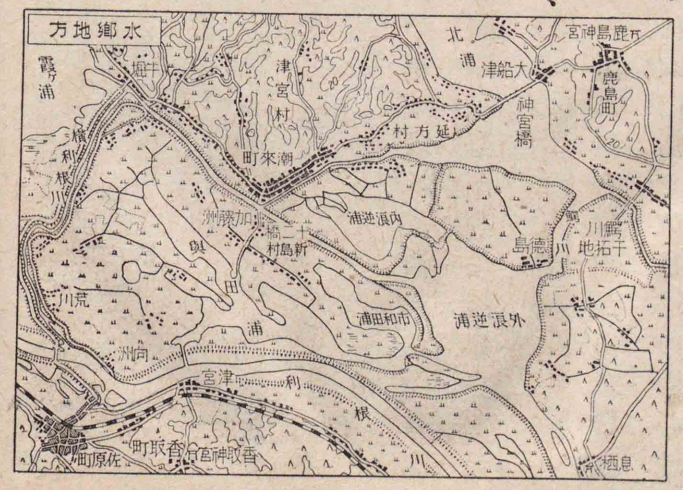
茨城縣 北部には山地が多く、その一部に常磐炭田がある。日立市は著名な鑛山町で、工業も盛に行はれ、太田は煙草栽培の中心地である。中部の水戸市は、名高い舊城下町で、梅で知られた常磐公園があり、那珂湊は那珂川に臨む漁港で、附近に大洗の勝地がある。西境に近い結城は、紬の名産を出す。南部は大小の湖水が群をな



常磐公園で右方の二階建物は好文亭

し、利根川の本支流と共に、水路が縱横に通じて水郷の景觀に名高く、潮來(イタコ)はその中心地である。附近の鹿島神宮は、香取神宮(千葉)と共に名高い古社である。土浦市は霞浦の湖港で、繭の集散が多く、北方に筑波山が聳えてゐる。

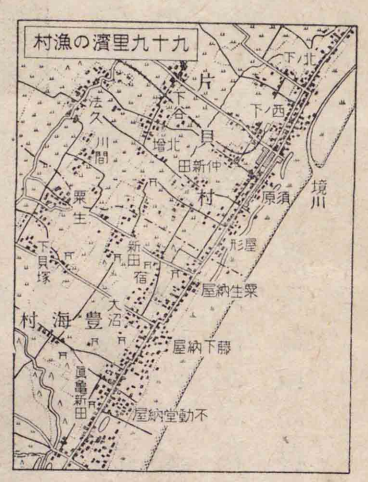
千葉縣　茨城縣の地形を、南北反對にしたやうで、北部は水郷地方の一部をなす。この方面には、野田(醬油)・流山(味醂)・佐原(酒)・銚子(6.1)市(醬油)等の釀造地が多い。銚子は又重要な漁港で、鰹節の製造が盛に行はれ、成田(ナリタ)は名高い不動堂(新勝寺)の門前町である。中部の臺地は雜木林や原野が廣く、その一部は練兵

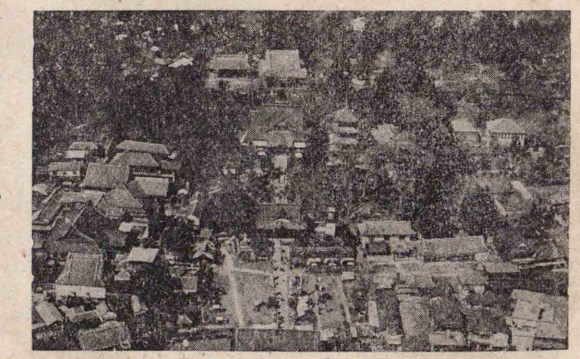


千葉に醫科大學がある

茂原には天然瓦斯が噴出する

に利用されてゐる。千葉(8.6)市は交通の要地を占め、船橋(17.8)市・市川(17.7)市は、共に東京の郊外都市として發達が著しい。房總半島の南部には、枇杷の良果を產し、沿岸一帶は良好の靜養地で、館山(30.0)市・勝浦等の休養に適する漁港が多い。九十九里濱の沿岸には、漁業聚落(シュウラク)が列んでゐる。





成田町(小高い處に不動堂が見える)

豆南諸島　豆南(ツナン)諸島は、伊豆七島・小笠原諸島等から成り、硫黃島諸島・南鳥島等と共に、東京府の管轄に屬する。その多くは富士火山帶に屬する火山島で、交通・通信及び軍事上の要地である。

伊豆七島では、漁業・牧牛を主業とし、又椿の樹が多く、椿油の特產

大島の椿並木は花時にはこの地の主産物で美しいあつたが、近年冬季に野菜を栽培して、が亞熱帶性で、植物景觀が本州とは著しく違つてゐる。甘蔗は

を出す。大島には活火山の三原山が常に噴煙し、その裾野では牧牛が行はれ、南岸に波浮の火口港がある。

小笠原諸島は遠く太平洋上に位し、氣候

京濱地方に出荷し、近海には海龜を産する。住民は內地人の外、歸化した外國人の子孫も住んでゐる。父島の二見は、日・米兩國の海底電線接續地で、西南の沖ノ鳥島は、豆南島群の最南端をなす。

大島では乳牛を飼育しバタを産する

福島縣（福島市）
宮城縣（仙臺市）
岩手縣（盛岡市）
青森縣（青森市）
秋田縣（秋田市）
山形縣（山形市）

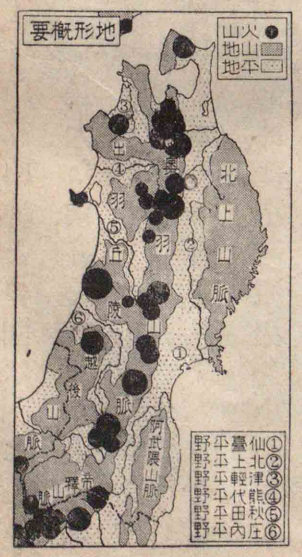
磐梯山・吾妻山・岩手山・八甲田山等
猪苗代湖・田澤湖・十和田湖等

第二章　奥羽地方

通說

古の陸奥・出羽の地で、一に東北地方ともいふ。位置が北に偏し、氣候も稍寒いので、面積は關東地方の二倍に餘るが、人口はその半にも達しない。行政上、六縣に分ける。

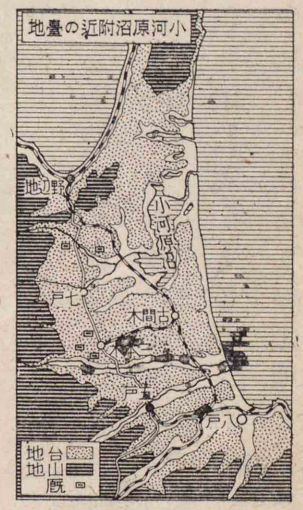
地勢　三條の高地が南北に連つて、二條の低地帶を挾み、地勢上、中部・東部・西部に分れる。中部には奥羽山脈が連り、那須火山帶に屬する多くの火山が此處に噴起して、主要な分水界をなす。この山地には、火山に關係のある湖水が多く、溫泉も處々に散在する。東部には北上・阿武隈の二山脈がある。共に著しく侵蝕され、高臺狀をなしてゐる。この山地と



北上川を隔てて近く岩手山を望む

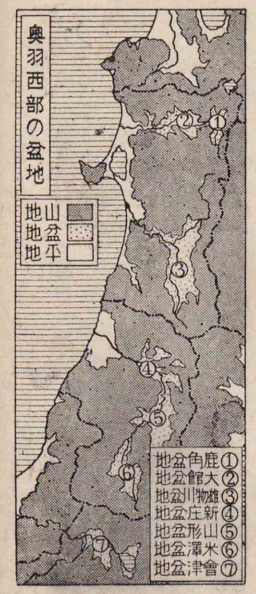
鳥海山・岩木山・月山等[1]

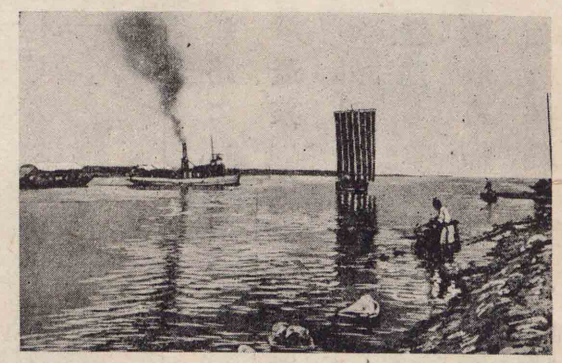
中部山地との間は、稀に見る長大な縦谷(ジュウコク)をなし、北上・阿武隈の二川が此處を流れて、下流に廣い仙臺平野を開き、北部には小河原沼を中心とし



て、臺地狀の原野がある。西部山地は、南部に越後山脈が連る外、低い出羽丘陵が斷續(ダンゾク)してゐるが、鳥海火山帶に屬する火山[1]が、之に沿つて噴出する。この山地と中部山地との間は、多くの盆地に分れ、阿賀(アガノ)・最上(モガミ)・雄物(ヲモノ)・米代(ヨネシロ)・岩木等の諸川がその水を集め、横谷をなして日本海に注ぎ、下流に庄内(シャウナイ)・秋田・津輕(ツガル)等の平野がある。

三面に海を控へ、北方の津輕海峽は、國防上の要地で、津輕・下北の兩半島が突出し、陸奥灣を

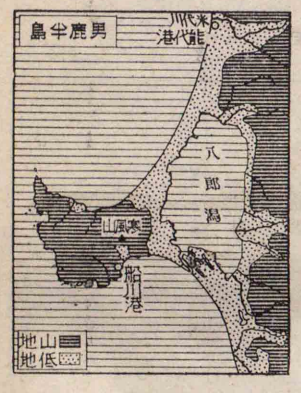


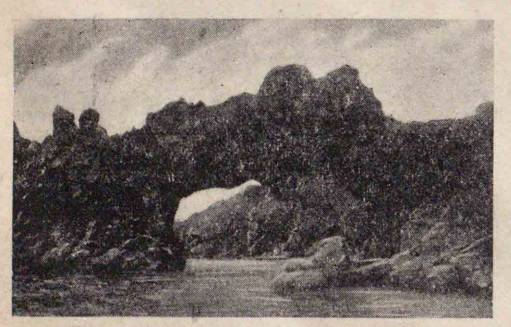


最上川の下流は運輸の便が頗る多い

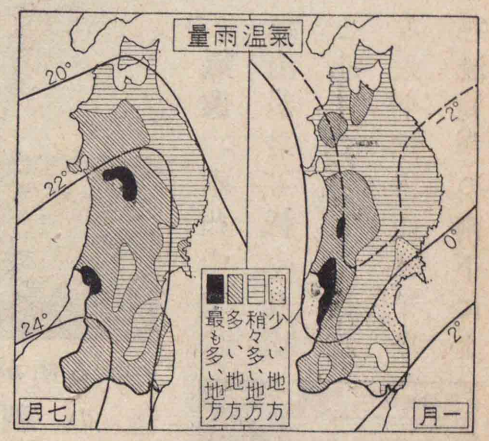
抱へてゐる。太平洋岸の南部には、狹い海岸平野もあるが、中部は北上山地が海に迫り、リヤス式海岸をなして、天然の良港が多く、南端は牡鹿(ヲシカ)半島となつて、仙臺灣を抱へ、近海に金華(キンクワ)山の勝地がある。日本海岸は、奇景に富む男鹿(ヲガ)半島が八郎潟を圍む外、單調な砂濱が多く、砂丘の列が續き、東岸とは著しく趣が違ふ。

氣候　本州中では氣溫が最も低く、且南と北とで著しく異なる。太平洋方面は、千島寒流(親潮)の南下によ



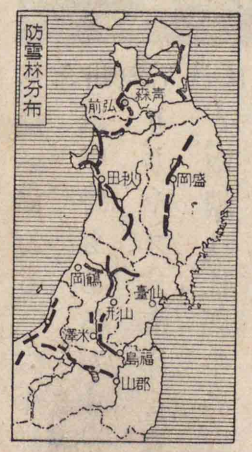


奇景を極めるる男鹿半島の天然橋

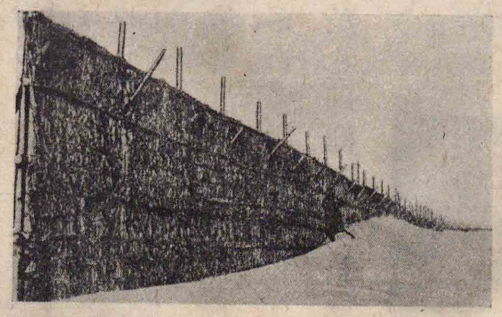


線路には、種々の防雪裝置が施される。

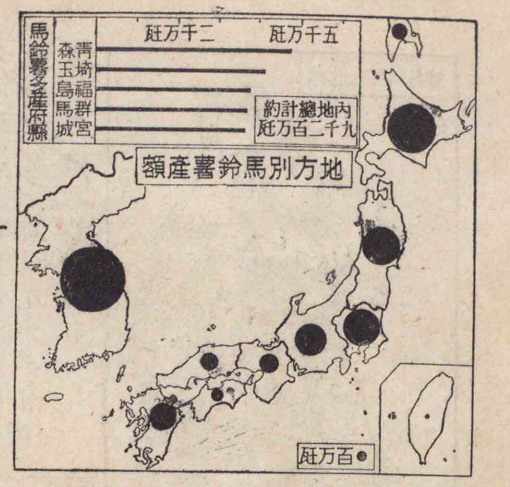
産業　風土や位置の關係から、工業は一部の外、まだ著しく發達しないが、林業・牧畜・鑛業等の如き、基礎産業は



り、夏季に屢濃霧が起り、時に農作物に冷害を及ぼすことがある。日本海方面は、對馬暖流と季節風との關係で、冬に雨量が多く、殊に山麓や盆地は、雪が深く積つて野外の勞働を妨げ、鐵道



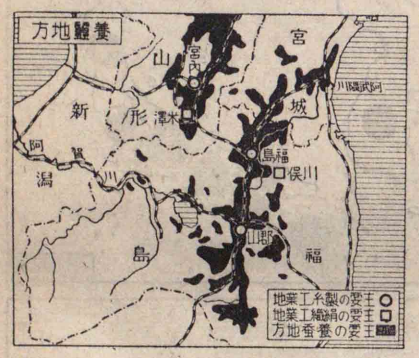
鐵道線路に對し防雪柵たけ設



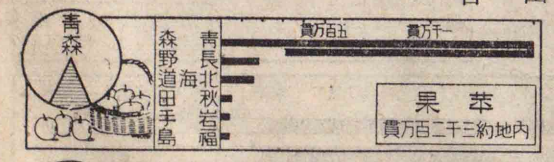
青森縣の苹果・山形縣の櫻桃は共に産額が全國第一である

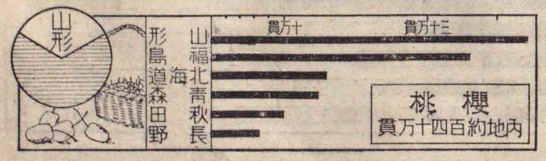
甚だ盛である。

農業　未墾の原野は尚少くないが、庄內・秋田・仙臺等の諸平野は、我が國有數の米産地で、他の地方への移出も頗る多い。馬鈴薯・大豆・稗等の耐寒性畑作は、廣く各地に行はれ、南部では煙草(福島)を産する。又寒冷な氣候に適する苹果(青森)・櫻桃(山形・福島)等の美果を出して、遠く各地へ輸送する。南部の地方には、桑畑が多く開けて、養蠶業が發達し、郡山(福島)・宮內(山形)等は、製絲業の中心地である。

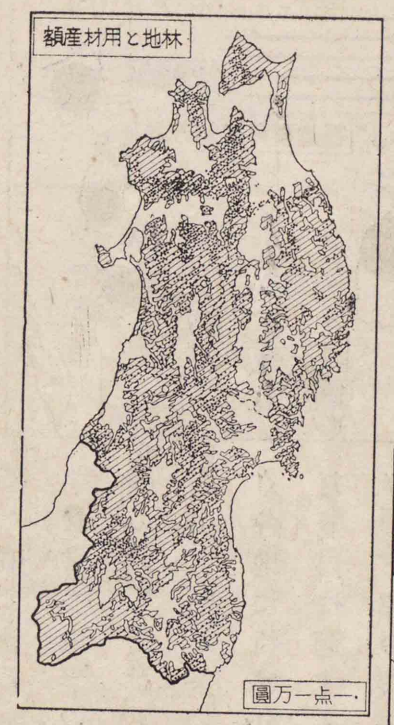


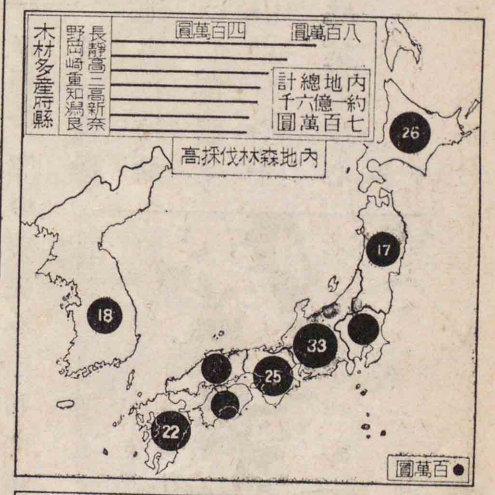
牧畜　東部の原野は

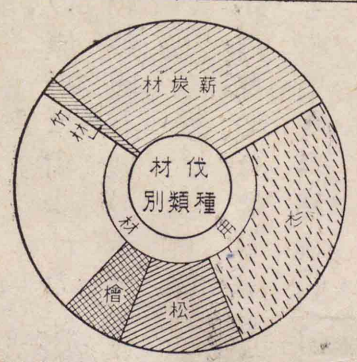


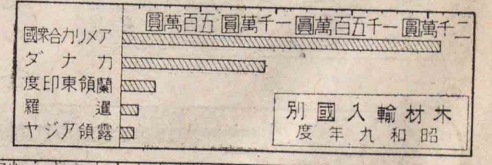


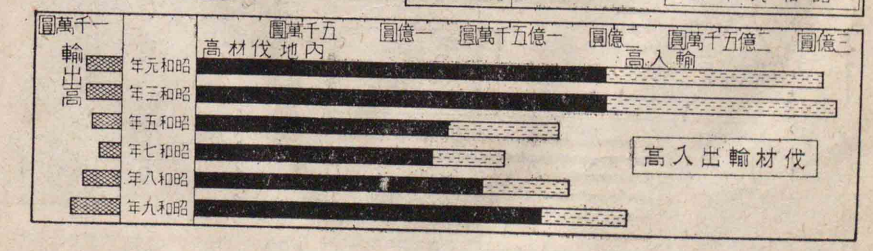
日本の木材　樺太・北海道は多量のパルプ原料を供給するが、内地で出材量の多いのは、米代川流域と、熊野川流域とで、木曾川・吉野川等の流域が之に次ぎ、縣としては長野・奈良・靜岡・宮崎・秋田等が重な産地である。併しその需要が年々増加する爲、我が國は多量の木材を米國・カナダ・南洋等から輸入してゐる。

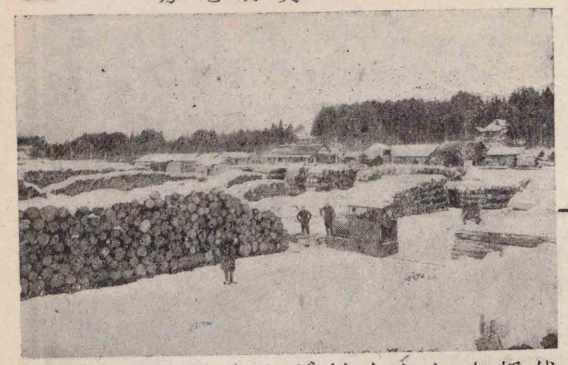






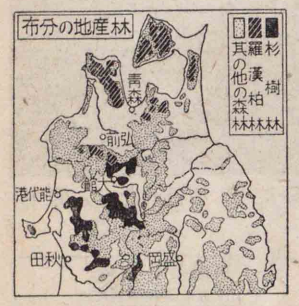






伐採された木材が多く堆積する光景

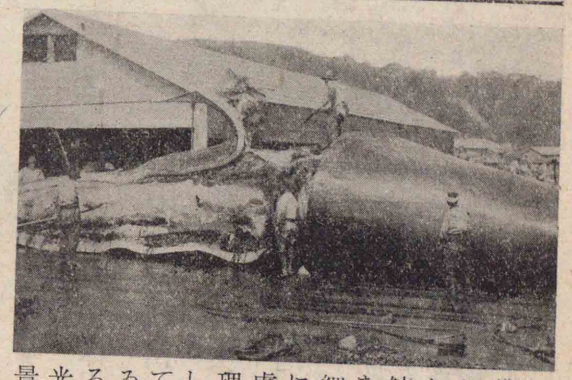
牧草に富み、古來馬の牧畜が行はれたが、今は我が國の重要な軍馬供給地で、馬市も處々に開かれる。



林業　林地の廣いことは內地第一で、秋田縣には杉、青森縣には羅漢柏（アスナロ（ヒバ））の美林があつて、多く良材を產し、盛大な製材所が處々にある。岩手縣は薪炭の產額が多く、木炭は京濱地方への輸送も少くない。

水產業　寒暖二種の海流に洗はれる太平洋方面は、鮪・鰮・鮑・柔魚（アホビスルメイカ）等の漁獲

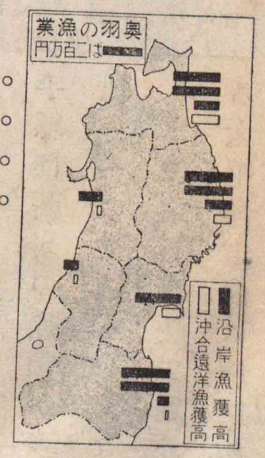
奥羽の種馬牧場に於ける牧馬の光景



捕獲した鯨を細に處理してゐる光景

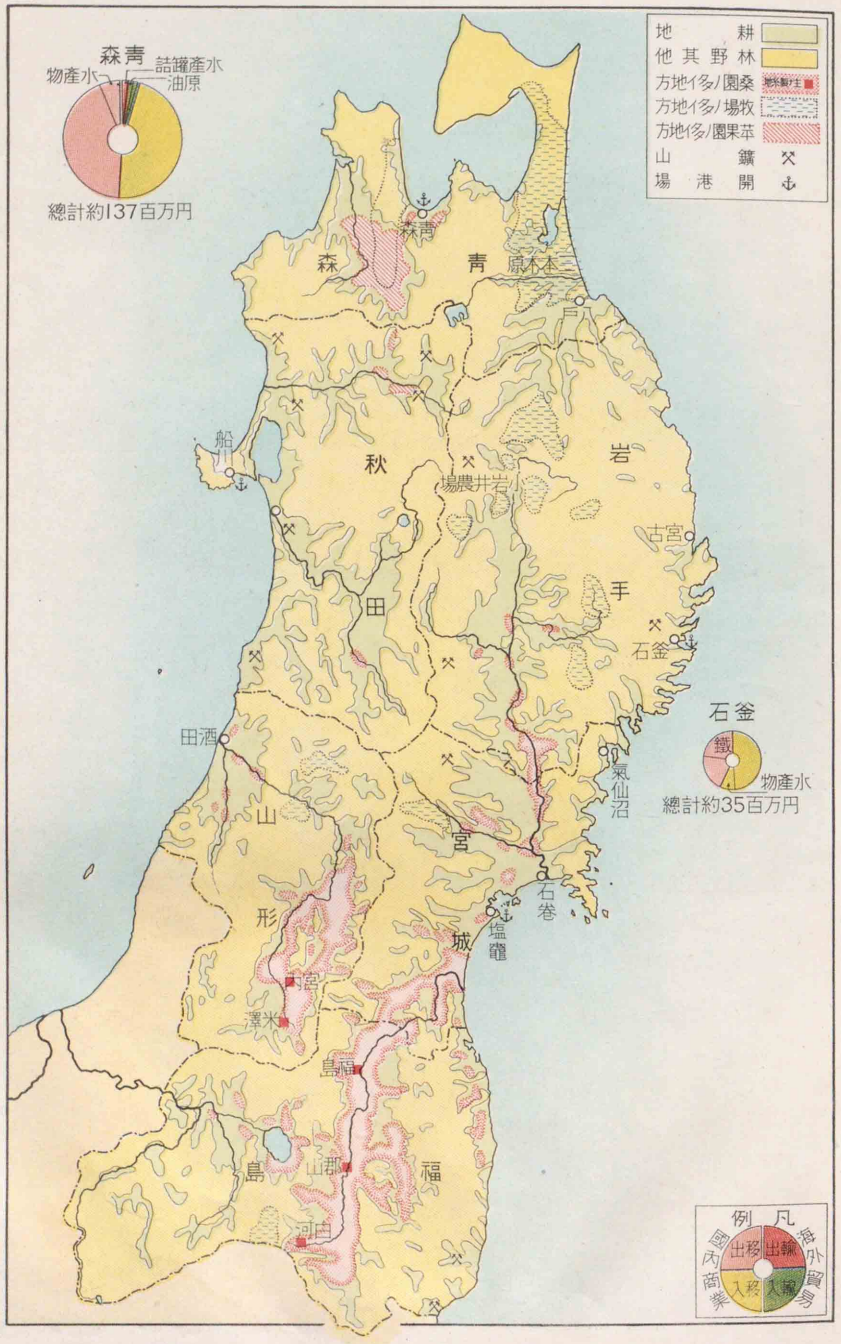
の二大産地である。釜石(岩手)は內地の最も重要な鐵山で、細倉(宮城)の亞鉛鑛、松尾(岩手)沼尻(福島)の硫黃も亦名高く、常磐炭田(福島)からは盛に石炭を出す。

石油は工業上・軍事上・交通上に、極めて重要な鑛物であるが、我が國にはその產出が少い。主要の產地は秋田油田と越後油田とで、臺灣にも多少の產

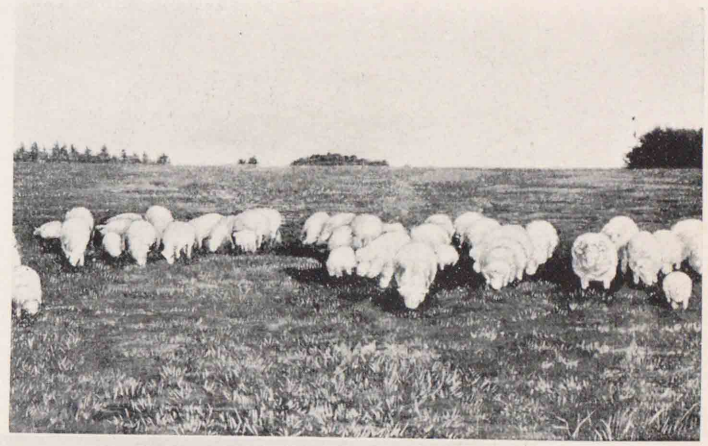


に富み、沿岸には大小の漁港が多い。陸奥灣の貝類も亦名高く、金華山沖は、有名な捕鯨(ホゲイ)區域となつてゐる。

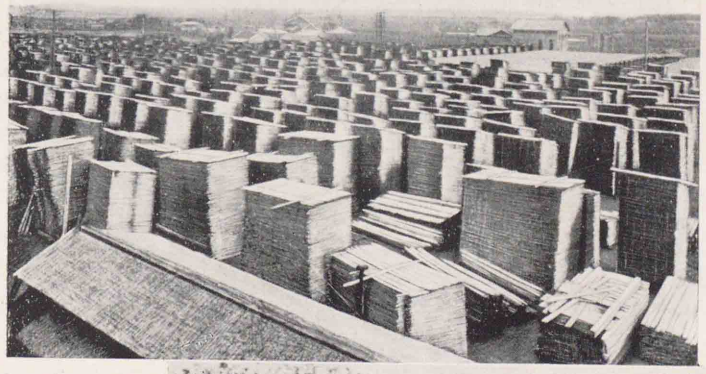
鑛業 鑛產は重要な富源で、殊に秋田縣には、小坂を始め重要な鑛山が多く、盛に銅・銀等を產し、又石油は新潟縣と共に、我が國



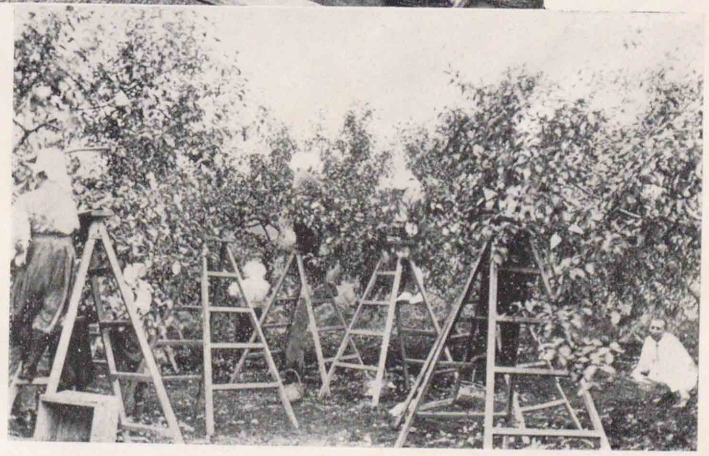
1 內外出入貨物の合計價額が二千万円以上に達する港のみを擧げた　2 貿易は輸出入共に各百万円以上のものみを表中に區別し以下は移出入に加へて總計を示した



小岩井農場　岩手山の裾野を占める大農場で羊の一群が溫和な情景を描いてゐる

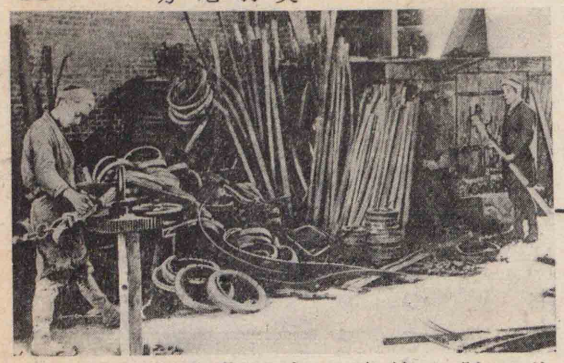


製材の堆積　秋田縣の杉は林相・材質共に名高くその製材を堆積せる能代川の光景



苹果の收穫　赤々と成熟した苹果をモンペイ姿の人々が籠に採り入れてゐる

郡[1]山(福島)・宮内(山形)等
川俣(福島)・米澤等
能代(秋田)・青森等
郡[4]山



秋田縣の特産であるあ曲木細工の製作

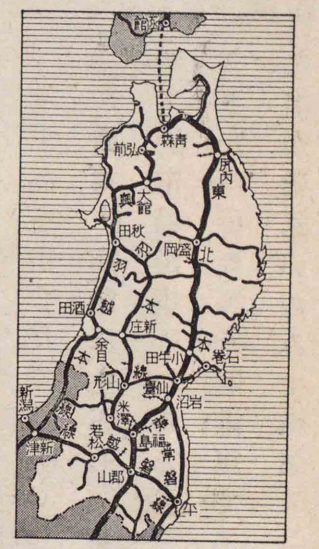
出があり、北樺太には採掘權を持つ油田があり、滿洲國では油母頁岩からの採油及び石炭液化等の事業が行はれてゐるが、尙需要の大部は米國・蘭領東印度等から輸入してゐる。

工業　工業の稍〻大規模に行はれるのは、製絲[1]・機業[2]・製材[3]等で、電力の豐富な南部地方には、化學[4]工業も起り、その他は、陶磁器(福島)・漆器(福島)・鐵器(岩手・山形)・木工品(宮城・青森・秋田)等の手工品を出すに過ぎない。

家庭向に用途の廣い會津漆器の工場

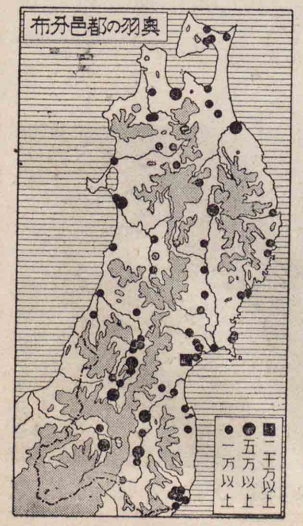
商業　商業は、主として東京の商圏に屬してゐるが、地方的市場が處々にある。青森・船川・港(秋田)・鹽釜(宮城)・釜石(岩手)・八戸(青森)等は開港場であるが、青森が位置の關係上、取引が稍〻多いのみである。

1 福島・青森間
2 秋田・新津間
3 新津・平間
4 仙臺・山形間
5 余目・小牛田間
6 横手・黒澤尻間
7 好摩・大館間
8 米澤・坂町間



三線を幹線として關東と連絡し、羽越線は奥羽線・信越線等と連つて、裏日本に於ける幹線の一部をなし、近畿地方と連絡する。青森は鐵道の要點に位し、函館との間に鐵道連絡船を通ずる。又磐越・仙山・陸羽・横黒・花輪・米坂等の横斷線がある。

太平洋岸には好錨地もあるが、背後の連絡が惡く、日本海岸は、冬季の風波を凌ぐ良港灣に乏しく、共に海運の發達を妨げてゐる。航空路は關東及び北海道と連絡する。



交通 道路は濱街道・奥州街道・北國街道を幹線とし、勿來・白河（以上福島）・念珠（山形）等には、昔の關所の址が殘つてゐる。鐵道は、東北・常磐・奥羽の

川俣にあるは二重製織場の内部

人口と都會 人口は平野・盆地等に集中し、その各〻に、一二の中心都會が發達してゐるが、全體としての密度は、本州中で最も低い。都會の大きなものは、概ね昔の城下町か又は船着場で、新進の都市としては、鑛業町が稍〻多く、工業の爲に發達してゐる町は極めて少い。

處誌

福島縣 東部・中部及び會津の三區に分れる。東海岸の平市は、産炭地方の中心都邑で、中村は相馬燒の名産地である。阿武隈川の流域には桑畑が多く、福島市は、生絲・羽二重の取引が盛に行はれ、北方に飯坂溫泉がある。川俣は羽二重の産地で、東北の靈山は史上に名高い。郡山市は新進の工業地で、製絲・紡績及び化學工業等が發達し、南部の白河は三春と共に馬市で名高い。會津盆地の若松市は、維新の戰爭に名高く、飯盛山にある白虎隊の墓は、當時の美談を遺してゐ

安積疏水は灌漑に便する外發電にも利用される

仙臺に東北帝國大學がある

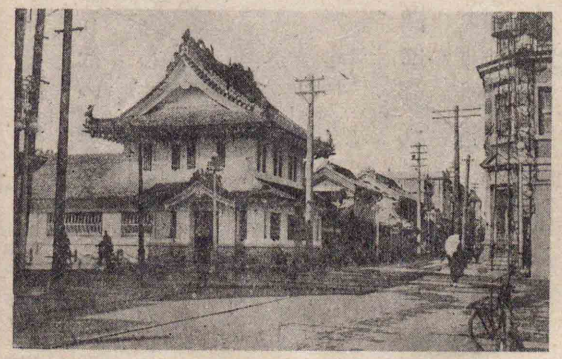
鬼首は間歇泉で名高い

磐梯山と小野川湖で共に風景がいよいよ

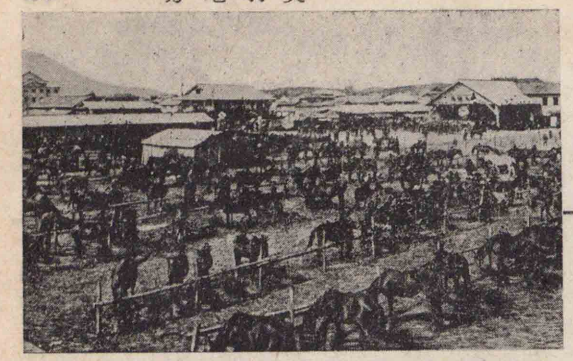
野の**仙臺**(220)市は、東北第一の大都會で、學術・文化の中心をなすと共に、紡績・製絲等の工業も行はれ、埋木細工(ウモレギ)の名産がある。**鹽釜**(72.9)はその外港で、水産物を集散し、又松島遊覽船の發着地である。松島灣には、大小無數の島が、磐梯山と小野川湖で共に風景がいよいよる。市の內外より陶器・漆器等を產し、附近に東山溫泉がある。

磐梯山は、明治二十一年の大爆發により、北麓に多くの小湖が出來た。南麓にある猪苗代湖は景色がよく、此處から流出する水は、發電に利用され、その電力は、遠く京濱地方に送られ、又附近の工業を發達せしめた。

宮城縣　仙臺平

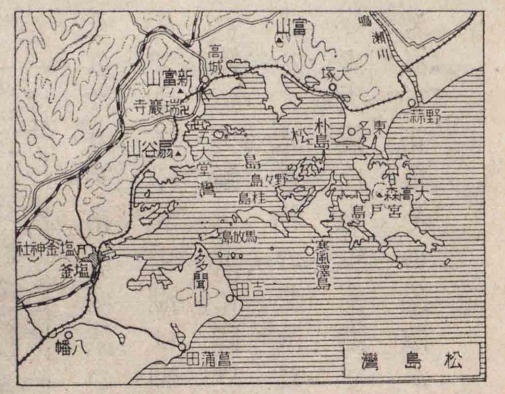


仙臺の芭蕉の辻で古來名高い十字街



青松を戴いて散在し、昔から勝景の地として名高い。**石巻**(34)市は北上川の口に位し、米の積出地として榮えたが、今は人と馬とで雜沓を極め盛岡の**氣仙沼**(キセンヌマ)・**鮎川**(アユカハ)等と共に、漁業の一中心で、水産物の加工が行はれる。

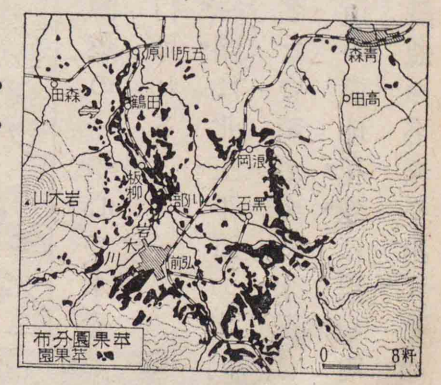
岩手縣　**一關**(イチノセキ)は北上平野の南門に位し、**平泉**(ヒライヅミ)には中尊寺を始め著名な史蹟が多く、**水澤**は緯度觀測所の所在地、**黑澤尻**は鐵道の要地、**花巻**は溫泉町である。**盛岡**(75)市は馬市に名高く、又鐵瓶の名產を出す。この西北に岩手山が聳え、

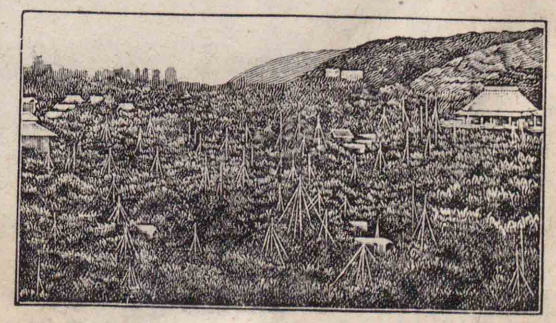


松島灣內に散在せる諸島を眺めたる光景

山麓に、小岩井農場がある。東海岸には、釜石市・宮古等の漁港が多く、釜石には壯大な製鐵所がある。

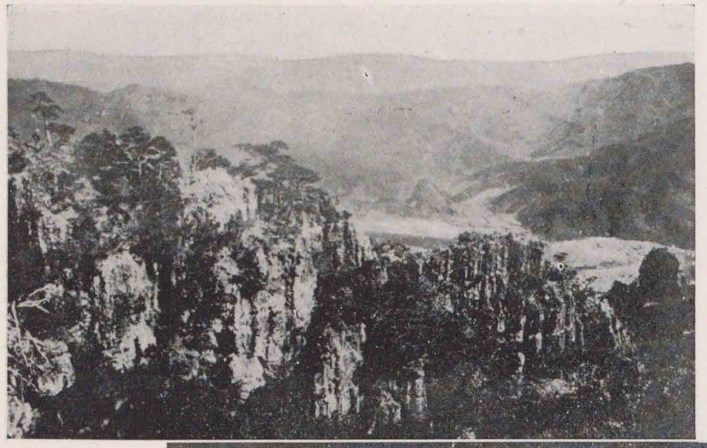
青森縣　東部には馬の牧場が多く、七戸・三本木はその中心をなす。八戸市は商業の要地で、又漁業の一中心である。十和田湖は湖沼美を以て名を知られ、附近の地と共に國立公園である。青森市は、水陸交通の要地を占めて、水産物の集散及び製材が行はれ、附近に淺虫溫泉があり、對岸の大湊は、海軍要港である。津輕平野は我が國第一の苹果産地で、弘前市はその集散が盛に行はれ、又木通細工等の名産を出す。





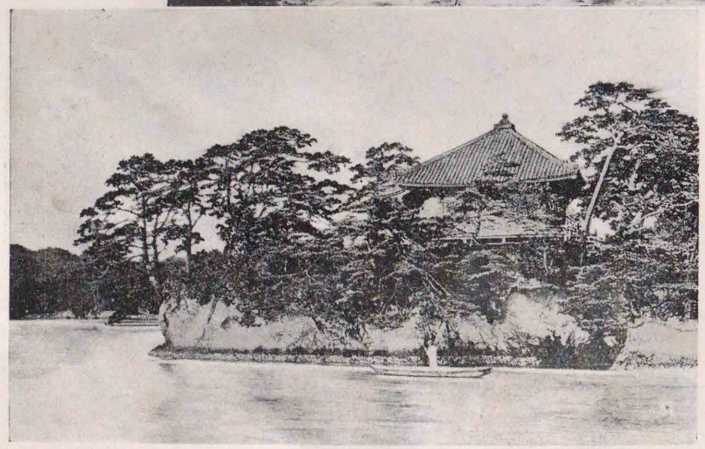
苹果園で果枝を支へる釣綱が見える

弘前に津輕塗の名産がある



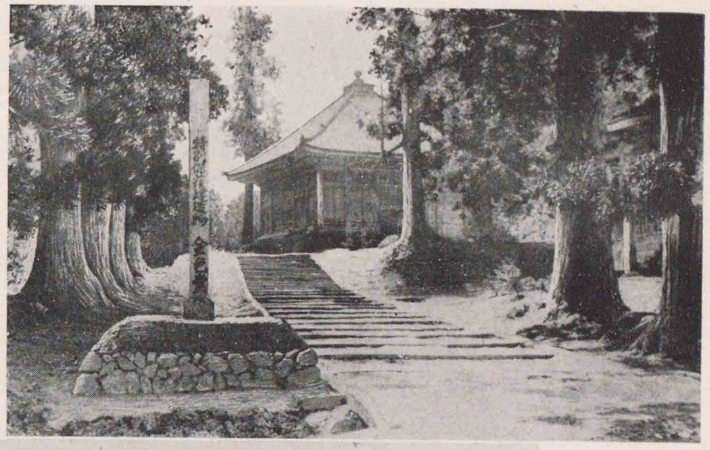
靈山　奇石怪岩の風景に名高く山麓に北畠氏の一族を祀る靈山神社がある

白虎隊の墓　維新の際に飯盛山で悲壯な最後を遂げた義烈少年勇士十七名の墓



松島の五大堂　瑞巖寺前の海岸に近い小島上にある建物で松島の風景に一段の詩性を添へる

米澤は我が人絹工業の發祥地である

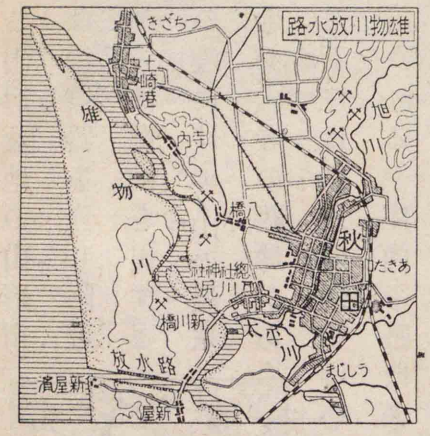


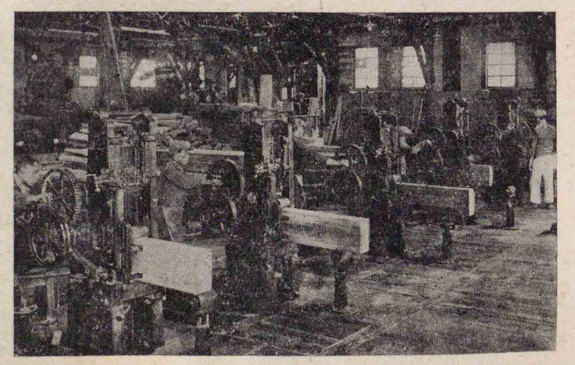
中尊寺の金色堂　今日完全に殘つてゐるのはこの金色堂と經藏で藤原氏三代の榮華を偲ぶに足る

八戸の漁船　八戸市を流れる湊川の河口は漁船が常に輻湊する圖はその大漁の賑ひ

十和田湖　四邊に峯巒が起伏し密林の翠綠は湖の清漣と相映じて風光絶佳である

秋田縣　米代川の流域には、小坂・尾去澤（ヲサルザハ）を始め、著名の鑛山が多く、又杉の美林があり、大館・能代（3.6）市は、製材業の中心地である。雄物川流域の横手（2.8）は、盆地の中心町で、米の集散が多く、秋田（6.1）市は米の集散地であると共に、附近に石油の大産地があり、採油櫓（ヤグラ）が林立して、特殊の景觀を呈する。土崎港はその外港で、製油所の所在地であるが、冬季は風浪が荒いので、船川港を避難港としてゐる。





米代川口に臨む秋田木材會社の内部

山形縣　米澤盆地は、養蠶が盛に行はれ、その中心の米澤（3.0）市は、古くから絹織物の產に名高く、北方に赤湯の溫泉町があ

る。山形盆地の**山形**(7.0)市は、銅・鐵器を產し、附近からは櫻桃を出す。この邊には上ノ山(カミヤマ)の溫泉地や山寺(ヤマデラ)の勝地がある。**新庄**(2.0)は新庄盆地の中心地で、米の集散が行はれる。庄内平野は米の產に富み、**酒田**(8.7)市は古くからその集散地として名高く、今も壯大な米倉庫があり、**鶴岡**(8.2)市も米を集散し、又天鵞絨の特產がある。

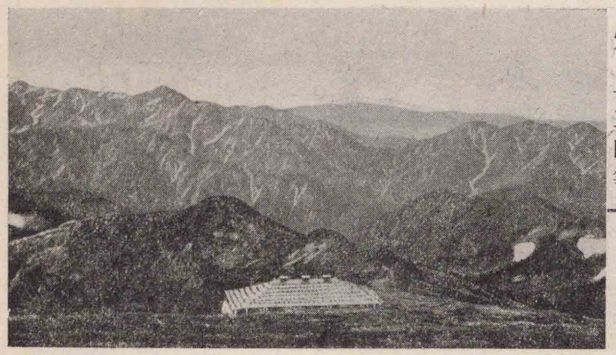
成熟した櫻桃を採集してゐる光景

靜岡縣	(靜岡市)
愛知縣	(名古屋市)
岐阜縣	(岐阜市)
山梨縣	(甲府市)
長野縣	(長野市)
新潟縣	(新潟市)
富山縣	(富山市)
石川縣	(金澤市)
福井縣	(福井市)

第三章　中部地方

通說

東海・東山兩道の一部と、北陸道を含み、昔は江戸と京都と

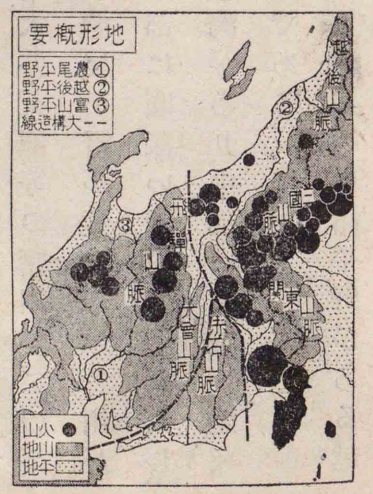


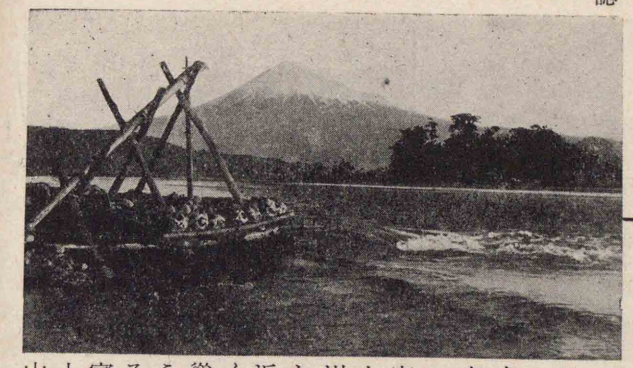
近景は白馬岳の頂上で中景は立山連峯

乘鞍(1)岳・御岳・燒ヶ丘・立山等

の中間に位した爲、早く開けたが、今は京濱・阪神兩文化の接觸(セッショク)地に當り、更にこの地方の特色も加つて、著しい發達を示してゐる。行政上、九縣に分ける。

地勢　地勢上から中央高地・南部低地(東海地方)及び北部低地(北陸地方)の三部に分れる。中央高地は、北彎(ホクワン)山系と南彎山系とに分れ、兩山系の間を、富士火山帶が通じてゐる。北彎山系には、越後・三國・關東等の山脈が連つて、既習の兩地方と境し、淺間山(那須火山帶)が東境に噴煙してゐる。南彎山系には、赤石(アカイシ)・木曾(キソ)・飛驒(ヒダ)の三山脈が、略〻南北に雁行(ガンカウ)し、山勢が雄大で、日本アルプスと呼ばれる。殊に飛驒山脈(北アルプス)には、白馬岳(シロウマ(ハクバ))・槍(ヤリ)ヶ岳等の高山が並び聳え、乘鞍(ノリクラ)火山帶に屬する火(1)山も噴起して、一層高峻である。飛驒山脈





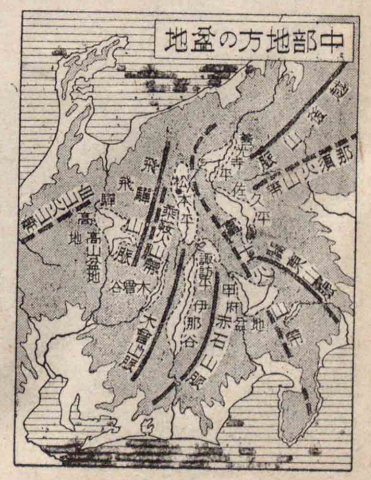
の西側は、緩斜して飛騨高原となり、その西部には、白山火山帶に屬する白山が聳えてゐる。富士火山帶は、富士山を中心として、多くの火山[1]を起し、その餘勢は、遠く南方の海中に延びてゐる。この山地は、數多の盆地を挾み、火山地方には、溫泉も少くない。

東海地方の東部には、一帶の海岸平野と臺地があり、中央高地から發する富士・安倍・大井・天龍等の諸川が、この平野を貫流する。西部には廣い濃尾平野が發達し、木曾川が此處を流れてゐる。海岸は、東部に底深い駿河灣が彎入し、西部には淺い伊勢海と渥美灣があり、中部は波荒い遠州灘で、その沿岸は平直な砂濱である。

北陸地方には、越後・富山・加賀・福井等の諸平野がある。越

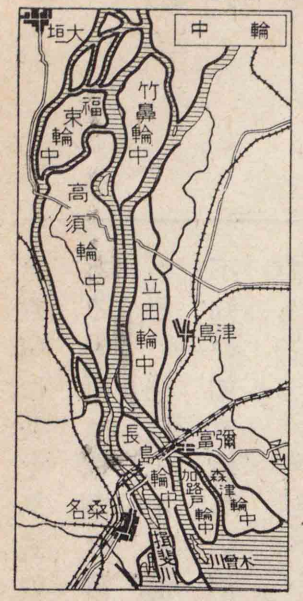
急流で名高い富士川と近く聳える富士山

妙高山・八ヶ岳・天城山等



後平野は、我が國有數の廣い低地で、信濃川・阿賀川が此處を流れ、その他、富山平野には、黒部川・神通川・庄川・福井平野には、九頭龍川が流れてゐる。

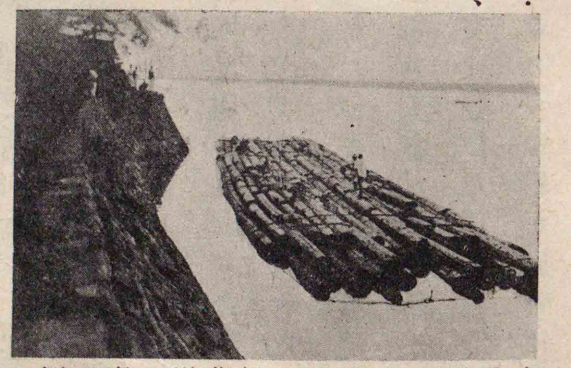
中部地方の河川は、多く高地から急に低地に移るので、往々下流に洪水の災を及ぼしたが、近年木曾川や信濃川の下流には、分水工事が完成して、その害を減じた。水運は木曾川・信濃川等の下流に、小汽船を通ずる外、一般に少いが、廣く灌漑の便を與へ、上流には峽谷美で名



木曾川周囲の堤防(輪中)域に設けられた

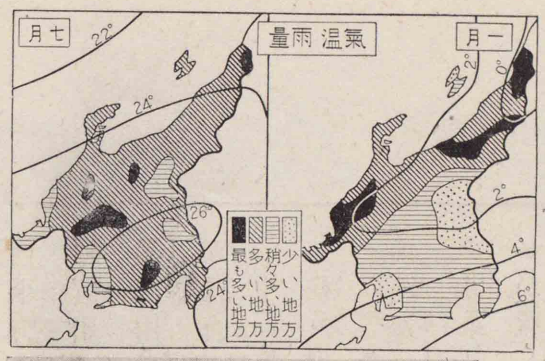
高い處も多く、又重要な水電地帶で、その電力は、京濱・阪神の地方にも送られる。木曾川にある發電用の堰堤は、大貯水池(惠那峽)を作つて、夏は遊覽船を浮べ、冬はスケート場となる。

海岸は中部に能登半島が富山灣を抱

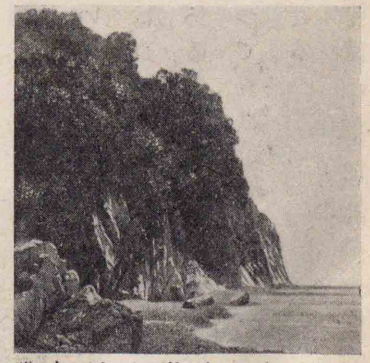


木曾川と合流する揖斐川の廣い河口

き、西南にリヤス式の若狹灣(ワカサ)がある外、概ね單調な砂濱であるが、その間に山地が海に迫り、親(オヤ)不知(ラズ)の如き峻(ケ)しい海崖をなす處もある。



氣候 東海地方は、氣候が概ね溫和で、夏に雨が多く、關東の海岸地方に似て、冬向の靜養地が處々にあり、野菜の促成栽培も廣く行はれる。北陸地方は、奥羽地方のそれに似てゐるが、氣溫は稍々高い。冬は陰鬱な天氣が續き、雪が深く積つて產業・交通等に及ぼす影響は著しいが、良好なスキー場が處々にあ



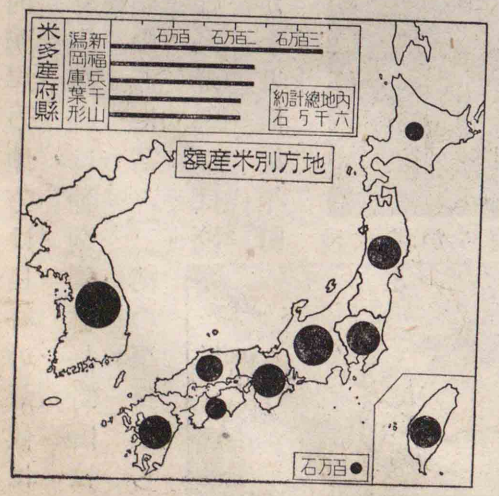
親不知の嶮崖と波打際

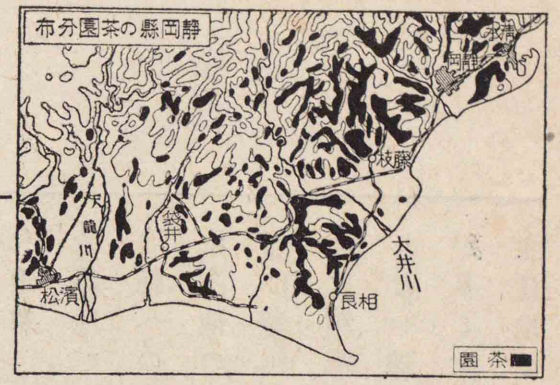
輕井澤・上高地等[1]

る。中央高地は、氣溫が概して低く、夏向の靜養地[1]が處々に散在し、盆地内は本州の最少雨地で、且冬の寒季が強く、湖水は厚く凍つてスケート場となり、又天然採氷の行はれる處もある。

產業 農產に富む上に、養蠶地帶の中樞をなし、又茶園が多い等の特色があり、近年各地に工業の發達も著しい。

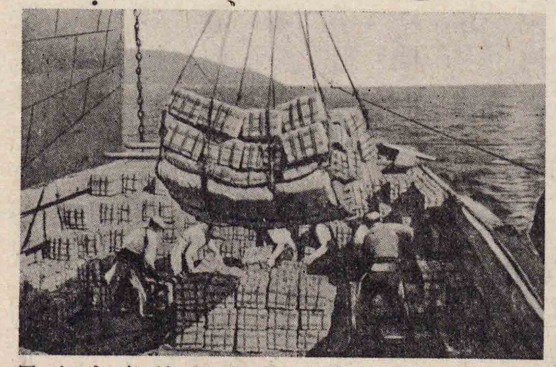
農業 越後・富山・濃尾の諸平野は、灌漑の便がよく我が國有數の米產地で、殊に北陸方面からは、他の府縣への移出が多く、奥羽地方と共に、内地の重要な米庫である。東海方面は麥作も頗る盛であるが、北陸方面は積雪の關係でその耕作は發達しない。靜岡縣の臺地・丘陵には茶園が多く、大井川・安倍川の流域はその主產地で、茶の產額は全國第一に位



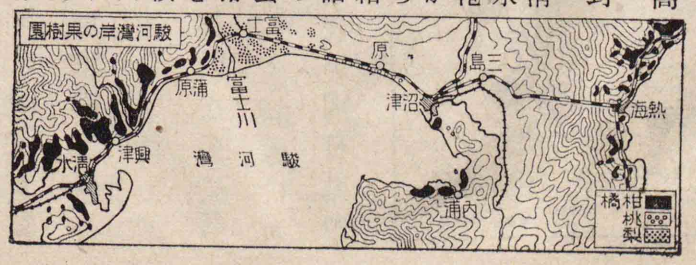


し、盛に海外へ輸出する。駿河灣岸の地方は良好の氣候に惠まれ、蜜柑・梨等の産が多く、山梨縣は葡萄・櫻桃、長野縣は苹果、岐阜縣は柿、新潟縣は梨の産に富み、三河の平野からも各種の果實を出す。その他、長野縣には蕎麥、靜岡縣には絲瓜の特産があり、濃尾平野の一部は良好な野菜を産し、その加工品は、廣く各地に送られる。

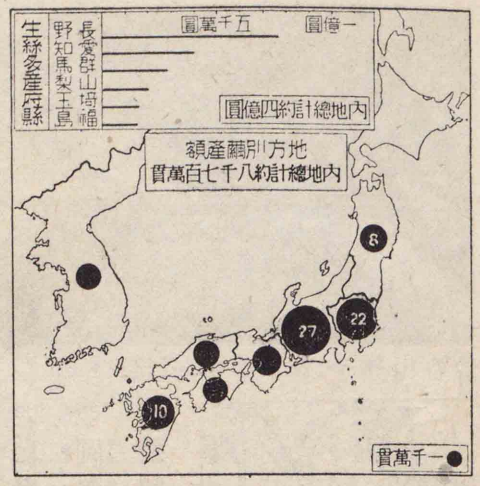
養蠶 中央部の盆地を中心として、その附近の地方は、我が國第一の養蠶地帯で、到る處に桑畑が開け、長野・愛知・岐阜・山梨の諸縣には、繭の産

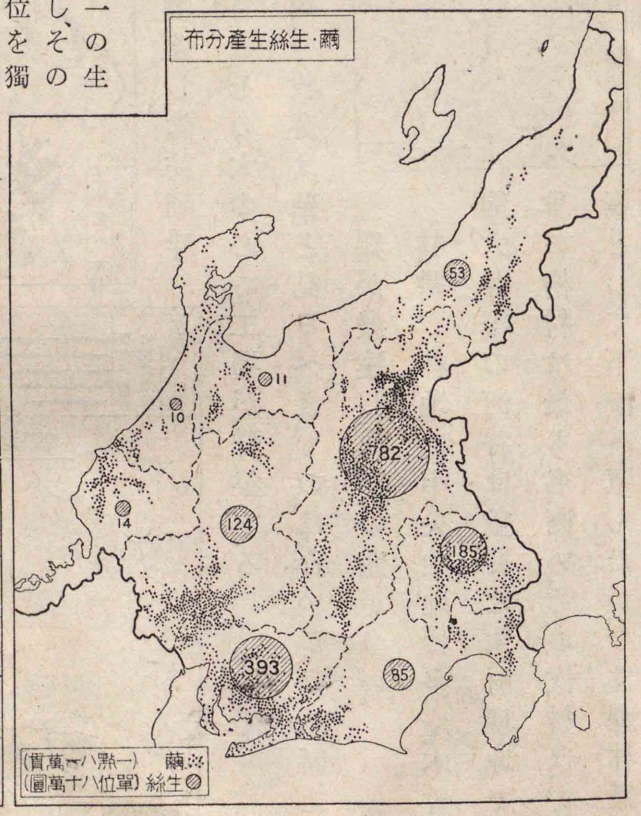


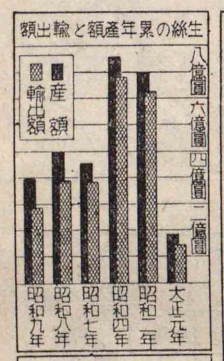
清水港から箱詰の蜜柑を積出す光景

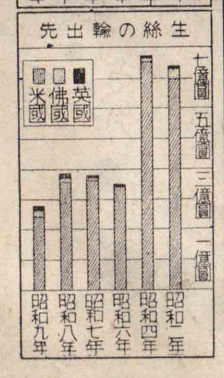


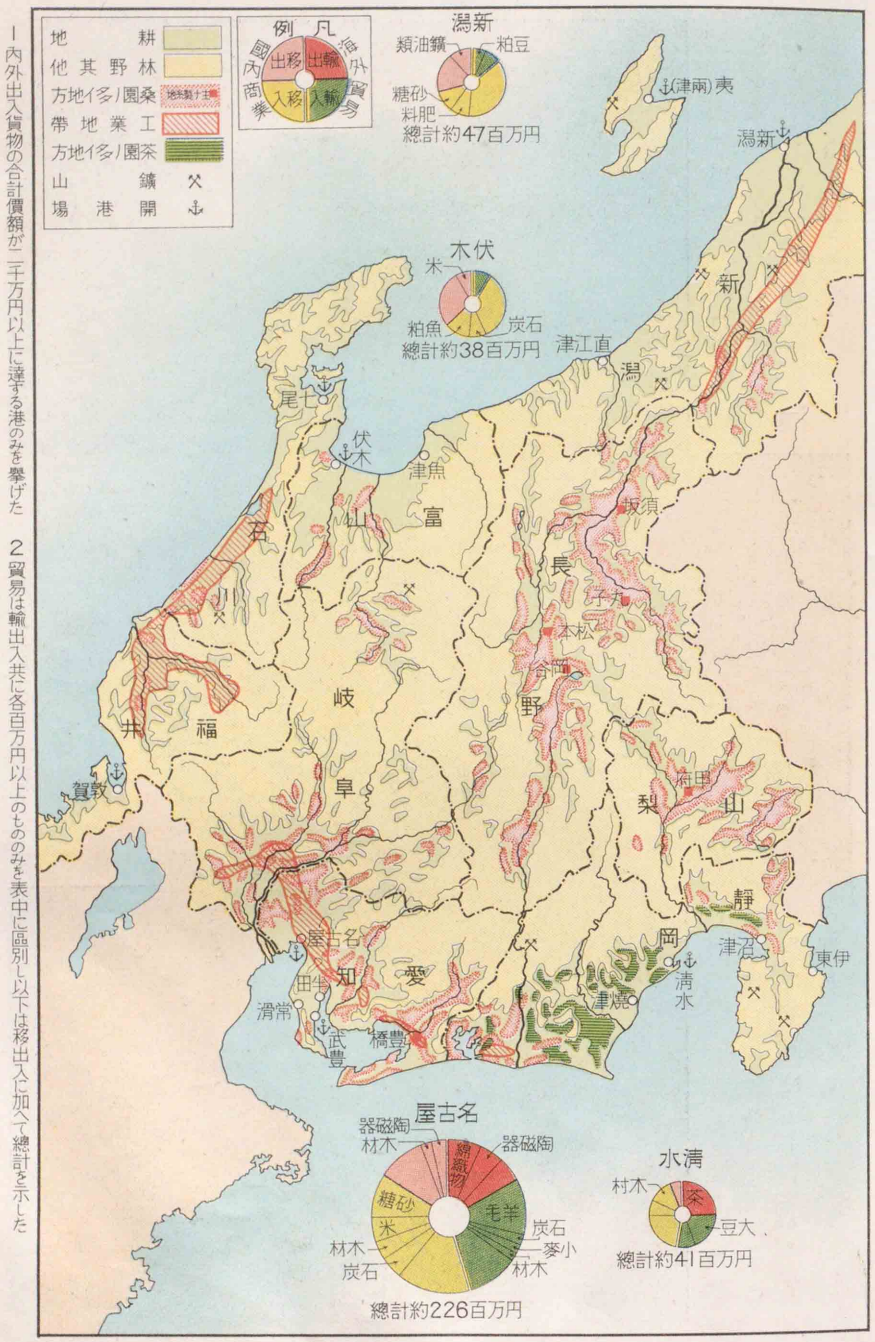
日本の生絲 我が國は世界第一の生絲國で、世界産額の約八割を出し、その貿易額は長く輸出品中の第一位を獨占してゐたが、最近綿製品とその首位を競うてゐる。養蠶は殆ど全國的に行はれるが、最も盛なのは中部地方から關東及び奥羽の南部に亙る山麓・盆地で、長野縣は生絲の産が殊に多い。







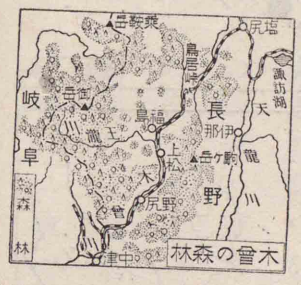


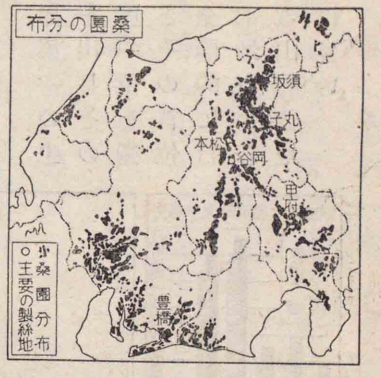


1 内外出入貨物の合計價額が二千万円以上に達する港のみを擧げた　2 貿易は輸出入共に各百万円以上のものみを表中に區別し以下は移出入に加へて總計を示した

伐採し材木を山から谷へ搬出する景

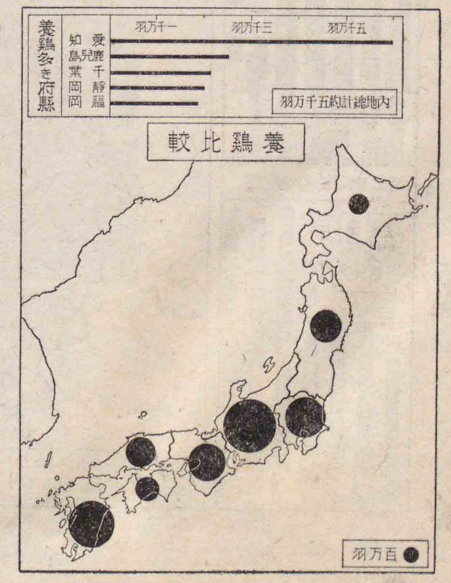
額が甚だ多い。從つてこの地方には、製絲業が大いに發達し、諏訪湖畔の岡谷は、その大中心で、工場が群集する。



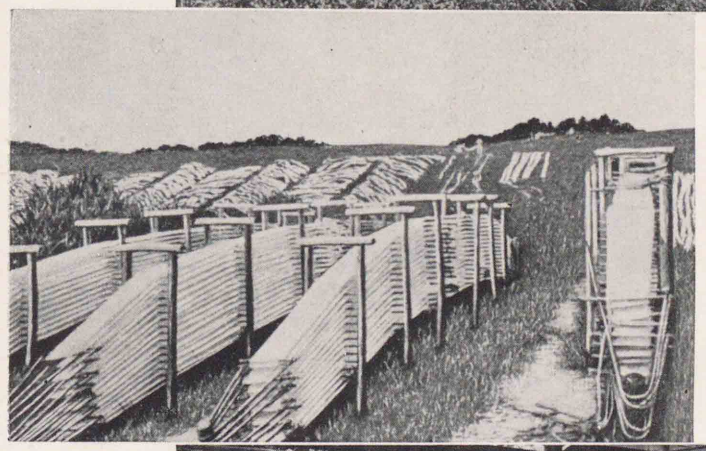


養鷄　牧畜は殆ど見るべきものはないが、愛知縣には養鷄が發達し、鷄卵の産が多い。

林業　林地は中央山地に多く、木曾・天龍・大井等の河谷は、重要な木材産地で、木曾の檜材は最も名高い。その伐材は、古來筏(イカダ)として下流へ運んだが、今は森林鐵道



靜岡の茶園　靜岡縣は一帶に茶園が多く牧ノ原はその中心である圖は茶園に於ける初夏の光景



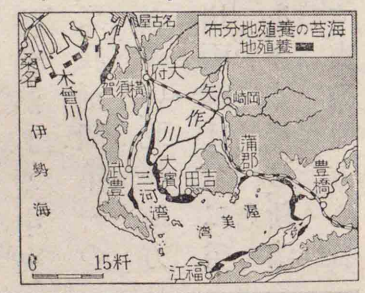
晒木綿の干場　知多半島は古來晒木綿の產が多く圖は晒上げた木綿を綱で引張り乾燥する光景

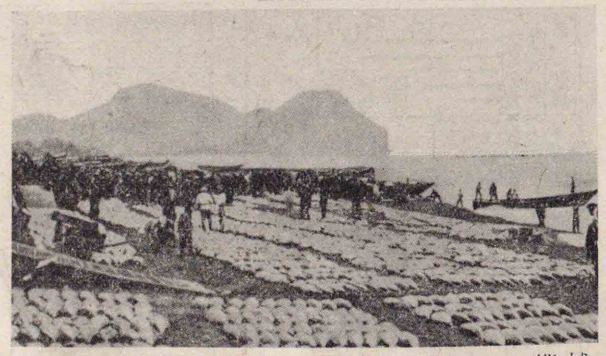
陶器會社の工場　日本陶器會社(名古屋)に於ける作業の光景で製品は主として洋風の器具である

新津附近を新津油田・長岡附近を東山油田・柏崎附近を西山油田といふ

が發達し、且發電用の堰堤に遮られ、陸路の輸送が多くなつた。

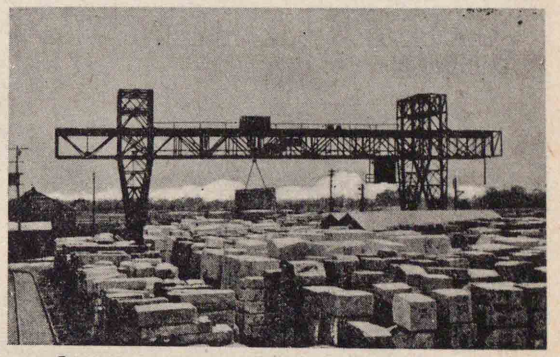
水產業　太平洋方面は、鰮・鰹等の漁利に富み、靜岡縣は遠洋漁業も發達して、鰹節の產額は全國第一に位し、燒津(ヤイツ)はその中心である。日本海方面では、柔魚・鰤(ブリ)等の漁利が多く、鯣(スルメ)の製造が行はれる。その他、靜岡(鰻)・新潟(鮭)・長野(鯉)の諸縣では、養殖漁業が行はれ、三河灣には海苔の產が多い。





捕獲した鰹を燒津の海岸に陸揚した景

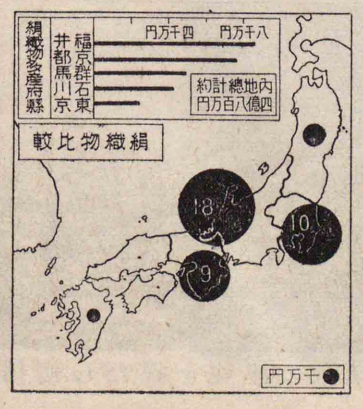
鑛業　新潟縣は秋田縣と共に、我が國の二大石油產地で、新津・東山・西山・高町等の油田が、信濃川の流域に分布し、柏崎と新潟(ニヒツ)にその製油所がある。小鑛山は處々にあるが、產額の稍〻多いのは、神岡(岐阜)

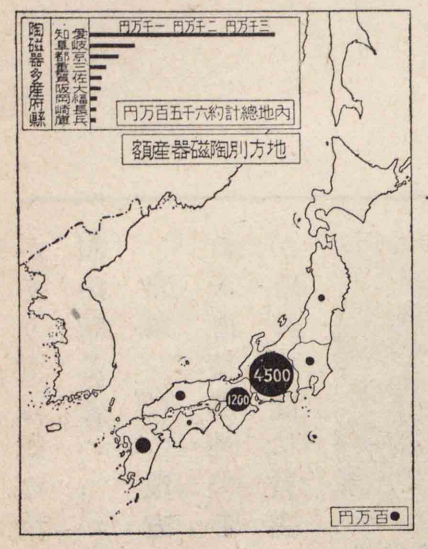


赤坂の鉛・亞鉛、土肥(トイ)(靜岡)・持越(モチコシ)(靜岡)及び佐渡の金、尾小屋(ヲゴヤ)(石川)の銅等で、赤坂(岐阜)は良質の大理石を産するので名高い。

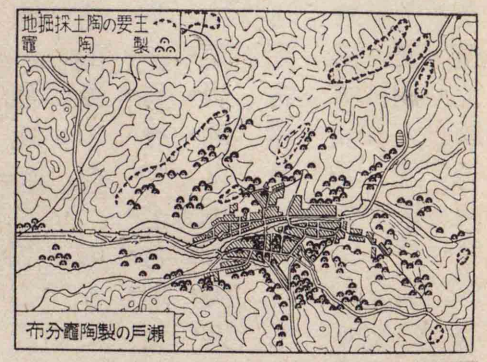
積集の石理大の數無たし出切で

工業　電力の豐富に惠まれ、工業の發展は著しく、その産物は地方によつて特色がある。中央盆地は養蠶の盛大と共に、又我が國第一の製絲地帯で、生絲の産が甚だ多い。北陸地方では絹織を主とし、福井・石川兩縣は羽二重・人絹織・富士絹等の輸出品を多く産し、新潟縣では内地向の絹織を出す。東海地方は名

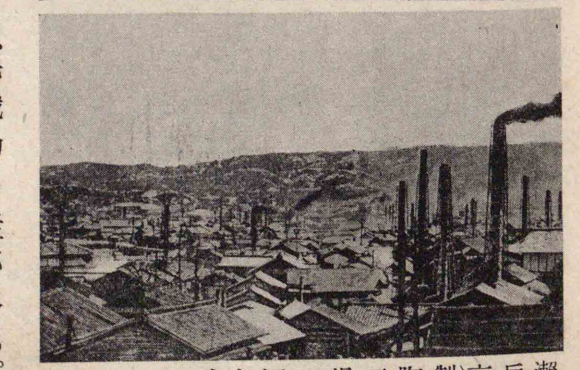




古屋を中心として、北は岐阜縣の南部に延び、西南は四日市方面に達し、東は濱松方面にも及ぶ大工業地帯が發達し、綿工業をその特色とするが、名古屋には各種の大工場が多く、一宮から岐阜方面には、毛織物の産が多い。



瀬戸から東濃に亙る地方は、我が國第一の製陶地帯で、北陸地方には九谷燒(石川)の産がある。その他、漆器(愛知・石川・靜岡)・銅器(富山・新潟)・和紙(靜岡・福井・岐阜)等も名高く、富士山麓には洋紙の工場

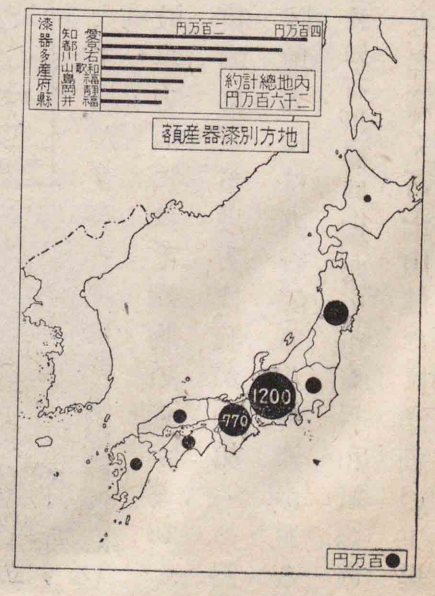


瀬戸市(製陶工場の煙突が林立する)

があり、愛知縣の清酒・酢等も、産額が頗る多い。

商業 この地方は、東京・大阪の商圏接觸地であるが、名古屋がその中間に發達して、大商業地となり、その他、地方的の中心が處々にある。開港場には清水・靜岡・武豐(愛知)・名古屋(愛知)・敦賀(福井)・七尾(石川)・伏木・東岩瀬(富山)・新潟・夷(以上新潟)等がある。中でも名古屋は、盛大な工業地帶を控へ、その門戸として、貿易額が頗る多い。

鐵道省で試みた大井川徒渉の寫眞



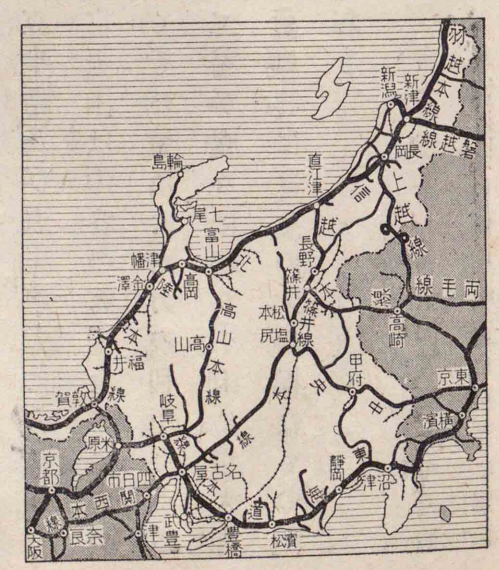
交通 古來の街道には、東海道・中仙道・中州街道・北國街道等がある。此等が山を越え、河を

過ぎ、海を渡る處には、自然の難所や、關所等があつて、旅行に不便を極めたが、今は鐵道が普く敷設されてゐる。東海道線は表日本の幹線で、三大商工業地を連ね、中央線は中部を通じ、信越線は北陸・羽越の兩線と連つて、裏日本の幹線となり、又[2]高山線と共に、本州の横斷線となつてゐる。濃尾平野には、電車の發達も著しい。

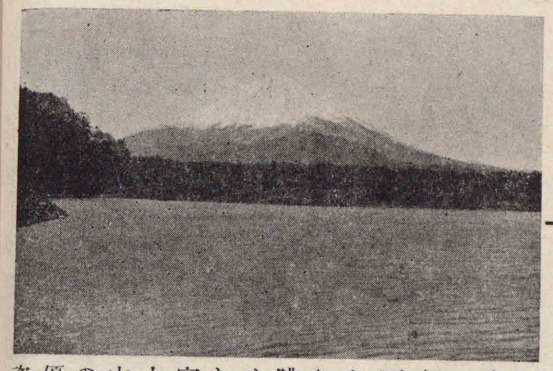
海運の大中心は名古屋で、清水と共に外國航路の商船が寄港し、敦賀は大陸に對する要地を占める。名古屋には航空港もあり、又この附近に、大規模の無線電信局があつて、歐洲と通信する。

人口と都邑 東海地方、殊に名古屋を中心とする工業地帶には、人口が密集し、北陸地方は略〻内地の平均に近く、中央高地は概して疎である。大都會

1 米原・直江津間
2 岐阜・富山間



の多くは、城下町から發達して來たもので、街道に沿ふ昔の宿驛には、交通の變動により、著しく盛衰を來したものもあり、又市街繁華の中心が、移動したものもある。

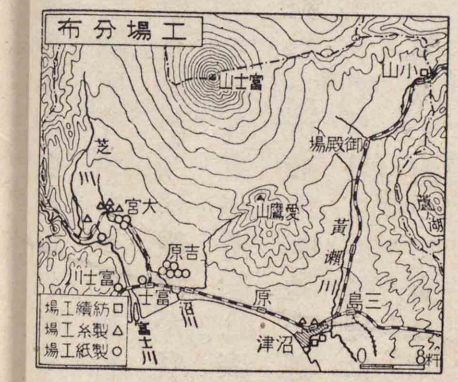


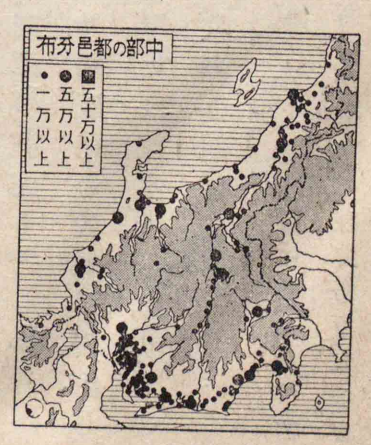
五湖の方面から眺めた富士山の優姿

處誌

靜岡縣

北部山地・伊豆半島及び海岸地方に分れる。富士山は山容の秀麗なので名高く、その麓には、水力の利用による工場が處々に起り、小山(紡績)・大宮(製紙)等には、その大規模なものがある。



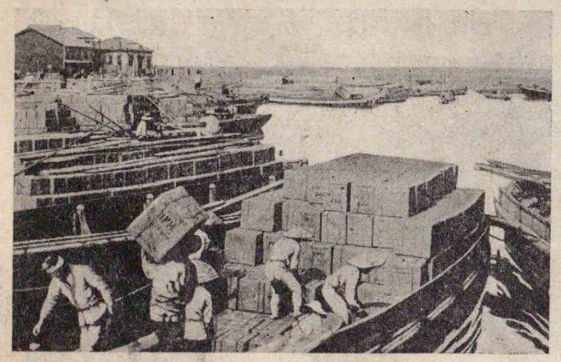


富士山は新しい火山で、略〻完全な圓錐體(エンスイ)をなし、寶永噴火口が、僅に單調

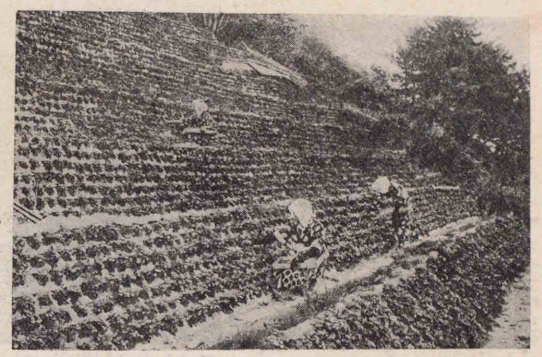
熱海溫泉(處々から溫泉の白煙が立昇る)

を破つてゐる。北麓には、所謂富士五湖(山中・河口・西・精進(シャウジ)・本栖(モトス))を湛へて風景がよく、近年この山の大部は、箱根山と共に國立公園となつた。夏季には登山者が多く、山麓の大宮・御殿場(ゴテンバ)・須走(スバシリ)(以上靜岡)・吉田(山梨)等は、その登山口に當る。

伊豆半島には、熱海(2.5)市・伊東(2.0)・修善寺(シュゼンジ)(2.0)を始め、著名な溫泉町があり、三島(2.8)は交通の要地で、下田は史上に名高い港町である。駿河灣岸は、果樹の栽培が廣く行はれる。沼津(6.0)市は興津(オキツ)と共によい靜養地で、近年製絲・人絹等の工業も興つた。清水(2.5)市は近く三保ノ松原を控へて、遙に富士山と對し、風景のよい商港で、茶の輸出が盛である。靜岡(20.1)市は昔の駿府(スンプ)で、盛に茶を集散し、又漆器・竹細工等を出す。東南に名高い久能(クノウ)



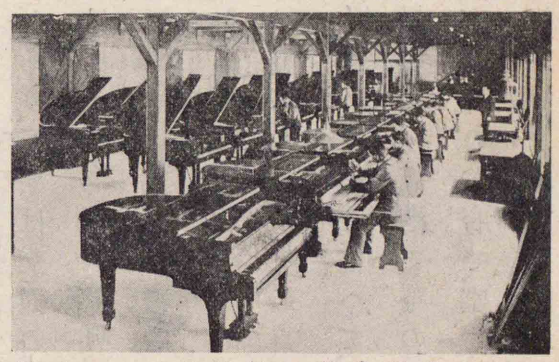
清水港から輸出茶を船へ積込む光景



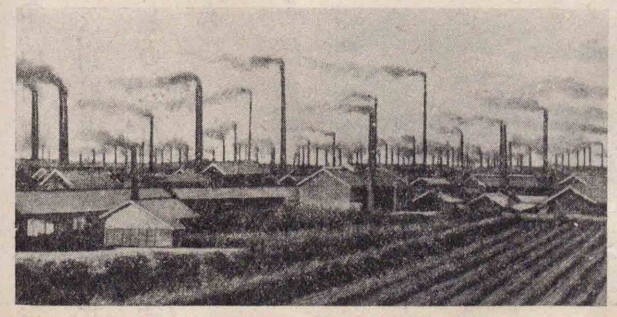
久能山南麓に於ける石垣苺の栽培

進の工業地で、綿織の外、樂器・帽子等の特産がある。濱名湖は鰻・鯉等の養殖に利用せられ、沿岸は風景がよい。

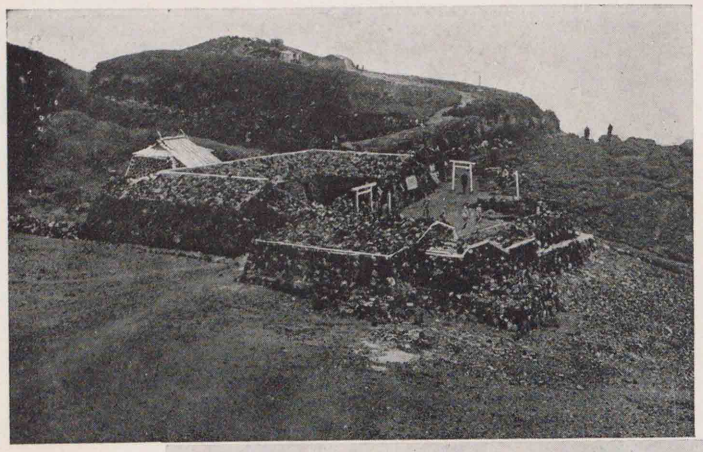
愛知縣 東部の豐橋市は、豐川の下流に沿ひ、製絲工場が多く、豐川は稻荷の祠で名高く、濱松山があり、その南麓では、苺の石垣作りが行はれる。燒津は遠洋漁業の一根據地で、鰹節を產し、島田は對岸の金谷と共に、往時の渡川地として著名な處で、今は木材の集散が盛である。濱松市は新



濱松の樂器會社に於けるピアノ工場

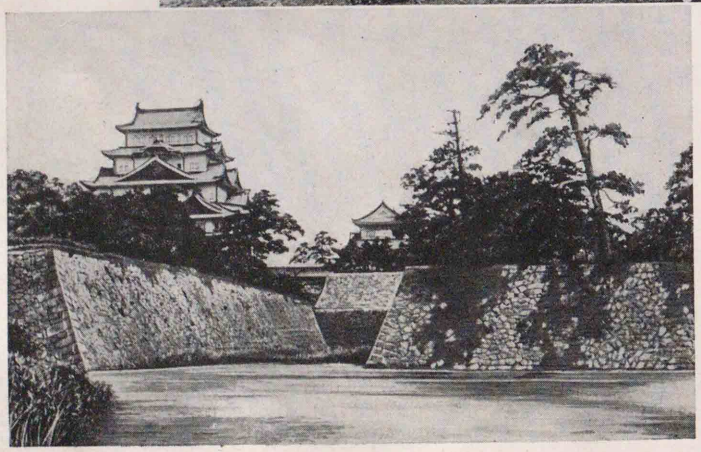


豐橋の製絲工場地帶に於ける煙突の壯觀

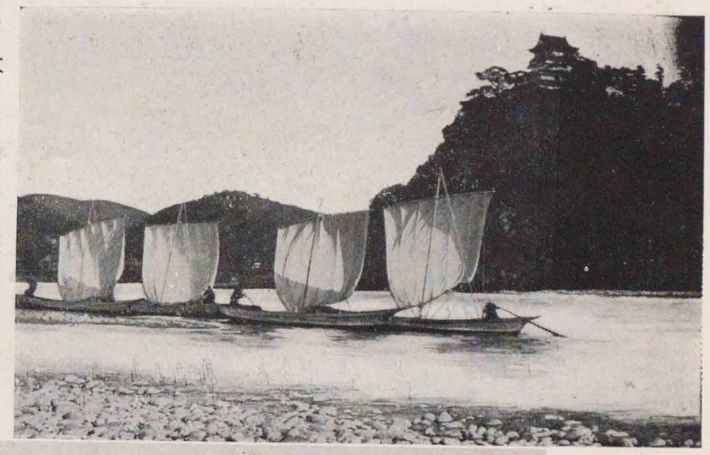


富士山の頂上　石塊を疊積したのは淺間神社の奧宮で夏季には登山者が群集する

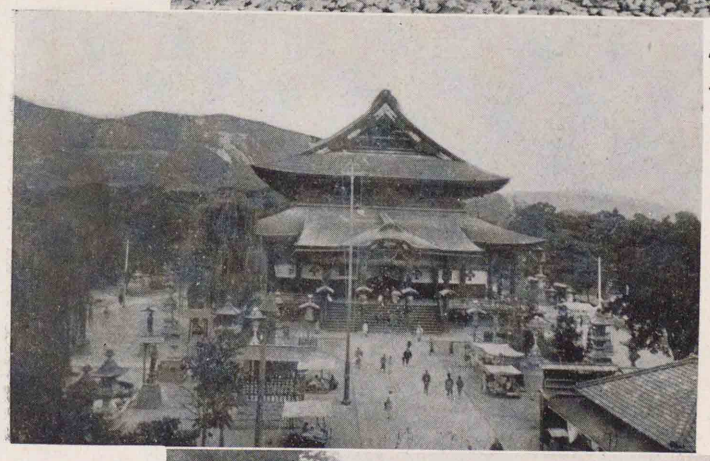
山中湖　富士五湖の中面積海拔共に第一で夏は避暑の客、冬はスケートの爲に賑ふ



名古屋城　天守閣の高さは三十七米その上に輝く名高い金の鯱は高さ約二米八

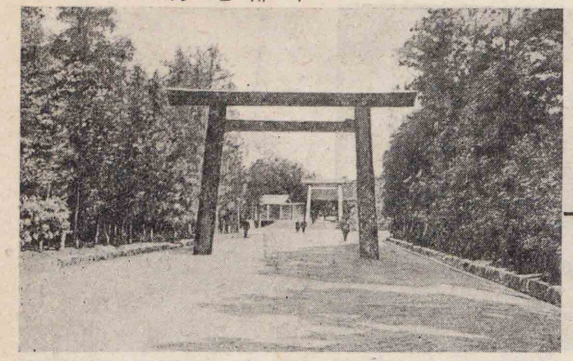


日本ライン　木曾川の清流に臨んで白堊の犬山城が峙ち去來する白帆と共に一幅の畫をなす



善光寺の本堂　四時共に遠近より參詣者が多く長野市を佛都として發達せしめてゐる

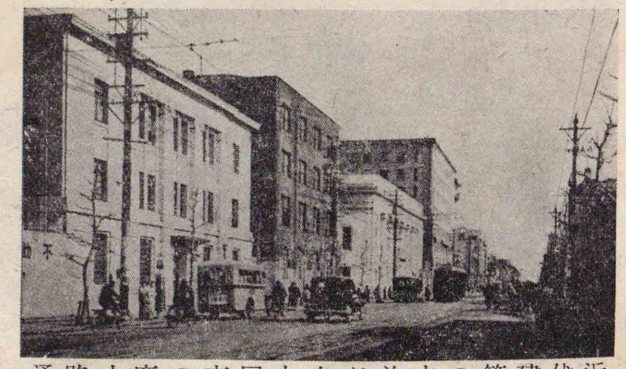
寢覺の床　木曾川の上流にあつて累々たる巨岩の奇と之に激する水態の妙とで名高い



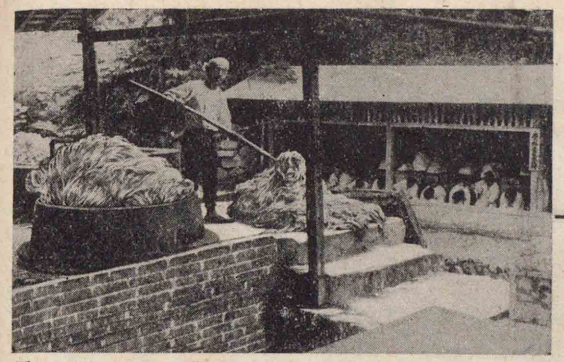
三州瓦の中心は高濱町

名古屋市は十五區に分れ帝國大學がある

上流に鳳來寺山の名地がある。中部の**岡崎**市は、徳川氏創業の地で、人絹その他の工場がある。矢作川以西の平野は、安城を中心として穀菜・果實等の多角農業が行はれ、養蠶・養鶏も盛で、日本デンマークと呼ばれ、西南の沿海地方からは三州瓦を出す。西部は濃尾平野の一部と、知多半島とに分れる。半島の沿岸には、醸造地の**半田**市（酒・酢・ビール）や、土管の産地常滑がある。**名古屋**市は、徳川氏親藩の城下町として發達した處で、名古屋城・熱田神宮等がある。産業・交通・學術等の大中心で、綿絲・綿織・毛織を始め、時計・車輛・飛行機・陶器等の大工場が多く、築港の完備と共に、商工業が著しい發展を示してゐる。附近の鳴海・蒲郡・としてし神々しい熱田神宮の神域



近代建築の立並ぶ名古屋市の廣小路通



美濃紙の原料を精選煮沸する景

海は、絞木綿の名産地で、瀬戸市は陶磁器の大産地である。犬山は日本ラインの流に臨んで風景がよく、一宮市は毛織業の一中心である。

岐阜縣　南部の平野は、地理上愛知縣に續く大工業地帯の一部で、岐阜・大垣の兩市がその中心である。岐阜は絹織・毛織等を産し、又提燈・團扇等の名産を出す。鵜飼に名高い長良川が此處を流れ、上流地方は、和紙の産が多く、美濃はその集散地で、關は刃物の名産地である。大垣市には毛織の工場があり、附近の赤坂は大理石を出す。西境の關ヶ原は、著名の古戰場で、養老ノ瀧は、孝子の傳説で名高い。東部は愛知縣に續く製陶地帯で、多治見市

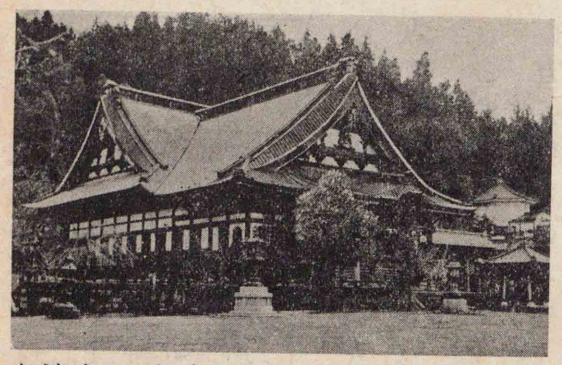
篝火の光が清き流を照す長良川の鵜飼

甲府の北方に昇仙峽の勝地がある

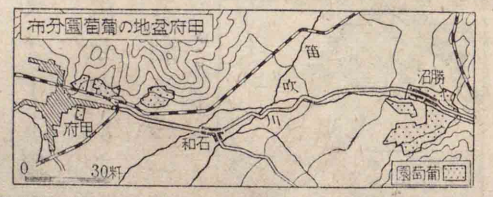
高山の南方に下呂の溫泉場がある

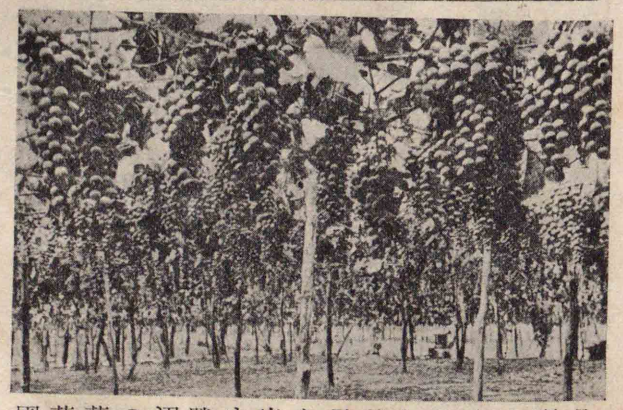
はその中心地である。北部には高山盆地があり、その中心の高山市は、漆器・木製器具等の特産を出す。

山梨縣　一縣殆ど一盆地を開く。郡内地方は甲斐絹の名産地で、谷村はその市場である。甲府盆地には桑畑・葡萄園が多く、東部の勝沼は、葡萄の主産地である。甲府市は、製絲業が盛で、又葡萄酒・水晶細工等の特産

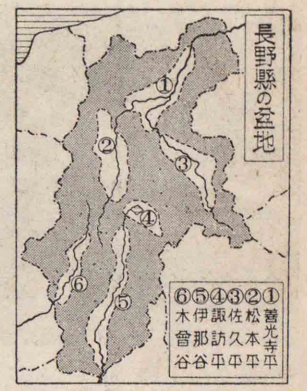


日蓮上人の遺跡として名高い久遠寺





品質の良好な美果を出す勝沼の葡萄園



心で、附近に天龍峽がある。諏訪平の諏訪湖は、冬季厚く凍つて、良好のスケート場となる。湖畔に上諏訪・下諏訪の溫泉町が並び、東方に霧ヶ峯のスキー場がある。湖邊の一帶は、岡谷市を中心として製絲工場が多く、湖南一部からは寒天を出す。松本平の松本市は、養蠶業の大中心で、繭・蠶卵紙等の取引が

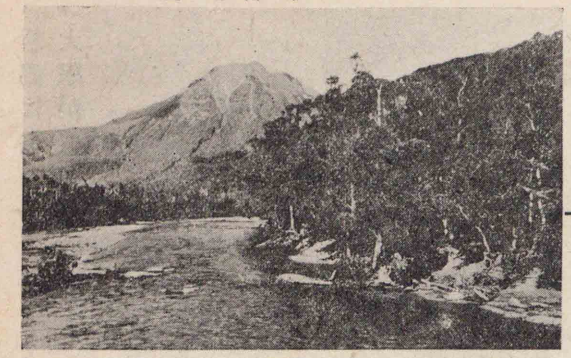
諏訪湖の附近に於ける寒天の製造場

があり、南方の身延は、日蓮宗の靈地である。

長野縣 大小數箇の盆地に分れる。木曾谷は檜の良材を出すので名高く、福島は御岳の登山口に當り、附近に寢覺ノ床の勝地がある。伊那谷の飯田市は、養蠶業の一中

盛に行はれ、西方に高峻な飛驒山脈が連つて、壯觀を呈する。

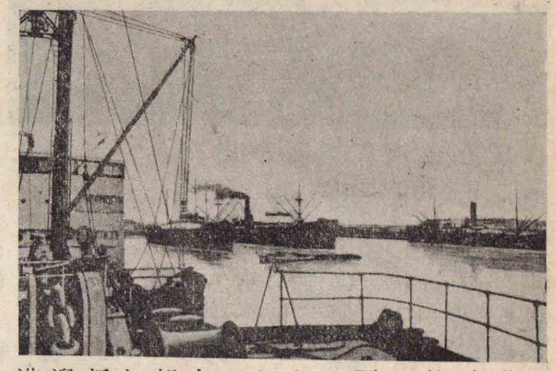
飛驒山脈は、所謂日本北アルプスで、高山地形を以て名高く、その大部(乘鞍以北)は國立公園となり、中部山岳公園と呼ばれる。夏季に登山者が多く、山中の上高地は、梓川を控へて穗高連嶺と對し、高山地貌と水色美とで名高く、又白骨と共に溫泉も湧いて、夏季の靜養地となり、山麓の大町・島々等は、登山口として賑ふ處である。



上高地から梓川を隔てて燒岳を望む

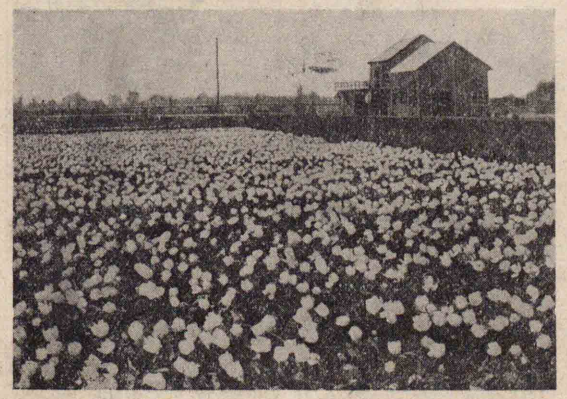
佐久平の小諸は、製絲業の一中心で、附近の水田では、蛹を利用して鯉を養殖し、輕井澤は避暑地として名高く、上田市は繭・蠶卵紙等の取引が盛である。善光寺平には、苹果や杏の產がある。長野市は、善光寺の門前町として發達した處で、川中島の古戰場や、姥捨山の名地がこの附近にあり、須坂・松代は、共に養蠶・製絲の一中心である。

新潟に醫科大學がある



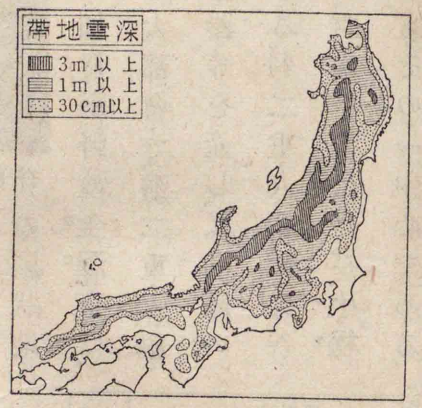
日滿連絡の要地として有望な新潟港

新潟縣　信濃川の口に臨む**新潟**市は、築港の完成、上越線の開通等によつて、重要の位置となり、且日滿の連絡地として有望な處で、製油その他の工場があり、近郊には花卉の栽培が盛である。**新津**は交通の要地で、附近に油田を控へ、**五泉**は絹織物を出す。**三條**市は信濃川の河港で、燕と共に金屬製品を出す。**長岡**市は中越の中心都會で、米・石油等の取引が盛に行はれ、**十日町**・**小千谷**は、共に絹織の產地として名高く、**柏崎**市には製油所がある。南部の**高田**市は、北陸深雪地帶の中



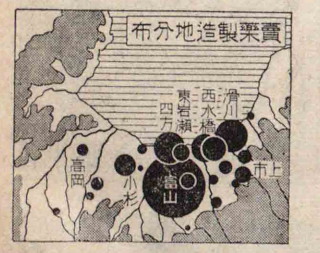
花卉園でその花時には美觀を極めるる

積雪が市街を埋めて冬ごもる高田市

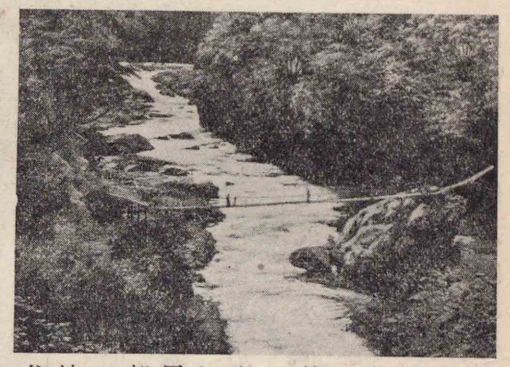


心地で、附近はスキーの爲に賑ひ、**直江津**は交通の要地で、西方に親不知の嶮道がある。佐渡は水產が多く、**相川**は昔から名高い鑛山町で、東部の夷は、舟泊の要地である。

富山縣　富山平野の**富山**市は、古來賣藥の製造で知られてゐたが、電力供給の便により、近年新式の工業地化して來た**高岡**市は在來の漆器・銅器の外、機械工業が次第に發達し、又米の取引が盛に行はれ、伏木はその積出が多

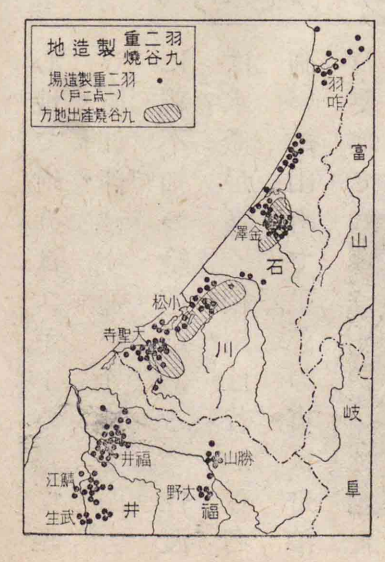


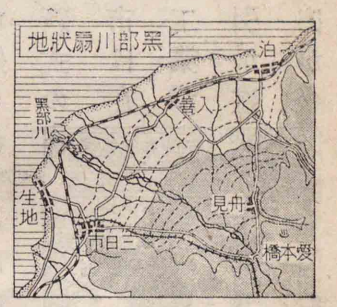
賣藥の製造(富山市にあるる廣貫堂工場)



山姿水態の美に富む黒部の峽谷

石川縣　加賀平野の**金澤**市は、北陸第一の大都會で、羽二重・人絹織・九谷燒・漆器等を產し、又名高い兼六園がある。羽二重・人絹織・九谷燒の產地は、西南一帶に延び、**小松**市・大聖寺等もその一中心である。





電所が多く、東境に近い立山は、夏季に登山者が多い。黒部川は峽谷の壯觀で名高く、その扇狀地は、西瓜の名產地である。

い。東部の魚津・滑川は、西部の氷見と共に、重要な漁港で、內部の城端は、羽二重製織の一中心である。

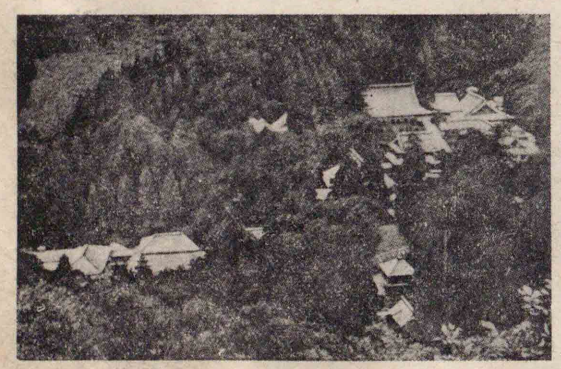
山地には壯大な發

福井市に藤島神社がある。

兼六園は風景の變化に富む日本式公園

山代・山中は、共に名高い溫泉場で、山代は九谷燒、山中は漆器を出す。能登半島の頸部には、東西に續く邑知潟地溝帶があり、その北端にある**七尾**市は、水產物の集散及びセメント工業が行はれ、又名高い和倉溫泉がある。北岸の輪島は、良質の漆器を出す。

福井縣　福井平野は、人絹織・輸出羽二重の主產地で、**福井**市はその中心をなし、東方に名高い永平寺がある。九頭龍川の河口附近には、三國の漁港や蘆原の溫泉場、東尋坊の勝地等がある。上流の勝山・大野は、共に機業の一中心で、武生は和紙・蚊



俗界に遠き幽境に並ぶ永平寺の堂塔

滋賀縣	（大津市）
京都府	（京都市）
奈良縣	（奈良市）
三重縣	（津市）
和歌山縣	（和歌山市）
大阪府	（大阪市）
兵庫縣	（神戸市）

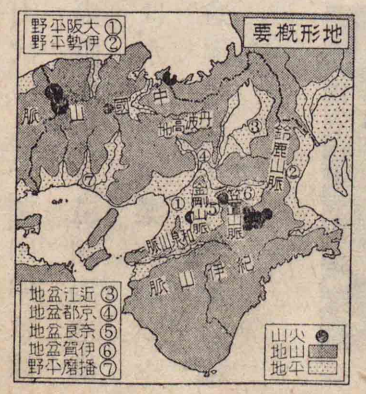
帳等の特産を出す。若狹灣岸の敦賀市は、天然の良港で、大陸と連絡の要地に當り、小濱は水産物の集散地で、若狹塗の名産を產す。

第四章　近畿地方

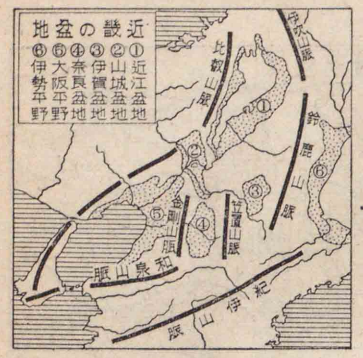
通說

往時我が國の中樞であつた畿內と、その附近の地を含み、神武天皇以來、永く文化の中心であつた地方で、史蹟が甚だ多く、且阪神地方は、商工業が發達して、近代の文化に輝いてゐる。故に最も古くして、最も新しい地方といへる。行政上、二府・五縣に分ける。

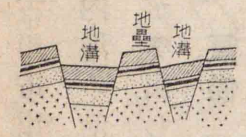
地勢　地勢上、三區に分れる。南部は紀伊山脈の連る處で、土地が一般に高く、櫛田川・紀ノ川が略〻その北境を東西に流れ、熊野川は山脈を横ぎつて南流する。海岸は小屈曲



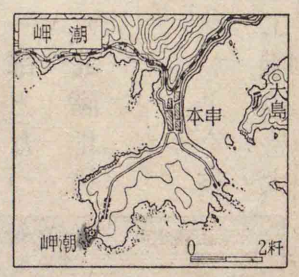
舞鶴灣及び紀淡・鳴門の二海峽附近は要塞地帶である



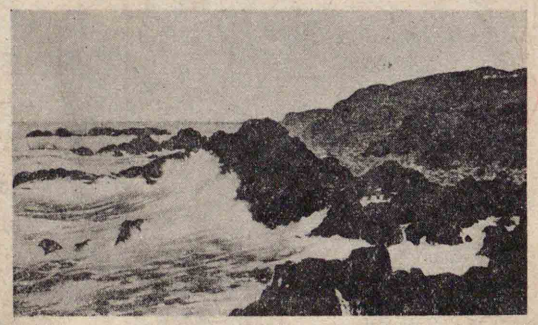
が多く、志摩半島は代表的のリヤス式海岸をなし、潮岬は本州の南端に當る陸繫島である。中部には、斷層の爲に生じた地壘（山脈）と、地溝（盆地）とが集つてゐる。地壘は鈴鹿・伊吹・金剛・笠置等の小山脈をなし、地溝は近江・京都・伊賀・奈良等の盆地となつてゐる。又東西の海岸には、盆地の一半とも見られる伊勢・大阪の兩平野がある。淀川は琵琶湖に發し、諸盆地の水を集めて大阪灣に注ぎ、伊勢平野には、殆ど並行せる短流が多い。北部は中國山地の續きで、高臺性を帶び、その中に多くの小盆地がある。



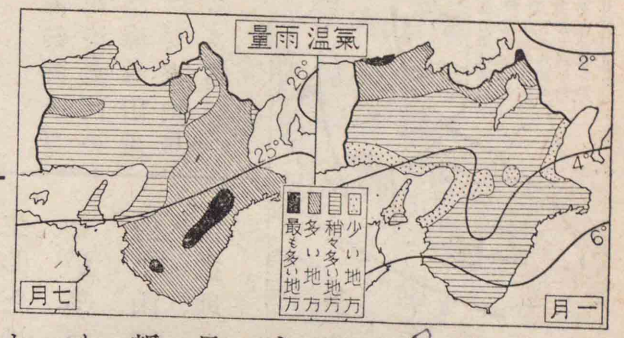
斷層喰圖地層に違の溝によひ如がりをき出地生地來層じ壘る



由良川・（圓山川）朝來川は此處を北流し、加



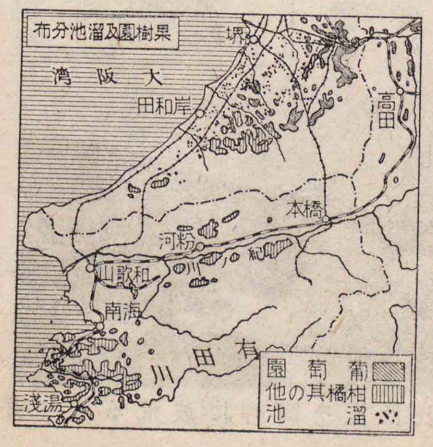
寄せ來る荒波に岬脚を洗はれる潮岬



古川・市川・揖保川等は南流して、下流に播磨平野を開く。瀬戸内海の沿岸は、單調な砂濱であるが、日本海岸には、與謝半島が突出して、舞鶴灣を抱く。

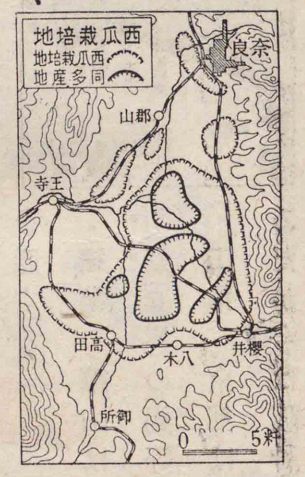
氣候　氣候は四區に分れる。南部は暖流の影響を受け、伊豆半島に似て更に高溫・多雨である。內部の盆地は、寒暑の差が稍〻著しいが、中部地方の諸盆地に比べると、寒氣は和ぎ、雨量も相當に多い。瀬戸內海の沿岸は、冬が割合に暖で、良好の靜養地であるが、降雨は概して少く、農業上の貯水池が處々に散在し、西部は製鹽地帶の一部となつてゐる。北部は冬に雨雪が多く、北陸地方と似て、陰鬱な天氣が續く。

產業　早く開けた爲に、耕地がよく整ひ、各種の產業が發達し、殊に工業の盛大

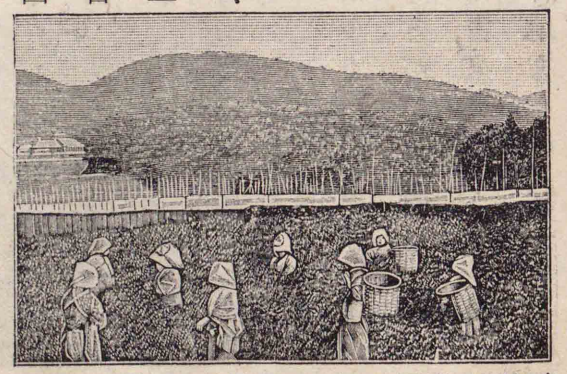


は、この地方の特色である。

農業　播磨平野は、全國屈指の米產地で、近江盆地・伊勢平野では、水田の裏作として、菜種・麥類等の產が多い。京都府から奈良・三重の丘陵地にかけは、茶園が多く、宇治は古來良茶の產地として名高い。紀伊半島の西部は、蜜柑の產が多く、大阪府の南部からも、蜜柑・葡萄等を出す。その他、奈良盆地の西瓜、紀伊半島西部の除蟲菊・梅等も、產額が少くない。養蠶は伊勢平野や、北部の盆地に行はれる。

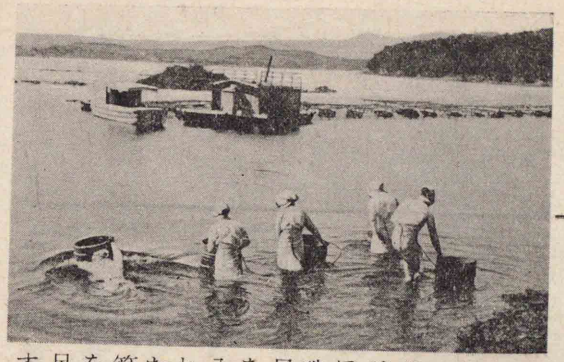


牧畜　兵庫縣は中國牧牛地帶の東端に當り、牛の飼養が盛で、神戸牛として各地に送られ、三重縣にも肉牛の飼育が行はれる。大阪・京都では盛に乳牛を飼養する。



宇治の茶園で白い屋根は日覆である

京都盆地を繞る臺地には竹林が多くその竹材及び筍は附近山中の松茸と共に名高い



沖に筏を浮べ眞珠貝を入れた箱を吊す

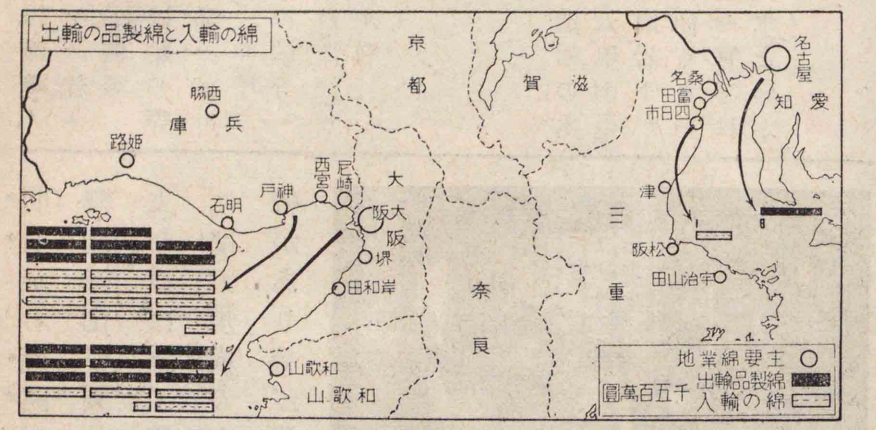
林業 紀伊山地は森林が廣く、杉の良材を出す。紀ノ川・熊野川はその輸送が盛で、河口に材木町が發達してゐる。

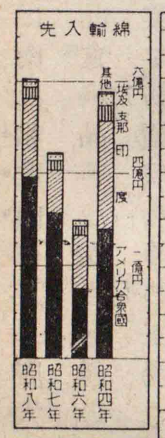
水産業 紀伊半島の附近には、鰮・鰤・鰹等の漁利が多く、志摩半島では、眞珠貝の養殖が行はれ、その眞珠は、世界的に名聲を博してゐる。瀬戸内海は、鯛・鰆の漁獲を主とし、一部では製鹽が行はれ、日本海方面には鰮・柔魚等を産する。

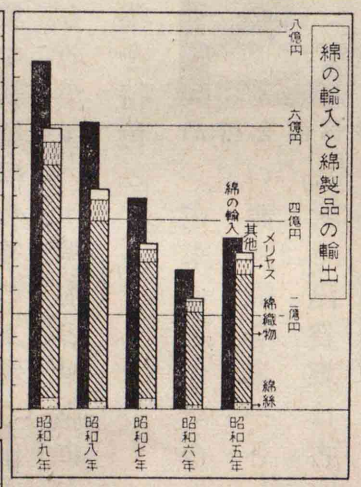
鑛業 鑛山は少く、生野(イクノ)(兵庫)の銀・銅と、明延(アケノベ)(兵庫)の錫(スズ)等とが稍〻名高い。

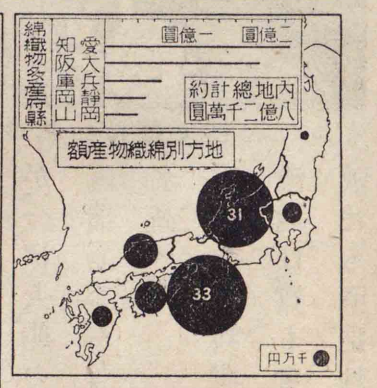
工業 京都は古來美術工藝に秀でてゐたが、今は阪神地方を中心として、西は

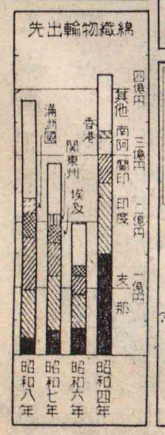
熊野川を筏で流して來た木材の堆積

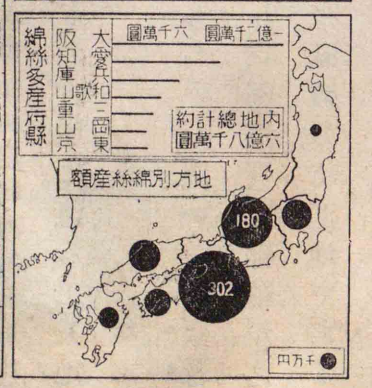












日本の綿工業 綿絲・綿織は我が國第一の工業で、綿製品の輸出國として英國を凌ぐに至つた。併し原料綿の大部分は輸入してゐるから、綿は輸入品の大宗である。綿工業の盛なのは阪神工業地帶で、原料綿の約六割は神戸から輸入し、綿製品の約五割は大阪から輸出する。

(1)綿絲・綿織・メリヤス・綿ネル・毛織等
(2)機械・船舶等
(3)藥品・セルロイド・石鹼・マッチ・樟腦等
(4)砂糖・清酒・ビール等

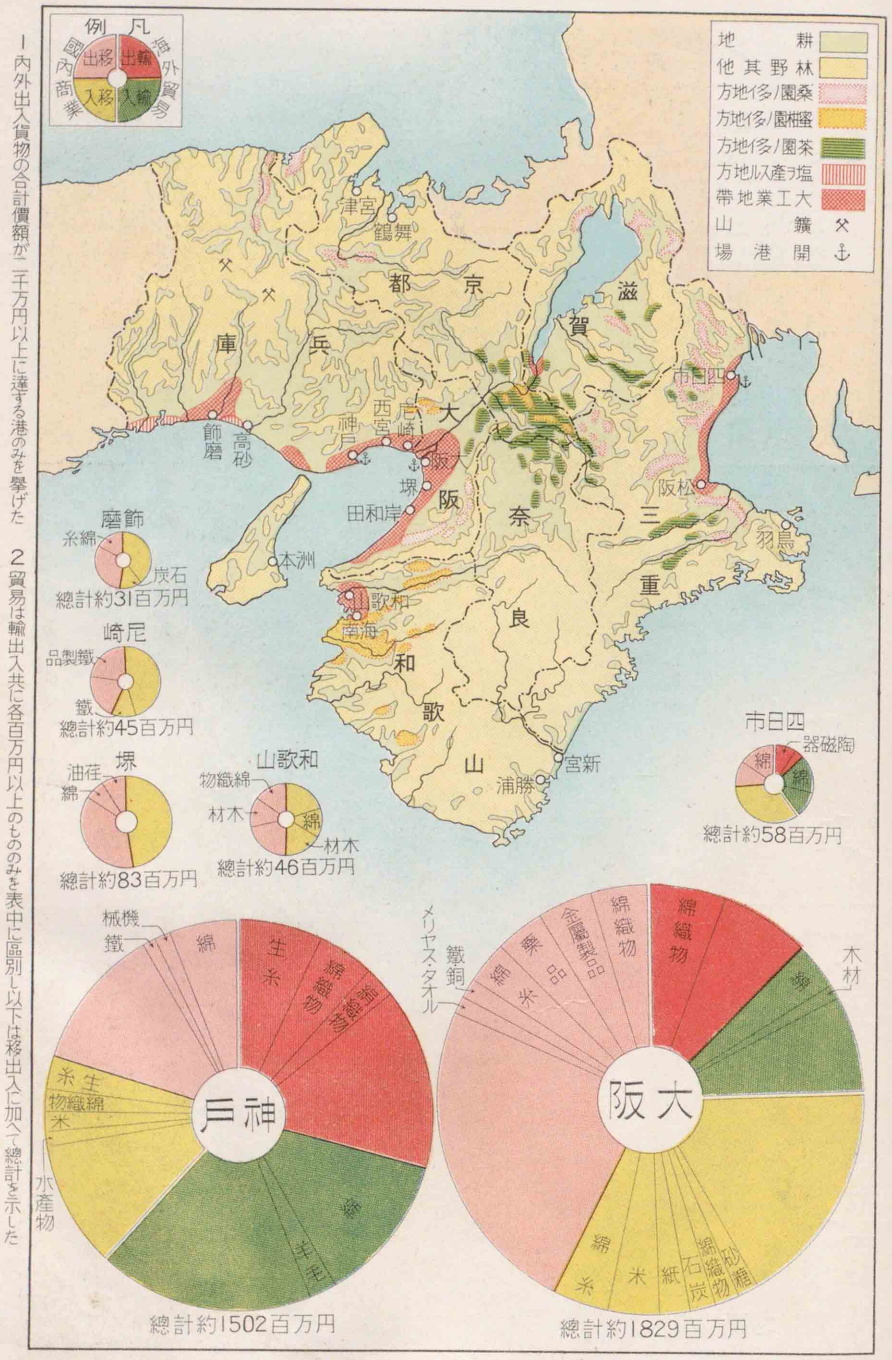
酒造用の水は六甲山の花崗岩下から湧くもので西宮では宮水といふ

明石から姫路に、南は和歌山に及ぶ廣大な阪神工業地帶をなし、紡織・機械・化學製品・食料品等を始め、各種の工場を網羅するが、特に盛大なのは綿工業で、紡績・織物等の工場（大阪・堺・岸和田・尼崎・西宮・和歌山）には、大規模のものが多い。伊勢海の沿岸にも、名古屋に連る工業地帶があり、綿工業を特色とする。

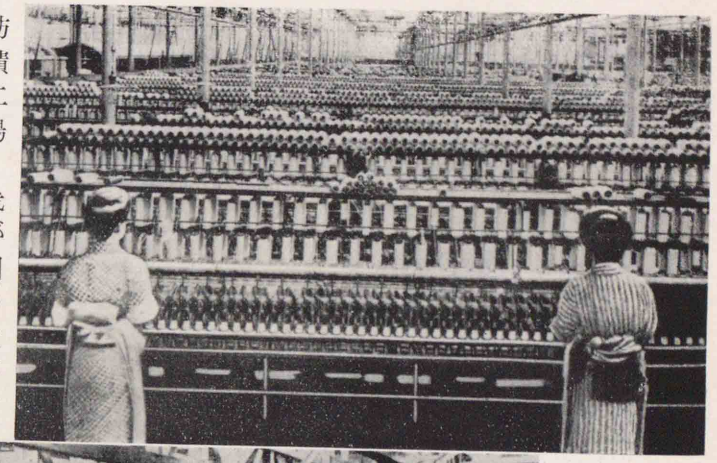
酒樽を商標の附いた菰で包んでる

在來の工産で、今も名聲の高いのは、京都・の西陣織を第一とし、京都・滋賀の縮緬が之に次ぐ。滋賀縣は古來麻織の特産地であるが、今は人絹の大工場が多く出來た。この他、陶器（京都・三重）・漆器（京都・和歌山）等の産も亦名高い。

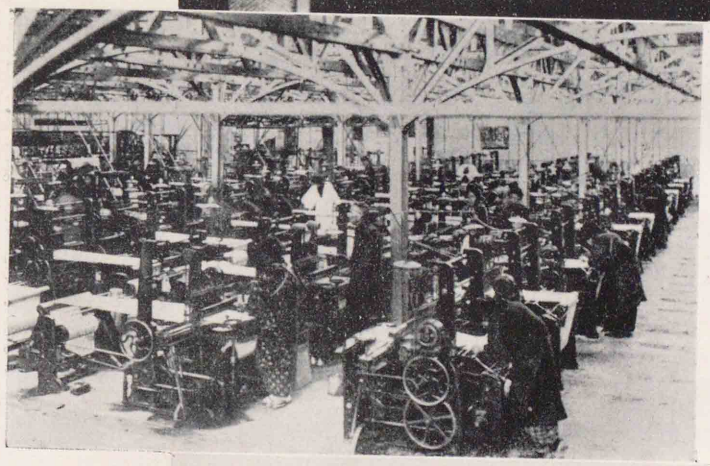
釀造は兵庫縣が最も盛で、灘地方（兵庫）の清酒は、質も量も他の府縣に卓越し、京都・大阪にも酒造地があつて、この地方に於ける



1 内外出入貨物の合計價額が二千万円以上に達する港のみを擧げた　2 貿易は輸出入共に各百万円以上のもののみを表中に區別し以下は移出入に加へて總計を示した

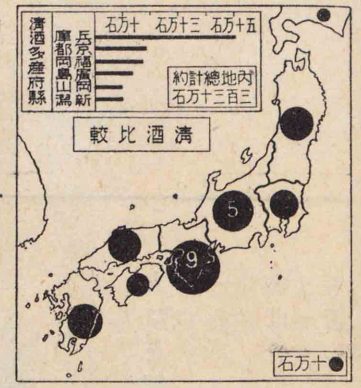


紡績工場　我が國の主要輸出品たる綿製品の第一工程をなす紡績工場内部の盛觀（大阪市）



峰山の縮緬工場　峰山を中心に半工半農の織場も少くないが圖の如く機臺の多い大工場もある

紀ノ川の晒布　綿ネルの原布を河水に晒し之を天日に干す爲に磧は一面に白く被はれてゐる



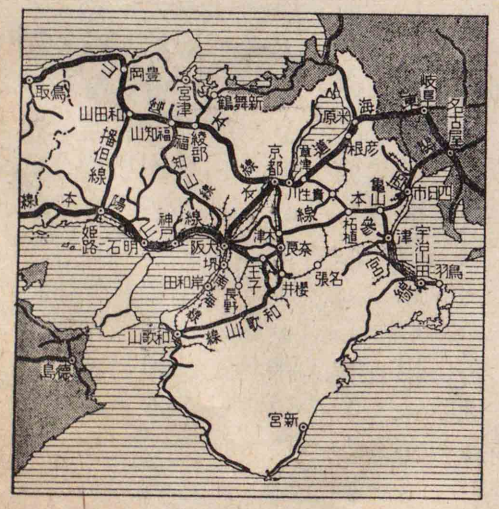
神戸は原料の輸入、大阪は製品の輸出を特色とする

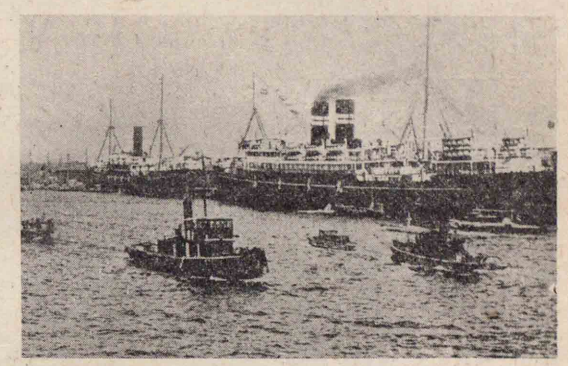
1	2	3	4	5	6
神戸・下關間	京都・幡生間	大阪・名古屋間	綾部・東舞鶴間	尼崎・福知山間	飾磨・和田山間

清酒の産額は、内地の約三分の一を占め、龍野（タツノ）（兵庫）では醬油の釀造が行はれる。

商業　工業の發達は、原料・製品の移動を活潑にし、大阪は國内商業の大中心で、その商圏は東京のそれよりも廣い。神戸は横濱と共に、我が國の二大貿易港で、大阪が之に次ぎ、この三港を合せた貿易額は、内地貿易の約八割を占める。四日市は綿工業地を控へて、輸入が稍多く、宮津（京都）も開港場であるが、商況は振はない。

交通　京都は古來道路網の焦點で、本州の主要の街道は、多く此處に集つてゐる。鐵道は京阪を中心として、本州表裏の幹線をなす東海道・山陽・北陸・山陰

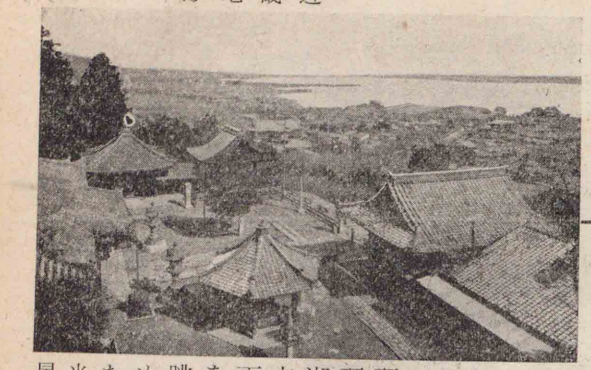




内外の諸線が集り、關西・舞鶴・福知山・播但等の諸線は、此等の幹線を連絡する。長距離電車もよく發達し、大都會と住宅地・遊覽地とを連ねてゐる。

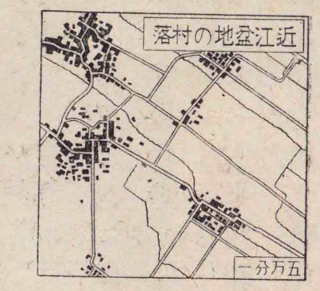
海運は神戸・大阪を中心とする。神戸は海外航路の要地で、商港・旅客港として我が國の西門をなし、大阪は近海通船の出入が多い。近年大阪を中心として、國内の各地及び大陸へも航空路を通じ、又海外通信には無線電信局や無線電話も備つてゐる。

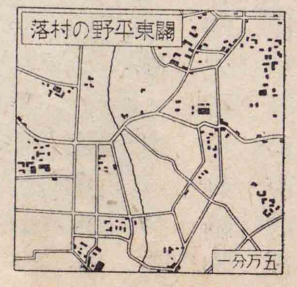
人口と都邑　文化の發達が古いので、盆地・平野に於ける人口は、關東平野よりも稠密である。都會は昔の城下町・港町の外に、古蹟の多い遊覽町や、新しく勃興した工業町が多い。奈良盆地・近江



三井寺から琵琶湖方面を眺めた光景

盆地等には、古代の條里制の聚落が殘り、人家が條里正しく密集して集村をなし、關東平野に見るが如き、不規律に散在する散村とは、著しい相違を示してゐる。



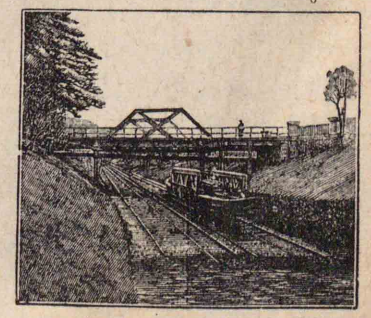


處誌

滋賀縣　琵琶湖を中心とする一大盆地で、湖東の一部は養蠶が盛である。長濱は縮緬の産に名高く、又麻織の工場もある。東方の伊吹山は、冬季スキーの爲に賑ふ。米原は交通の要地に當り、彦根市は湖東の中心町で、湖上汽船が發着し、八幡は蚊帳の産に名高く、日野と共に所謂近江商人の多く出た處である。　湖南の大津市は、湖上航通の中心地で、市の内外に、人絹の大工場が多い。

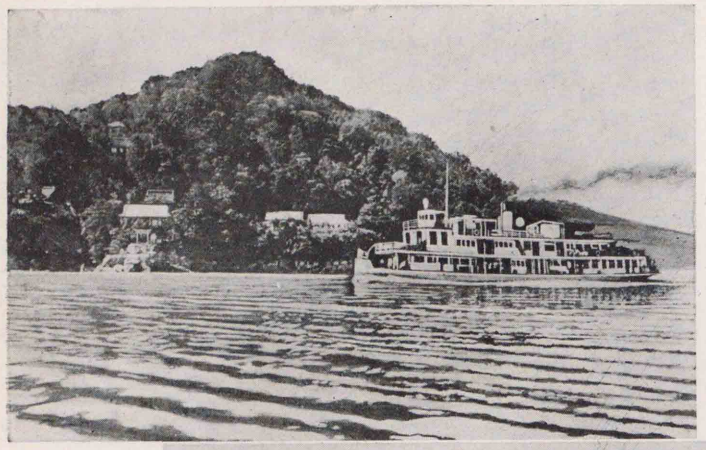
京都に帝國大學・府立醫科大學等がある

琵琶湖は我が國第一の大湖でその水は宇治川となつて淀川と連り、又疏水(ソスイ)によつて京都と通ずる。疏水にはインクラインの裝置があり、小舟の往來が自由である。何れも發電に利用されて、京阪神地方に電力を供給する。湖中には竹生島(チクブ)、湖岸には三井寺・石山寺等の所謂近江八景が散在して、遊覽船が往復し、水産も少くないが、この清冽で豐富な水が、湖南地方に人絹の大工業を發達せしめた。



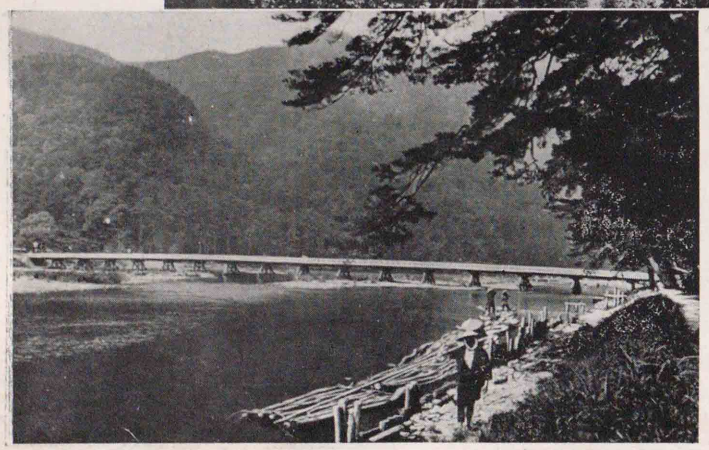
疏水のインクライン

京都府　山城盆地と廣い山地及び北部の沿海地から成る。**京都**市は、永く帝都となつてゐた處で、古都の情趣に富み、今は關西學術の中心である。工業は概ね小規模であるが、美術・工藝を特色とし、古來西陣織・友禪染(イウゼンゾメ)・刺繍(シウ)・陶器・漆器等の逸品を出す。鴨川・桂川等が市内を

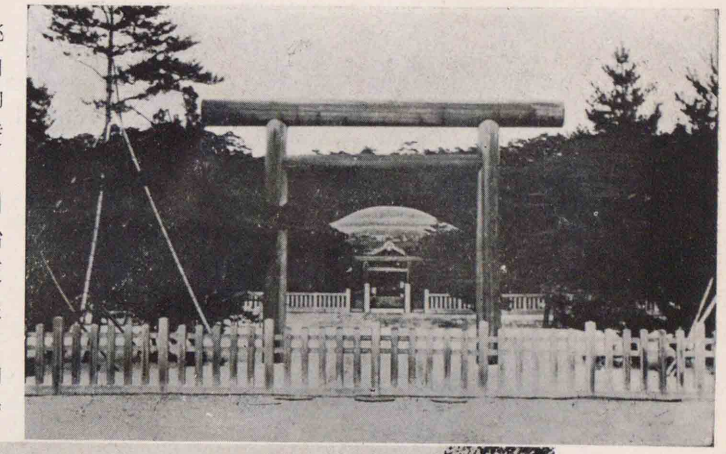


竹生島　全島綠樹に包まれて紺碧の水面に浮び島内に神社や辨天堂・觀音堂等がある

清水寺　堂宇は山崖に建てられ門前に立てば京都市街の大部が雙眸に集る



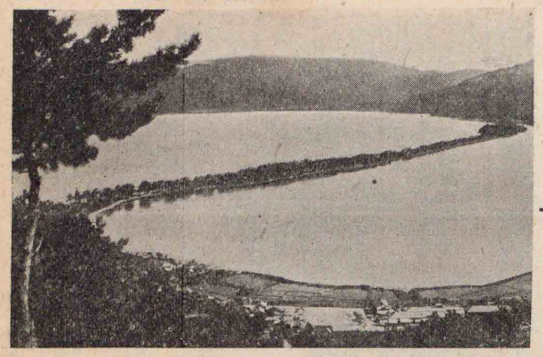
嵐山　春は櫻に秋は紅葉、麗しい山影を保津川の清漣に映してゐる



桃山御陵　明治天皇の御陵で青松繁る丘陵を繞らし森嚴を極める

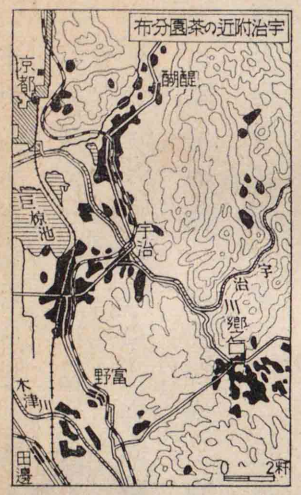
春日神社　綠の森に丹青の社殿、千年前の榮華の夢を現實に示してゐる

橿原神宮　天壤無窮の皇基を開き給ひし宮居の址で畝傍山の南麓にある



昭和十六年三月八日舞鶴要塞司令部許可濟

貫流して、山水の景に富み、且御所・桃山陵・平安神宮・清水寺・金閣寺・嵐山等を始め、著名な社寺・古跡が到る處に散在し、四圍の山地には、比叡山その他にケーブル軌道の施設もあり、閑雅な遊覽都市として、觀光の客が常に多い。宇治は茶の名産地で、平等院の古刹があり、笠置山は著名の史蹟である。丹波高原には小盆地が多く、養蠶が行はれ、福知山市はその一中心で、生絲を出す。舞鶴灣内の舞鶴市は商港で、東舞鶴市は軍港町である。宮津灣内には、宮津の商港と、天ノ橋立の勝地がある。峯山は、縮緬の產地として名高い。



比叡西側の登山軌道

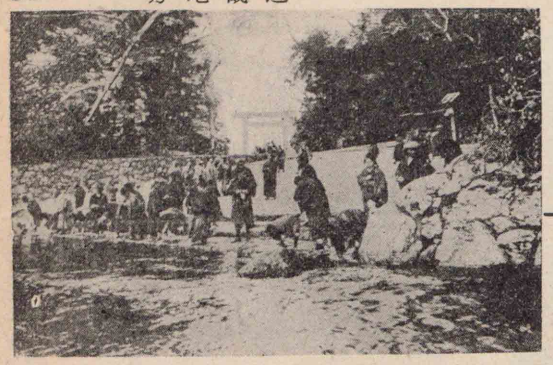
奈良縣

奈良盆地と南部山地から成る。

奈良市は、古の平城京の東部に當り、近く三笠山を負ひ、正倉院・春日神社・東大寺・興福寺等の、歴史上に關係の深い建物が多く、京都と並ぶ靜寂な遊覽都市で、全市が一公園の觀を呈してゐる。郡山の附近では、金魚の養殖が行はれ、法隆寺には、我が國最古の建築といはれる法隆寺がある。丹波市には天理教本部があり、高田は交通の要地である。この盆地内には、畝傍山・橿原神宮・多武峯等を始め、到る處に史蹟・名所があつて、所謂「大和巡り」は、昔から名高い觀光旅行と

法隆寺の全景(塔と並ぶ金堂)

奈良の若草山で鹿が多く遊んでゐる



吉野に有名な如意輪寺がある

なつてゐる。高取・御所の附近一帯は、賣藥の製造が盛である。吉野山は、吉野朝の史蹟と、櫻花とで名高く、熊野地方と共に、國立公園である。

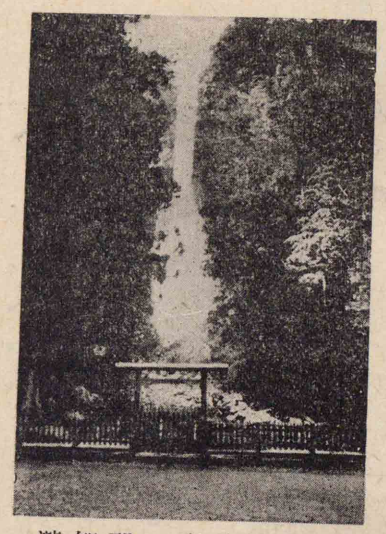
三重縣

伊賀盆地・伊勢平野及び半島地方に分かれる。伊賀盆地は養蠶が行はれ、上野はその中心で、附近から傘・陶器等を出す。伊勢海は往時街道の連絡海路に當り、桑名・四日市・津等の諸市は、古くから港として榮えてゐたが、今は南方の松阪市と共に、綿工業が發達して、近代的の工業地となり、四日市はその門戸で、附近から萬古燒を出す。宇治・山田市は、伊勢神宮鎮座の聖地で、神域は老樹鬱蒼と茂り五十鈴川の流れは千古清く、參拜の人々は、自ら尊崇の念を清めてゐる人々

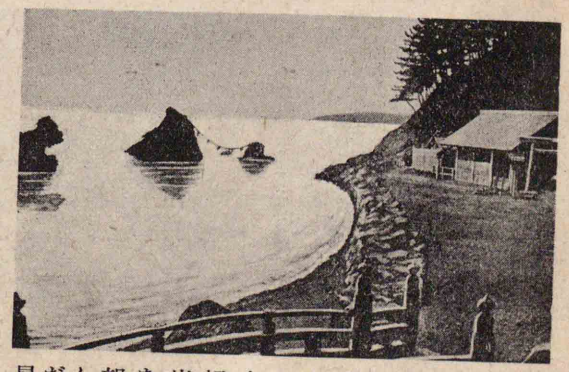
吉野山の一目千本附近に於ける眺望

に打たれる。この附近に二見ヶ浦・朝熊山等の勝地がある。志摩半島の鳥羽は、風景のよい漁港で、附近の灣には、眞珠貝の養殖が行はれ、尾鷲は漁業の一中心である。

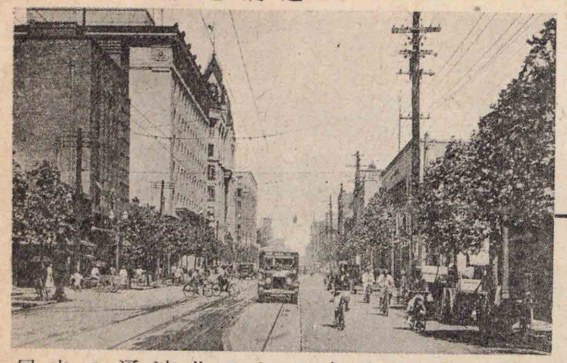
和歌山縣　海岸は平地に乏しいが、漁港を兼ねた小都邑が多い。熊野川に臨む**新宮**市は、木材の大集散地で、上流に瀞八丁、附近に那智瀧があり、勝浦・串本は共に風景のよい漁港である。此等の地方は吉野(奈良)地方と共に、國立公園である。田邊は地方の中心町で、附近に白濱の溫泉場や、梅林に名高い南部がある。有田川の流域は、紀州蜜柑の本場で、



壯觀で名高い那智瀧

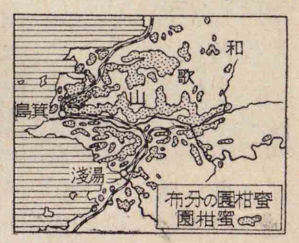


二見ヶ浦の海岸から夫婦岩を望んだ景



高野山は金剛峯寺を中心として發達した山中の聚落である

箕島・湯淺はその集散が多く、**海南**市は漆器(黑江塗)を出す。紀ノ川の口に臨む**和歌山**市は、徳川氏親藩の居城地であつたが、今は繁盛な商工都市で、大阪の經濟的中心たる北濱通の光景



綿ネルの産が多く、又木材を集散し、海岸に和歌ノ浦の勝地がある。内部の山地は木材の産が多く、國名(木ノ國)の起因となつた處で、その中の高野山には金剛峯寺があり、交通不便の靈地であつたが、今は登山電車の開通で、遊覽地化せんとしてゐる。

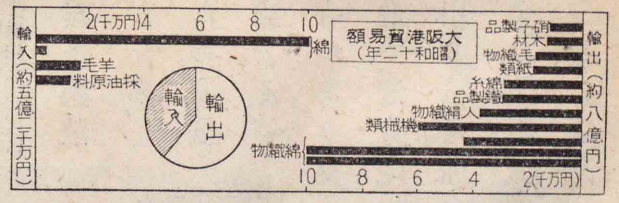
大阪府　**大阪**市は淀川の三角洲に發達し、世界屈指の大都市である。狹い臺地には、大阪城・四天王寺・高津宮等があり、廣い低地は、淀川の分流や運河が四通して、舟運の便

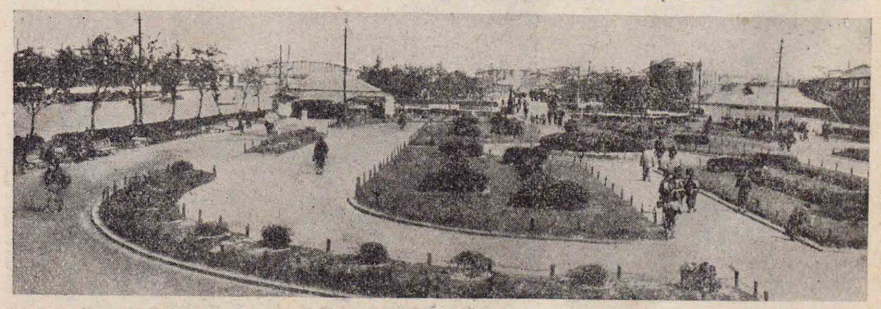
蜜柑園となつてゐる有田川岸の丘陵

大阪は十五區に分れ帝國大學・商科大學等がある

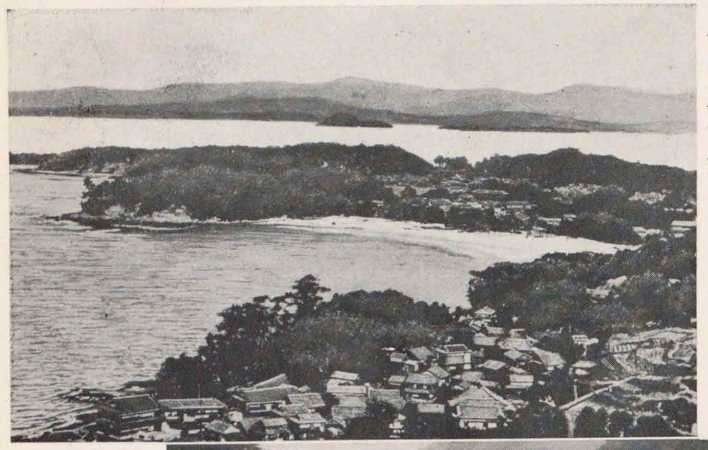
がよく、水の都といはれる。市内には公私の工場が甚だ多く、煙突が林立して、阪神工業地帶の核心をなす。築港の完備と共に、船舶の出入は益〻頻繁となり、航空路も多く此處に集り、西日本に於ける經濟上・交通上の大中心である。

大阪は仁德天皇の奠都以來、史上に知られ、豐臣氏の築城以來、著しく發達し、德川時代にも經濟上の中心であつたが、明治以來、商工業が大いに興り、我が國第一の商業都市となつた。市は住宅地が狹いので、之を郊外に求める傾向が著しく、之が郊外電車を發達せしめる一因となつた。濱寺・箕面等は、市民の遊樂地である。





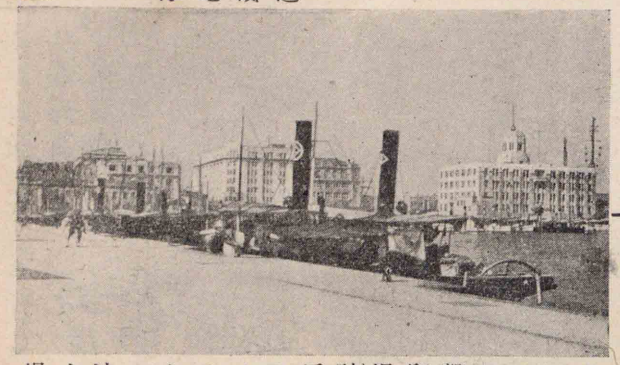
大厦高樓の立並ぶ中心に挾つて別天地の觀を呈する中之島公園



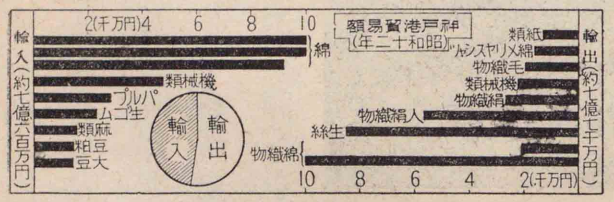
白濱溫泉　鉛山灣の東岸に位してこの邊一帶は雪の如き白砂の濱で白濱の名を呼ぶに至つた

瀞八丁　屏風のやうな絶壁と生茂る老樹の綠紺碧の深淵とがよく調和した溪谷美である

安治川口の光景　築港前までは水運の門戸として船舶の碇泊地であつたが今も舟船の來往が頻繁を極む

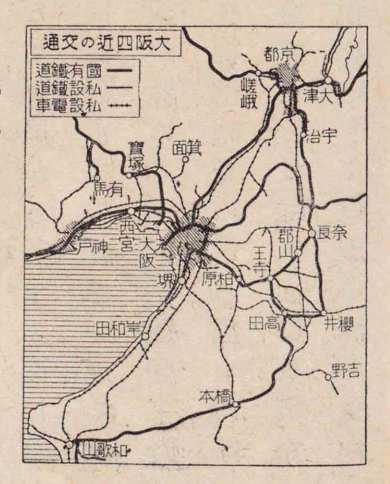


ランチの繋留場(神戸の メリケン波止場)

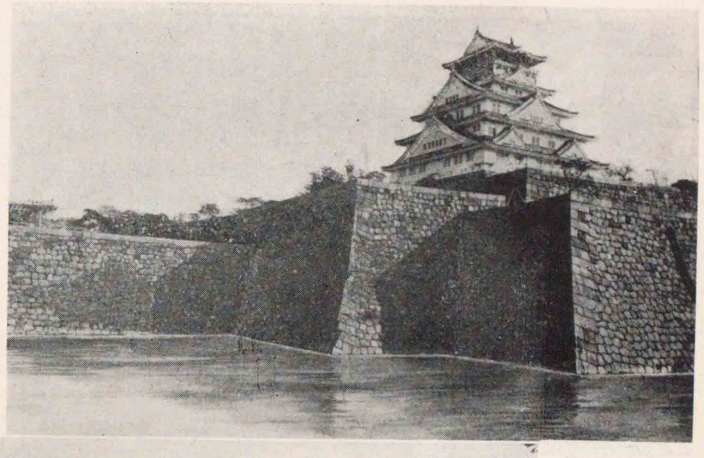


堺の東部に大仙陵(仁德御陵)がある

豐中(17.7)市・**布施**(8.5)市は、共に市の郊外都市として發達し、**吹田**(3.3)市はビール、**池田**(3.1)市は清酒を出す。**堺**(16.0)市は古い港であるが、今は**岸和田**(4.6)市と共に、綿工業が發達し、又セルロイド製品・刃物(ハモノ)・足袋等の特産がある。東部の四條畷(シデウナハテ)・金剛山・櫻井等は楠氏の事蹟に名高く、生駒(イコマ)山・信貴(シギ)山には名刹があつて、登山者が頗る多い。



兵庫縣 東部は地理上大阪平野に屬して、阪神工業地帶の一部をなし、沿岸には繁盛な工業市が多い。**尼崎**(12.6)市は綿絲・硝子等の工業が行はれ、**西宮**(9.0)市・御影(ミカゲ)(2.0)は、灘地方の中心町で、**伊丹**(イタミ)市と共に清酒の産が多い。六甲山麓の一帶は、



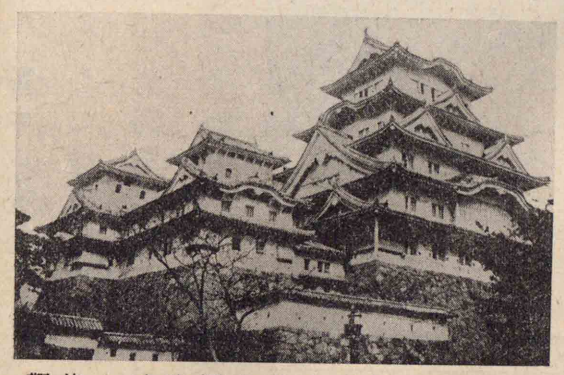
大阪城 豐太閤遺業の俤を石垣や外濠に殘してゐたが最近舊形を模して天守閣を造つた

天王寺公園 大阪隨一の公園で洋式の花壇・日本式の庭園・運動場等に分れてゐる

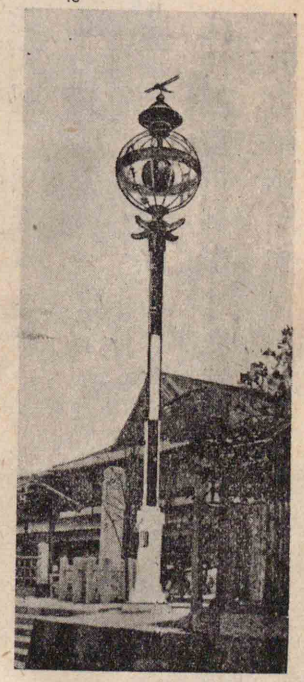
湊川神社 楠木正成を主神とし正行・正季等十八人を配神した別格官幣社である

神戸に商業大學がある

良好な住宅區域で、此處に芦屋市が發達し、山地の有馬・寶塚等は、溫泉・遊樂の地として名高い。神戸市は港灣の施設が完備し、大工業地の門戸として、原料の輸入が多く、又紡績・造船・マッチ・精糖等の工業も行はれる。市内に湊川神社や一ノ谷の古戰場がある。市の一部をなす須磨から、舞子方面に亙る一帶の海岸は、白砂青松の勝地で、近く淡路島と對し、眺望が極めてよい。播磨平野の明石市は、中央標準時標のある處で、綿織物を產し、三木は金物、西脇は輸出向の綿織物加古川は毛織物を出す。この邊の海岸には、



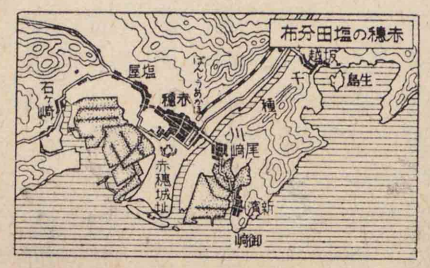
大小の城櫓が立並ぶ姫路城の偉觀



中央標準時標

廣畑には壯大な製鐵所がある

岡山縣	(岡山市)
廣島縣	(廣島市)
山口縣	(山口市)
島根縣	(松江市)
鳥取縣	(鳥取市)

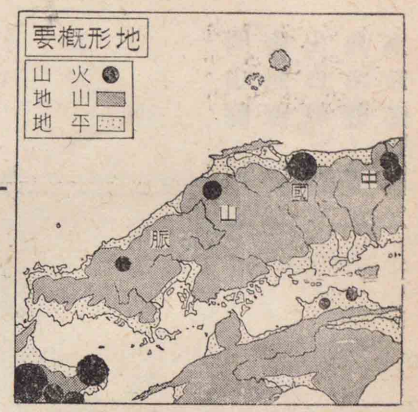


第五章　中國地方

通說

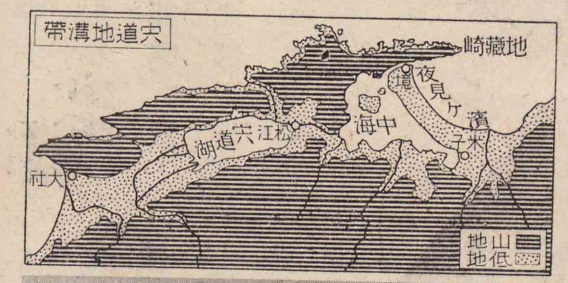
古の山陽・山陰兩道の大部を占める半島狀の地域で、山陰の一部は、我が古代文化の起つた處であるが、自然的條件の關係上、今では山陽方面に文化が進み、產業も發達してゐる。行

松の名所が多い。姫路市は米の集散地で、又革細工の特產がある。飾磨市には綿絲その他の工場があり、赤穂は製鹽と義士の名とで知られ、龍野は醬油を出す。北部山地には小盆地が多く、生野には著名な鑛山があり、豐岡は柳行李を出す。城崎は名高い溫泉町で、附近に玄武洞の奇勝がある。淡路島は丘陵性であるが、耕地がよく開けて果實を出し、又淡路燒の名產がある。洲本市は島の首邑である。



政上、五縣に分ける。

地勢　中國山脈により、地形を山陰・山陽の兩斜面に分ける。中國山脈は、侵蝕された古い土地が、隆起して出來た高原性の山地で、多くの小盆地を抱き、白山火山帶に屬する大山・三瓶山等が、北邊に聳えてゐる。山陰の中國第一の大河であるが、江ノ川は、山地を横ぎつて流れ、沿岸平野は殆どない。　斐伊川・日野川等の下流は、宍道湖・中海の沿岸と共に、一帶の平野（宍道地溝帶）をなし、主要な生産地である。海岸は陸繫島の島根半島と



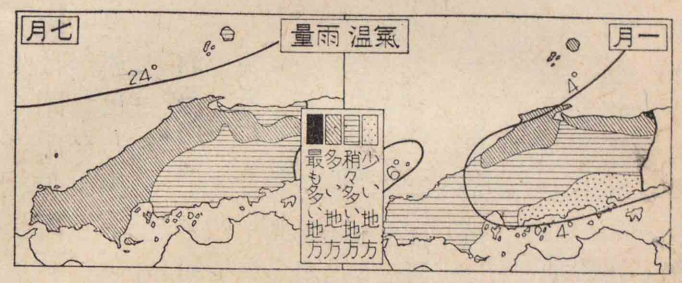
大山の遠望（この山腹に大山寺があるる）

下關海峽・廣島灣等は要塞地である

隱岐島との外には、著しい肢節がなく、砂丘と斷崖とが交互に續き日本海岸式地形をなしてゐる。　山陽斜面は、山陰に比べると幅が稍〻廣く、吉井川・旭川・高梁川・大田川等が南流して、瀨戸内海に入り、下流に岡山平野・廣島平野等を開いてゐる。海岸は日本海岸と全く趣を異にし、出入が錯雜し、島嶼も極めて多い。

瀨戸内海　本州・四國・九州の間にある一大内海で、紀淡・鳴門・下關・豐豫の四海峽によつて外海と通ずる。沿岸には大小の半島が錯雜し、波靜かなる海上には、無數の島が浮んで、その間に多くの瀨戸（海峽）を造り、花崗岩の分解した白砂は、松の綠と映じて、風景が繪の如く、海上の公園と謳はれてゐたが、その一部は國立公園となつた。海面は、船舶の往來が繁く、又鯛・鰆等の漁利に富み、沿岸は食鹽の大産地で、所謂十州鹽田は、この周圍にある。

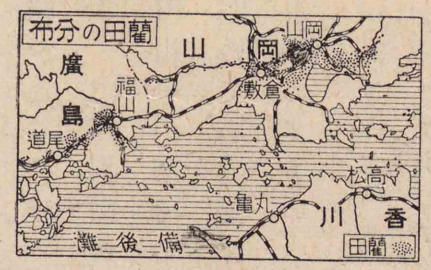
氣候　山陰地方は、山陽よりも氣溫が低く、且冬は北西季節風の影響を受け、天氣が陰鬱で雨雪が多く、所謂日本海式氣候であるが、西部は雨雪も割合に少い。山陽地方は、南と北とに山脈が連つて、濕

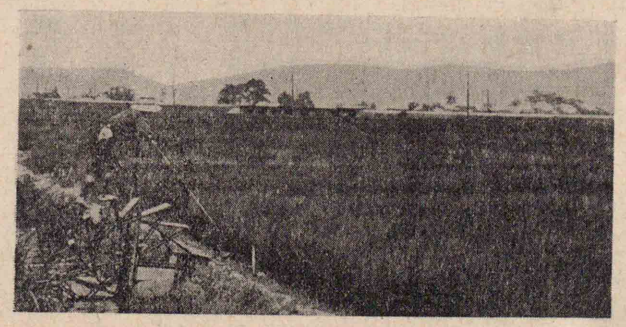


風を遮るから割合に晴天が多く、所謂瀬戸内式氣候で空氣が乾燥し、灌漑に不便な處もあるが、海岸地方は製鹽に適する。

産業　農を主業とするが、重要な牧牛地であり、又鹽田の多いことも特色である。

農業　山陽方面は、開墾が進んで、丘陵・山谷までも耕作に利用せられ、水不足の處には溜池を設け、海岸には干拓も行はれて、米・麥等の産が多く、果樹の栽培も頗





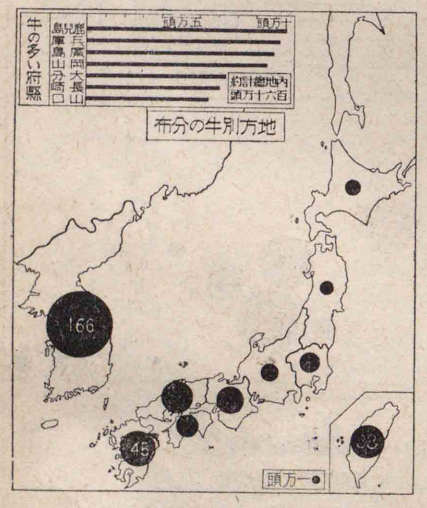
足踏みの水車で水を蘭田へ灌いでゐる

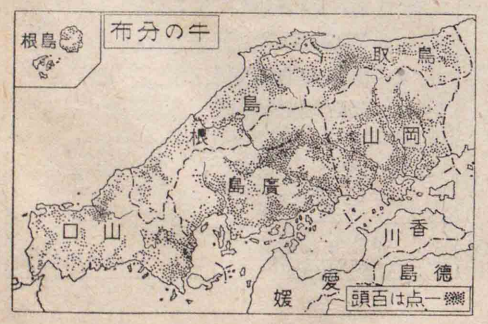
廣島では原料を移入して野菜類の罐詰も作る

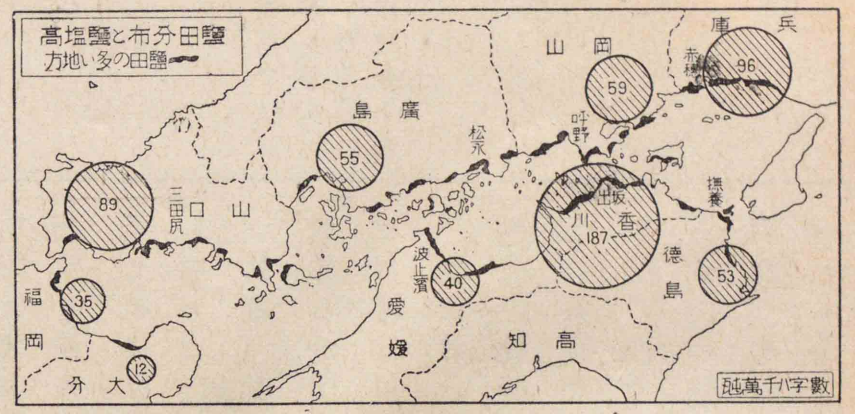
る盛で、梨・桃・蜜柑等は、他の府縣へも移出する。岡山・廣島の兩縣では、蘭草を植ゑて疊表・花筵の原料とし、除蟲菊・薄荷等の副業的農作も行はれる。山陰の平野は米を主産物とし、縣外移出も少くない。養蠶も處々に行はれ、山陰地方が殊に盛である。

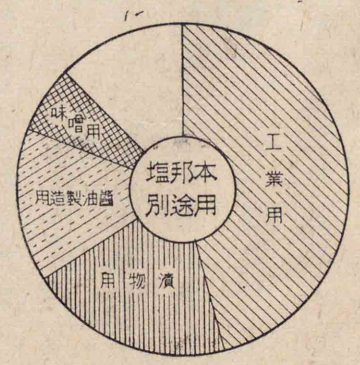
牧畜　中國山地は、主要の牧牛地帶で、廣く農家の副業として舍育するが、山麓・盆地では放牧も行はれ、肉用として各地に送り、廣島では、罐詰に製して、海外へも輸出する。

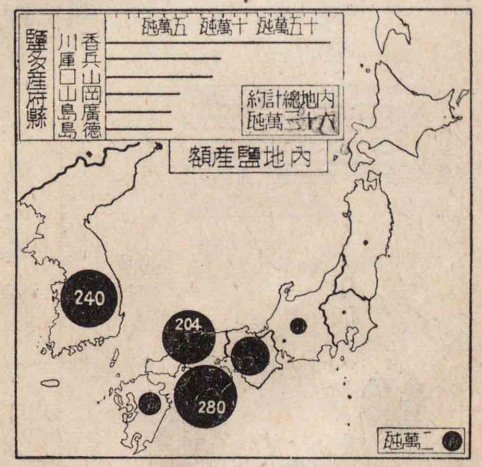
水産業　瀬戸内海の鯛・鰆、日本海の柔魚等は、代表的の漁獲物である。山口縣民は朝鮮・支那の近海へも出漁して、水

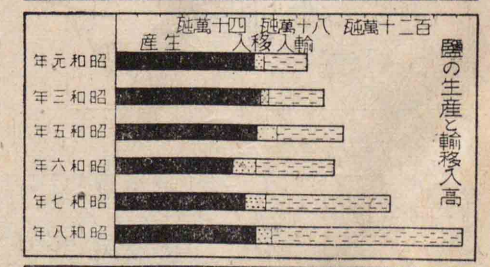


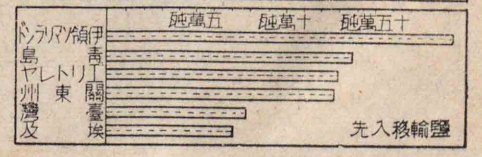




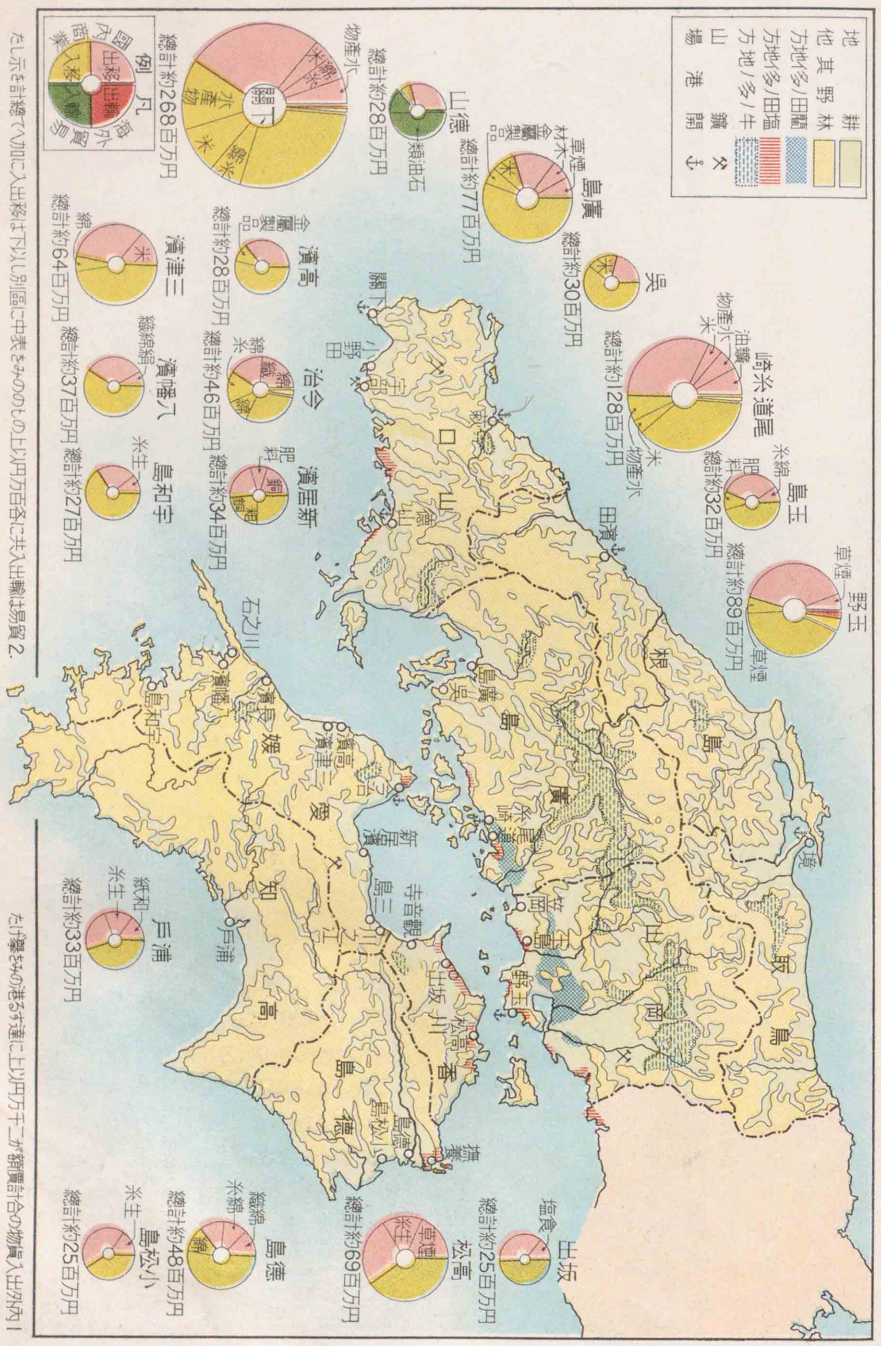


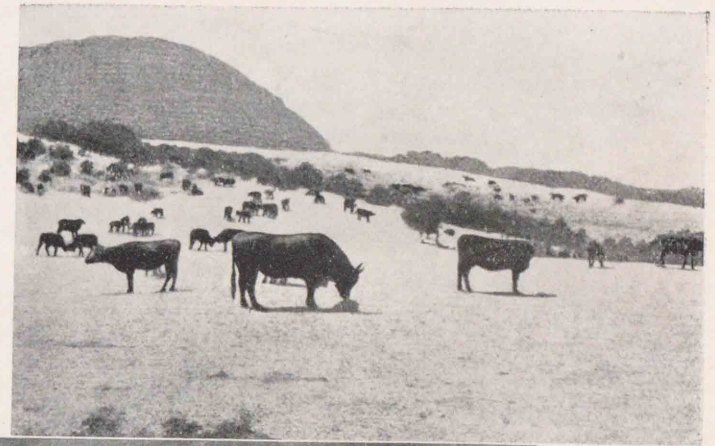




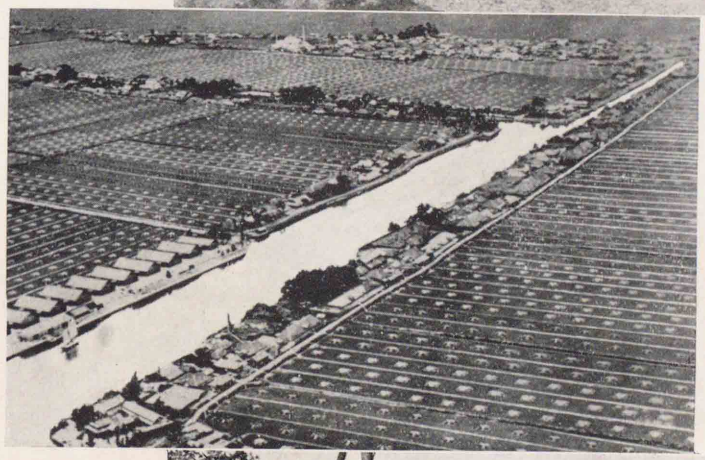


日本の鹽　鹽は食用・鹽藏用の外曹達・石鹸等のアルカリ工業に重要なものとなつたが、日本は元來鹽に乏しく、古來繁雜な手數を加へて製鹽してゐる。朝鮮・臺灣の天日製鹽は、生産費の省ける利はあるが、其等の移入額は需要の二十分の一に過ぎないから、北支那・東アフリカ等からの輸入が多い


耕地
野林
他方地ノ多ノ田鹽
其方地ノ多ノ田鹽
野方地ノ多ノ田鹽
山場港開鑛ヘ
例凡
圧移出輸
圧移入輸
圧移出輸
圧移入輸
圧移出輸
圧移入輸

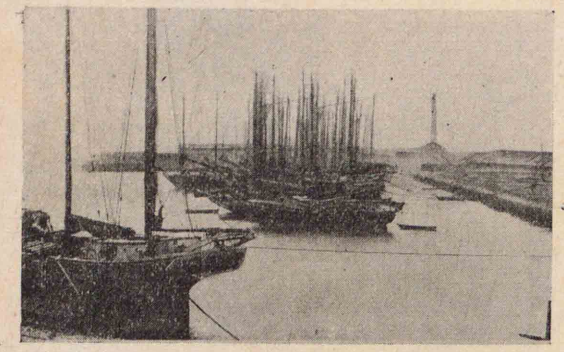


中國の牧場　牧場は概ね團體又は個人の所有で小規模ではあるが重要な牛の生産地である



防府附近の鹽田　防府附近は所謂三田尻鹽の産地で海岸の一帯は見渡す限り鹽田が連つてゐる

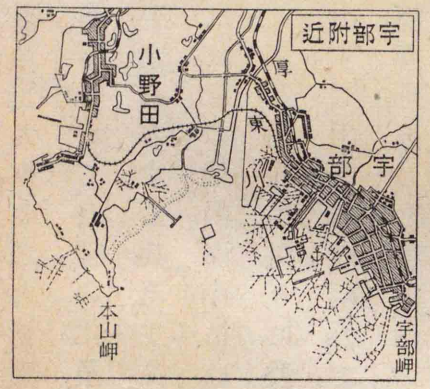
萩の夏蜜柑　萩では町の内外到る處に夏蜜柑を栽培しその果實は竹籠に詰めて他地方に送る

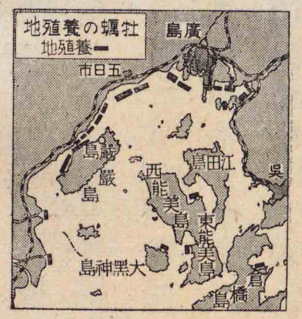


宇部の港に集つてゐる石炭の運送船

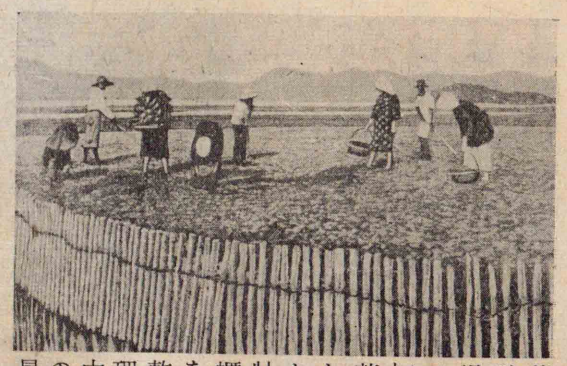
防府(山口)・松永(廣島)・味野(岡山)等は製鹽の中心地である

産額が殊に多く、廣島灣には牡蠣(カキ)の養殖が行はれる。製鹽は古くから重要な産業で、内地鹽の約九割(四國を含む)は、この地方から産する。





鑛業　鑛産の最も重要なのは、大嶺(オホミネウベ)・宇部(以上山口)の石炭で、殊に大嶺炭は、炭質が良いので知られる。その他、岡山縣には棚原(ヤナハラ)(硫化鐵鑛)の鑛山があり、山口縣の石灰岩、瀬戸内海諸島の花崗岩も亦名高い。



養殖場で打落した牡蠣を整理中の景

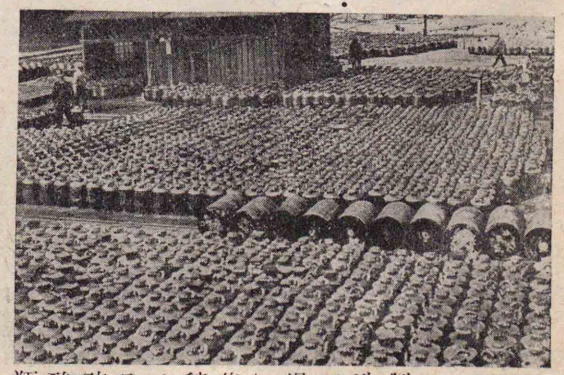
工業　阪神・北九州の二大工業地に挾まれ、その影響を受けて、各種の工業が勃興した。殊に吳を中心とする兵器工業は、最も大規模に行はれ、その他、內海岸には纖維工業[1]・化學工業[2]及び造船等が處々に發達し、又廣く綿織を出す。岡山・廣島の兩縣では、副業的に、疊表・花筵等を產し、その他、陶器（島根・岡山）・清酒（廣島）等の產がある。

紡績・人絹等
セメント・硫酸・燃料等

商業　商業も山陽方面に盛で、廣島・岡山等はその中心であるが、大體は大阪の商圈に屬する。下關は形勝の地點を占め、米・水產物の集散が多く、玉野（岡山）・尾道・絲崎（廣島）・萩・宇部（以上山口）・濱田（島根）・境（鳥取）等と共に開港場である。

下關から九州に通ずる鐵道及び國道の試掘隧道が開通した

交通　主要の道路は、南北の海岸を通じ、又處々に河谷を利用した橫斷路がある。鐵道は山陽・山陰の二線を幹線とし、山口[1]・伯備[2]・因美[3]（インビ）

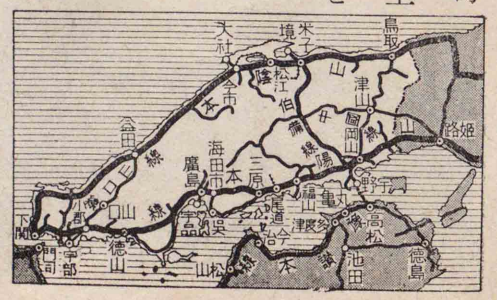


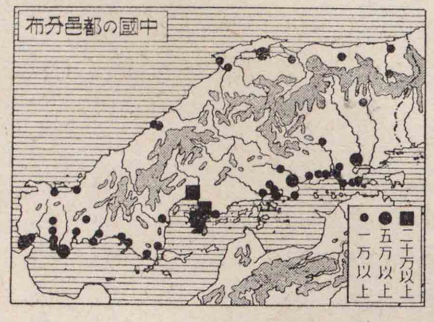
小野田の製造工場に集積せる硫酸瓶

1 小郡・益田間
2 倉敷・大山間
3 鳥取・津山間

等の諸線が、之を連ねてゐる。西端の下關は、門司及び釜山へ鐵道連絡船を通じて、世界の交通上主要の位置を占め、玉野は四國と鐵道連絡船を通ずる。

瀨戶內海には、重要な港も多く、船舶の來往が極めて頻繁であるが、日本海は冬季に風浪が荒く、航海を妨げることが少くない。



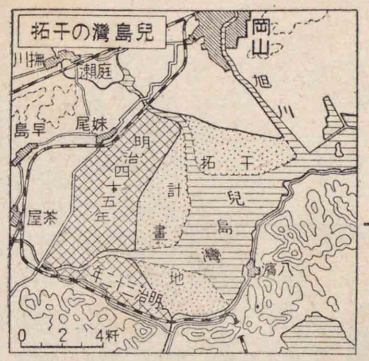


處誌

人口と都邑　中國山地にも聚落は少くないが、人口は內海方面に最も密で、山口・廣島・岡山の三縣は、有數の出移民地である。大都市は概ね舊時の城下町で、內海の沿岸には、港町の多いことが一特色で、新興の都市は割合に少い。

岡山に醫科大學がある

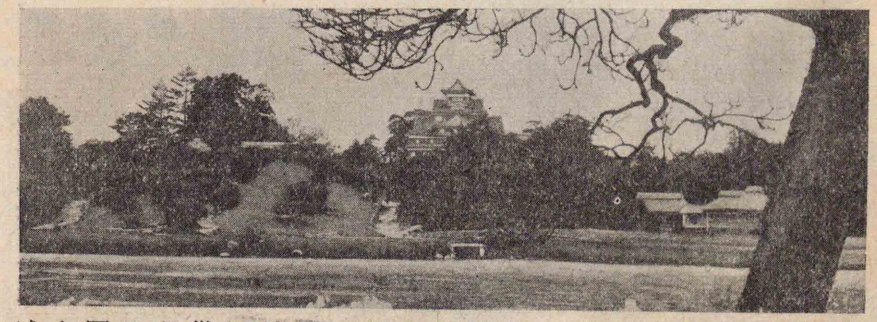
廣島に文理科大學がある



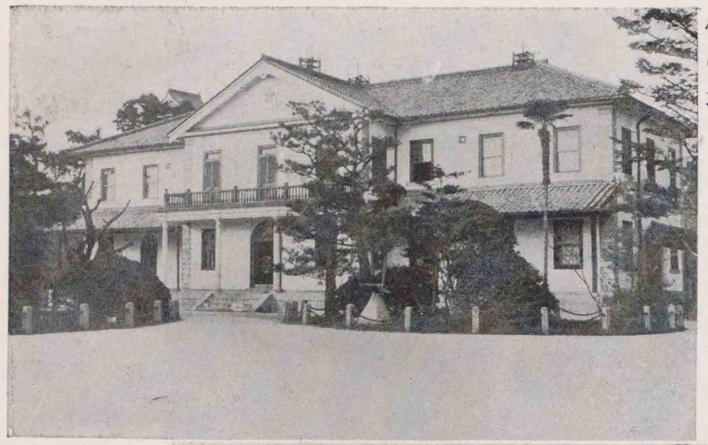
岡山縣　岡山平野と、山地とに分れる。

岡山市は中國屈指の商工都市で、紡績・製粉等の工場があり、又疊表・花筵等を集散する。市内に名高い後樂園がある。東方の伊部は備前燒、三石は耐火煉瓦を出す。**倉敷**市・**玉島**・**笠岡**等は、綿紡績・人絹等の工業が發達し、笠岡は又高粱と共に、製帽眞田の集散も行はれる。兒島灣の干拓地には米産が多く、**玉野**市は四國へ渡る要津である。津山盆地の**津山**市は、生絲を産し、院ノ庄の舊蹟がある。

廣島縣　地形は岡山縣と似て、大體三區に分れる。東部の**福山**市は、**尾道**市と共に疊表の集散が行はれ、又紡績等の工場がある。鞆は近く仙醉島を控

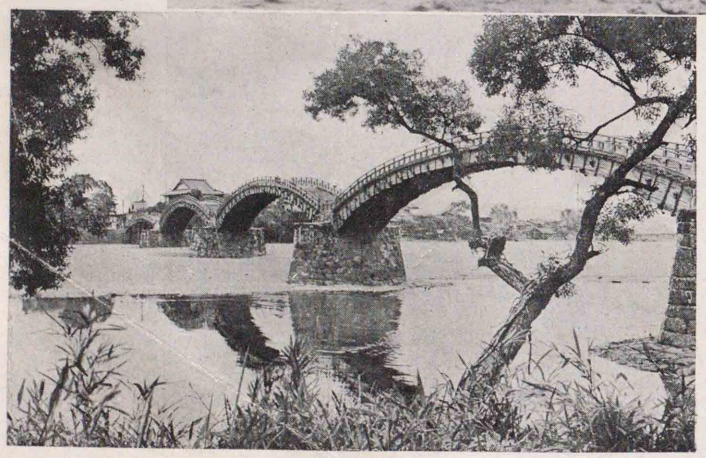


岡山城の外園樂後の高名を以て美しい泉林



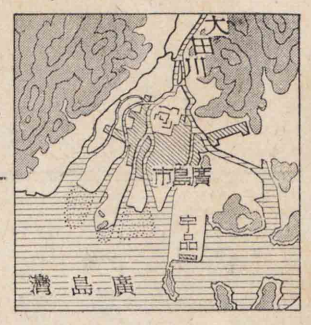
大本營址　日清の役に明治大帝が親しく征駕を廣島に進めさせ給ひし當時の大本營の址

阿武兎岬の觀音堂　屹然とした岩頭に浮ぶが如きこの堂は内外航路の一勝地である



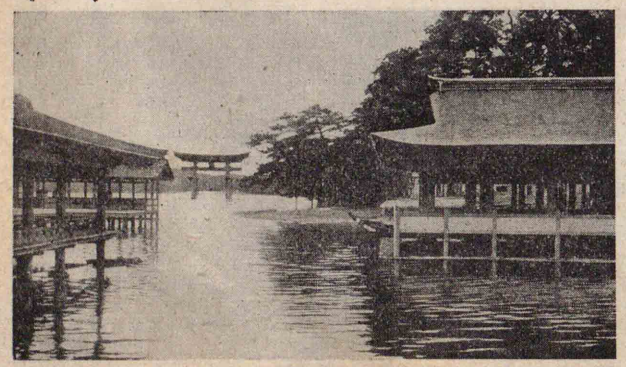
錦帶橋　五箇の反橋から成り古來奇橋の一として名高く橋の長さ二二七米

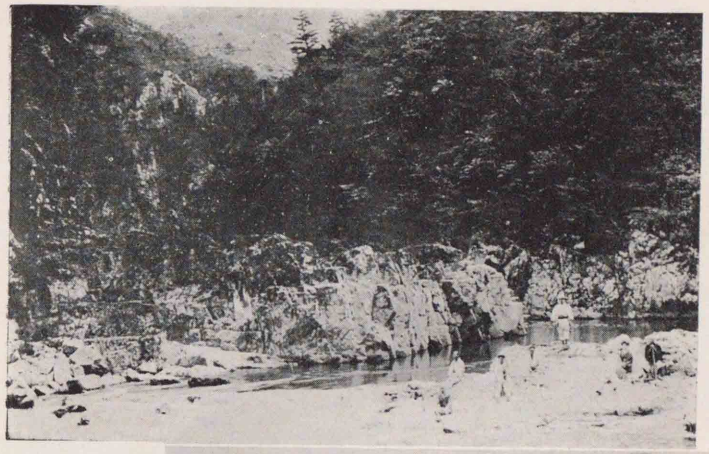
昭和十四年八月十二日
吳鎮守府許可濟



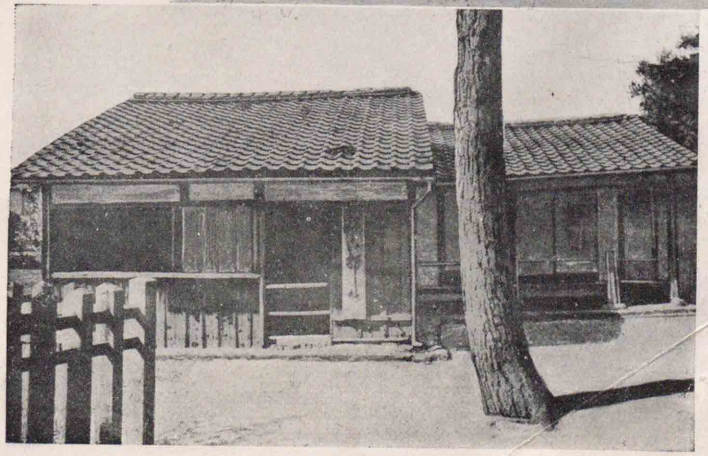
へて風景がよく、新市は綿織の一中心で、三原市には人絹の工場がある。廣島市は大田川の三角洲に跨り、中國第一の大都會で、軍事・學術の中心をなし、人絹・罐詰等を產する。吳市は軍港町で、東方の廣と共に、兵器工業が行はれ、又萬年筆の特產がある。海上の嚴島は、天然の風致がよい上に、華麗な嚴島神社があるので名高い。北部山地の三次は、牧牛地帶の中心地で、又大麻の集散が行はれる。

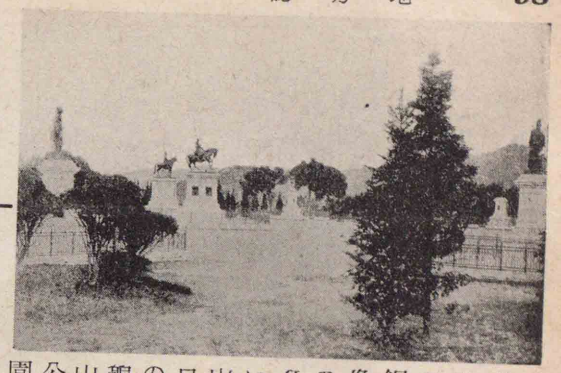
山口縣 東部の岩國市は、錦帶橋で名高く、附近に人絹の工場があり、柳井は醬油・綿織等を出す。中部の海岸には下松市(造船)・德山市(燃料)・防府市(人絹・製鹽)・宇部市(紡績・セメント)・小野田市(セメント・硫酸)等の都邑があり、新式工業が盛に行はれ、德山は海軍要港で、


嚴島神社の社殿から海上の大鳥居を望む


長門峽　阿武川上流の峽谷で水中に巨岩の多いことは本邦隨一といはれる

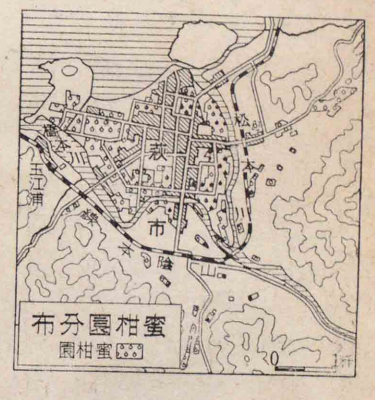
出雲大社　大國主命を祀る古社でその構造は大社造と呼ばれる特色を具へてゐる


松下村塾　僅に二室の小さい屋であるが明治維新の人傑には此處で教養を受けた人が多い

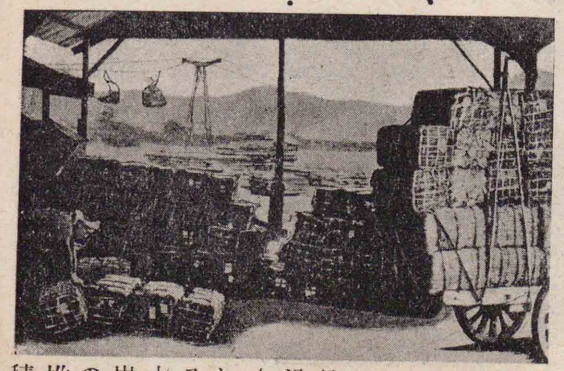


毛利家の銅像の多い山口の龜山公園

島根縣 西部の海岸平野では、和紙・赤瓦・木炭等を出し、**濱田**市はその集散の中心地で、又重要な漁港である。出雲平野は、遠く古代に文化の開けた處で、名高い出雲大社があり、**大社**はその門前町である。**松江**市は

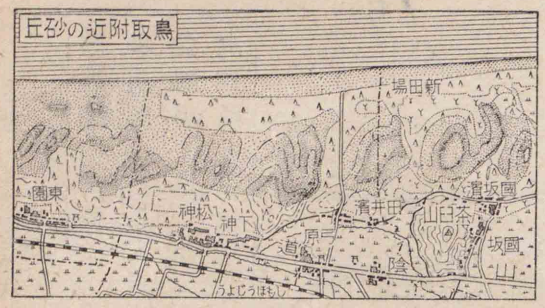


園が多い。**下關**市は、交通・商業の要地で、附近に壇浦の史蹟があり、彦島は市の工業地である。



山陰地方から輸送される木炭の堆積

海軍燃料廠がある。**山口**市は、清楚な教育都市で、西方の秋吉臺は、カルストの地形をなし、長門峽は風景のよいので名高い。**萩**市は松下村塾その他の史蹟がある。市内に夏蜜柑

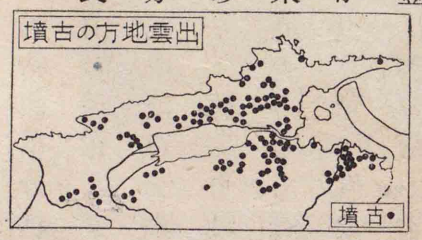


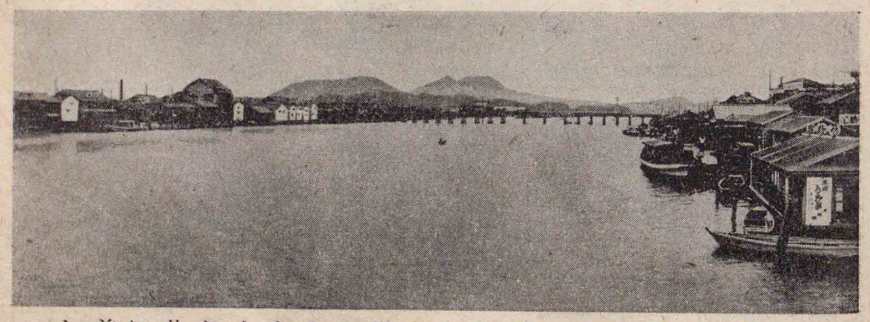
夜見ケ濱には灌漑用水を通じて桑畑が多い

宍道湖に臨み、水郷の情趣が豊で、風色の明媚に名高く、附近から出雲燒・瑪瑙細工等を出し、東方の**安來**は、新興の工業町である。

隱岐は島前と島後とに分れ、鰯の產が多く、西郷の良錨地がある。

鳥取縣 西部の**米子**市は、中海に臨む湖港で、夜見濱の大砂嘴が此處から突出し、その北端の境は、山陰の良港である。大山は山容が美しく、史上に名高い船上山と共に、國立公園である。中部の**倉吉**は、附近から生絲を產し、東南に**三朝**溫泉がある。**鳥取**市は東部の中心都市で、この





松江市を大橋川から眺めた光景で山光水色共に美しい

徳島縣	（徳島市）
香川縣	（高松市）
愛媛縣	（松山市）
高知縣	（高知市）

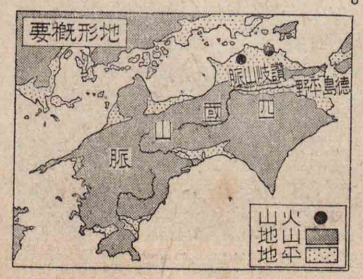
邊の海岸には、砂丘が著しく發達し、東境に浦・富の勝地がある。

第六章　四國地方

通說

四國島と、その附近の島嶼を含む地域で、北四國は自然・人文等の狀態が總て山陽地方と類し、南四國は、紀伊半島と似てゐる點が多い。行政上、四縣に分ける。

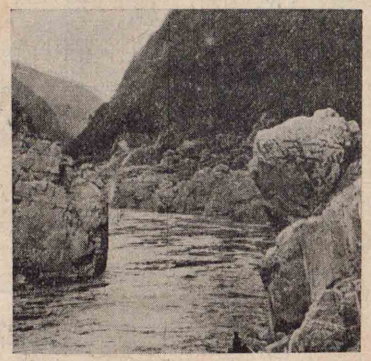
地勢　中部の山地と、南北の兩斜面に分れる。四國山脈は、紀伊山脈の續きで、高峻な劍山・石鎚山等が聳えてゐる。四國第一の長流吉野川が、大歩危の横谷をなして山地を過ぎり、下流は縱谷をなして徳島平野を流れる。この平野は、四國最大の低地であるが、礫層が多く、水田は割合に少い。北部には低山性の讃岐山脈や、高縄半島があり、又處々に古い火山岩の丘



陵がある。讃岐富士と呼ばれる飯野山、熔岩臺地の屋島、奇景に名高い五劍山等はそれである。

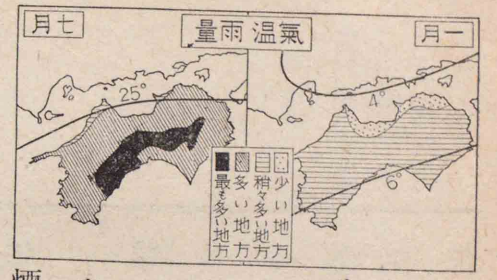
南四國は山勝ちで仁淀川・四萬十川が流れてゐる。

瀬戸内海には、讃岐・高縄の兩半島が出て、燧灘を抱く外、大小の島が多い。太平洋岸には、陷沒によつて出來た土佐灣があり、室戸崎と足摺（蹉跎）岬とが之を抱へてゐる。東西の兩岸は、沈水してリヤス式の紀伊水道及び豐後水道となり、佐田岬が特に突出して、豐豫海峽を扼してゐる。周圍の海峽中には、潮汐の干滿に當り、激しい潮流を起す處が多く、鳴門海峽・來島海峽はその著しい處である。


吉野川上流の大歩危

平野に峙つて人目をひく飯野山

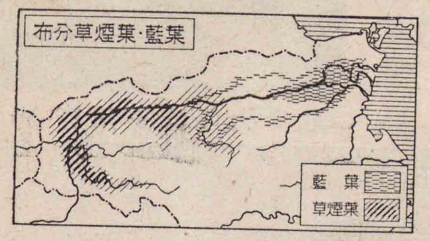
鳴門海峽・豐豫海峽の附近は要塞地帶である

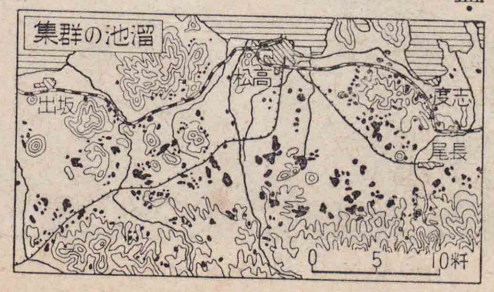


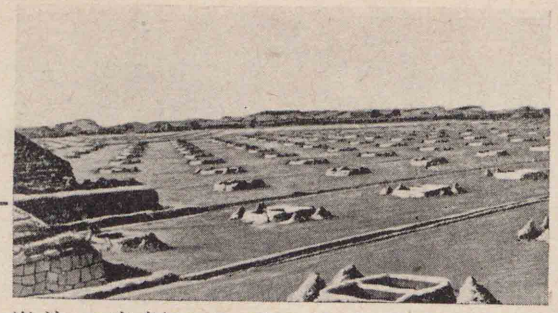
氣候　北四國は、山陽地方と同じく、瀬戸内式氣候で更に暖く、海岸は製鹽に適し、耕地には灌漑用の溜池が多い。南四國は紀伊半島の南部に似て、高溫多雨である。

産業　山地が多く、耕地は廣くないが、收穫率は割合に高く、沿海地方には魚鹽の利が多い。

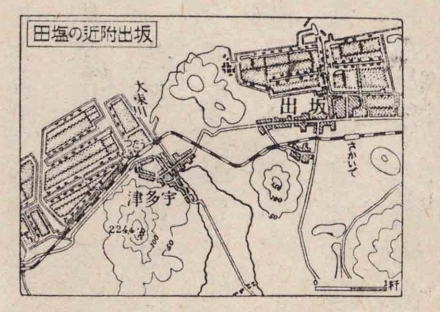
農業・牧畜　北四國の平野は、米・麥等の農産が多く、高知縣では米の二期作を行ふ處もある。吉野川の流域は、藍・煙草の特産を出したが、藍畑は多く桑園と變つた。愛媛縣では、櫨(ハゼ)を植ゑて木蠟を採り、又蜜柑の産が多く、高知・愛媛の兩縣にかけては、三椏(ミツマタ)・楮(カウゾ)を栽培して、和紙の原料







一面に鹽田となつてゐる坂出の海岸

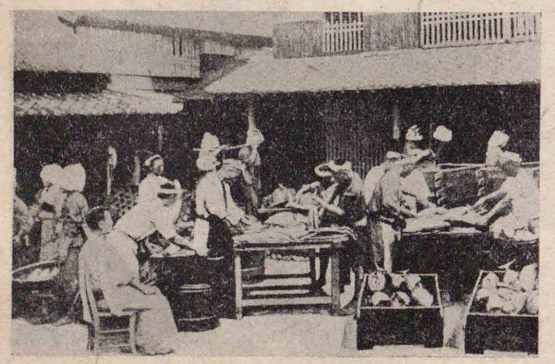


とする。養蠶も各地に盛となり、牧畜は牛を主とし、北四國は豚の頭數が稍〻多い。

林業　南四國は高溫多濕の爲に林地が廣く、木材・薪炭等の産出が少くない。

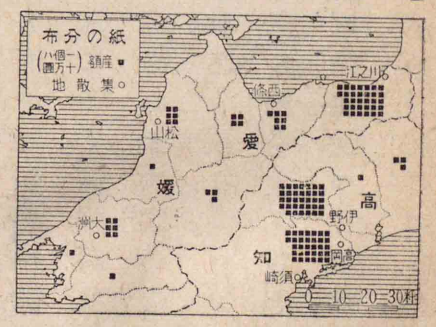
水産業　近海は水産に惠まれ、且阪神の消費地も近いので、漁業が甚だ盛である。太平洋方面の鰤・鮪・鰹、内海の鯛・鰆は漁獲が殊に多く、高知縣は古來鰹節の産地として名高い。北四國の海岸では、製鹽が廣く行はれる。

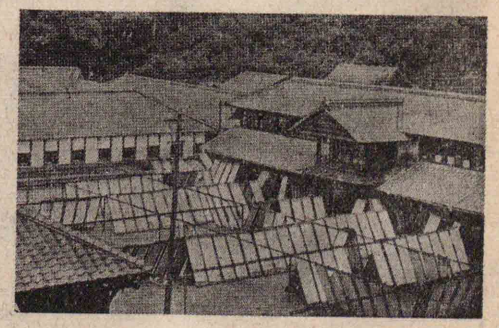
鑛業　鑛産は別子(ベッシ)(愛媛)の銅を主とし、その鑛石は、新居濱(ニハマ)から四坂島(シサカ)に送つて精錬され、直島(香川)にも製錬所がある。



鰹節製造の第一工程をなす鰹の料理

工業　未だ大工業地帶はないが、古來の綿織の外、近年紡績・人絹等の新式工業が處々に發達し、殊に今治(イマバリ)(愛媛)を中心とする綿工業は、甚だ盛である。高知・愛媛の和紙も昔から名高く、香川縣では、農家の副業として製帽眞田を產する。




瀧上げたる紙を板に張つて乾す(伊野)

商業　商業は阪神地方との取引を主とするが、高松・德島等は、水運の便を利用して他との直接商業も相當に多く、今治・高知は開港場である。

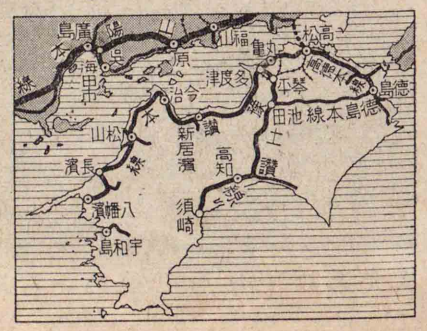
交通　鐵道は豫讚線[1]・高德線[2]が北海岸を走つて、德島線[3]と續き、南部へは土讚線[4]を通じてゐるが、陸上の交通は尙不便なので、乘合自動車や沿岸航路が發達して、その缺點を補つてゐる。高松は交通の大關門で、中國と鐵道連絡船の便がある。

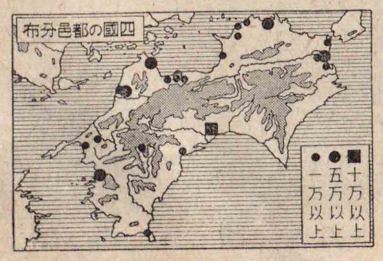
1 高松・八幡濱間
2 高松・佐古間
3 德島・池田間
4 久禮・多度津間

四國遍路として空海の遺跡八十八箇所を順拜する信仰的の旅があり春暖の頃その旅人で賑ふ

德島市を流れる新町川岸に並ぶ藍庫

人口と都邑　北四國は一般に人口が稠密で、香川縣の如きは、府縣中有數の密度を持つてゐる。南四國の人口は、著しく疎であるが、山地が多いので、縣外移住や外國移民が少くない。都會は舊城下町と、港町とが主である

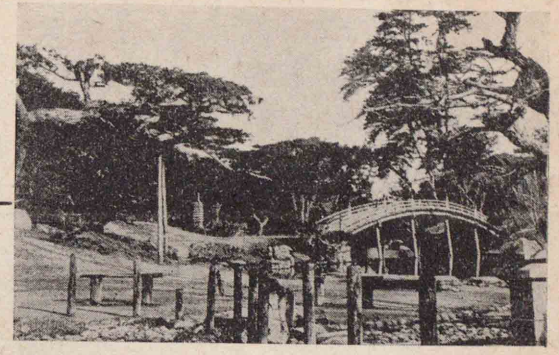




處誌

德島縣　德島平野を要部とし、大部は山地である。

德島(12.2)市は吉野川の三角洲に發達し、小松島を外港として、貨物の集散が多く、又綿織を出す。鳴門海峽は潮流が速いので名高く、之に臨



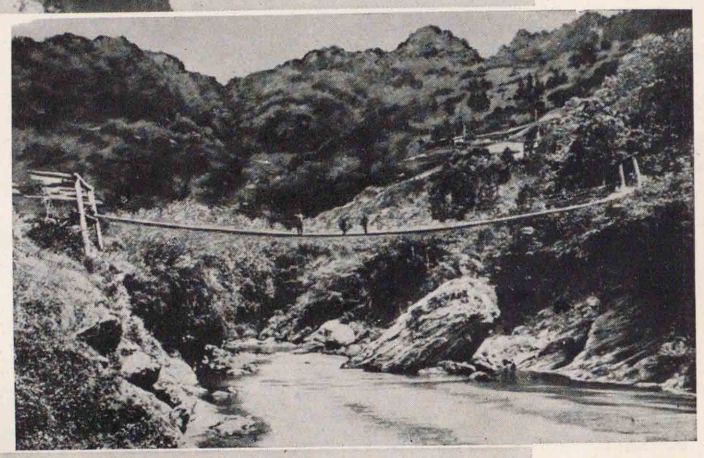
純日本式の名園といはれる栗林公園で、又製帽眞田を產し、**丸龜**市は團扇その他の竹細工を出し、善通寺は兵營町である。琴平は名高い金刀比羅宮の門前町で、多度津は內海航路の要津である。海上の小豆島は醬油・素麵・石材等を出し、又寒霞溪の勝地がある。

む撫養は、製鹽の一中心である。脇町は藍作の中心地であつたが、近年桑園が增加して、繭の集散が行はれ、池田の附近は煙草を產する。西南部は山岳が重疊し、祖谷はその中にあつて、別天地の趣がある。

香川縣 讚岐平野の**高松**市は、交通の要地を占め、四國第一の商港で、紡績その他の工業が行はれ、市內に栗林公園、近傍に屋島の名地がある。坂出は製鹽地

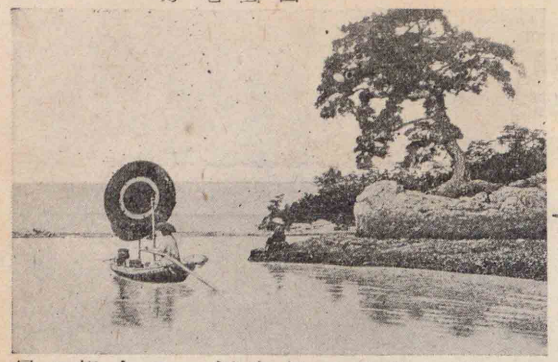
金刀比羅宮と門前町を見上げたる光景

徳島港　林立する帆檣は多く發動機船で近來阪神地方との往復が頻繁である

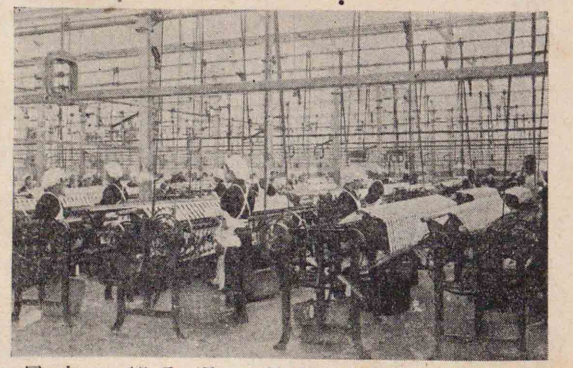


祖谷地方の吊橋　祖谷川には深い谷を横ぎつて圖の如き古風な蔓橋が設けられてゐる

屋島の遠望　上部が平坦で一見屋根形をなす熔岩臺地である

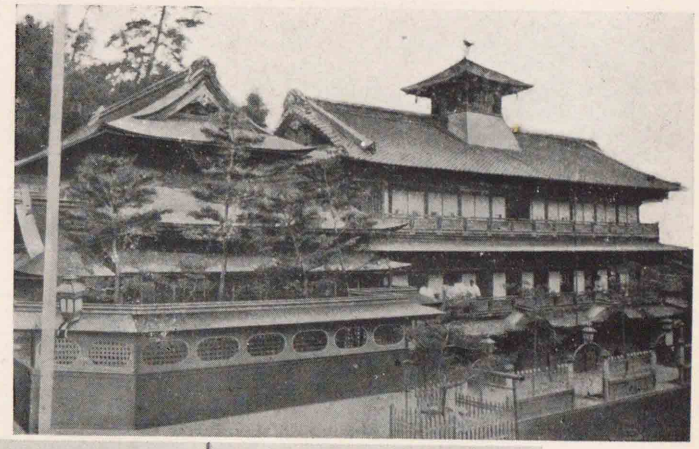


愛媛縣　東部の川之江は、和紙の産が多く、新居濱市は別子銅山の鑛石積換港で、肥料・人絹等の工業が勃興し、西條にも人絹の工場がある。今治市は新進の工業地で、綿絲・綿ネル・タオル等を産し、附近には鹽田が多い。松山平野の松山市は、綿絲・綿織等の工業が行はれ、市の一部を灣に吸ひ、特殊なる三津濱は、水産物の集散が盛である。道後は著名な溫泉場で、この趣の邊には蜜柑の産が多い。大洲盆地は紙・木蠟の産が多く、大洲はその集散地である。海岸の八幡濱市は漁港で、又傘の帆を添へる繭を集散し、宇和島市には製絲の工場があり、罐詰の製造も盛である。



今治市にあるる紡績工場内部の光景

高知縣　地勢や位置の關係で、人口が割合に少い。高



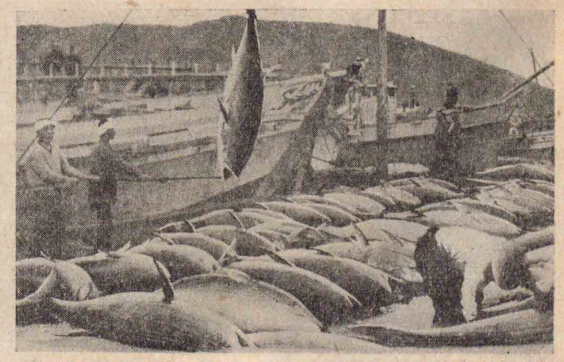
道後溫泉　昔から知られた名湯であるが内湯はなく圖の如き三階建の共同浴館がある

三津濱　水産物の集散が多くその魚市は著名である遙に峙つは伊豫小富士の名ある興居島

高知城　山内氏の居城で天主閣・本丸・追手門等が國寶として殘り今は公園となつてゐる

福岡縣	（福岡市）
佐賀縣	（佐賀市）
長崎縣	（長崎市）
熊本縣	（熊本市）
大分縣	（大分市）
宮崎縣	（宮崎市）
鹿兒島縣	（鹿兒島市）
沖繩縣	（那覇市）

知市は、景色のよい吸江（キヅカウ）灣に臨み、浦戸を外港として、盛に水産物を集散し、又セメント・和紙等の工業が行はれる。仁淀（ニヨド）川の流域には、楮・三椏の畑が多く、伊野は古くから和紙の産に名高い。須崎は天然の良港を控へ、清水と共に、鰹節製造の一中心である。東部の室戸・甲浦（カンノウラ）は共に漁港で、室戸崎は岩石美と海色美とで、名を知られてゐる。



清水海岸に陸揚されたる多量の漁獲物

第七章　九州地方

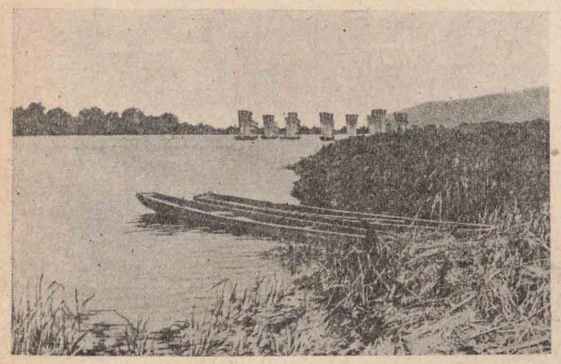
通說

昔の西海道の地で、東南部は神代史に名高い地方であるが、その後永く文化に取殘された傾がある。之に反し、西北部は、早く外國との交通が開け、その一部は、鎖國時代に於

下關海峽・佐世保灣・長崎灣・平戸島附近・壹岐等の附近・對馬の大部及び大島は要塞地帶である

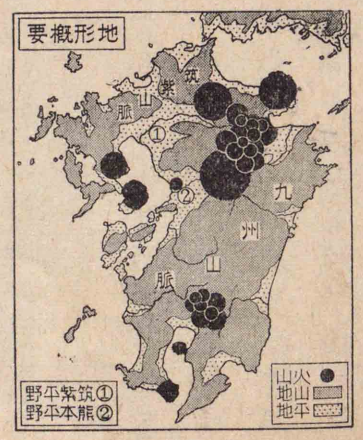
ける、海外文化輸入の門戸となり、今は各種の工業が發達し、活況を呈してゐる。行政上、九縣に分ける。

地勢　地形上、北部・中部・南部に分れ、別に西南に、一連の列島がある。北九州の



筑後川の下流は水運の便が頗る多い

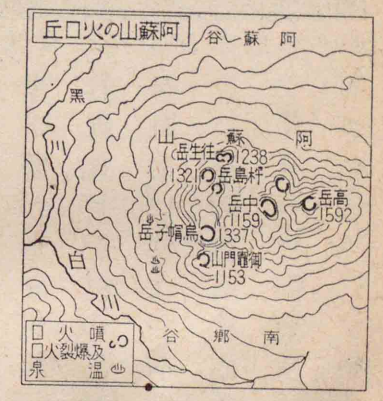
筑紫（ツクシ）山脈は、中國山脈の續きで、低く且數多の地塊に分れ、遠賀（ヲガ）川がその間を北流し、西南部には廣い筑紫平野があり、筑後川が此處を流れる。海岸は、西部に肥前半島があり、數多の副半島に分れて、唐津・大村・有明等の海灣を圍み、海上には平戸・壹岐・對馬等の島嶼がある。

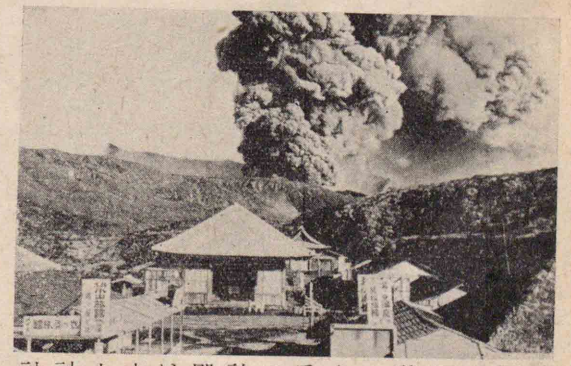


中九州は、阿蘇火山帶の通ずる處で、阿蘇山を中心として、東に九重（クヂウ）・由布（ユフ）・鶴見（ツルミ）・兩子（フタゴ）等

の諸山が聳え、西は有明海を越えて、多良・雲仙等の諸山を起し、大部は火山岩に被はれてゐる。球磨川・白川は此處を西流し、東流する大野川と共に、その河谷は重要な交通路となつてゐる。海岸は西部に宇土半島が出て、有明海と八代海とを分け、海上に天草諸島があり、東部には國東半島と別府灣がある。

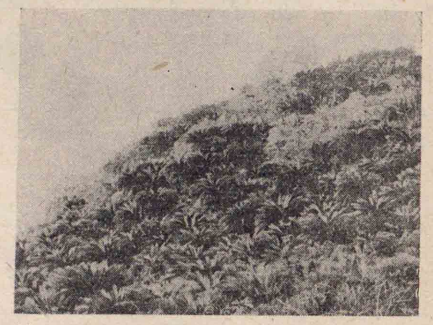
南九州の九州山脈は、一大連嶺をなして祖母山・市房山等が聳え、川内川・大淀川・五箇瀬川等が、此處に發して東西に分流する。南部は鹿兒島灣の陷沒により、薩摩・大隅の二大半島をなす。霧島火山帶がこの陷沒帶に沿つて、霧島山・櫻島岳・開聞岳等を噴起し、遠く西南に



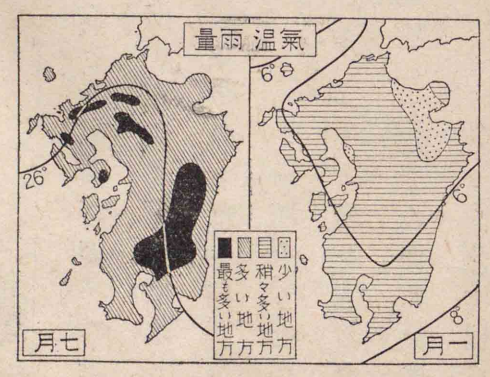

噴煙は阿蘇の中岳で社殿は山上神社

延びて、薩南諸島の內側に、多くの火山島を作つてゐる。

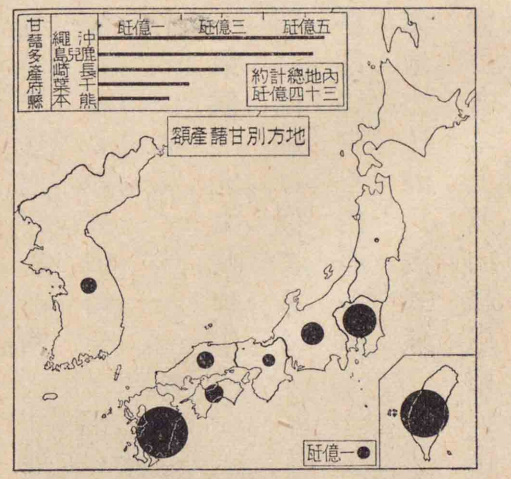
氣候　北九州は、中國の西部に似てゐるが、雪は少く、內海の沿岸地方は、瀨戸內式氣候である。九州山脈以南は、南四國に似て、氣溫は一層高く、一部には熱帶植物の茂る處もある。薩南諸島や琉球諸島は、亞熱帶性で、植物景觀が著しく違ひ、沿岸には、珊瑚礁の發育せる處もあり、又初秋の頃、屢〻颱風に襲はれ、之が爲に作物の被害は少くない。

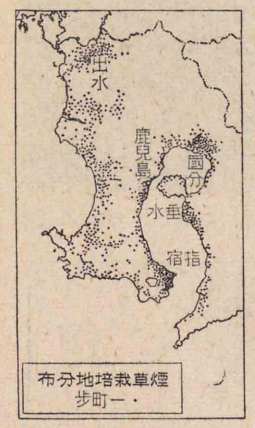

南九州に茂る蘇鐵の野生林

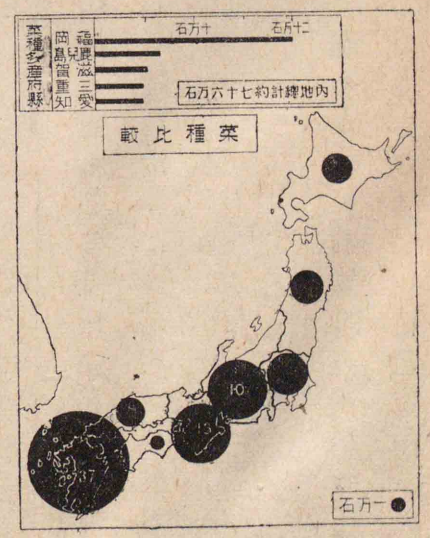
產業　農產・畜產等も、他の地方に讓らないが、石炭の產出が多く、之を燃料とする大工業の發達は、この地方の著しい特色である。

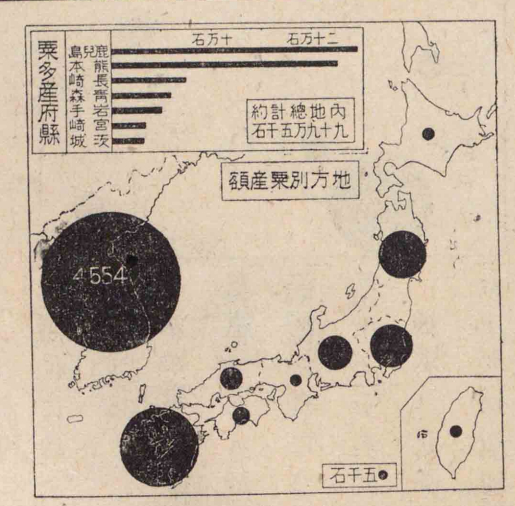


農業　筑紫・熊本の兩平野は、米と麥・菜種との二毛作が盛で、殊に福岡縣は、屈指の米産地である。甘藷は一般に産するが、沖繩・鹿兒島の二縣は殊に多く、砂糖(甘蔗)もこの兩縣が、内地の大産地で、殊に沖繩縣の主産物である。その他、粟・蕎麥(ソバ)等の雜穀を各地から出す。鹿兒島縣は有名な煙草の産地で、國東半島では、七島藺(シッタウヰ)を植ゑて七島表を造る。その他、柑橘類(大分)枇杷(長崎)等の果實を産し、養蠶も近年盛となり、熊本・宮崎等の諸縣には、繭の産が少くない。



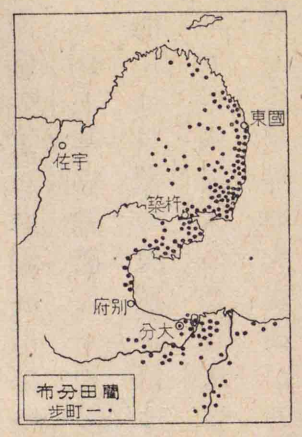


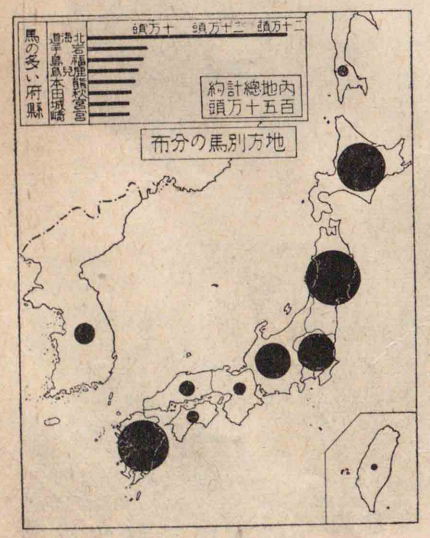




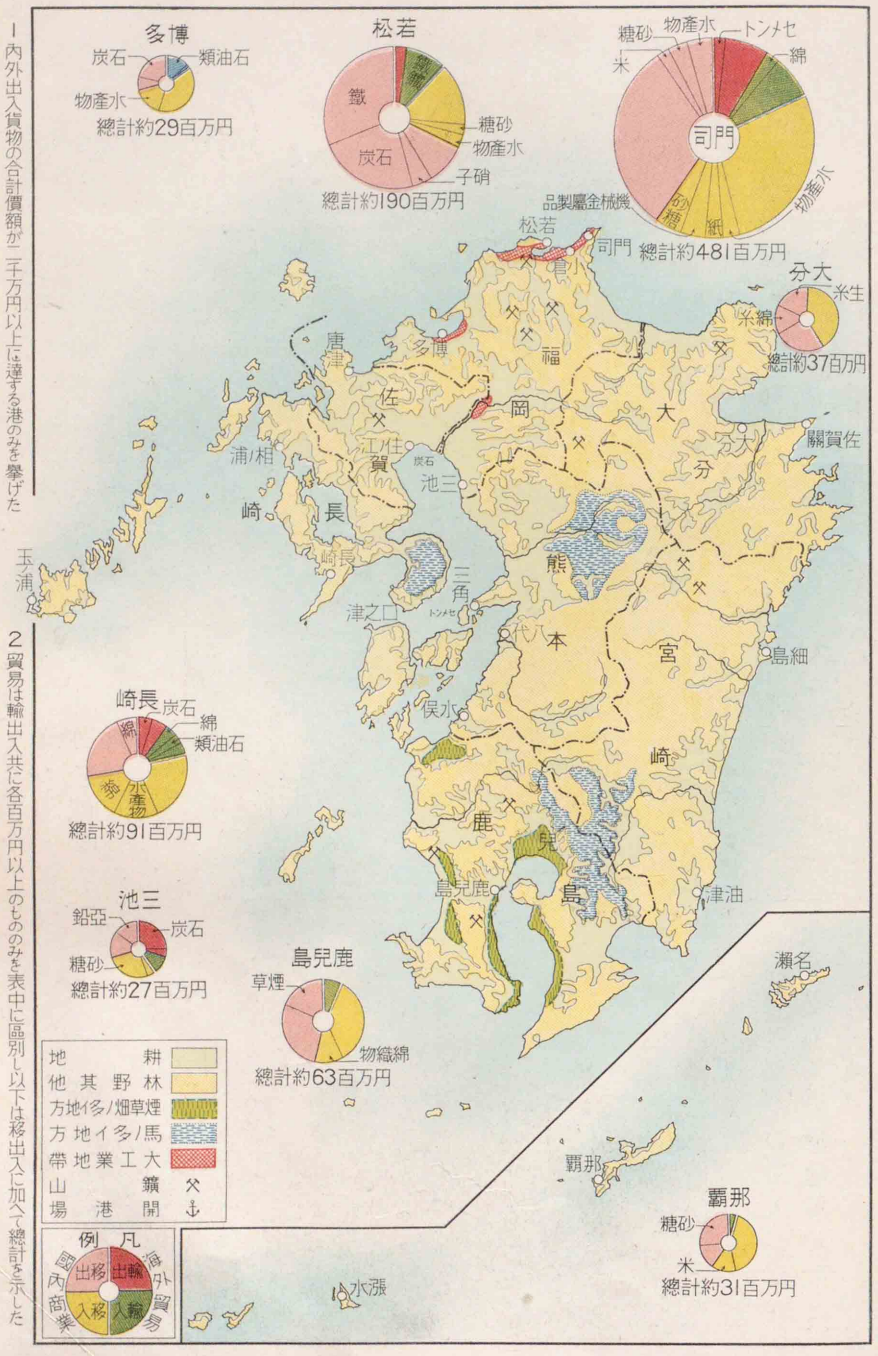
るが、阿蘇・霧島・雲仙等の火山裾野には、馬の飼育が古くから行はれ、鹿兒島・熊本の二縣は、その主産地である。沖繩縣では、豚・山羊を多く飼つてゐる。

林業　森林は南九州に多く、木



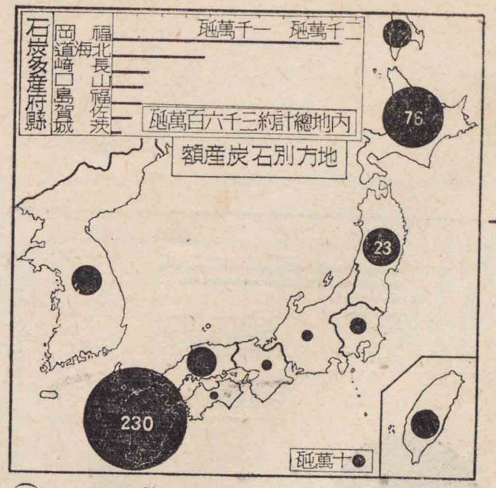


牧畜　中國に續く重要な牧牛地帶

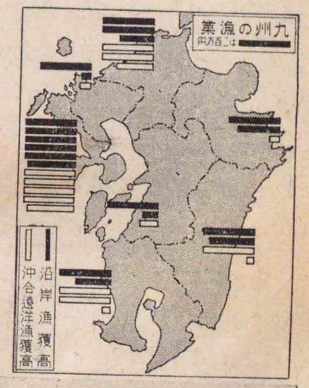


1 內外出入貨物の合計價額が二千万円以上に達する港のみを擧げた

2 貿易は輸出入共に各百万円以上のものみを表中に區別し以下は移出入に加へ總計を示した



材・薪炭等の外に、椎茸（シヒタケ）（宮崎・大分）・樟腦（シャウナウ）（鹿兒島・宮崎）等の副産物を出す。鹿兒島には巨竹を産して、竹細工の原料とし、福岡縣では、木蠟を採る爲に櫨樹（ハゼノキ）を植る、晩秋にはその紅葉が美觀を呈する。

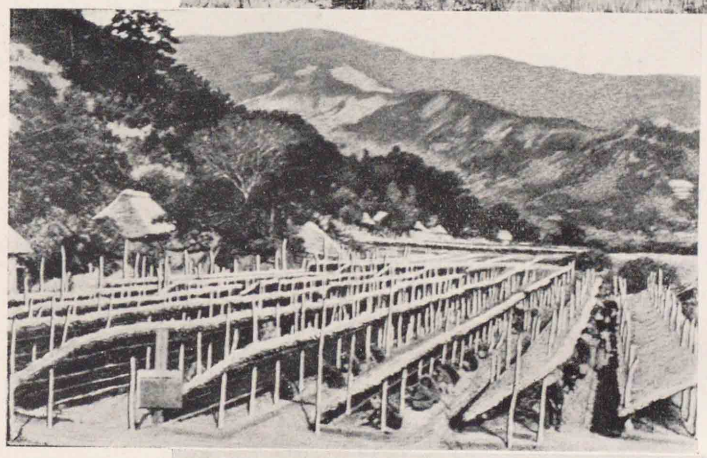


水産業　水産物は一般に豐富であるが、西部の柔魚・鯖・鯛・鰤、南部の鰹・鮪・鰤等は、漁獲が殊に多く、鰯（長崎）と鰹節（鹿兒島）とは、屈指の産物である。有明海には、貝類の養殖が行はれる。

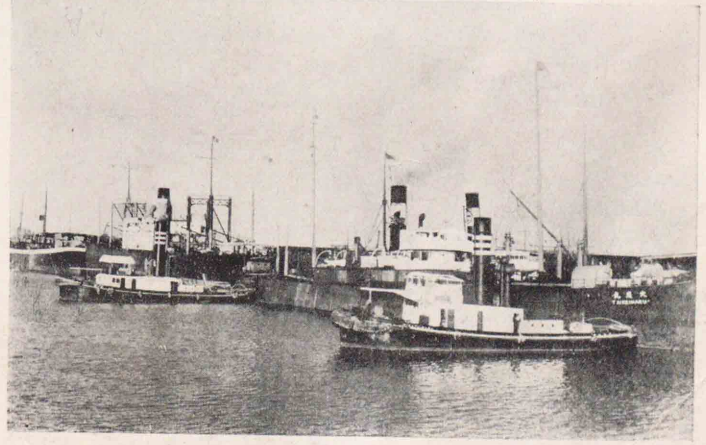
鑛業　北部は我が國最大の産炭地帶で、筑豐（チクホウ）・三池・唐津（佐賀）・長崎等の大炭田があり、此等の産（以上福岡）

鹿兒島縣枕崎海岸で鰹を陸揚げの景

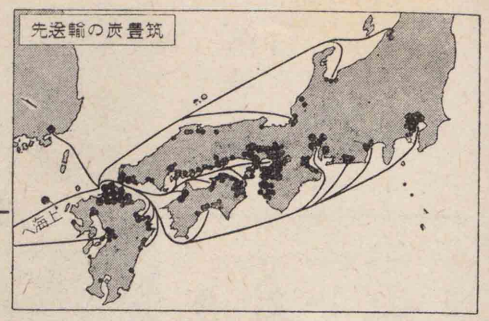
阿蘇の草千里　裾野の一部で一面に草の綠に彩られ牛馬の牧草を追ふ靜閑な情景に富む

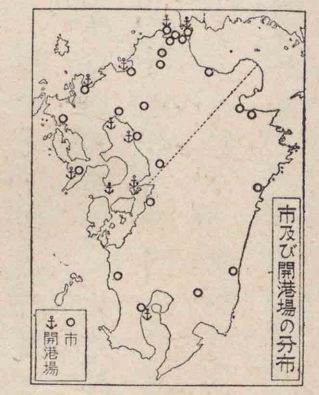


國分の煙草畑　昔から品質の良好を以て名高い國分煙草の産地で專賣局の出張所がある



三池港の運炭船　築港の完成により船舶の出入が便利となり石炭の輸送船が常に輻湊してゐる



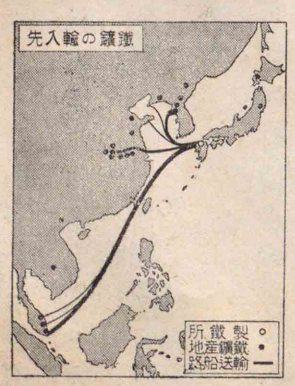


炭量は、全國の約七割を占め、若松・門司はその積出が盛である。

産炭地帶には、鑛山町や石炭積出港が多く、工業も大發展をなして、十八市(全島に二十六市)・九開港場(全島に十開港場)が西北部に集り、其等は直接・間接に、石炭の影響を受けてゐる。

その他、串木野・山野(クシキノ・ヤマガノ)(以上鹿兒島)・鯛生(タヒオ)(大分)等の金、槇峯(マキミネ)(宮崎)の銅、見立(宮崎)の錫等も名高く、佐賀關には大製錬所がある。

工業　北九州は、大炭田を控へて石炭の供給が豐な上に、交通・運輸も便利な爲、大工業地帶が發達し、殊に門司から小倉・戸畑・若松・八幡の諸市に亙る地方には、製鐵を始め、精糖・セメント・硝子・機械・製紙・製粉・紡績等の大工場が列んでゐる。中でも八幡の製鐵所は、規模が極めて壯大で、



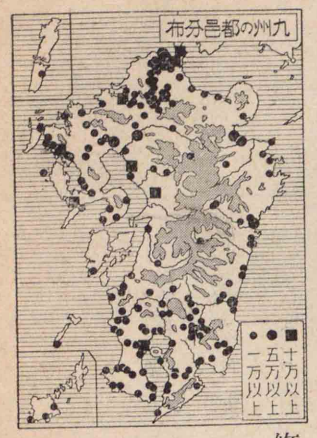
門司・小倉・下關を一港として關門港と呼ぶ

久留米市にある地下足袋工場の内部

その原料鑛石は、朝鮮の外、遠く支那・マレー半島等からも輸入される。その他、長崎・佐世保等には、造船業が發達し、三池炭田を背景とする大牟田(オホムダ)及び電力の利用に便利な延岡(ノベヲカ)・水俣(ミナマタ)(熊本)等には、化學工業が勃興した。

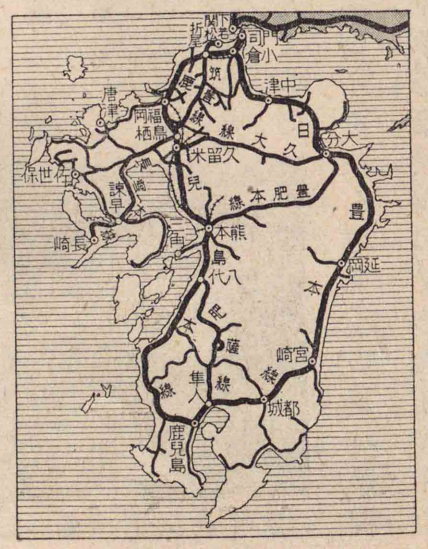
古くから名を知られた産物には、久留米絣(クルメ)・博多織(ハカタ)(以上福岡)・大島紬(鹿児島)・琉球上布(ジャウフ)(沖縄)等があり、近年久留米・福岡の諸市には、地下足袋(チカタビ)・タイヤ等の製造が盛になつた。陶器は有田・燒(佐賀)の産額が殊に多く、筑後川の下流地方では、清酒の醸造も盛である。

商業 商業は大阪の商圏に屬するが、福岡は地方商業の大中心で、熊本・鹿児島等が之に次ぐ。外國貿易は支那・南洋方面を主とし、關門港・長崎はその二大門戸である。その他、若松・博多・三池(以上福岡)・唐津・住ノ江(以上佐賀)・口之津(イツハラ)・嚴原(以上長崎)・三角(ミスミ)(熊本)・鹿児島・那覇(沖縄)等の開港場がある。



1 門司・鹿児島間
2 小倉・鹿児島間
3 若松・原田間
4 鳥栖・長崎間
5 八代・隼人間
6 熊本・大分間
7 久留米・大分間

交通 鹿児島線の鐵道は、日豐[2]線と共に本島を一周して、筑豐[3]・長崎・肥薩[4]等の諸線[5]と連絡し、肥薩線の九州山脈を横ぎる處は、ループ線になつてゐる。豐肥[6]線・久大[7]線は、共に重要な横斷線である。海運は門司を中心として、内外の諸港に通じ、長崎からは支那へ連絡航路がある。航空路は福岡を中心とし、大阪・臺灣及び大陸へ通じ、又大陸と結ぶ數條の海底電線もある。



人口と都邑 人口は西北の三分の一區に密集し、その他は割合に疎である。舊時の大城下町が、各地に散在することも一特色であるが、西北部に新興都市の極めて多いことは、他に類の少いことである。

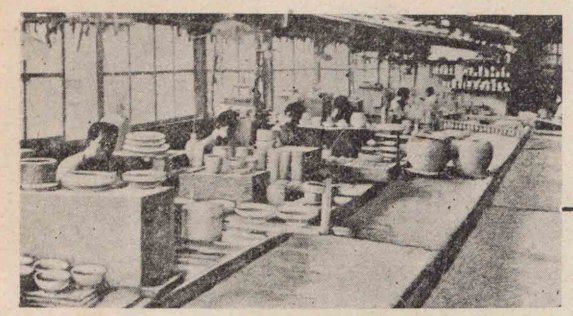
處誌

福岡縣 洞海附近・筑豐炭田地方・福岡平野・筑紫平野に分れる。**門司**12.2市は九州の北門に當り、此處から洞海沿岸に至る一帶は、工業の發達が著しく、**小倉**12.9製紙・製鋼・陶器・電球・**八幡**21.2製鐵・硝子・セメント・**戸畑**6.9(硝子・製糖・鑄物)・**若松**7.3(硝子・豆粕・造船等の諸市が連つて、一大市街の觀を呈し、八幡の製鐵所を始め、各種の工場が多く、我が重工業の大中心をなし、戸畑は又漁港としても甚だ盛である。筑豐炭田地方は、遠賀川を狹んで大小の炭坑が群集し、**直方**(ナホガタ)4.4市・**飯塚**4.0市・**伊田**3.1・**宮田**3.0・**後藤寺**2.9等は、その地方の中心

筥崎宮に敵國降伏の勅額がある

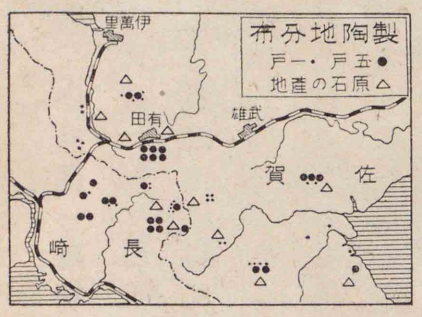
福岡の東公園(正面は龜山上皇の尊像)

福岡に九州帝國大學がある

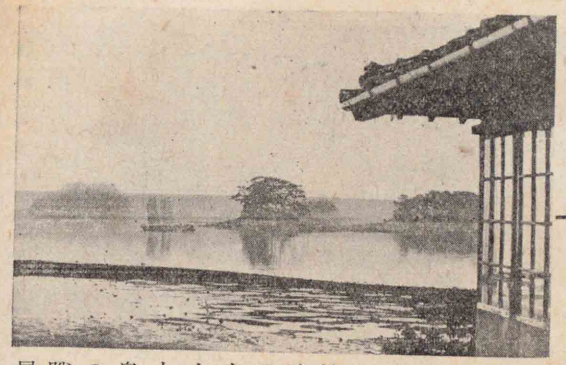


香蘭社の工場に於ける田有の燒作製

都市である。**福岡**29.1市は海中道に抱かれた博多灣に臨み、古く外寇の衝に當つた處であるが、今は九州文化の中心地で、地下足袋・博多織等を出す。附近に筥崎宮・香椎宮その他の史蹟が多く、稍離れて太宰府神社がある。筑紫平野の**久留米**9.2市は、交通・軍事の要地で、地下足袋・タイヤ・久留米絣等を產し、三池は三池炭の積出地で、閘門式築港を施し、**大牟田**10.5市はその石炭の利用によつて化學工業(工業藥品・染料・コークス)等が發達した。



佐賀縣 筑紫平野の鳥栖は、鐵道交通の要地に位し、**佐賀**5.0市は平野の中心都會で、米の集散が多く、西方の武雄は、著名の溫泉場である。**唐津**8.3市は唐津炭田の門戸で、附近に虹松原の勝地や、名護屋の史蹟がある。西境に近い有田は、古くから名高い製陶地で、伊萬里はその外港をなす



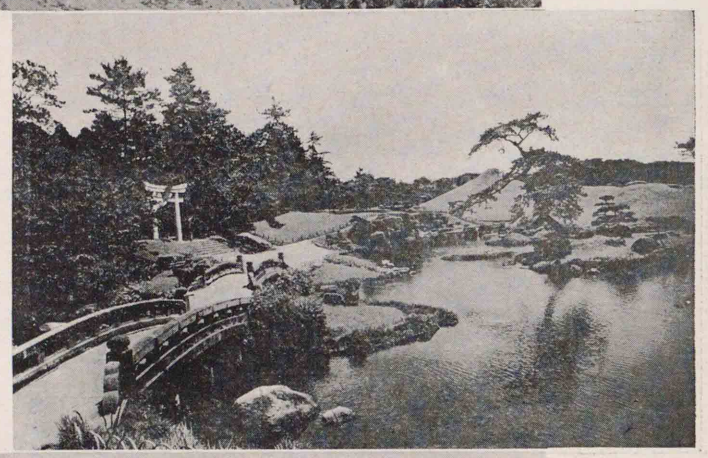
漁港である

長崎縣　半島部と島嶼部から成る。

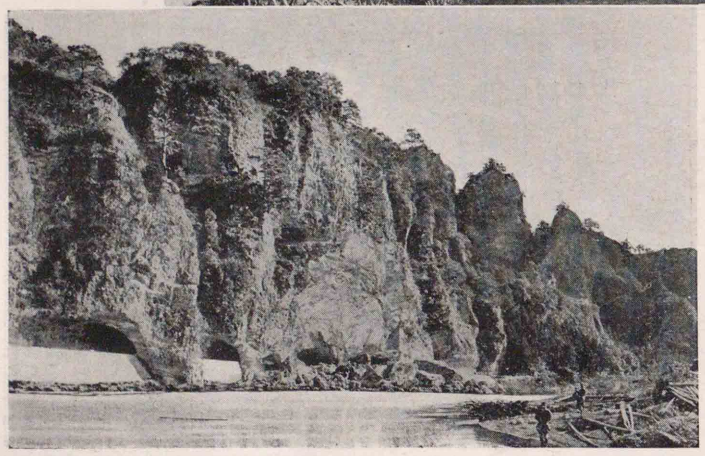
佐世保市は大陸に對する重要な軍港で、海軍工廠がある。**長崎**市は鎖國時代にも外國文化輸入の門戸であつたから、今も異國情緒に富んでゐる。港内に大造船所があり、又石炭の積出、水産物の集散が盛に行はれる。**茂木**は枇杷の良果を出し、**諫早**市は交通の要地で、製絲工場がある。島原半島の雲仙岳は、國立公園で、山上に温泉町があり、夏季は外人の來遊も多く、東麓の**島原**市は、港灣の美景で名高い。平戸島の**平戸**は古い通商地として知られ、五島・壹岐・對馬は、何れも山勝ちで、鯨その他の水産物に富み、**福江**・**勝本**・**嚴原**は、夫々その主邑である。

雲仙岳は溫泉が多く娯樂機關も整ふ

博多灣岸に殘る防壘　元寇の國難に際し防戰の爲に築いたもので博多の海邊(今津)に今もそれが殘つてゐる



水前寺公園　成趣園とも稱し池水の清澄と林樹泉石の妙趣とで名高く九州一の名園といはれる

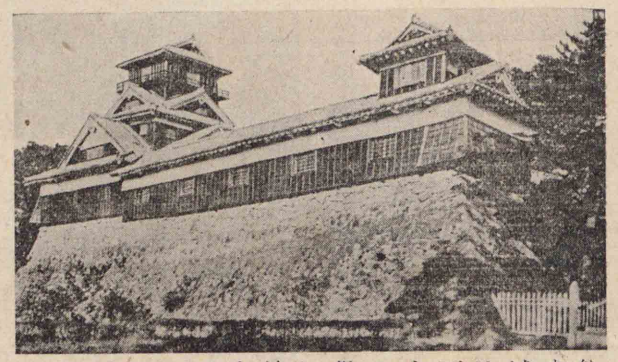


耶馬溪の奇勝　奇峯を貫く幾多の洞門と之に沿ふ一條の碧流　圖は青洞門の景觀

熊本に醫科大學がある

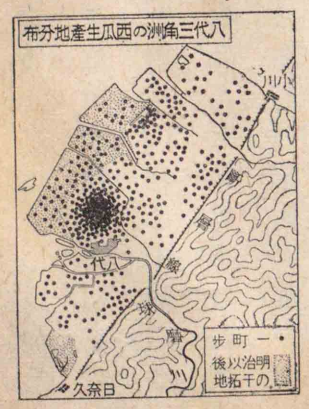
植木・田原坂等は西南役の激戰地である

阿蘇山は舊火口の廣いことが世界第一である



熊本城は西南の役に焼失し一部が殘る

熊本縣　熊本平野を主部とし、東部には山地が多い。**熊本**(61.7)市は中部九州の大都で、米の集散が多く、風致に富む水前寺(スヰゼンジ)(成趣園)があり、舊城は西南役に名高い處である。**八代**(3.2)市は球磨川の口に臨み、木材の集散及びセメント・製紙等の工業が行はれ、附近から西瓜を出す。人吉盆地の人吉は溫泉町で、球磨川遊覽船が發着し、この上流地方に五家荘(ゴカシヤウ)がある。水俣(ミナマタ)(2.8)には化學工業の工場があり、對岸の天草諸島は、無煙炭・陶土を出す。阿蘇山は國立公園で、火口丘の中岳は、今も盛に噴煙し、溫泉も處處にある。火口原はよく開けて、農・牧に利用せられ、聚落も少くない。



宇佐神宮　丹朱の社殿を連ねた鎭西第一の大祠で和氣清麿の神託で有名である

櫻島の大根　大きなのは周圍一米餘、重さ十五瓩に餘るのがある

琉球の石垣塀　屋敷町では家の周圍に高い石垣を設けてゐたが次第に市街化した

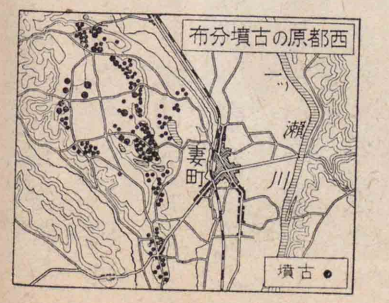
海岸の砂に身を埋めて別府の湯

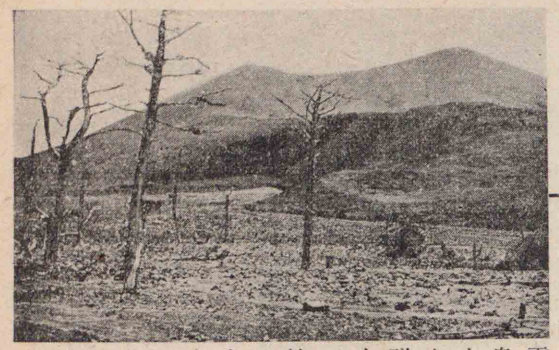
在地で、杵築は七島表の集散地である。別府市は由布岳・鶴見岳等を背景とし、風景のよい溫泉都市で、四時浴客が多い。大分市は鐵道の要地で、紡績・製絲等の工業が發展し、西部の日田市は、盆地の中心町である。

大分縣　國東半島によつて、南北に分れる。北部の中津市は、紡績工業が行はれ、此處を流れる山國川は、熔岩臺地を侵蝕して、耶馬溪の奇景を造る。宇佐は名高い宇佐神宮の所

豐後水道はリヤス式海岸をなし、佐賀ノ關・臼杵・津久見・佐伯等の錨地がある。津久見の附近は蜜柑の產が多く、佐賀ノ關には大製錬所がある。

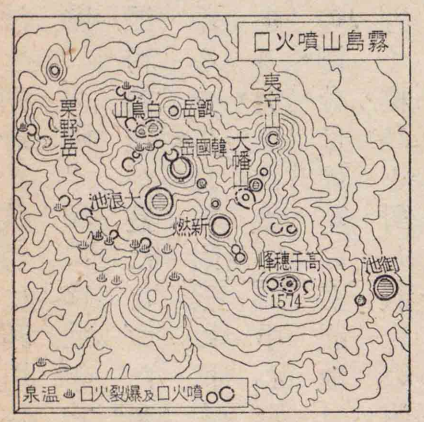
宮崎縣　北部の延岡市は、人絹その他の工業が勃興し、附近に富島(細島)の舟泊地がある。宮崎



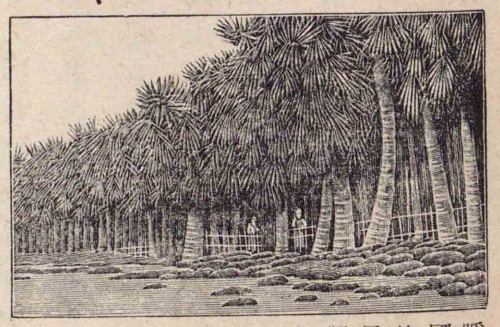


霧島火山群中で特に名高い高千穂峯

市は、宮崎神宮の所在地で、製絲が行はれる。この地方は、古く神代に開けた處で、高鍋の附近(齋殿原)には、無數の古墳があ



る。近海の青島は、蒲葵が繁茂し、又岩盤の奇觀に名高く、南方の海岸には、岩窟内に鵜戸神宮があり、油津は舟泊の要地である。都城市は盆地の中心町で、繭・茶等を集散し、又製絲が行はれる。霧島山は名高い火山群で、國立公園である。山中には大小の火口湖が多く、溫泉



暖國的景觀をなす青島の蒲葵林

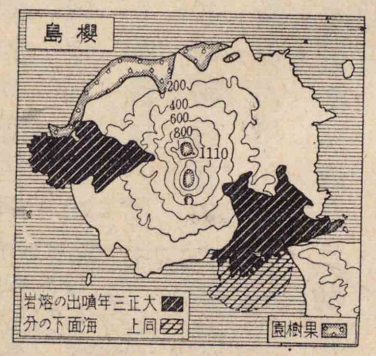
も處々に湧き、裾野は牧場に利用される。

鹿兒島縣　大隅半島には近年甘藷を原料とする澱粉製造が盛になつた。志布志(シブシ 2.0)は漁業の一中心で、串良の附近には古墳群が

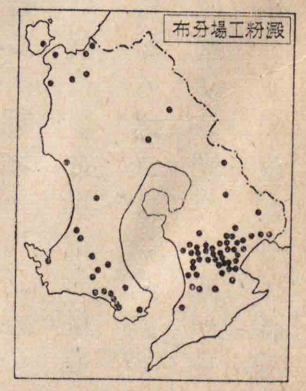
出水の附近は鶴の渡地來として名高い

山容が美しく薩摩富士と呼ばれる開聞岳

ある。鹿屋(カノヤ 2.5)は地方の中心町で、北方の國分は、煙草の名産地である。



近く櫻島と對し、風光の明媚な港市で、薩摩燒・錫器等の名産がある。櫻島は大正三年の大噴火に名高く、大根を名産とし、果樹の栽培も行はれる。谷山は古來著名な錫山を控へ、指宿(イブスキ 2.1)は名高い溫泉町で、又煙草栽培の一中心をなし、開聞岳が近く西南に聳えてゐる。山川・枕崎は共に漁港で、良質の鰹節を出す。西岸は砂丘の多い吹上ノ濱

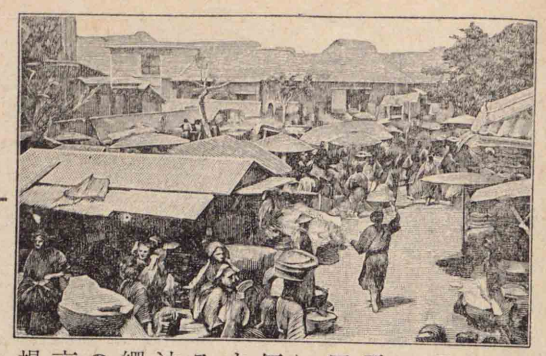


薩摩半島の鹿兒島市は、

で、その北方に串木野(クシキノ 2.5)の鑛山がある。川内川に沿ふ川内市は、米の集散が行はれ、出水(イヅミ)は煙草栽培の一中心である。

薩南諸島の種子島(タネガシマ)は、鐵砲傳來の歷史に名高く、屋久島は杉の良材を出す。大島は大島紬の名産地で、又鰹節・粗糖等を出す。名瀬(ナセ 2.8)はその主邑である。

沖繩縣　沖繩諸島と先島(サキシマ)諸島から成り、先島諸島は宮古・八重山の二諸島に分れる。氣候が亞熱帶性で、年中霜雪がなく、植物景觀が著しく違つてゐる。一般に山勝ちで、水田は少いが、甘蔗を耕作して粗糖を造り、甘藷を植ゑて之を常食とする者もあり、又殆ど戸毎に豚を飼つてゐる。强風に備へる爲に、家の塀を高くし、又墓を壯大にする風がある。那覇(ナハ 9.5)市は縣内の產物(琉球紬・芭蕉布・粗糖・漆器・夏帽子・泡盛酒等)集散地で、首里(シュリ 1.9)市はもと王城のあつた處である。宮古諸島は良質の上布を產し、東方のラサ島は、燐礦を出す。



日用品の需用に便す沖繩の市場

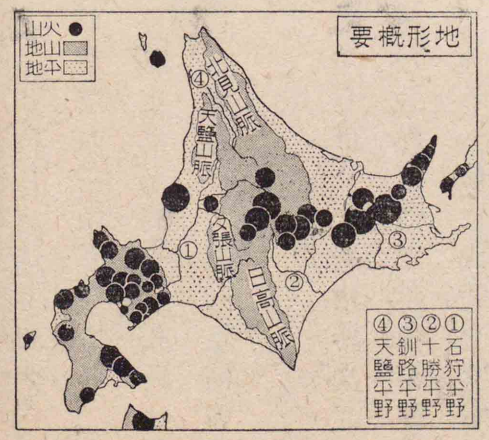
石垣島には測候所があり颱風觀測の最前點をなす

國名	支廳
渡島	渡島
後志	檜山
天鹽	日高
北見	上川
日高	空知
十勝	留萌
石狩	石狩
膽振	膽振
根室	根室
釧路	釧路
千島	後志
	網走
	宗谷
	十勝
	釧路國
	根室

第八章　北海道

通　說

北海道本島と千島諸島から成り、東北部はカムチャッカ半島(ソ領)や、アリューシャン列島(米領)に近く、軍事上・交通の要地である。北海道本島は、昔蝦夷(エゾ)と呼ばれた處で、幕末の頃、一部は松前氏の所領となつたが、その開拓に着手したのは、明治の初年以後で、千島が日本の領土と決定したのは、更にその後のことである。從つて開發が新しく、新開地的景觀が豊である。政治の形式も稍異なり、北海道廳の下に、七市・十四支廳を置いて治めてゐる。



摩周湖・屈斜路湖・阿寒湖等

地勢

略菱形の主部と、魚尾形の半島部から成り、別に千島諸島が長く點在する。

主部には、北見・日高・天鹽・夕張等の山脈が、二條に並走して蝦夷山系をなし、その間に名寄・上川・富良野等の盆地を挾む。千島火山帶は、千島諸島を經て本島に入り、雄阿寒岳・雌阿寒岳等の火山を起し、又多くの火山湖を湛へてゐる。その蝦夷山系と會する處は、土地が最も高く、本島の最高峯大雪山を始め、高山が多い。川は概ね中央の高地から發し、四斜面に流れる。石狩川は本邦屈指の大河で、上川盆地を出る處に、神居古潭の峽流を作

兩岸が狹く迫り深潭を作る神居古潭

石狩川の水面を流し行く木材の筏

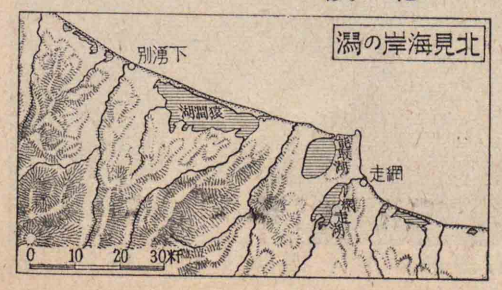
蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山の優姿

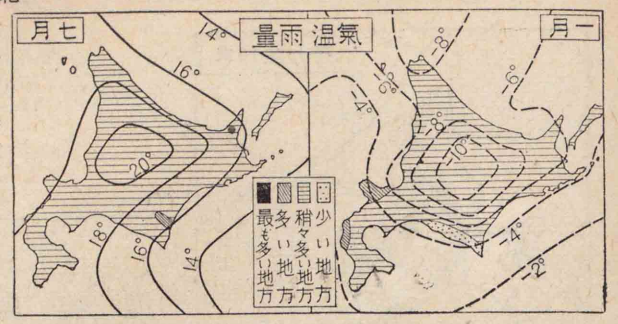
函館灣附近松前附近は要塞地帶である

り、下流は數多の半月湖を殘して、石狩平野を曲流し、舟楫・灌漑の便が多い。この他、天鹽川・十勝川・釧路川等も、主要の大河で、流域に天鹽・十勝・釧路等の廣い平野がある。

半島部は奥羽地方と地形上の連絡があり、那須火山帶に屬する惠山(エサン)・駒ケ岳・有珠岳(ウス)・樽前岳(タルマヘ)・羊蹄山(ヤウテイ)(マッカリ岳)等の火山が聳え、洞爺(トウヤ)・支笏(シコツ)等の火山に關係ある湖水も多く、溫泉も處々に湧き、勝景の地が少くない。

海岸は單調であるが、蝦夷山系の南・北兩端は、襟裳(エリモ)岬・宗谷(ソウヤ)岬となり、西部には、渡島(ヲシマ)半島が出て内浦灣を抱き、東部には知床(シレトコ)・花咲(ハナサキ)の兩半島がある。半島部には、山地の海に迫る處も少くないが、その他の多くは段丘(ダンキウ)や砂濱が連り、オホーツク海岸は、砂嘴が發達して、猿澗(サロマ)湖・網走(アバシリ)湖等の潟を抱いてゐる。



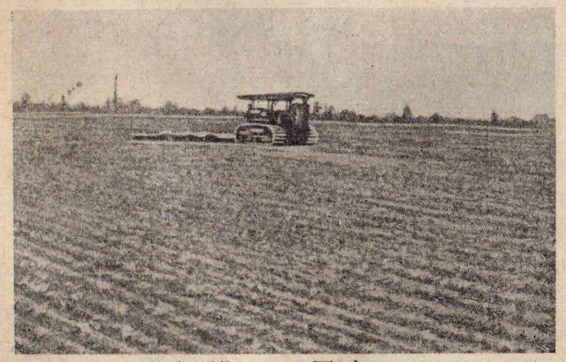


上川地方は嘗て氷點下四十一度に達したことがあり内地に於ける溫度の最低記錄である

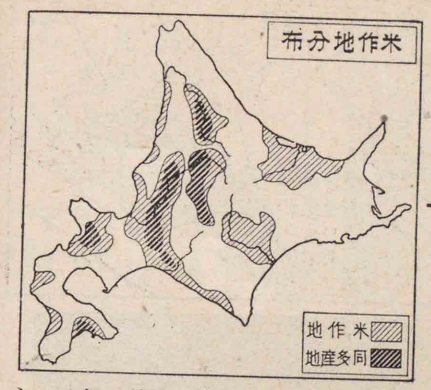
冬季に根室灣へ打寄せて來る氷塊

氣候　一般に寒冷で雨量は少い。太平洋方面は、寒流の影響で、初夏の頃に屢〻濃霧が起り、之が爲に海上の交通を妨げ、且農産物の發育を害する。オホーツク海岸は冬季流氷に鎖され、舟行の絶える處もある。日本海岸は、暖流と風向の關係で稍〻暖いが、冬に降雪が多いので、鐵道には各種の防雪設備がある。内部の冬は最も寒いが、夏の氣溫は割合に高いから、植物がよく生育し、稻作には都合がよい。

産業　平野が廣く、人口が少く、大農法に

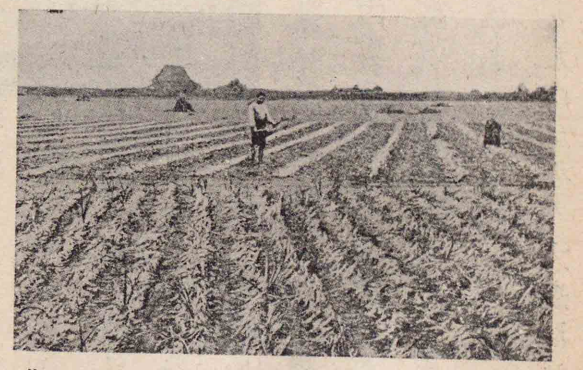


トラクターを用ひて耕耘する大農場

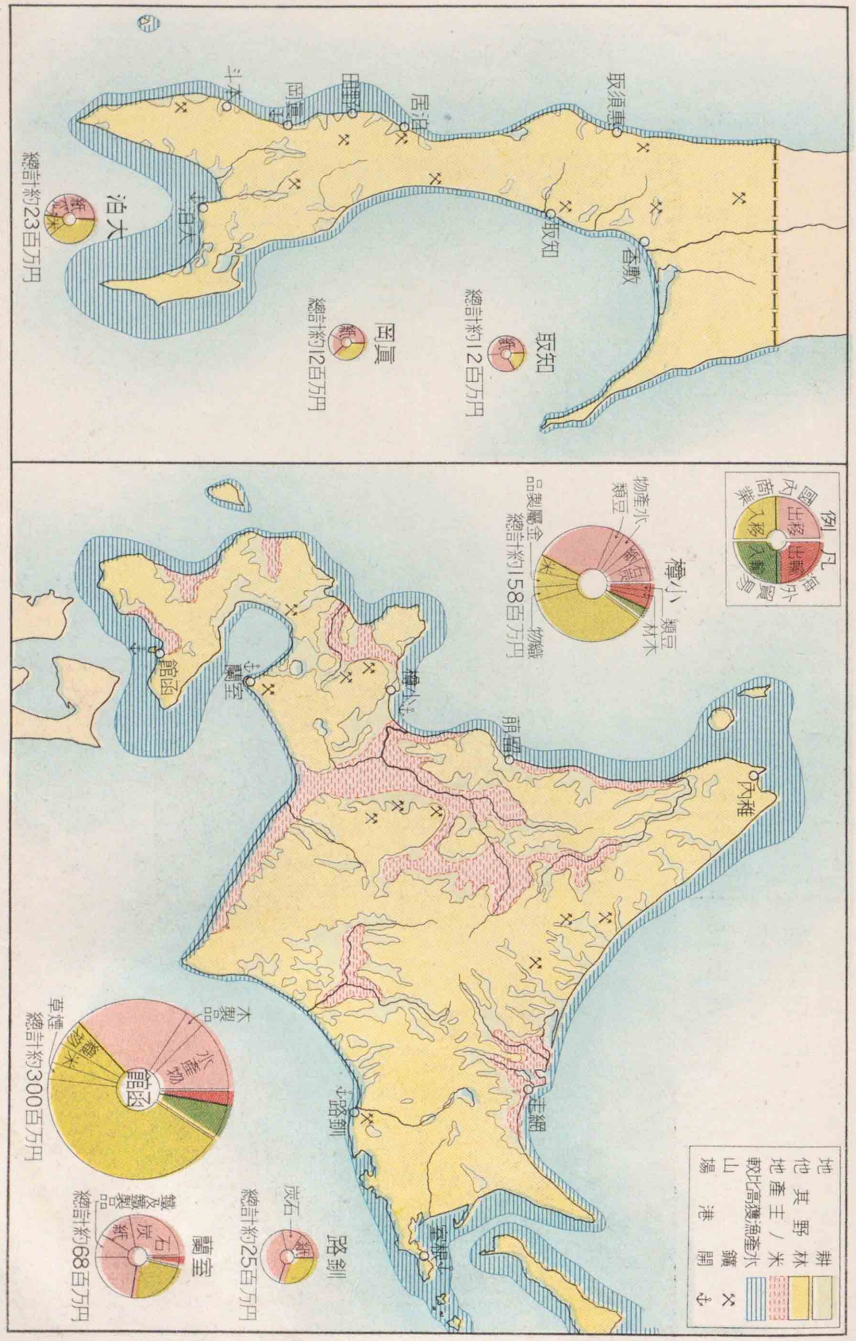


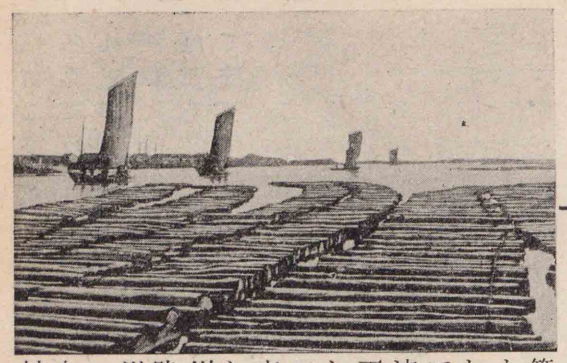
よる開拓が行はれて、各種の産業が大いに起り、北門の寶庫と呼ばれる。

農業　石狩平野は農業が最も發達し、灌漑用水路の開鑿により、米も産するが、麥類（主に小麥・燕麥）・馬鈴薯・豆類・玉蜀黍（タウモロコシ）・蕎麥・甜菜（テンサイ）・亞麻（アマ）・蔬菜（甘藍・玉葱等）の畑作を主とし、一部には苹果・櫻桃等の美果（ソサイ）を出す。上川盆地は水田が廣く、本道に於ける米の主産地で、又馬鈴薯を多く出す。十勝平野は豆類の主産地であるが、近年甜菜を植ゑて砂糖を作り、北見の平野は、薄荷（ハクカ）


葱玉たけ附植に畑い廣のり限す渡見

景光るす燥乾を束莖の麻亞たつ取刈


例凡
出移入輸
出移入輸
商業
物産水産
類豆
材木
品製
鑛金
總計約158百万円
樺小
函館
室蘭
苫小牧
釧路
根室
帯広
網走
紋別
稚内
留萌
旭川



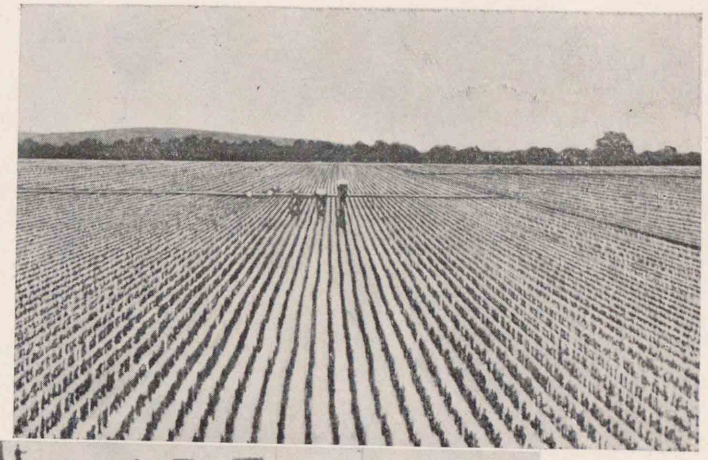
筏と流下して來た釧路川の木材

を栽培して薄荷(ハクカ)脳を產し、半島部及び石狩方面には、除蟲菊の特產がある

牧畜　原野が廣く、牧草が豐なので、牧畜は盛に行はれ、殊に馬が多く、南斜面の原野はその主產地で、新冠(ニヒカップ)・白糠(シラヌカ)等には、大規模の牧場があり、積雪を利用して牛馬を多く飼ひ、木材を搬運する。石狩平野では、牛橇をつかつて、煉乳・バター等の乳製品を出し、緬羊(メンヤウ)の飼養も試みられてゐる。

林業　開拓の進むと共に、原生林は減少したが、尙蝦夷松・椴松(トド)・落葉松(カラマツ)・楢(ナラ)・白楊(ドロヤナギ)・栓(セン)等の美林があつて、

畜產振興の中心をなす眞駒內の牧場



北海道の水田　正條植にした水田の中に農夫が除草器で雜草を取去つてゐる

箱詰鰊の輸送　各地へ輸送される箱詰の鰊が余市の停車場に堆積されてゐる

苫小牧のパルプ工場　王子製紙會社工場を南方の貯木場方面から見た光景

伐材は多く冬季に行はれて雪上を河岸に運び融雪を待つて流下する

石狩炭田には夕張・萬字・美唄・砂川・空知等の炭坑がある

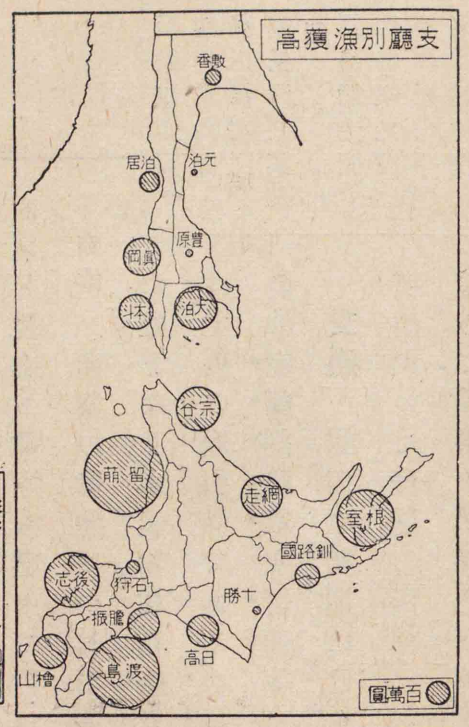
伐材が盛に行はれ、河岸・河口には、その集散地・製材地が多く、小樽・釧路は、木材取引の二大中心である。

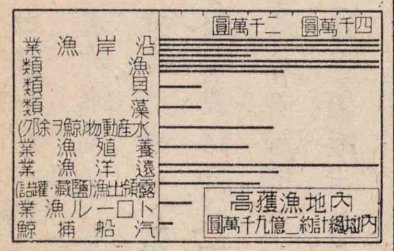
水産業　漁業はこの地の開發を促した主原因で、各種の魚族・海藻に富み、沿岸の到る處に漁港が多い。殊に日本海方面の鰊・昆布、オホーツク海方面の鱈・蟹・帆立貝、半島部の鱈・鰮・柔魚、太平洋方面の昆布等が名高く、河川には鮭・鱒等の漁利が多い。水産物は、その儘冷凍して移出する外、加工して鹽漬・罐詰・乾魚・燻製・肥料等となし、海外へも輸出する。函館・小樽は、水産物の二大集散地で、又北洋漁業の根據地である。

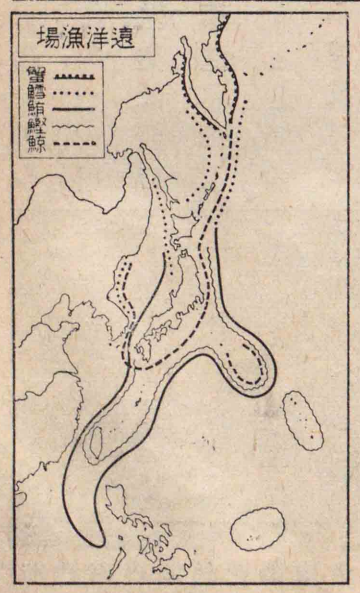
鑛業　鑛産の最も重要なのは石炭で、石狩炭田を主産地とし、採炭量は北九州に次ぎ、小樽・室蘭はその積出が盛に行はれ、釧路方面にも産炭地がある。その他火山地方（松

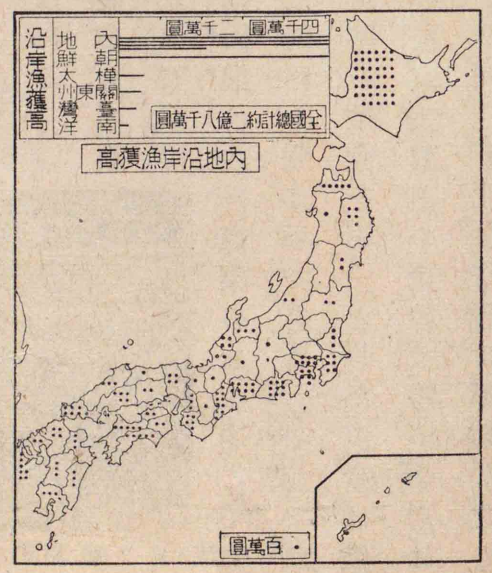
根室海岸の砂濱に干してあるる昆布

日本の水産業　我が國は、古くから近海漁業は盛であるが、近年遠洋漁業が發達して、北はカムチャッカの沿岸から南は遠く南洋群島・濠洲等の近海までも漁場を擴げ、最近南極地方の捕鯨にも手を延ばし世界總漁獲高の約四割を占め、水産物は重要な輸出品である









石狩平野の一部では石油の採收も行はれる

倉・幌別等）からは硫黄を産し、鴻ノ舞・静狩等の金・俱知安（クッチアン）の鐵等も亦名高い。

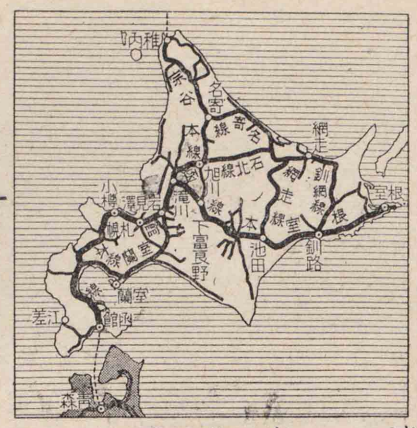
工業　天然の資源に惠まれ、工業は製材・パルプ・製紙・製粉・製麻・製糖及び釀造（ビール・酒精）の如き、林産・農産の加工を主とし、その他、製鐵（室蘭）・造船（函館）・製罐（函館・小樽）及びセメント製造（上磯）等も處々で行はれる。

商業　産業の發達につれて、商業も次第に盛となり、水産物・林産物及び石炭等は主要の取引品である。小樽・函館は内外商業の二大中心で、この他、室蘭・釧路・根室・留萌（ルモイ）等は、何れも開港場である。

荷造用の麻絲を製造中の製麻工場

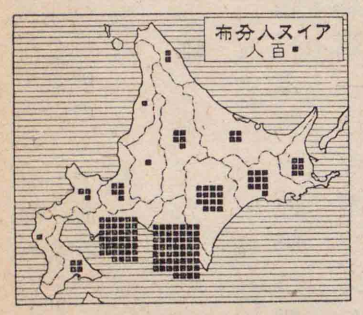
交通　開拓の初期には、道路の敷設を第一としたが、今は鐵道が大いに發達し、[1]函館・[2]宗谷・[3]根室・[4]室蘭等の諸線は、略ゞ十字形に通じて縱横の幹線となり、[5]釧網・[6]網走・[7]石北・[8]名寄等の諸線が之を

1 函館・旭川間	2 旭川・稚内間	3 瀧川・根室間	4 岩見澤・長萬部間	5 釧路・網走間	6 池田・網走間	7 旭川・野付牛間	8 名寄・遠輕間



連ね、その他、拓殖を目的とする小鐵道も處々にある。海運は函館・小樽・室蘭等を中心として、沿岸航路がよく發達し、本州及び樺太との間には、鐵道連絡船があり滿洲國・支那とも航路を通じ、航空路は本州と連絡し、無線電信局も處々に設けられてゐる。

人口と都邑　住民の大部分は、他府縣からの移住民で、近年大いにその數を增したが、人口は尙疎である。原住のアイヌ人は、僅に一萬五六千を殘すのみで、日高・膽振の地方に多く住み、平取（ヒラトリ）には、その大部落がある。都邑の多くは、新しく勃興したもので、街衢が正しく、井然とし



アイヌ人特有の服裝と家屋

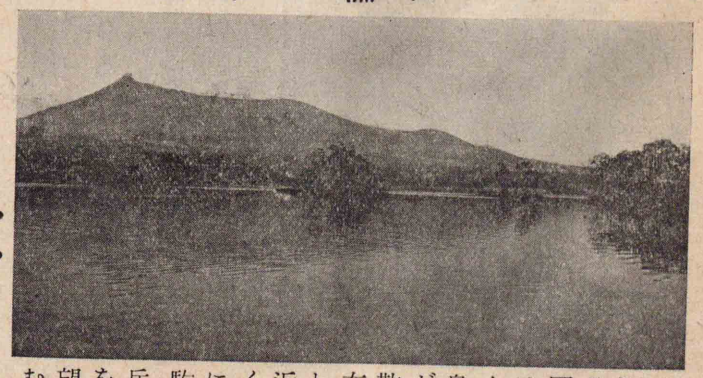
てゐるが、古い港町には、不規則なものもあり、舊城下町としては、松前のみである

處誌

半島部

函館(221.7)市は本州と連絡の要點に位し、本島第一の商港で、又北洋漁業の根據地をなし、罐詰・造船等の工業が行はれ、市内の五稜郭(ゴリョウカク)は、維新の戰史に名高い處である。上磯には セメント工場があり、松前(福山)は徳川時代に奉行を置いた處である。駒ヶ岳の麓にある大沼公園は小島が散在し近く駒ヶ岳を望む

園果の市余るゐてつ採を果苹たし熟



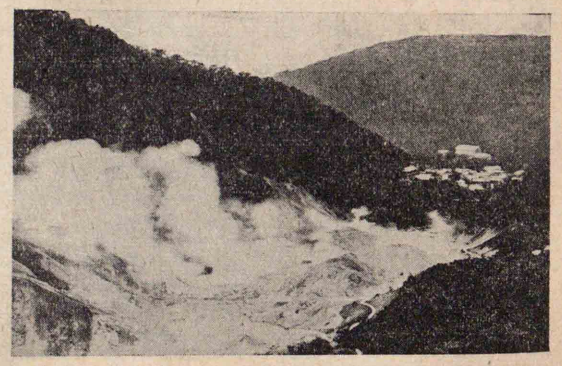
大沼公園は小島が散在し近く駒ヶ岳を望む

札幌に北海道帝國大學がある

公園は、風景がよいので名高い。**倶知安**(クッチャン)は農産物集散の一中心で、余市の附近には苹果園が多い。**小樽**(162.2)市・**室蘭**市は、共に半島部にあるが、前者は石狩平野の門戸として發達した港で、農産・林産等の積出が多く、又北洋漁業の根據地で、罐詰・製材等の工業も行はれ、後者は石狩炭田を控へて開けた商工都市で、壯大な製鋼所がある。東北の登別(ノボリベツ)は、本島第一の溫泉町である。

主部

石狩平野の**札幌**(187.7)市は、豐平川に沿ひ、政治・學藝等の中心地で、町筋が正しく、市街が甚だ清麗である。ビール・製粉・製麻等の工場が多く、附近から苹果・櫻桃等の美果を出す。市の東南には月寒(ツキサップ)の牧場、西南には定山渓(ヂャウザンケイ)の溫泉場

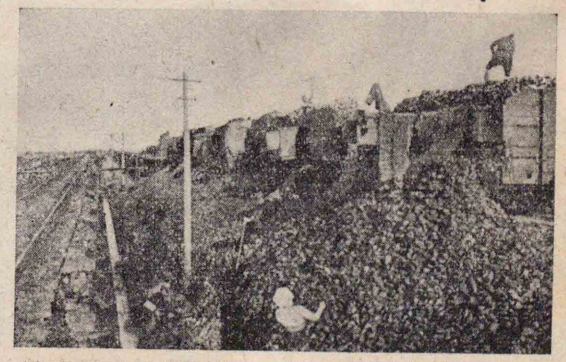


登別溫泉は渓に沿もに溫泉が湧く

がある。岩見澤(3.2)は石狩炭田を背景とし、古く發達した開墾地で、交通の要地を占め、江別(3.2)・苫小牧(トマコマイ 2.2)には、製紙の大工場がある。

上川盆地は、水路が發達して米の産が多く、旭川(3.6)市は軍事・交通の要地で、農産加工の工場がある。南方の富良野、北方の名寄は、夫々盆地の中心地で、狩勝(カリカチ)峠は雄大な景觀に名高く、大雪山(タイセツザン)附近の一帯は、國立公園である。

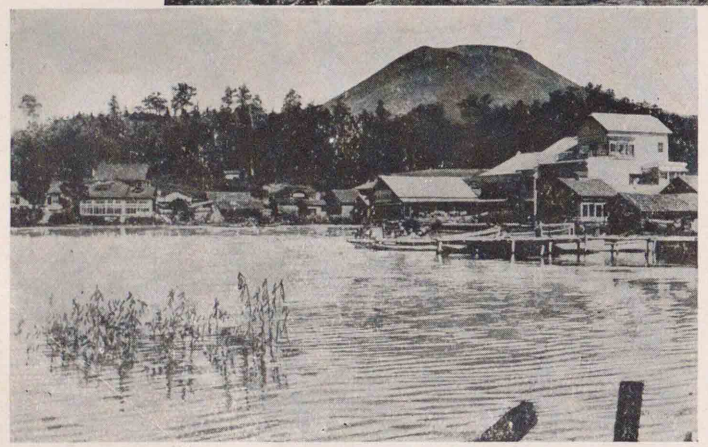
十勝平野の帶廣(3.6)市は、農業の中心として興つた新市街で、製糖工場があり、池田は鐵道の要地である。釧路(5.8)市は林産・水産の市場で、パルプ工場があり、又馬市(大樂毛)(オホタノシケ)に名高く、北方に阿寒國立公園がある。厚岸(アッケシ)の灣内には、牡蠣や昆布の産が多く、根室(2.0)はカムチャッカ漁業の根據地で、罐詰を



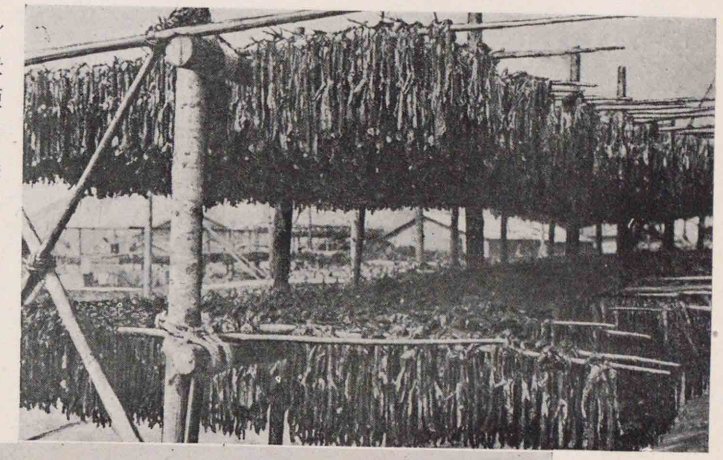
甜菜根が製糖工場へ運搬されたれ光景

平取のアイヌ部落　文化が次第に入込んで和風の建築も處々に混じてゐる

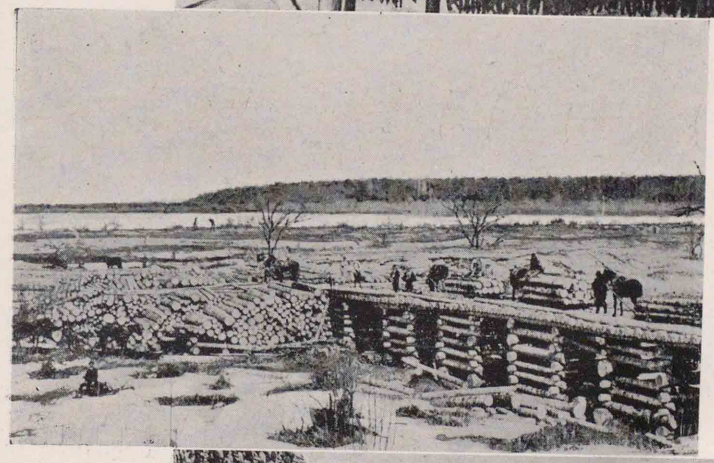
大樂毛の馬市　釧路地方は優良馬を多く産し大樂毛(釧路市の一部)の馬市は全國的に名高い



阿寒溫泉　原始的な森林に圍まれた阿寒湖畔にあつて前には湖中の島々を望み靜寂な溫泉地



身缺鰊の懸棚　漁村の春の一盛觀で濱邊の一帶は村から村へこの懸棚が續く



木材の運搬　伐採した木材を馬に曳かせて運ぶ光景右方に一二の植民長屋が見える（鵜城附近）

海豹島　周圍一粁餘の小島であるが膃肭獸の蕃殖地で條約により濫獲を禁じてゐる

支廳
豐榮・大泊・元泊・敷香・泊居・眞岡・本斗

産し、附近の西別川は、鮭の産が多い。

北見地方は近年農業が著しく進み、薄荷の特産がある。網走（ノ）と野付牛（ツケウシ）とはこの方面の要地で、鴻ノ舞は屈指の金山である。日本海岸の稚内（ワッカナイ）は、樺太と連絡の要地で、天鹽地方の留萌・增毛（マシケ）は、共に鰊漁業の中心である。

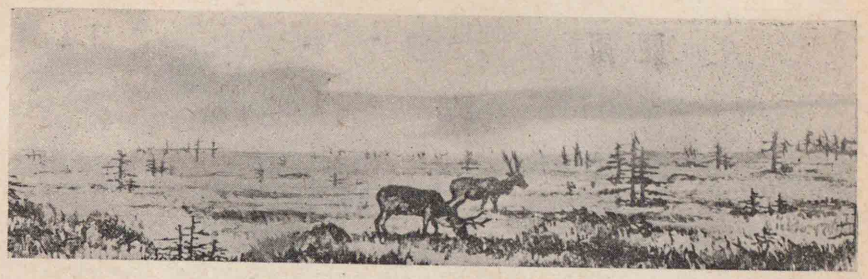
千島　千島は大小二百餘の島々から成り、ソ聯邦・米國等の領土と近いので、軍事上にも交通上にも重視される。土地は耕作に適しないが、近海は水産に富み、又近年養狐が試みられてゐる。擇捉（エトロフ）島の紗那（シャナ）は、列島の主邑で、占守（シュムシュ）島は本邦の最東端に當り、阿頼度（アライト）島は最北端に當る。

第九章　樺太（南部）

附　北樺太

通說

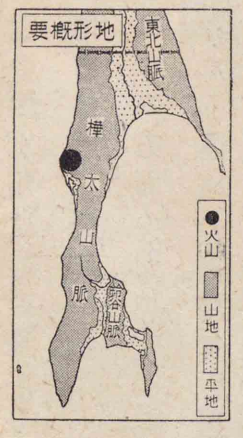
樺太は北海道との間に宗谷海峽を挾み、間宮海峽を隔てて、大



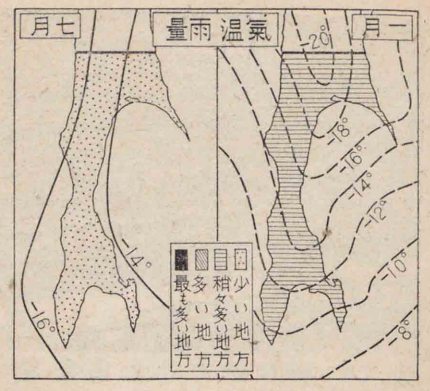
ツンドラは低濕な荒地で苔類が繁り處々に矮樹が見える

陸と對してゐる。明治八年、得撫島以北の千島と交換して、ロシヤの領土となつたが、日露戰役の結果、北緯五十度以南の地を回復し、北樺太に於いても、種々の利權を得た。政治は樺太廳を置き、その下に一市・七支廳がある。

地勢　樺太山脈は、本島の主軸をなして南北に連り、那須火山帶が、その西邊に並走する。この山地の東方は、中央凹地帶を挾んで、東北・鈴谷等の小山脈がある。凹地帶の北部には幌内川が流れ、廣い平野であるが、大部はツンドラと呼ばれる荒地で、馴鹿の放牧地たるに過ぎない。南部は内淵川・鈴谷川等の流域に屬し、近年開拓の歩を進めてゐる。



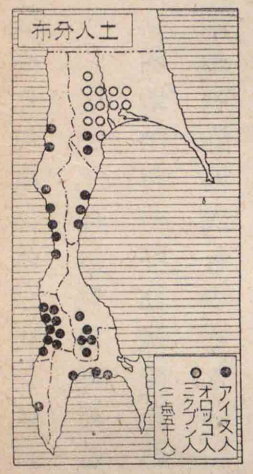
海岸は極めて單調で、東北に北知床岬が出て多來加灣を擁し、南には中知床・西能登呂の兩岬があつて、亞庭灣を抱くに過ぎない。沿

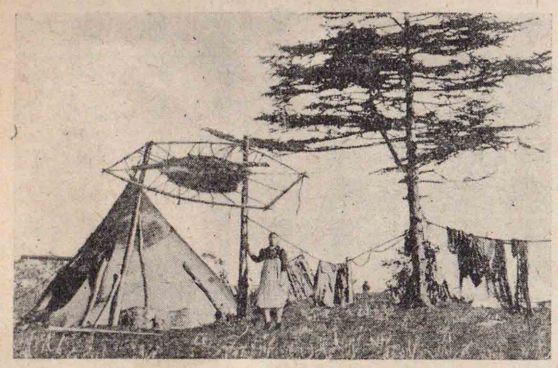


岸には砂嘴の發達が著しく、多來加湖・富内湖等の、大きな潟を抱へてゐる。

氣候　緯度が高い爲に、短い夏と長い冬とあつて、中間期が少く、一年は暖季と寒季とに分れる。本島は近海に寒流が流れ、大陸の影響を受けることも多いので、氣溫は北海道よりも更に低く、冬は海岸の大部分が凍り、南部でも碎氷船を必要とするが、西岸の南部は、暖流の影響により、不凍港もある。

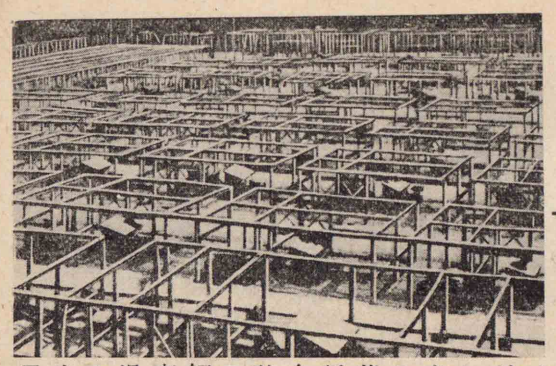
住民　樺太の土人は、僅に二千人内外で、アイヌが最も多く、主として南部に住み、半漁





オロッコ人は多く天幕に近い小屋に住む　干してあるは馴鹿の皮である

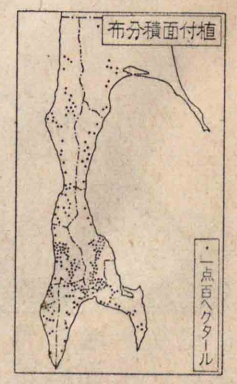
半農の生を營み、その他、少數のオロッコ・ニクブン（ギリヤーク）等が北部に住んでゐる。住民の大多數は內地からの移住民で、その數が年々に增加し、朝鮮移民も少くない。



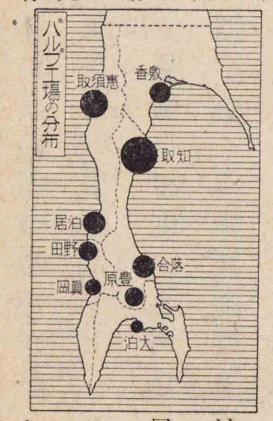
大泊にあるる養狐會社の飼育場の光景

產業　產物は北海道に類し、最初開發を促したのは水產であるが、今は林產とその加工とが、第一の產業となつた。

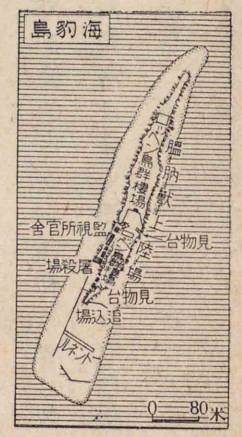
農業　樺太の暖季は、晝間が著しく長いが、濃霧が多いので、農作物は、南部の鈴谷平野と西海岸とに、耐寒性の燕麥・馬鈴薯・豆類・野菜・甜菜等を產するに過ぎない。



林業　全島の約八割は、蝦夷松・椴松・落葉松・白楊等の森林に蔽はれ、木材とパルプは、本島最大の產物である。又北部の林中には、狐・貂（テン）等が棲んで毛皮を供給し、近年養狐も各地に行はれる。



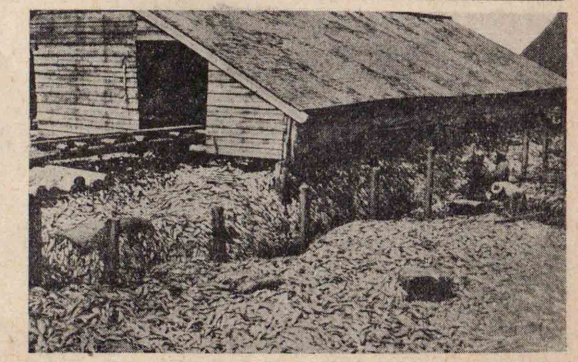
水產業　沿岸の到る處に鰊・鮭・鱒・蟹及び昆布等の採獲が盛に行はれ、夏季には內地から出漁者が多い。又近海には膃肭獸（オットセイ）・海豹（アザラシ）等の海獸が多く、海豹島（カイヘウ）は膃肭獸の蕃殖保護地で、國際條約で濫獲を禁じてゐたが、最近之を解除した。



鑛業　石炭の埋藏は多いが、採掘を許されない處が廣く、大平・川上等の炭田は、重要な產地である。

工業　木材を原料とするパルプ製造と製紙とは、本道の最大產業で、大工場が處々に興り、その他、製材・罐詰製造等の林產・水產の加工が主なもので、新興の都市は、概ね其等の工場所在地である。

商業　商業は、大泊・眞岡の二開港場を中心とし、內地との取引が大泊・落合・知取・眞岡・野田・泊居・惠須取・敷香等



鰊の獲漁たれさ積山に外內の屋納

大部を占め、冬季は本斗(ホント)が繁昌する。

交通　道路は未だ整はず、鐵道も東西の兩岸に稍〻發達したに過ぎないから、冬は一般に橇を利用し、木材の運搬等は、專ら冬に行はれる。海運は北海道と連絡船を通ずる外、夏には近海の航行が便利であるが、冬は海面の大部が凍結し、晩春になつても、尙流氷の障害が多い。通信は無線電信局もあり、又海底電線の連絡もある。

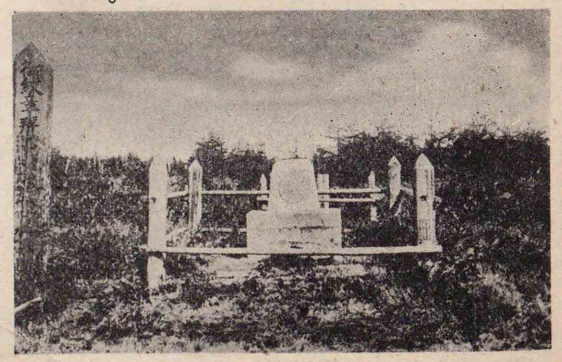
多くの犬に橇を曳かせて雪上を行く

人口と都邑　人口の密度は尙極めて低く、殊に漁業伐材等の爲に、一時的の出稼が多いので、季節的に人口移動の著しいことは、この地方の一特色である。早く開けた聚落は多く漁港で、最近目醒しく發達したのは、パルプ・製紙等の林産工業地である。未だ大都會はないが、稍〻大きい聚落は、街路が正しく、新開地の景觀を示してゐる

樺太文化の中心をなす豐原の市街で街路が整然としてゐる

處誌

亞庭灣に臨む大泊(ドエ)は、本島の門戸で、木材・水産物の集散が多く、又パルプの工場がある。豐原(ヒヨハラ)市は施政の中心地で、附近は開拓が稍〻進み、落合にはパルプ・製紙の工場がある。鐵道は此等の都邑を連ねて、榮濱(サカエハマ)に達する。知取(シリトリ)にはパルプ・製紙の大工場があり、敷香(シクカ)2.7も人絹パルプの工業が行はれ、又毛皮を集散する。



日露の境にあるる四箇の境界標石の一

西岸の眞岡は、漁業の大中心で、蟹罐詰の産が多く、又パルプ工場がある。本斗(ホント)は本島唯一の不凍港で、冬季に於ける重要な門戸である。北方の野田(ノダ)・泊(トマリ)・居(ヲル)・惠須取(エストル)2.6等は、パルプ・製紙の爲に榮える新興の町である。

北樺太　北緯五十度以北は、ソビエト聯邦の領土で、南樺太よりも一層寒く、人口の密度も低い。近海は水産が豊で、邦人の出漁してゐるものも多く、陸には木材・毛皮獸を産する外、鑛物の埋藏が多く、ヅイの石炭、オハの石油等は、我が國でも採掘してゐる。

第十章　臺灣

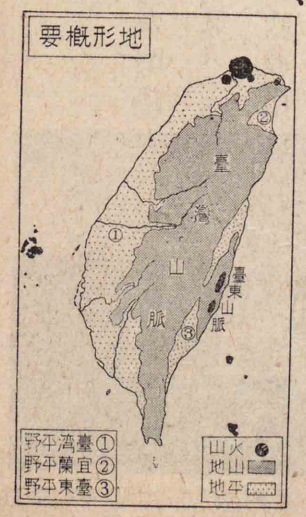
通說

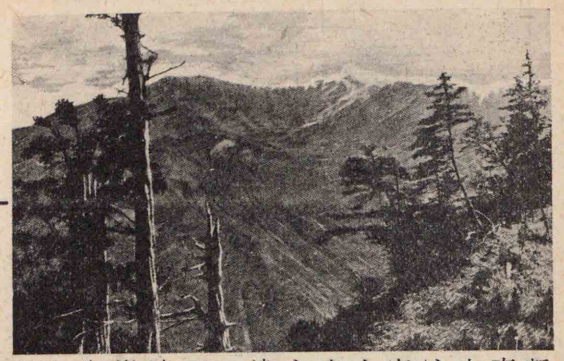
日清戰爭の後、我が領土となつた處で、西は臺灣海峽、南はバシー海峽を隔てて、支那及びフィリピン群島と對し、我が南方發展上、重要な地點を占める。行政は、總督府の下に、五州・三廳がある。

臺北州（臺北）
新竹州（新竹）
臺中州（臺中）
臺南州（臺南）
高雄州（高雄）
臺東廳（臺東）
花蓮港廳（花蓮港）
澎湖廳（馬公）

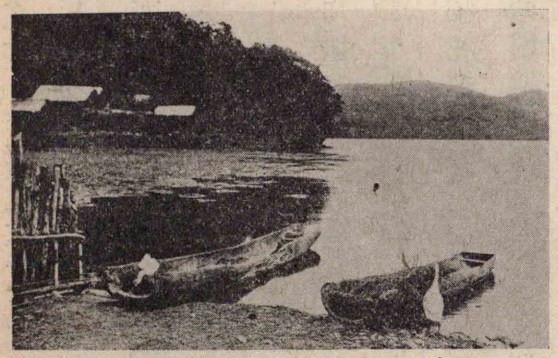
基隆灣附近・高雄附近及び澎湖諸島は要塞地帶である

地勢　本島は中央山地と東・西の兩斜面に分れる。中央山地は臺灣山脈の連る處で、新高山・次高山等の高

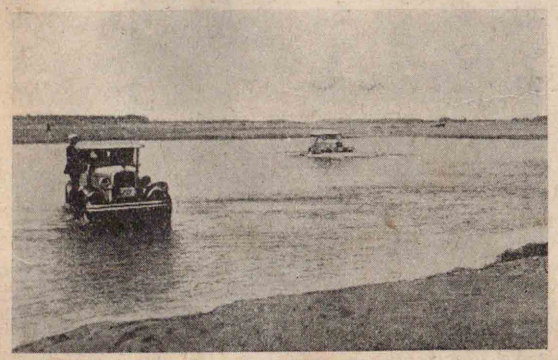




新高山が並び聳え、北端は山地が二派に分れて、三角形の宜蘭山平野を挾む。西斜面は廣い臺灣平野で、處々に砂礫の臺地が擴がり、北端に大屯火山群がある。この方面には、淡水富士山・大甲溪・大肚溪・濁水溪・下淡水溪等の大河も少くないが、と違つて、流に廣い磧を作つて、連嶺を數多に分多くは山地から急に平地に移る爲、屢〻洪水を起し、且下流す



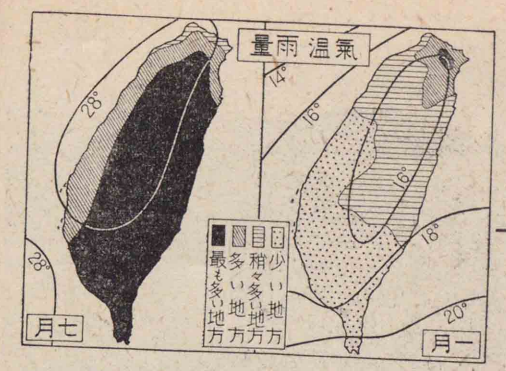
川に橋がなく水中を疾走する自動車



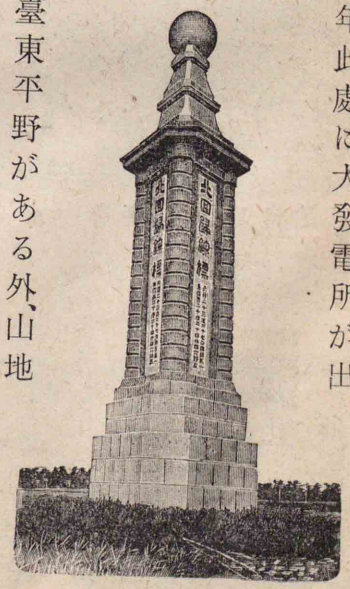
日月潭は勝地で岸には蠻歌も聞える

河・下淡水溪の外は、殆ど舟楫の便がなく、架橋も困難で、著しく交通を妨げる。山中にある日月潭

は、風景がよいので名高く、近年此處に大發電所が出來た。海岸は單調な上に、極めて遠淺で、砂嘴や潟が發達して良港に乏しく、臺灣海峽には澎湖諸島がある。東斜面は、臺東山脈との間に、細長い臺東平野がある外、山地が直に海に迫り、斷崖をなす處が多く、屬島も少い。川は卑南大溪・秀姑巒溪・花蓮溪等が、稍〻著しいものである。



氣候　北回歸線が略〻中央を通じ、島の南半は熱帶に屬してゐるから、一般に氣溫が高く、平地では殆ど霜雪を見ることがない。夏が長くて冬は短く、四季の變化は殆どないから、植物は年中發育して、低地には栁耀・籐・檳榔樹・榕樹・林投樹・椰子樹等の熱帶植物が茂り、中央山地では、高度に應じて、各帶の植物景觀が見られる。一年は乾・雨の二季に分れ、北部は北

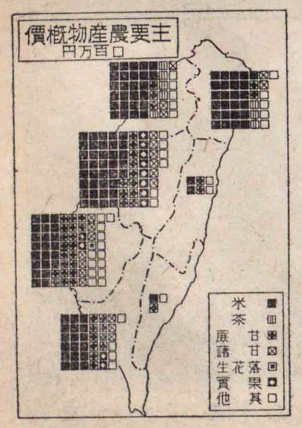


嘉義附近の北回歸線標

銃や刀を持つて狩猟に行く生蕃

東季節風の爲に冬が雨季で、基隆附近は全國最多雨の地といはれるが、南部は之と反對に、夏が雨季である。

住民　原住民はマレー族の高砂族であるが、支那から移住した漢民族が土着し、今はその子孫（本島人と呼ぶ）が、全住民の約九割を占め、主に西部の平野に住んで、專ら農・商を營み、經濟上に勢力がある。高砂族には、本島人の感化を受け、農耕を主とする熟蕃と、山間にあつて、原始的生活を營む生蕃とある。生蕃には種々の蠻風もあつたが、文化の惠澤を受けて、著しく移俗された。內地人の居住は二十八萬餘で、數に於いては多くないが、大部分は指導階級に屬する。



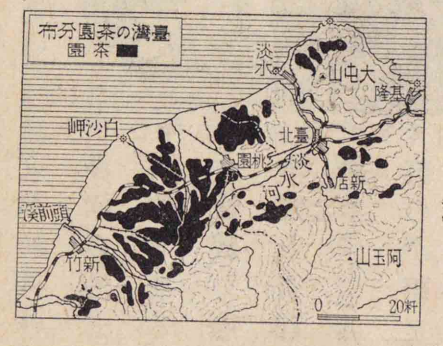
產業　農業及び農產物の加工を主と

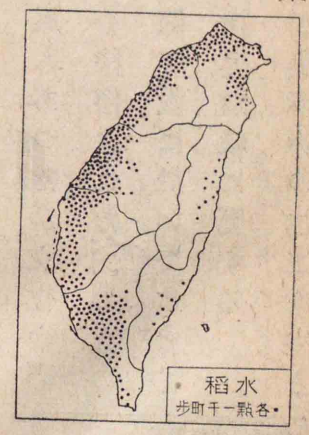
舊時は粗糖の儘で移出したが近年糖業が發達し精糖の移出が多くなつた

するが、他の産業も、一般に著しい進歩を示すに至つた。

農業 臺灣平野には、水利の不便な荒地もあつたが、近年埤圳（ヒシウ）（溜池及び疏水）工事によつて、大いに耕地を増し、農法も次第に改善された。農産物は米・茶・甘蔗・甘藷等を主とし、落花生・麻類・煙草等の産額も多い。米は全島に産し、中部の産額が最も多く、品種も改良されて、内地への移出が頗

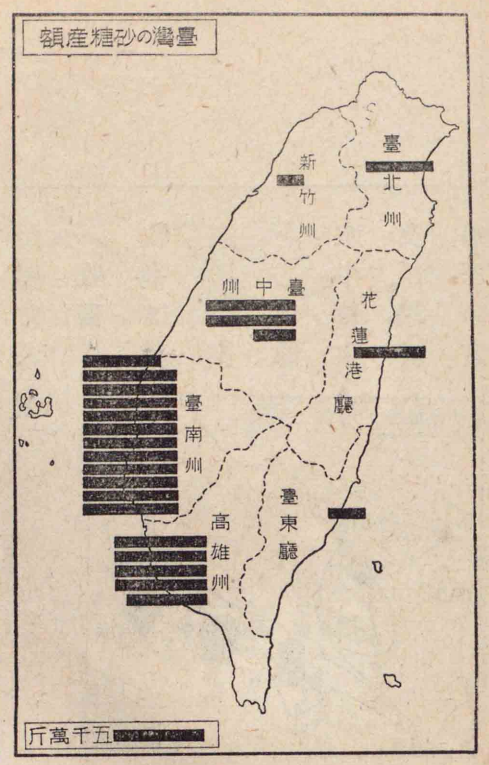
茶は一年に十數回の摘葉が出來る

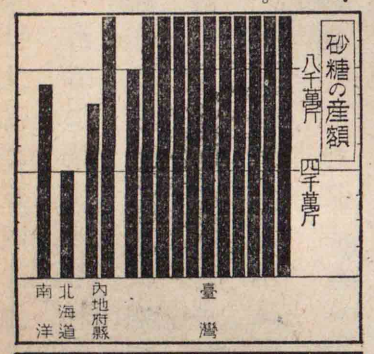


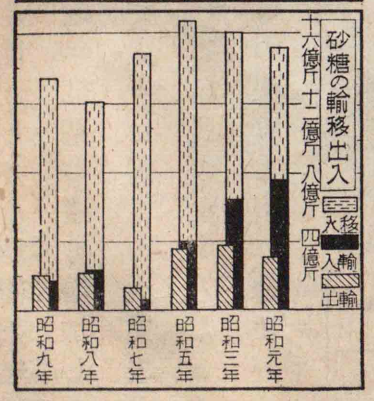


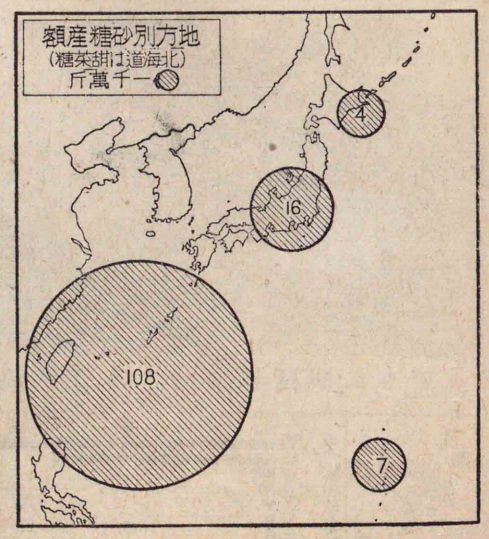
刈取つた稻をその場で桶へ脱穀する

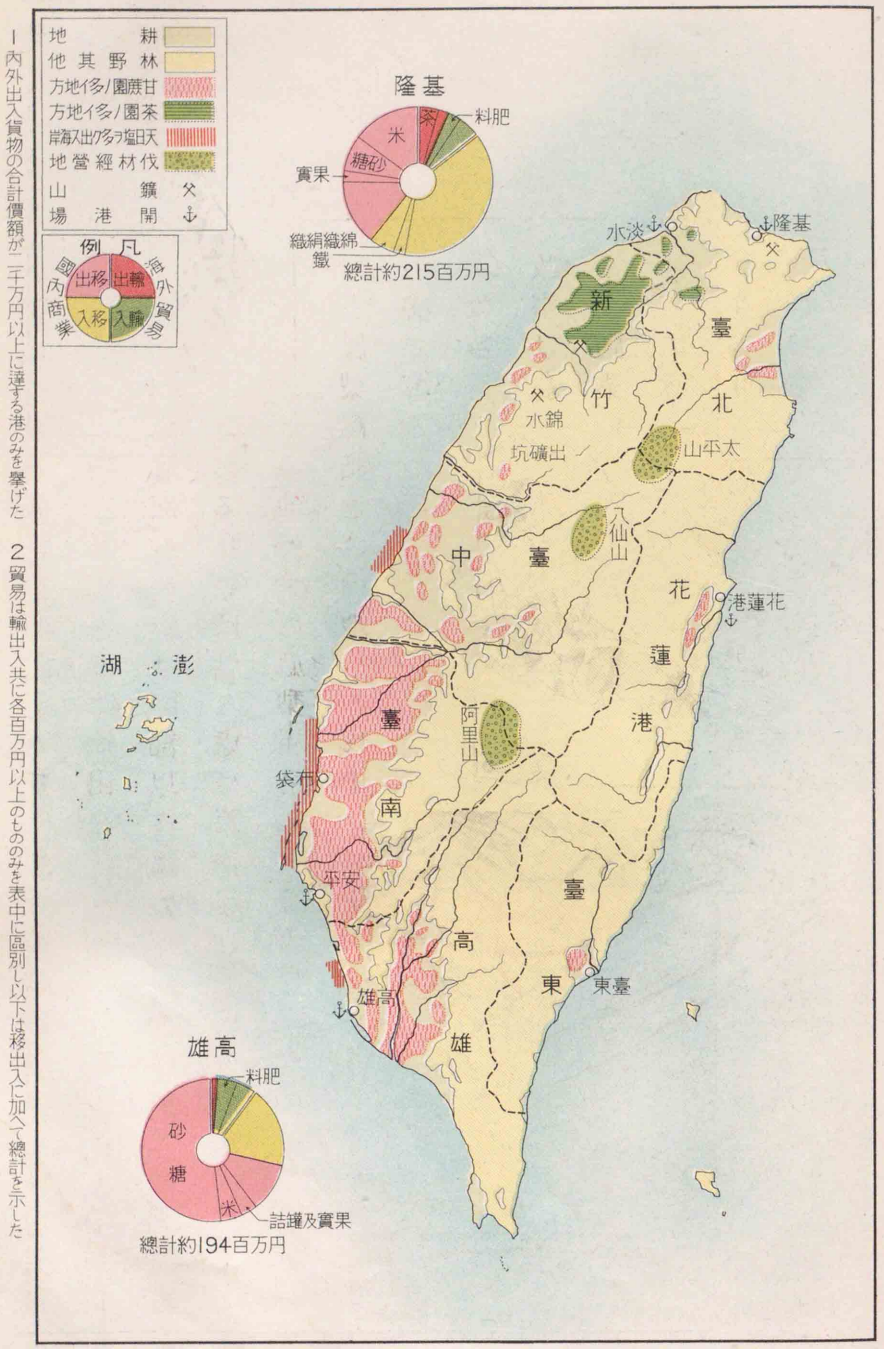
日本の糖業 往時は砂糖といへば、大部が輸入品であつたが、臺灣の製糖業が發達して、自給の域に達した。砂糖の産地は、臺灣が第一で、全額の約八割を産するが、この他沖繩・薩南諸島から約一割を出し、北海道には甜菜糖の産出があり、近年南洋群島も砂糖の産額を増進してゐる。



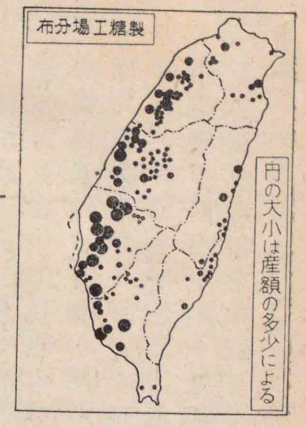






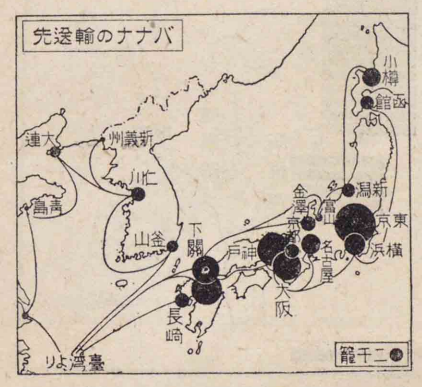


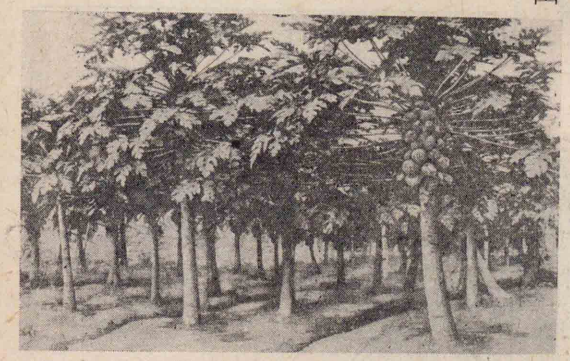
1 内外出入貨物の合計價額が二千万円以上に達する港のみを擧げた　2 貿易は輸出入共に各百万円以上のもののみを表中に區別し以下は移出入に加へて總計を示した



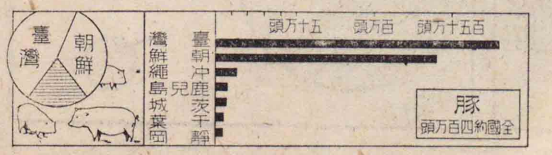
る多い。茶は北部の丘陵を主産地とし、多く烏龍茶(ウーロン)・包種(パウシュ)茶として海外に輸出せられ、近年紅茶の産も増加した。甘蔗の耕作は、中部以南に盛で、處々に製糖の大工場がある。甘藷は到る處に耕作されて、島民の食用となる。その他、バナナ・鳳梨(パインアップル)・柑橘類・木瓜(パパイヤ)等の果實に富み、殊にバナナと鳳梨罐詰とは、内地への移出が盛である。

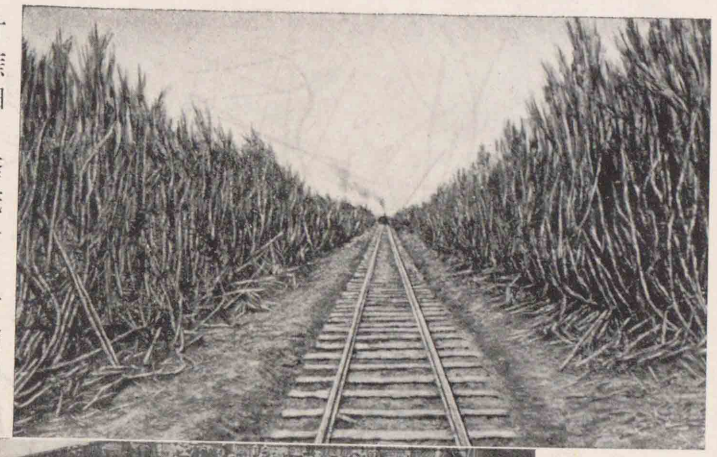
牧畜　牧畜は農家の副業として、豚・水牛・黄牛及び鶏・家鴨等の家



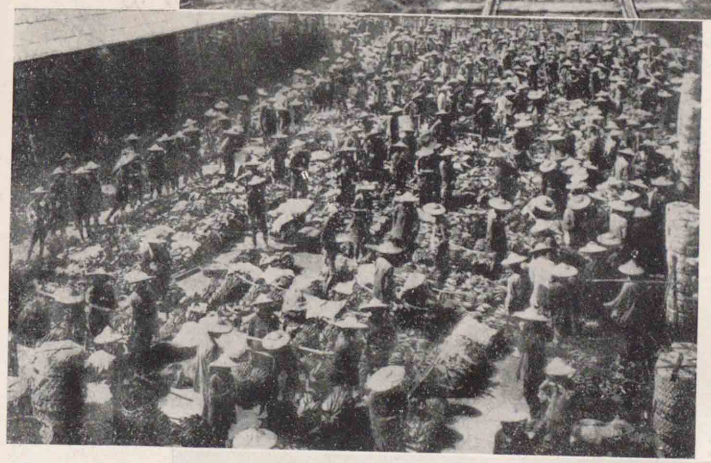


木瓜園(果實は生食し鹽漬にもする)



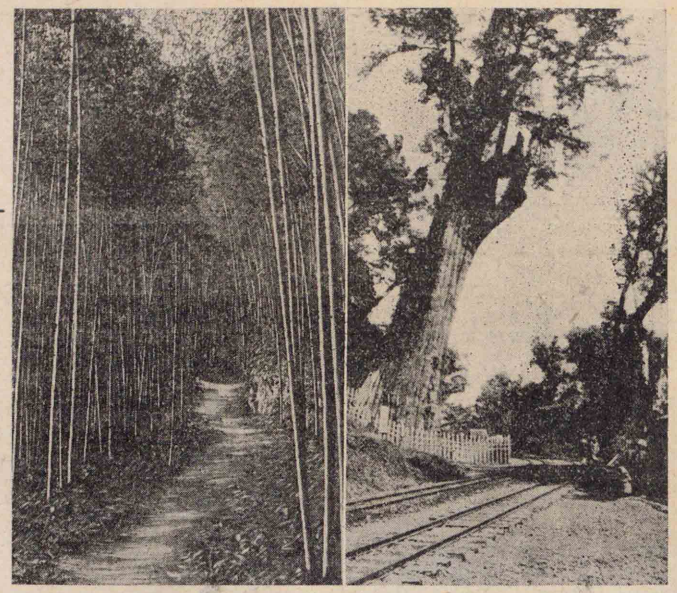


甘蔗畑　繁茂せる甘蔗畑と甘蔗の光景で鐵道は收穫した甘蔗を製糖工場に運搬する專用線である



バナナの市場　バナナは臺灣の代表的果實で內地その他への積出が甚だ多い

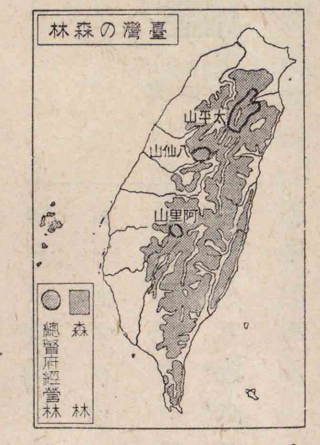
水牛の群　溫順で粗食に堪へ極めて水浴を好む性がある力が强く農耕・運搬に使役される



阿里山神木と呼ぶ老樹　低地に茂る竹林の光景

仙山・太平山等では、伐材が盛に行はれ、殊に阿里山は、檜・紅檜（ベニヒ）等の良材を產し、嘉義に壯大な製材所があつて、山地と森林鐵道を通農耕・運搬に使役される。

林業　森林は濫伐の爲に、平地に近い處には少いが、山地には尙原生の美林が殘り、阿里山・八



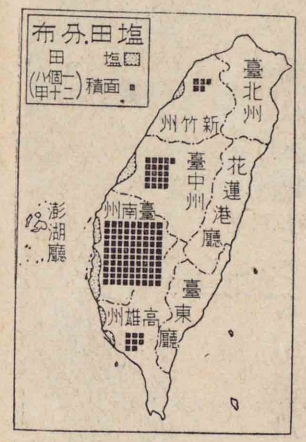
禽を多く飼つてゐる。殊に豚は、殆ど各戶に飼育されて食料となり、水牛・黃牛は、廣く

樟腦の製造小屋卽ち腦寮である

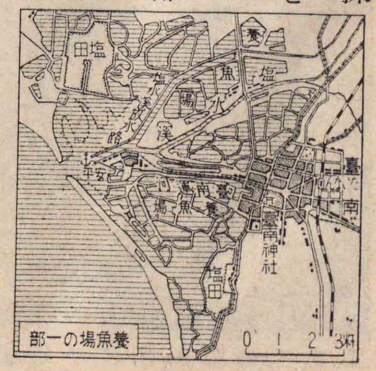
ずる。この邊には竹材の産も多い。樟樹から採る樟腦は、本島の特産で、世界需要額の大半を供給する。

水産業　水産業は近年大いに發達し、北部では鰹・旗魚(カヂキ)・鯛等の漁獲が多く、鰹節の産出が盛である。西海岸の潟は、多く鹹水魚類(鰡・蝦・蟹等)の養殖に利用せられ、又廣い鹽田があつて、天日製鹽が盛に行はれる。

出來た鹽が山のやうに積まれてゐる



鑛業　鑛産は基隆附近の石炭を第一とし、金・瓜・石・瑞・芳(キンクワセキスヰハウ)からは金銅を産し、大屯山は硫黄を出す。石油も多望であるが、現に採油されてゐるのは、出磺坑のみで、錦水にはガソリンの工場がある。



養魚場の一部

樟腦・阿片・煙草・酒・鹽は總督府の專賣に屬してゐる

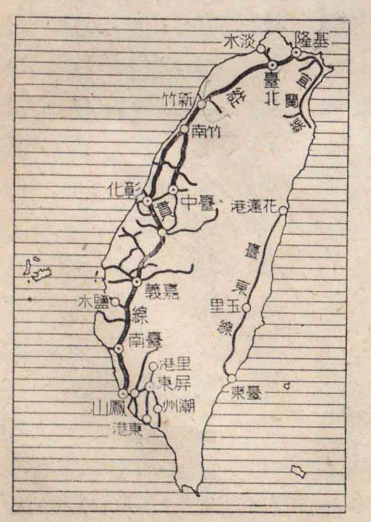
後龍・鹿港・東石は特別開港場である

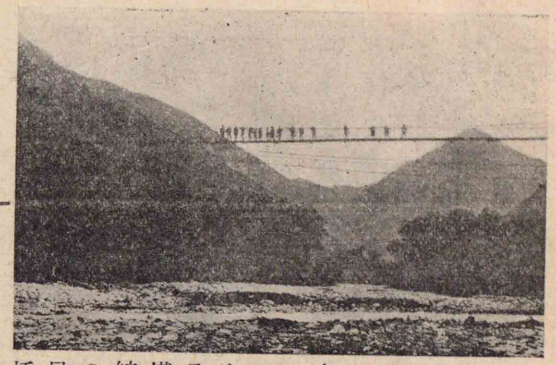
1	基隆・高雄間	2	臺北・淡水間	3	嘉義・沼ノ平間
4	高雄・潮州間	5	基隆・蘇澳間	6	臺東・花蓮港間

工業　工業は製糖・製茶・製腦等の如き、農産・林産の加工を主とし、近年製粉・セメント・罐詰等の工業も行はれる。その他は專賣局の事業として、酒・煙草等が製造される外、帽子・蓆(ムシロ)・竹細工・籐細工等の手工品がある。

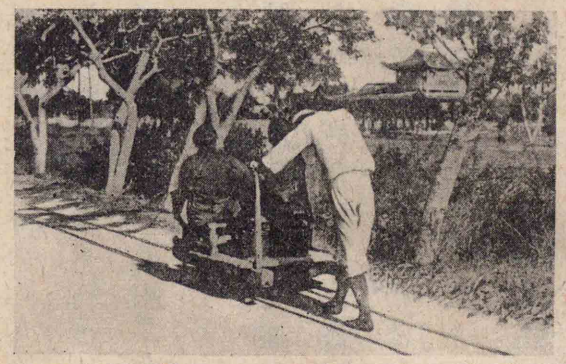
商業　商業は內地との取引が最も盛で、砂糖・米・果實等を移出して、織物・肥料等を移入し、對外貿易では、茶・精糖・水産物・樟腦等を輸出して、肥料・大豆等を輸入する。基隆・高雄は內外に對する二大商港で、淡水・安平(アンピン)・花蓮港も開港場である。又支那型船に限り、取引を許す特別開港場も三ヶ所ある。

交通　道路は循環線の開通を見たが、一般には尙不便な處が多い。西部平野は、鐵道網が割合に密で、南北に通ずる縱貫線[1]があり、淡水[2]・阿里山[3]・潮州等の支

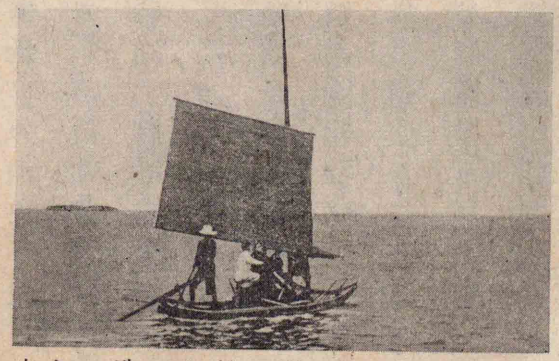




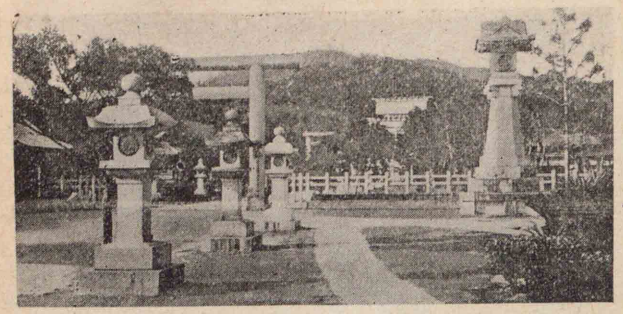
山地の線を始め、主として製糖會社の經營による多數の私設線が之と連絡し、東部には宜蘭線[5]・臺東線[6]が通じてゐる。又臺谷溪に架つてゐる鐵線の吊橋車と呼ぶ簡易軌道(ディ)が、處々に設けられてゐる。海運は基隆・高雄を中心として、内地及び支那との往來が繁く、近年南洋等とも航路を通じ、沿岸には戎克(ジャンク)・竹筏(チップパイ)等も用ひられる。航空路は島内循環の外、内地及び支那と通じ、通信機關も内地・支那等と結ぶ海底電線があり、無線電信局も處々にある。



臺車は内地の人力車類にしてゐる



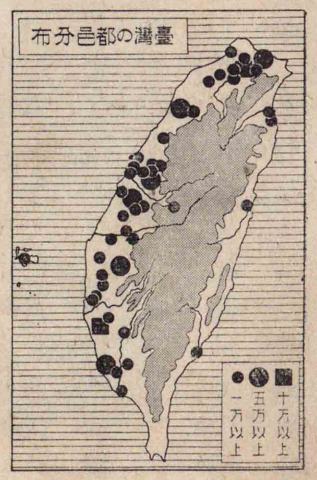
竹筏は竹を列べ籐で結んで造つた舟



臺北に臺北帝國大學がある

大國魂命・北白川宮等を奉祀せる臺灣神社

人口と都邑 人口は割合に稠密で、生産力の豐な西部平野に集中し、都邑もこの方面に多い。領臺前からの都邑には、城壁を繞らしたものもあつたが、今は新興の都邑と共に、街區が著しく改築されて、内地の大都市に比し、遜色のないものもある。東部平野には、農村的景觀を備へる聚落が多く、處處に内地風の村落も見られる。



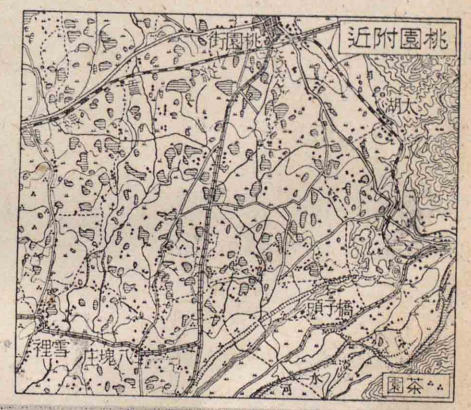
處誌

西部平野 臺灣の主要部で、北部(臺北・新竹)・中部(臺中)・南部(臺南・高雄)に分れる。北部は茶の主産地で、鑛産の大部もこの地方から出る。基隆[8]市は内地に對する主要の門戸をなし、島内第一の商港である。臺北[27.4]市は本島の首都で、政治・經濟・學術等の機關が備り、製茶・製腦等の工業が盛に行はれ、北部に

多數の婦女が帽子を編んでゐる

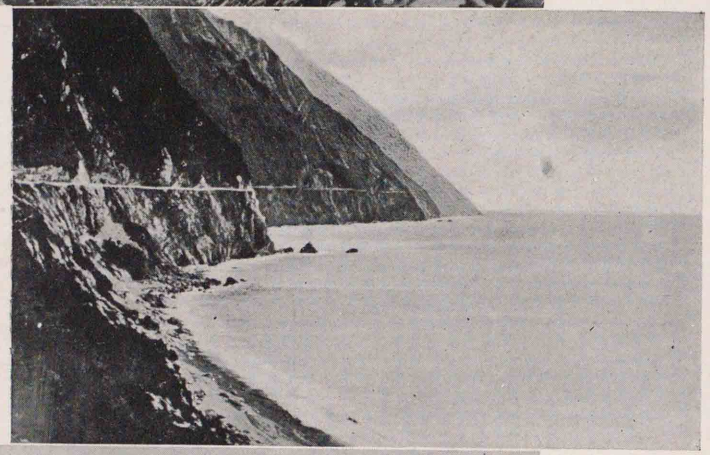
臺灣神社がある。淡水は支那に對する要地を占め、附近に北投・草山等の溫泉場がある。宜蘭平野の宜蘭は、平野の物資を集散し、蘇澳（ソアウ）はその門戸で、漁業の一中心である。縱貫線に沿ふ桃園（タウエン）は、製茶の大中心で、附近は溜池と水田と茶畑とが群集し、特色ある景觀をなす。新竹市は樟腦・柑橘（キツ）類を集散し、苗栗は樟腦の集散地である。

中部は米・果實等を多く出し、豐原は米の集散地で、大甲は筵（ムシロ）・帽子等の特産を出す。臺中市・彰化（シャウクワ）市は、共に農産物集



淡水の河岸から眺めた大屯火山群

濁水溪　古來屢〻氾濫に苦しめられたが今では防水工事が圖のやうに嚴になつた



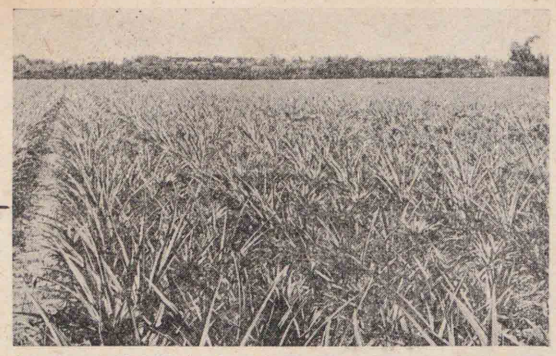
臺灣の東岸　數里に續く斷崖の中腹に一條の通路が絲のやうに見える

蕃人の村　臺中州にあるタイヤル族の蕃社で高く設けたのは望樓である

臺北の市街　兩側には三階造の建物が整然と並び近代的の都市美を示してゐる

臺中の街路　本島人の居住が多い所で家屋の築造が熱帶風である

臺南の市街　島内の古都で新開の街路の外は家屋その他に尙舊態が殘つてゐる

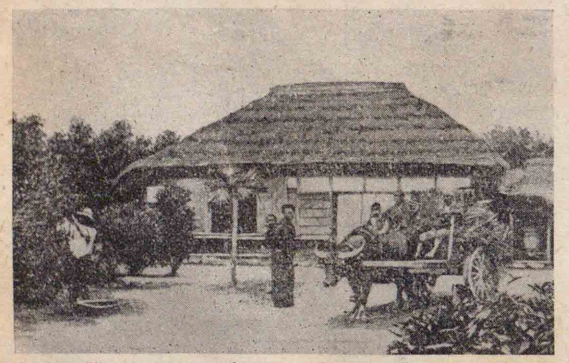


鳳梨園の中心地で、鹿港は支那風の殘る町である。埔里は盆地で、製糖工場がある。

南部は甘蔗園の多いのを特色とし、極南地方は熱帶的の景觀が著しい。嘉義市は阿里山を控へて、製材が盛に行はれ、臺南市は早く開けた處で、永く本島の主邑であつたが、今も南臺灣の中心都會で、製糖業が盛である。安平は市の一部で、附近に養魚場や鹽田が多い。高雄市は新興の港市で、街衢がよく整ひ、造船所や實業學校の多いのを特色とし、極南地方は熱帶的の景觀が著しい。嘉義市は阿里山を控へて、製材が盛に行はれ、臺南市は早く開けた處で、永く本島の主邑であつたが、今も南臺灣の中心都會で、製糖業が盛である。安平は市の一部で、附近に養魚場や鹽田が多い。高雄市は新興の港市で、街衢がよく整ひ、造船所や實業學校の多いのを特色とし、極南地方は熱帶的の景觀が著しい。嘉義市は阿里山を控へて、製材が盛に行はれ、臺南市は早く開けた處で、永く本島の主邑であつたが、今も南臺灣の中心都會で、製糖業が盛である。安平は市の一部で、附近に養魚場や鹽田が多い。高雄市は新興の港市で、街衢がよく整ひ、造船所や實業學校の多いのを特色とし、極南地方は熱帶的の景觀が著しい。嘉義市は阿里山を控へて、製材が盛に行はれ、臺南市は早く開けた處で、永く本島の主邑であつたが、今も南臺灣の中心都會で、製糖業が盛である。安平は市の一部で、附近に養魚場や鹽田が多い。高雄市は新興の港市で、街衢がよく整ひ、造船所や實業學校の多いのを特色とし、極南地方は熱帶的の景觀が著しい。嘉義市は阿里山を控へて、製材が盛に行はれ、臺南市は早く開けた處で、永く本島の主邑であつたが、今も南臺灣の中心都會で、製糖業が盛である。安平は市の一部で、附近に養魚場や鹽田が多い。高雄市は新興の港市で、街衢がよく整ひ、造船所や實業學校の多いのを特色とし、極南地方は熱帶的の景觀が著しい。嘉義市は阿里山を控へて、製材が盛に行はれ、臺南市は早く開けた處で、永く本島の主邑であつたが、

砂糖・米等を集散し、鳳山は鳳梨の罐詰を出し、屏東市には製糖の大工場がある。恒春は我が國最南の都邑である。

臺東平野　開拓の最も新しい處で、熟蕃の農耕に從事するものが多く、內地人の農



內地人の居住せる臺東平野の豐田村

澎湖諸島は風が強く水が少く植物の發育が十分でない從つて島内には喬木がない

村も處々に開け、本島人は割合に少い。花蓮港と臺東とは、この地方の門戸である。

澎湖諸島　低い熔岩臺地が、數多に分れたもので、澎湖・白沙・漁翁（ギヨウヲウ）の三島が、相對して澎湖灣を抱く。灣内の馬公は、國防上の要地に位し、海軍要港である。

新南群島　遠く西南の南支那海中に位し、面積約一方粁半の珊瑚礁群であるが、燐礦を產し、且軍事上の要地で、高雄市の管理に屬する。

第十一章　朝鮮

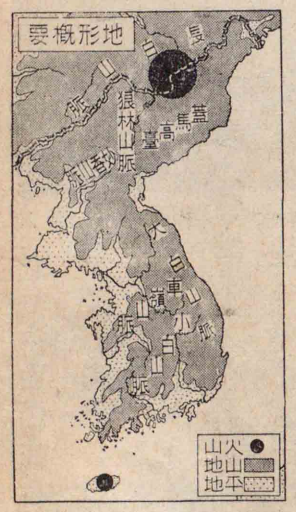
通說

日本海と黃海との間に突出する大半島で、北は滿洲國及びシベリヤと境を接し、國防上重要な處である。我が内地とは、遠く神代の昔から往來があり、その後も關係は密であつたが、明治四十三年、終に我が國に併合するに至つた。行政は總督府の統轄に屬し

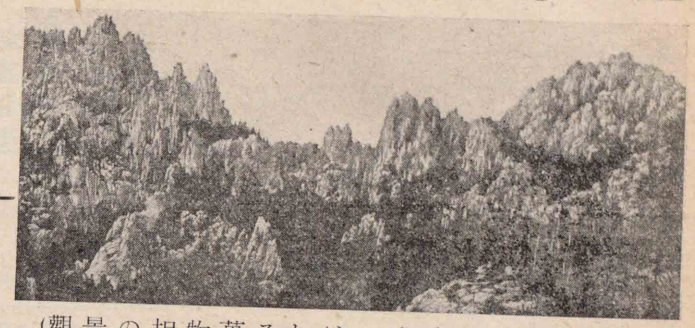
慶尙北道	釜山	黃海道	海州
慶尙南道	大邱	江原道	春川
全羅南道	光州	咸鏡南道	咸興
全羅北道	全州	咸鏡北道	羅南
忠淸南道	大田	平安南道	平壤
忠淸北道	淸州	平安北道	新義州
京畿道	京城		

その下に十三道があり、各道に知事を置いて治めてゐる。

地勢　地形上、南・北の二部に分れる。北朝鮮は、概して土地が高く、長白山脈が國境に連り、その脈中に噴起した白頭山（ペクトサン）は、半島第一の高山で、頂上に火口湖の天池（龍王潭）を湛へ、その南には廣い蓋馬高臺（ガイマ）や、妙香・狼林（メウカウ・ラウリン）等の山脈がある。南朝鮮では、主分水嶺の大白山脈が、著しく東に偏して走り、小白・車嶺等の小支脈が西南に走つて、到る處に低山性の起伏が



長白山脈の一部（右方に高く峙つは冠帽山）



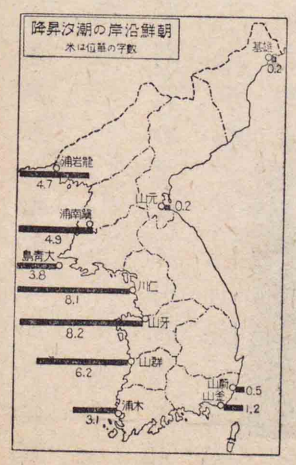
金剛山(奇中の奇といはれる萬物相の景觀)

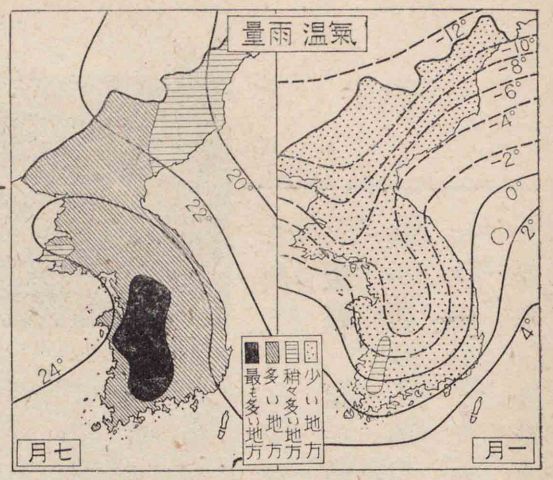
鎭海灣・永興灣及び羅津附近は要塞地帶である

の便が割合に多い。

東部の海岸は一帶に單調で永興灣(エイコウワン)・迎日灣(ゲイジツワン)の外、海上の鬱陵島(ウツリヨウトウ)を見るに過ぎないが、南岸から西岸にかけては、山脈の餘勢を受けて、濟州島(サイシユウトウ)・巨濟(キヨサイ)大多い。大白山脈の北部には、岩石の奇同江景で名高い金剛山があり、朝鮮第一と河の勝地といはれる。

日本海斜面卽ち裏朝鮮には、豆滿(トマン)江の外に大河はなく、沿岸平野も少洗濯(カウ)をしいが、表朝鮮には、我が國最大の鴨綠て江を始め、清川江・大同江・漢江・錦江・榮ゐる山江等が流れ、南斜面の洛東江(ラクトウ)と共婦人に、その流域に平野を開き、舟楫・灌漑



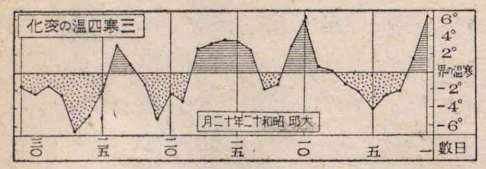


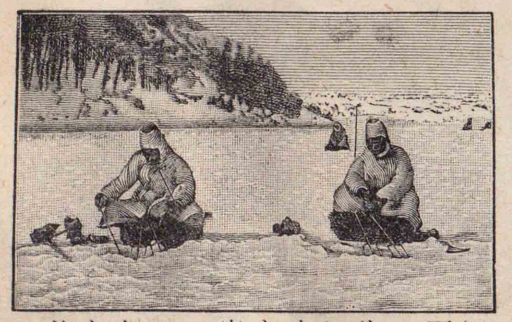
元山の高極は三十九度六分、中江鎭の低極は零下四十一度六分になつたことがある

島を始め、數多の島嶼や海灣が錯雜し、その一部は朝鮮多島海(ちようせんたとうかい)と呼ばれる。東海岸では潮汐干滿の差は少いが、西海岸は一般にその差が著しく、中には十米に餘る處もある。

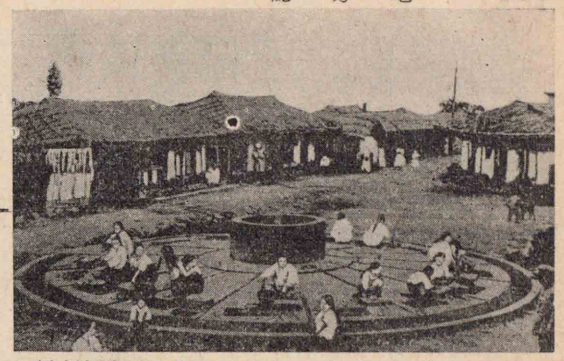
氣候　南部の海岸地方は、中國・九州等に似てゐる處もあるが、大部は大陸性で、北上するにつれて寒暑の差が益〻烈しくなり、中部以北では、冬季に河面が厚く凍り、車馬はその上を往來する。

併し三寒四溫と呼ぶ氣溫の變化があり、寒暖が數日毎に交替するので、割合に凌ぎ易い。雨量は南部・西部の外は、一般に少いが、夏秋の頃には、屢〻





河面の氷に穴を穿つて魚を釣る



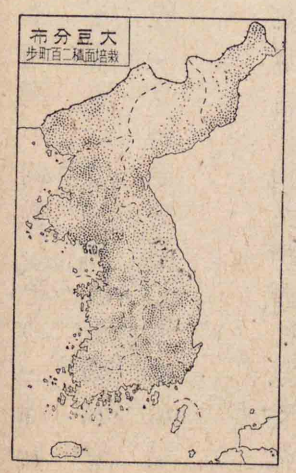
朝鮮人の村落で中央は共同洗濯所

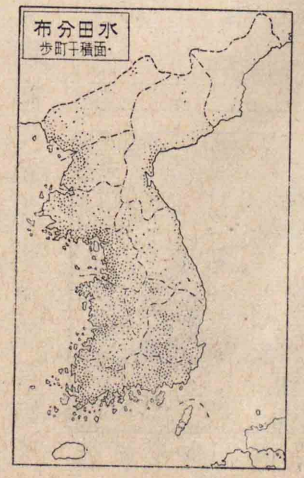
豪雨があつて、時に洪水を起すことがある

住民　大部分が朝鮮民族で、內地人の移住は約六十萬に過ぎない。朝鮮民族の間には、もと階級制度があつて、職業を世襲したが、今は殆ど改善された。文字も、上流社會では漢文を用ひ、一般には諺文（オンモン）が行はれてゐたが、近年國語の普及が著しく、大學を始め、各種の學校が設けられて、殆ど內地同樣の教育が施されるやうになつた。

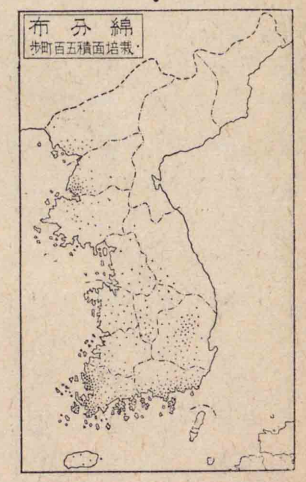
產業　我が國に併合以來、各種の產業が著しく面目を改めたが、改善の餘地は尙少くない。

農業　農耕はこの地の主業で、米・麥



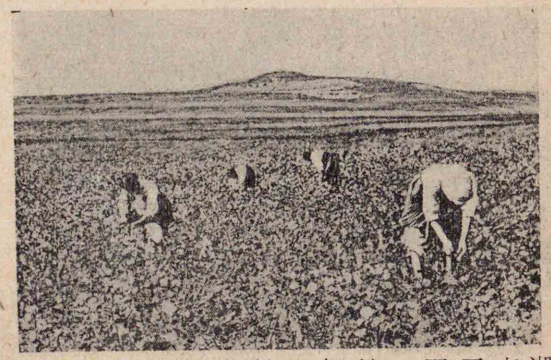


類・粟・大豆・綿・煙草等の產額が多い。米は西部・南部の平野を主產地とし、內



大邱地方から箱詰苹果を積出す光景

地への移出も頗る多く、近年淺海を干拓し、水田の增加を計つてゐる。麥・大豆・粟等は、各地から產し、殊に大豆は、內地への移出も多い。綿作は年々著しく改善せられ、西部・南部は、その耕作が殊に盛である。果樹の栽培も處々に行はれるが、洛東江流域の苹果は最も名高く又人蔘は、古來この地の



湖南平野の綿畑で綿を摘採中の農民

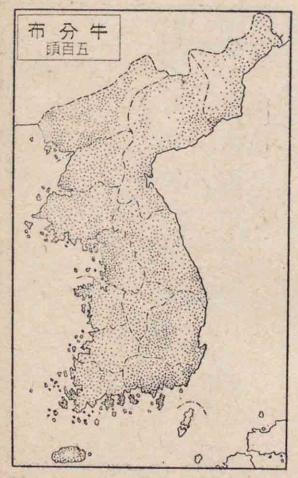
内地に輸送する繭を牛車で運ぶ光景

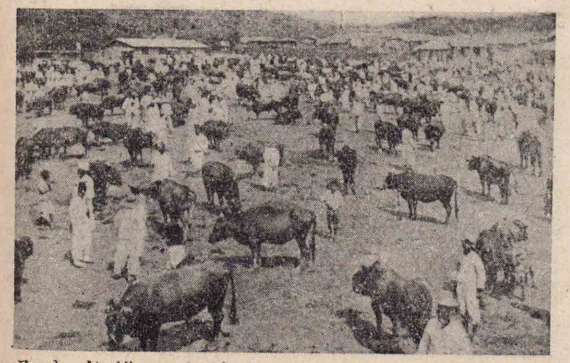
特産である

養蠶も農家の副業として次第に發達し、製絲の工場も出來たが、繭の内地移出が少くない。

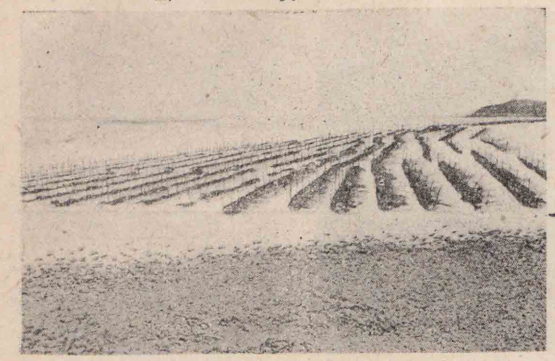
牧畜 大抵の農家では、副業として、牛・豚・鷄等を飼つてゐる。殊に牛は、殆ど全道に擴がり、牛皮を產する外、駄用・肉用として内地へも移出される。

林業 林野は多年の濫伐によつて荒廢してゐたが、近年植林に心を用ひ、漸く林相を一變するに至つた。伐材の盛なのは、鴨綠江・豆滿江の上流地方で、松・樅等の良材を





朝鮮牛の市場で人と牛とで雜沓する

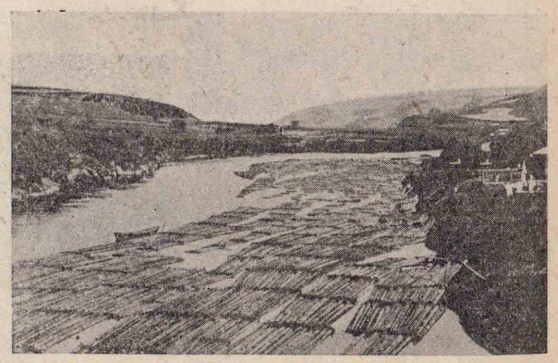


海岸の淺瀨を利用した海苔の養殖場

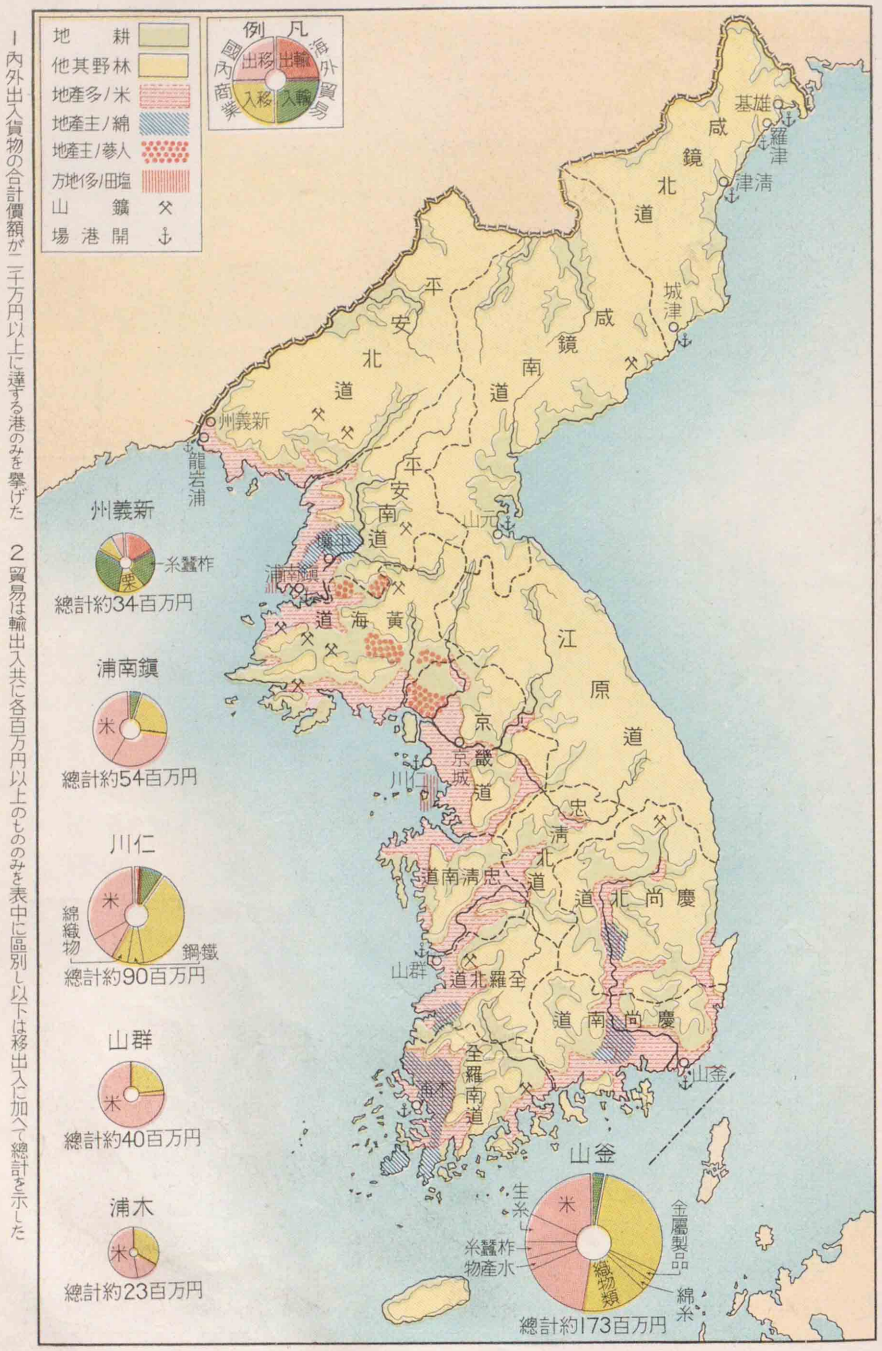
出し、新・義・州は木材集散の大中心である。

水產業 沿岸は魚族に富み、西岸の石首魚と、東岸の明大魚・鯨等は殊に名高く、南岸には鯛・鱈・鱒等が多い。釜・山・蔚・山・灣・濟・州・島等は、漁業の重要な根據地で、中國・九州方面からの出漁者も頗る多い。又西海岸では、廣・梁・灣・朱・安を中心として、天日製鹽が盛であり、南部では海苔の養殖が行はれる。

鑛業 鑛物の埋藏は頗る豐で、雲・山・大・楡・洞・金・堤等の金・利・原・下・聖・載・寧等の鐵、平・壤・附近の石炭は殊に名高く、その他、處々から黑鉛を出す。鐵鑛



鴨綠江の繫筏所へ上流から集つた筏



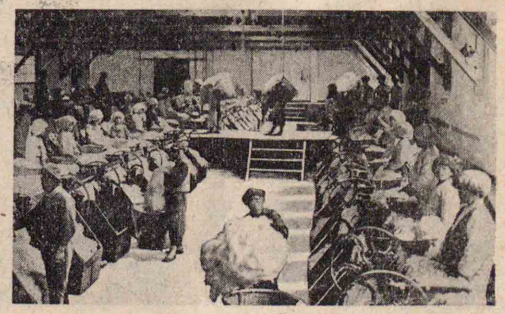
1 內外出入貨物の合計價額が二千万円以上に達する港のみを擧げた　2 貿易は輸出入共に各百万円以上のもののみを表中に區別し以下は移出入に加へて總計を示した

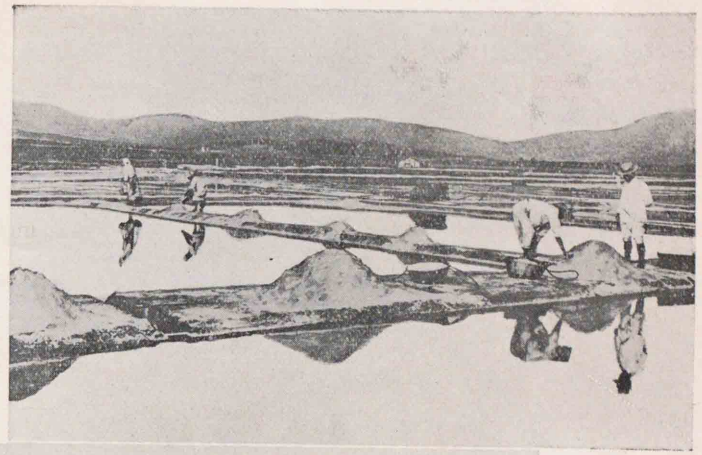
は、多く內地の製鐵所に送られる

工業　工業も近年その緒を開き、內地人の經營による新式工場が處々に勃興し、紡績・製鐵・製紙・製材・製粉・化學工業等には、大規模のものがある。又在來の產物では、織物・陶器・紙等の白手工品が主なものである。

商業　內地商業は、處々に定期市の開かれるのが特色で、大邱の大市は、最も著名であつたが、近年常設の店鋪取引が次第に發達した。貿易は、內地から多くの加工品を移入して、米・大豆・綿・金・鐵等を移出する外、滿洲國・支那等との取引も頗る多く、釜山・仁川は、內外商業の二大門戶である。その他、雄基・羅津・清津(セイシン)・城津・元山・木浦(モッポ)・群山・鎭南浦・新義州・龍巖浦(リュウガンポ)・多獅島(ユウキ)・海州等の開港場がある。

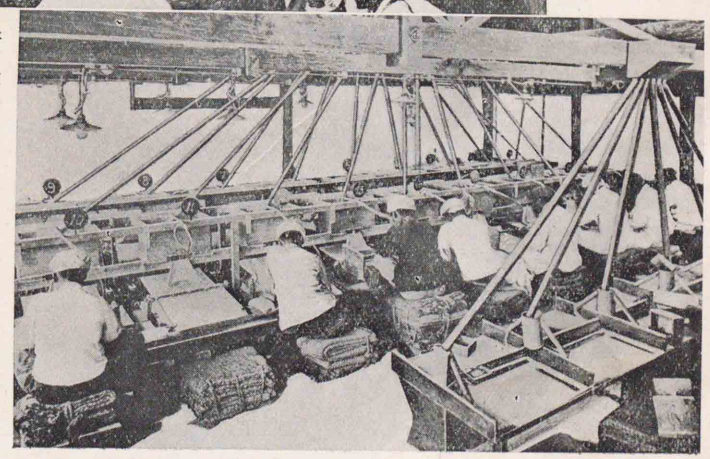
大邱の人々で路を埋めた衣市


木浦にある繰綿工場の內部である



廣梁灣の鹽田　朝鮮第一の官營天日鹽田で年々の製造高は一億萬斤に上るといはれる

砂金採集　砂金の採集は舊來の採掘人夫による外近年ドレッジャーと呼ぶ機械採集が行はれる



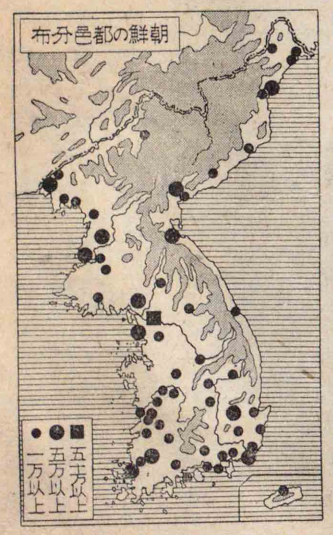
精米所　米の群山といはれる位で米は輸移出の大部分を占め從つて市内に精米工場が多い

1 京城・釜山間
2 京城・安東間
3 京城・元山間
4 元山・清津間
5 清津・南陽・羅津間
6 大田・木浦間

の諸線と共に、滿洲國の鐵道と連絡する。その他、西部の湖南線・滿浦線等は、東部の東海線と共に重要な線路である。

海運は鐵道連絡船の外、內地及び隣國との航通が繁く行はれ、殊に西部・南部は良港に富み、水陸共に交通が便利である。無線電信局も處處に設けられ、內地・大連及び滿洲國との間には、航空輸送も行はれる。

人口と都邑　人口密度は內地よりも



交通　昔は道路が荒廢し、專ら馬や轎を用ひてゐたが、近年自動車の普及に伴れて、その修築が著しく進んだ。鐵道は京釜[1]・京義[2]の二線が、相連つて半島を縱貫し、東北部の幹線をなす京元[3]・咸鏡[4]・北鮮[5]等

慶尚南・北
全羅南・北
忠清南・北

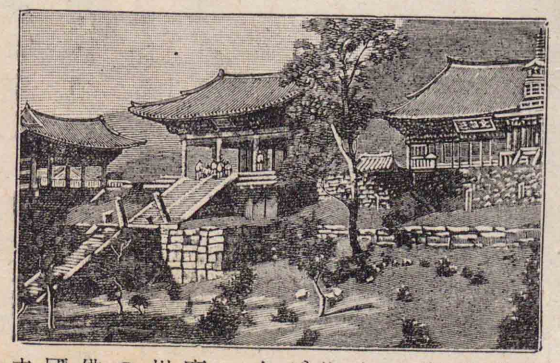
低いが、生活の安易を求め、內地・滿洲國等に出稼する者が少くない人口分布は、著しく地形の支配を受け、鴨綠江口から、迎日灣に引いた一線を界とし、西半は人口が稠密で、都邑の數も多い。主要の都市は、周圍に城壁を繞らし、民屋にも特色があり、殊に田舍の民家は、多く草葺で、防寒の爲に溫突(ヲンドル)を設けてゐる。併し、近年の建築樣式は、內地風に改まる傾向が著しい。

處誌

朝鮮は南・中・北の三部に分れ、又表朝鮮・裏朝鮮等にも分ける。

南朝鮮 南部の六道[1]を含む地域で、洛東江流域と湖南平野とが、その主要部である。

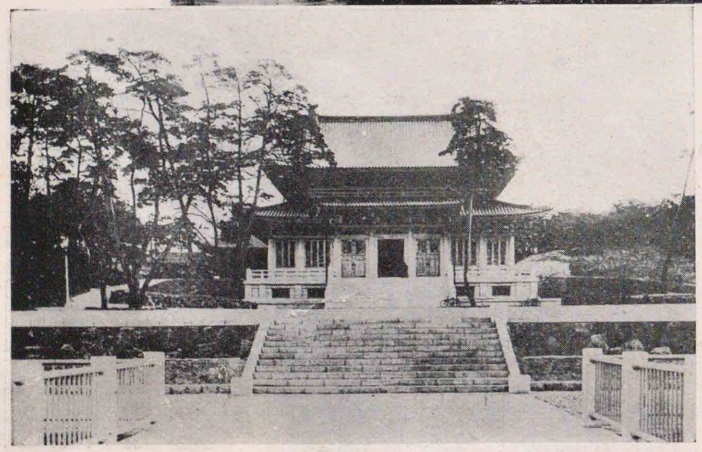
釜山[181]・府は絕影(ゼツエイ)島の陰に位する內地風の町で、下關と鐵道連絡船を通ずる。港灣の設備がよく整ひ、半島第一の商港で、又漁港を兼



佛教美術の名作が多い慶州の佛國寺

京城驛　近代的の大建築で半島の主幹線は此處に集りまた多數の旅客が呑吐されてゐる

京城南大門　舊城門の一を殘したもので五百年前の東洋藝術が圖の如く儼然とし



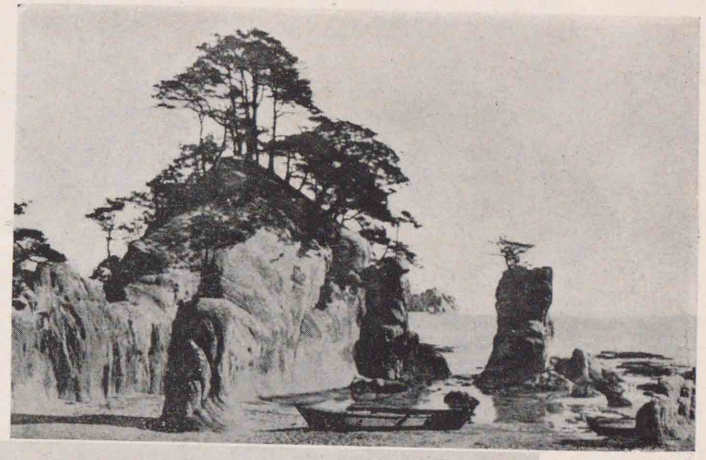
博文寺　伊藤公の遺業を偲ぶ記念建築で春畝山博文寺と稱へる寺院

京畿(1)　黄海
江原

ね、米・水産物等の集散が盛に行はれ、東北に東萊(トウライ)溫泉がある。馬山府は風景のよい健康地として知られ、鎭海は海軍要港で、晉州(シン)府は農産物の集散地である。大邱(クイキウ)府は生絲・苹果その他農産物の集散が盛に行はれ、慶州(ケイシウ)は新羅の舊都で、著名な古蹟が多く、蔚山(ウルサン)は漁業の根據地である。湖南平野は米・綿等の農産が多く、大田(クイデン)府は交通の要地に發達した新興の市街で、商工業が行はれ、扶餘(フヨ)は百濟の舊都である。全州府・光州府及び公州は、共に農産物の集散が行はれ、海岸の群山府(米)・木浦府(綿)等は、その積出が盛である。麗水(レイスイ)は下關と連絡航路の便があり、濟州島は漁業の一中心である。

積出す綿が山と積まれた木浦の埠頭

中朝鮮　中部の三道を含む地域で、主として漢江の流域に屬する。京城府は半島第一の大都會で、政治・經濟・學術等の中心をなし、舊王宮・朝鮮神宮・博文寺等がある。もと四周に城壁を繞らしてゐたが、近年市區を改修して、全く



海金剛　海金剛の優といはれる立石浦で海には岩を點じ岩には松を彩つてゐる

平壤の市街　アカシヤの街路樹が整然と並ぶ大和町通で内地人の店舗が多い

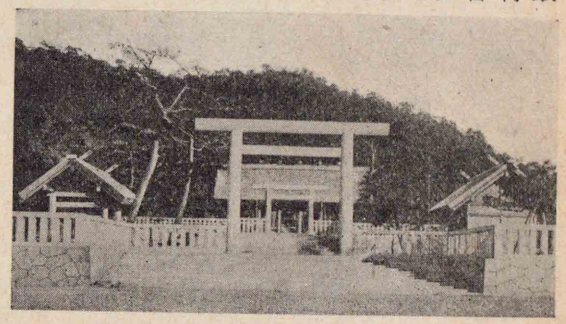
新義州　國境の町のその尖端に當る地點で一衣帶水の彼方は滿洲國である

銀行・會社・大商店等の多い京城の南大門通

仁川は潮汐干滿の差が十米に達する

(1) 平安南北・咸鏡南北

舊觀を一變した。南部の龍山は、軍事交通の要地である。仁川府は京城の門戸に當り、米・大豆・牛皮等の積出が多く、半島第二の商港であるが、潮汐の干滿が激しいので、閘門式船渠を設け、碇泊に便してゐる。

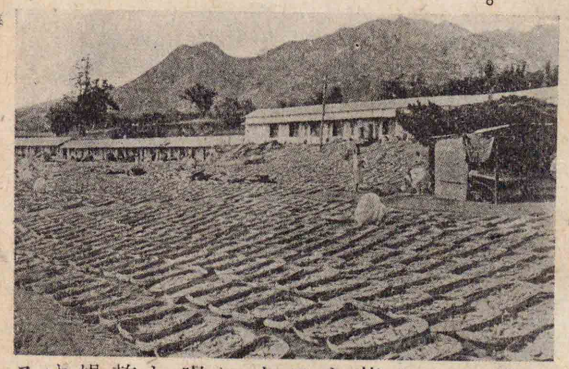


朝鮮神宮は丘上に在つて眺望が廣い

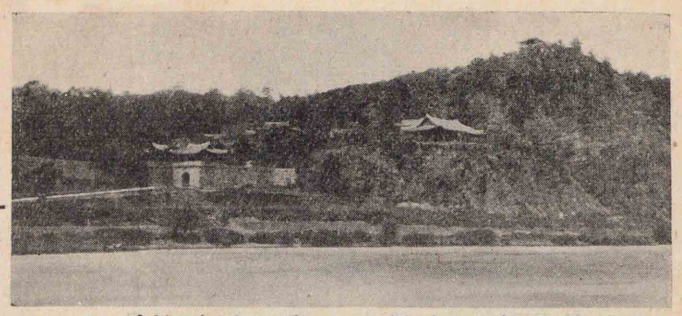
水原は農事試驗場の所在地で、春川は農産物集散の一中心である。開城府は高麗の舊都で、附近は古來人蔘の産地として名高い。

北朝鮮

北部を占める(1)四道の地域で、山地によつて東・西に二分される。大同江に臨む平壤府は、古い要塞都市で、著名な史蹟が多く、附近に炭田を控へて、商工業が發達し、今は北朝鮮の中心都會で、農産物の集散も盛である。鎭南浦府は平壤の門戸で、製鐵・精米等の工場があり、廣梁灣には鹽田が多い。新義州府は、鴨綠江を隔てて滿洲國の安東と對し、木材の大集散地で、製材・パルプ等の工場がある。東部の元山府は、裏朝鮮第一の商港で、又漁港を兼ね、咸興府は沃野の中心に位し、農産物集散の一中心である。興南は背後に大規模の發電所を控へ、之を利用した化學工業の大工場がある。清津府は會寧を經て、滿洲國へ通ずる門戸に當り、羅南は軍事上の要地である。羅津府は新興の都市で、雄基と共に滿洲國に對する主要の門戸をなし、我が國との連絡上、重要な位置を占める。

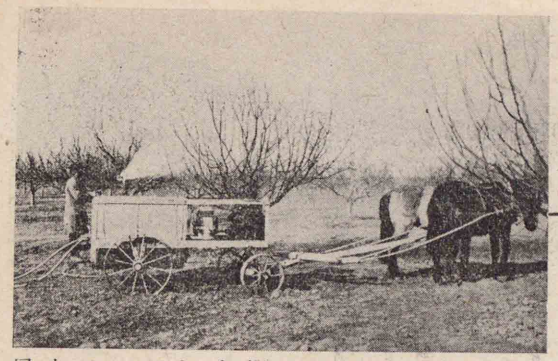


收穫した人蔘を日光に曝し乾燥する



平壤牡丹臺の光景で丘腹に浮碧樓が見える

第十二章　關東州



苹果園に驅蟲劑を撒布してゐる光景

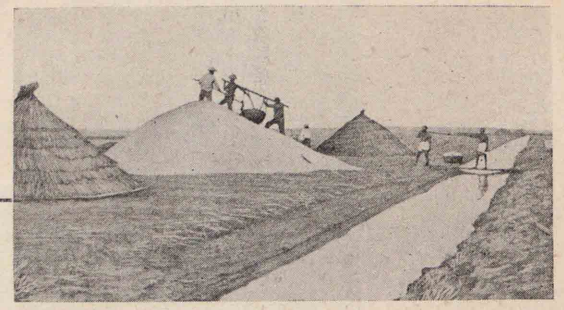
通說

關東州は、日清戰役の後、一時我が領土となつた遼東半島の一部で、後にロシヤが此處を租借し、軍事上の根據地としたが、日露戰役の結果、その利權は我が國に移り、滿洲開發の根據地となつた處である。今は駐滿全權大使の下に、關東州廳を大連に置き、その長官が施政を掌つてゐる。

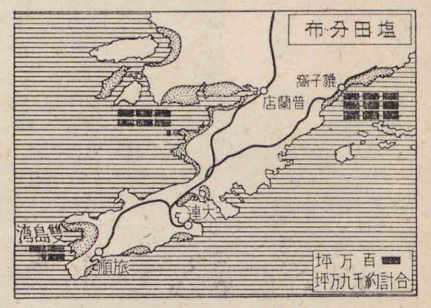
地勢 鳥取縣と略、等しい面積の小半島で、長白山脈の餘勢が起伏し、到る處に丘陵が多い。海岸は出入に富み、大連・金州の兩灣は、深く彎入して金州地峽を作り、東方の海上には、長山列島がある。

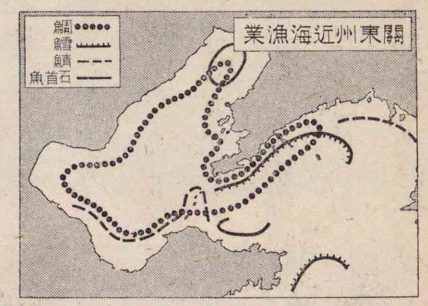
氣候 大陸の影響を受ける爲に、同緯度の奥羽地方に比べると、寒暑共に嚴しい。降雨は雨季(七八月頃)の外には極めて少く、平素は川が殆ど涸れてゐる。

產業 平地は少いが、よく利用されて、玉蜀黍・高粱・綿等

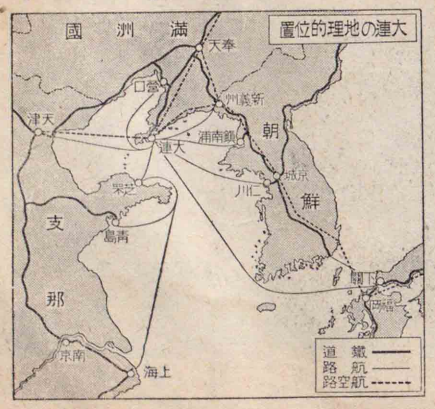


貔子窩の鹽田に高く積まれた鹽の山





を產し、又苹果・梨等の果實を出す。沿岸地方では、天日製鹽が盛に行はれ、貔子窩・普蘭店・雙島灣等には鹽田が多く、近海には鯛・鱈・石首魚等の漁利も頗る多い。近年大連を中心として、搾油・紡績・セメント・硝子等の工業も頗る盛になつた。



交通 連京線の鐵道が、大連から滿洲國に通じて、交通の幹線となり、航空路は朝鮮・內地・滿洲國及び支那と連絡し、航路は大連を中心として、內外の諸港に通じ、無線電信・

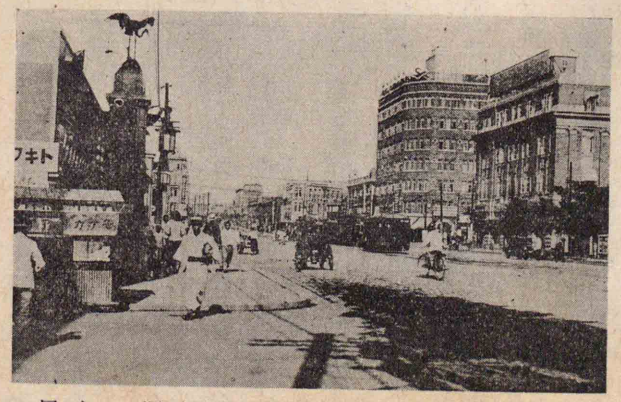
昭和十六年三月十九日旅順要塞司令部檢査濟

海底電線等も備つてゐる。

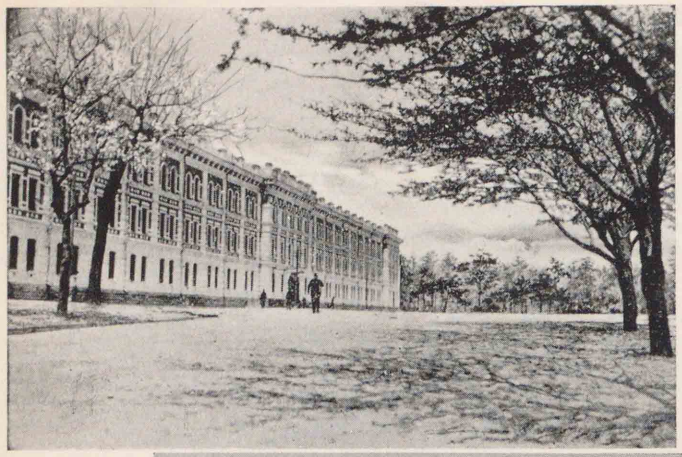
人口と都邑　人口密度は割合に高く、その大部分は漢族で、概ね農業を營んでゐるが、內地人は多く市街地に住み、主として商工業又は官公務に從事してゐる。從つて家屋や市街の狀態は、內地の都會と殆ど變りがなく、壯大な美都もある。

處誌

大連市は壯大な近代的の都市で、大廣場を中心として、數多の街路が射出し、港灣の施設も完備して、東洋屈指の大商港である。滿洲國に對する門戶で、對滿貿易の過半は此處を經由し、關東州廳・南滿洲鐵道會社の外、數多の工場がある。郊外の星ヶ浦・老虎灘（ラウフータン）は、共に市民の遊樂地で、對岸



商店が軒を並べる大連常盤通の光景



旅順の工科大學　大學令による單科大學で奉天の醫科大學と共に滿洲に於ける最高の學府である

（昭和十六年三月十九日旅順要塞司令部檢査濟）

渤海の漁業　滿洲人の嗜好する黃華魚が春季產卵の爲に集るのでその漁獲が盛である

大連埠頭の大豆　積出される大豆袋や豆粕が埠頭一面に堆れてゐる

（昭和十六年三月十九日旅順要塞司令部檢査濟）

南洋廳　大正十一年純然たる行政府となつた　廳舍は床が高く中二階式の平家建である

サイパン島のガラパン町　製糖業の發達と共に島勢が著しく進展し市街も南洋とは思はれぬ構造である

漁業　海藻で造つた網を持つて圓陣を造り漸次その圓形を狹めて魚を掬ひ捕る

支廳

サイパン　パラオ
ヤップ　トラック
ポナペ　ヤルート

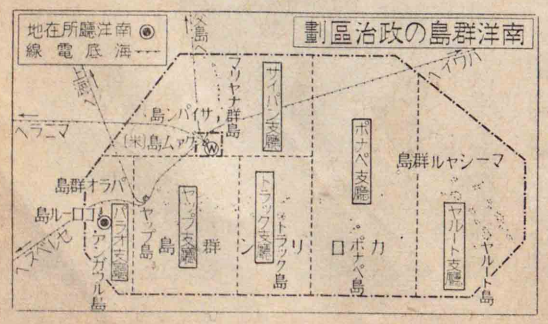
の甘井子（カンセイシ）には、石炭埠頭があり、附近は新工業地區となつてゐる。**順**市は丘陵に圍まれた天然の良灣に臨み、一部は海軍要港となつてゐる。市に工科大學がある。この地は日清・日露の激戰地で、爾靈山・東鷄冠山等の名高い戰蹟が多く、白玉山頂の表忠塔は、當時の壯烈を偲ばしめる。金州は金福鐵道の分れる處で、附近の南山は、日露の戰蹟地である。

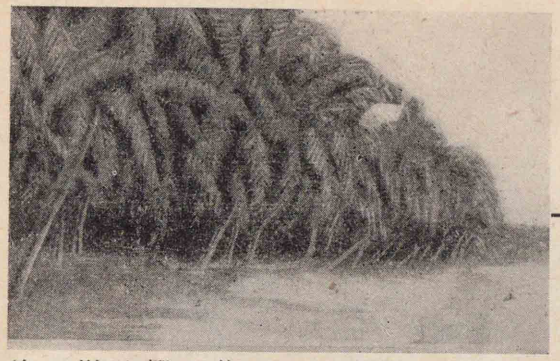
第十三章　南洋群島

通說

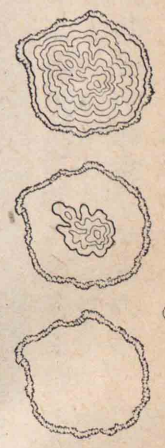
大洋洲の區域に屬し、もとドイツの領土であつたが、世界大戰の後、我が國の統治地となり、南洋廳の下に六支廳を設け、その文化開發を計つてゐる。

地勢　小笠原諸島の南方から、赤道に

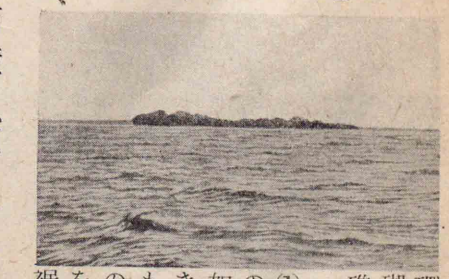

南洋群島の政治區劃
南洋廳所在地
海底電線
サイパン支廳
ポナペ支廳
トラック支廳
ヤルート支廳
パラオ支廳
ヤップ支廳
ヤップ島
ポナペ島
ヤルート島
ヤルート群島
ヤルート島
ヤルート群島
ヤルート島
ヤルート群



達する海上に散在せる七百有餘の島嶼で、マリヤナ・パラオ・カロリン・マーシャルの四群島に分れる。何れも小さい火山島や珊瑚島で、最大のポナペ島も淡路島よりも小さく、陸地の總面積は、僅に東京府位であるが、南北二千數百粁、東西四千數百粁の廣い海上に擴がるので、交通上・軍事上、極めて大切な處である。



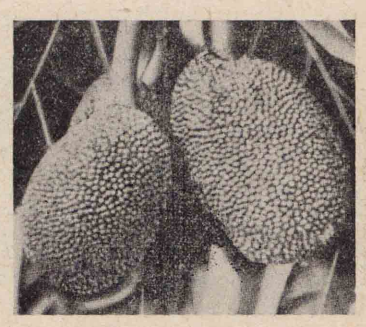
①
②
③

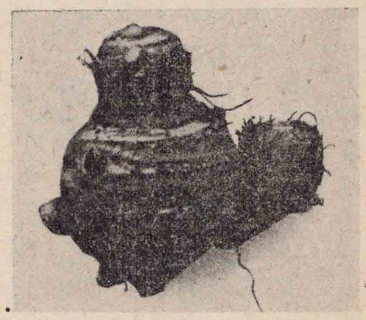


珊瑚礁が方サンゴ
瑚②南あか
礁を洋るら
堡群眺
①礁島下め
の③に圖た
如をはは景
き環其珊
も礁等瑚
のとの島
を呼各を
裾ば種遠

氣候・産業

全部が熱帯にあつて、氣溫の變化が少く、常夏の地であるが、海洋の調和を受け、且時々スコールと呼ぶ驟雨があるので、割合に凌ぎ易い。椰子樹(ココ)・麪果樹(パンノキ)・甘蔗・芋の林類等がよく生育し、別に特殊の風土病もないので、生活に



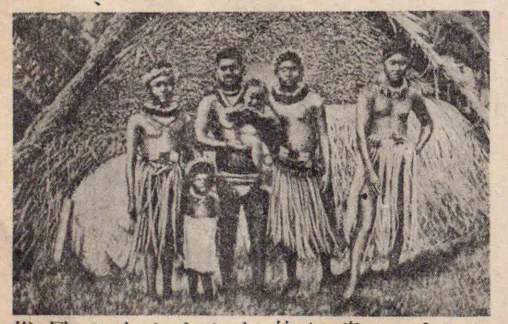


(上)麪(下)芋

と共に、主要な産物である。

交通 航路は主要の島嶼を連ねる外、内地と定期船が往復し、又航空輸送も行はれ、無線電信・電話や、海底電線も備つてゐる。

住民と都邑 土人はミクロネシヤ族に屬するチヤモロ人・カナカ人等で、前者の文化程度は、後者よりも稍〻高いが、その數は少い。何れも性質が溫良で、單純な生活を營み、衣服も洋服の如き簡單服を用は適してゐる。殊に麪を果結ロ類樹び芋し大)土内)土き人地人なのの砂糖・燐礦(リンクワウ)・コプラ等綠常八食色食ツ糧の(物頭(品は、貝類(高瀬貝・蝶貝等)・魚類等の水産物我が施政以來、産業が著しく發達して、



サイパン島に住むカナカ人の風俗

ふる者もあり、半裸體の者もあつて、風習は處により著しく違つてゐる人口密度の低いことは樺太に次ぎ、都邑といふ程のものもないが、産物に富む地方には、舟泊地が開けて、住民が此處に集り、尙處々の礁湖内には、碇泊地として利用し得る處が頗る多い。

處誌

アンガウル島に於ける燐鑛の採取

マリヤナ群島は、富士火山帶に屬し、多くは珊瑚礁に圍まれた火山島で、噴煙してゐるものもある。群島の東側には、マリヤナ海溝と呼ばれる深海がある。主島のサイパン島は、附近のチニヤン島と共に、甘蔗の栽培が盛となり製糖業が發達して、内地人が多く住む。

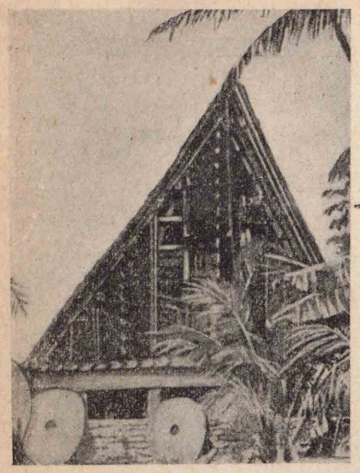
群島中のグァム島は、アメリカ合衆國の領土で、太平洋横斷海底電線の中繼所として知られ、又同國

海軍の重要な一根據地である

パラオ群島は概ね火山島で、東側に深い海溝がある。コロール島は、我が南洋廳の所在地で、鰹節の製造が行はれ、マラカルの錨地があるアンガウル島は、燐礦を多く産するので名高い。

カロリン群島は、廣く東西に散在する珊瑚島と火山島とから成る。西部のヤップ島は、海底電線の中繼地として名高く、その土人は、今でも石貨・貝貨を用ひる風習が殘つてゐる。トラック島は、廣い礁湖内に火山群島を包み、天然の良港を作つてゐる。東部のポナペ島は、群島中の最大島で、澱粉（タピオカ）の製造が行はれ、その南方のグリーニチ島は、我が統治地の最南端に當る。

マーシャル群島は、二列の珊瑚礁群から成る。主島のヤルート島は、椰子樹が繁茂してコプラの産が多く、ジャボールはその積出が盛である。



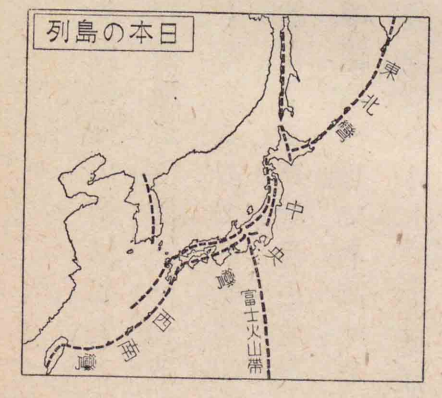
ヤップ島土人の集會所
彼等の使用する石貨

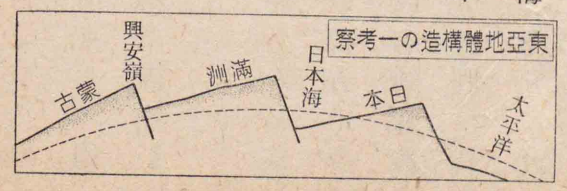
後篇　總說

第一章　地勢

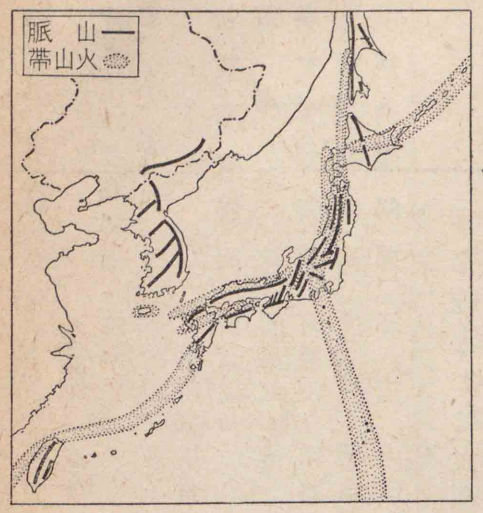
山系・火山帶　日本列島は、アジヤ大陸東邊の山脈が、地殼變動の爲に分れたものと考へられ、東北彎（千島）・中央彎（樺太・北海道本島・本州・四國・九州）・西南彎（琉球・臺灣）の三弓狀から成る。中央彎は最も主要な部分で、地勢上更に南彎・北彎とに分れる。南彎山系は、中央線によつて內・外の二

朝鮮半島	南部	大白山脈	小白山脈
	北部	長白山脈	妙香山脈
日本列島	南彎	木曾山脈	飛騨山脈
		筑紫山脈	中國山脈
		紀伊山脈	赤石山脈
		九州山脈	四國山脈
	北彎	越後山脈	三國山脈
		奧羽山脈	出羽丘陵
		北上山脈	關東山脈
		樺太山脈	日高山脈





彎形をなす山脈の外側を表日本、內側を裏日本と呼ぶ



帶に分れ、內帶は地構が錯雜し、大小の斷層が縱橫して、地壘や盆地が多く、外帶は地勢が概ね高峻で、豐後水道・紀伊水道・伊勢海等の陷沒を除いては、地盤の變動が割合に少い。北彎山系は、南北に走る數列の山脈から成り、その間に長大な縱谷の發達せるものがある。

南・北兩彎の會する弱線に沿つて、富士火山帶が走り、幾多の高峯を起して、遙に南洋の島々に連る。この他、北日本には、那須・鳥海・千島等の火山帶があり、南日本には、乘鞍・白山・阿蘇・霧島等の火山帶があつて、世界の火山國に數へられ、地震も屢〻起る。火山地方には溫泉が處々に湧き、その多くは靜養に利用される。

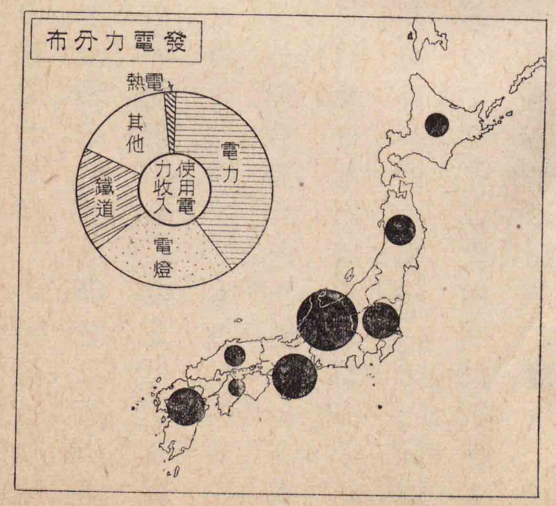
朝鮮半島の山地は、列島とは全く系統を異にし、多くは高原狀の地塊で、火山は少く、活火山は全くないが、溫泉は處々にある。

平野　中央彎の斜面には、我が國最大の關・東

太平洋斜面	北上川　利根川
	天龍川　木曾川
オホーツク海斜面	幌内川
日本海斜面	石狩川　最上川
	信濃川　豆滿江
朝鮮海峽斜面	洛東江
黃海斜面	鴨綠江　漢江
東支那海斜面	筑後川　球磨川
臺灣海峽斜面	淡水河　濁水溪
瀨戸内海斜面	淀川　大田川

平野を始め、濃尾・越後・筑紫・石狩等の諸平野があり、山脈の間には、狹長な平野及び盆地帶がある。臺灣及び朝鮮の平野は、山地の西側に偏つてゐる。平野は概ね水運が便利な上に、交通路も開け易いから、人口が密集して、産業が盛となり、殊に海上と連絡の便利な地方には、大都會が多い。

河湖　我が國は、地勢の關係上、平野を流れる二三の川を除けば、概ね流路が短く且急で、舟運の便に乏しいが、米作國として、川の灌漑から受ける恩惠は極めて大きく、且上流は、盛に發電に利用せられ、世界有數の

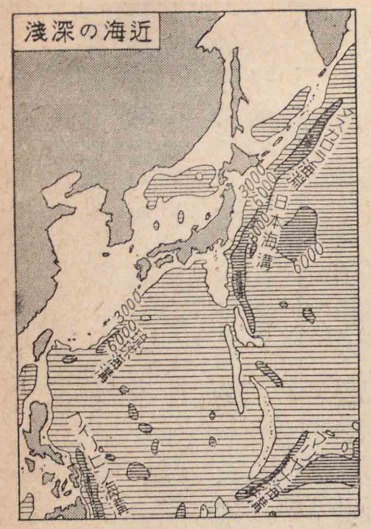


電力國たらしめてゐる。

湖水も多くは小さいが、天然の貯水池となつて、灌漑・養魚・發電等に利用せられ、又風景がよい爲に、名高いものが少くない。

海岸線　島國である上に、處々に陷沒があつて、海岸線の發達は、世界稀に見る處で、之が爲に文化の進歩を助けたことは著しい。日本海岸は、割合に單調で砂濱が多く、三陸海岸・志摩半島の如き、リヤス式の處には漁港が多く、東京灣・伊勢海及び瀨戸内海の沿岸は、背後地の産業發達と相俟つて、主要の商港が多く集つてゐる。

第二章　海　洋



近海　日本列島とアジヤ大陸との間の海は、一般に淺いが、外側は急に深度を增し、日本海溝・琉球海溝等は、世界屈指の深海である。經濟上大切なのは、陸棚（リクハク）と呼ばれる二百米以内の淺海で、

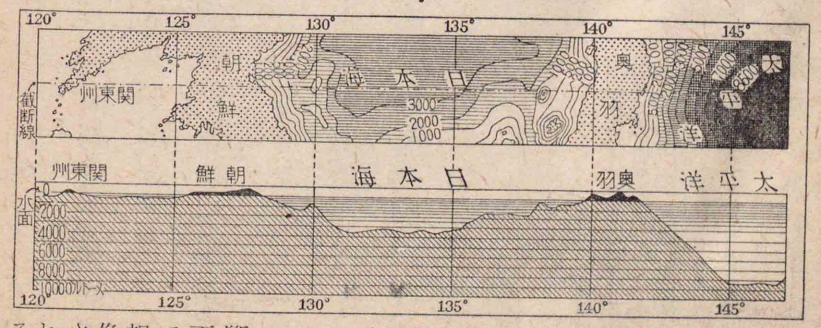
日本海溝の最深部は、伊豆諸島の東方にあつて、九千四百三十五米に達し、又東北の一部には、タスカロラ海淵と呼ばれる八千五百十四米の深所がある

漁場の多くは此處にある。我が近海は、陸棚の面積が甚だ廣く、之が世界の大水産國たる重要な原因である。

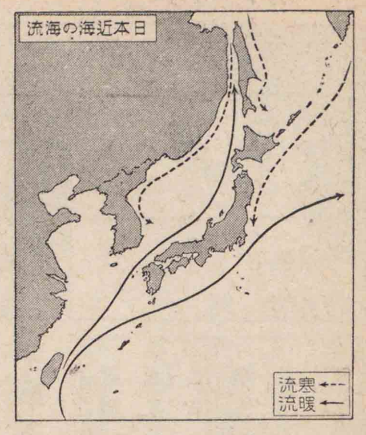
潮汐　潮汐の干滿は、地形・海底等の狀態によつて大いに違ひ、朝鮮の西岸・九州の有明海等は極めて著しく、日本海の沿岸は一般に少い。潮汐の干滿が適度にあることは、貝類・海苔等の養殖に利し、港灣の浚渫(シュンセツ)作用ともなるが、過大の時は、船舶の出入・碇泊を妨げる。狹い海峽では、潮汐の干滿につれて、潮流を起すことがある。瀨戸内海の入口は、その現象が著しい。

鳴門では時速二十粁に及ぶ

海流　我が近海には、寒・暖二種の海流がある。日本海流・對馬海流は暖流で、千島海流・リマン海流・樺太海流等は寒流である。海流は氣候に影響を及ぼし、又水産と密接な關係がある。暖流には鰹・鮪等の如き魚族が集り、寒流には鰊・鱈等の魚族及び海獸が好んで棲息する。寒・暖兩流の合する地方は、屢濃霧を起し、航海を妨げることがある。

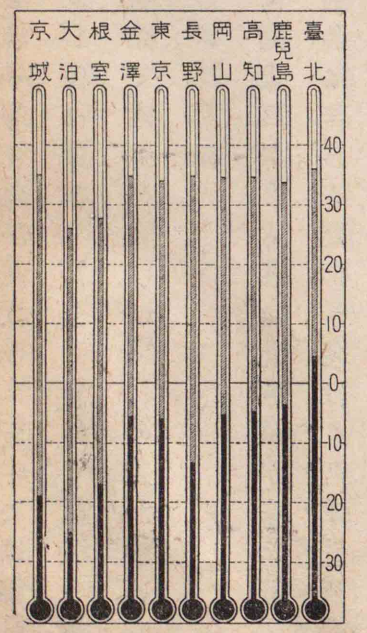


日本が大陸の一部をなすことはこの斷面で想像される

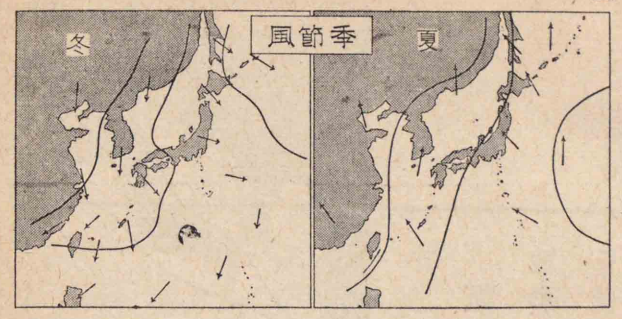


第三章　氣　候

氣溫　我が國は、大陸と大洋との間に位し、土地が南北に長く、且地形・海流・季節風等の影響を受けるので、天氣が變化し易く、氣候も處によつて大差がある。臺灣・小笠原諸島等は、年平均氣溫が二十度以上に達し、殆ど常夏の



地であるが、北海道・樺太では、年平均氣溫が九度以下で、中には零度以下に降る處もあり、長い冬と短い夏との二季に分れて、氣溫の差が烈しい。朝鮮は著しく大陸性で、南部を除けば寒暑の差が極めて大である。



風雨　我國の夏は南東風が多く、冬は北西風が多い。夏の南東季節風は、影響が割合に著しくないが、冬は北西季節風が卓越して、日本海上の濕氣を吹寄せ、裏日本に多量の雨雪を齎らす。樺太は全體に雨量が少く、朝鮮も南部の外は、概して寡雨であるが、臺灣は降雨が多く、本邦最多雨の地がある。風向の變る夏秋の交には、南洋に起る颱風が襲來して雨を運び、又初夏の頃には、全國の大部に亙り、梅雨と呼ぶ雨期があつて、陰鬱な天氣の續くのが例である。

> 颱風は多く南洋に起り、始め西北の方向に進み、臺灣の東に至つて漸く東北に方向を變じ、進行し來るもので、所謂二百十日の頃は、荒れ時として一般に警戒する

植物分布は同一の地でも土地の高低によつて違ひ臺灣の高山では麓から頂上に行くにつれて熱・溫・寒の各帶に特有な植物を認める

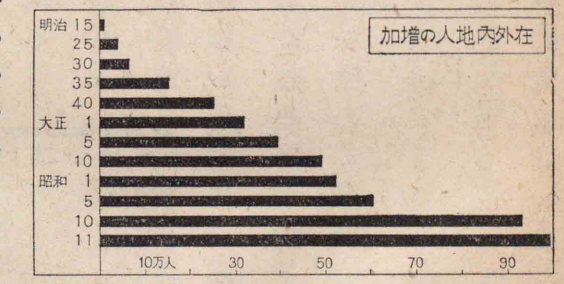
生物　氣候の關係は、植物の分布にも差違を來し、西南部では、種々の熱帶性植物が茂り、北部では、寒帶性の針葉樹が密生し、常綠闊葉樹は見られない。動物も臺灣には水牛、北海道には羆(ヒグマ)、樺太には馴鹿(トナカイ)等の特殊のものが殘り、朝鮮では、稀に虎の如き猛獸も見られる。海棲動物も、南部には海龜・珊瑚等が生育し、北部の寒潮には、獵虎(ラッコ)・膃肭獸等が棲み、又海流その他の關係で、魚族も處によつて異なり、その種類が極めて多い。

第四章　住民

民族・人口　我が國民の總數は、約一億に達し、大和民族はその中

一方粁の人口密度は約一四五人で內地のみでは一八一人の割合である

滿洲國の日本移民村に於ける收穫期



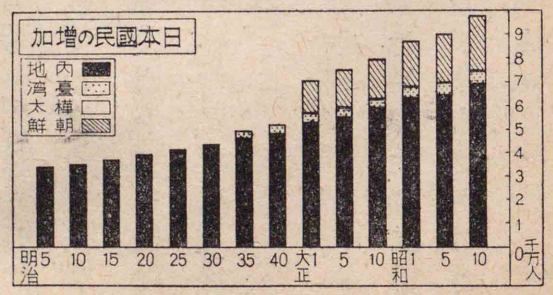
太にはアイヌの外、オロッコ・ニクブン等の土人もゐるが、それ等の數は極めて少い。大和民族は廣く海外に移住して、各地に發展し、最近の在外住民は百萬に近い。中でも滿洲國への移住は、近年著しい激增をなし、ハワイ・ブラジル・アメリカ合衆國・支那等にも頗る多い。

人口の增加が著しく、明治の初年に比べると、內地人の數は二倍の七割餘を占めて、國家の中堅となつてゐる。別に朝鮮には朝鮮族、臺灣には漢族が多く、何れも大和民族と同化して、一致團結した日本國民をなしてゐる。その他、臺灣には高砂族、北海道にはアイヌ族が僅に殘り、樺

餘に增加した。人口密度も從つて高く、食糧問題・移民計畫等が、高唱される所以である。

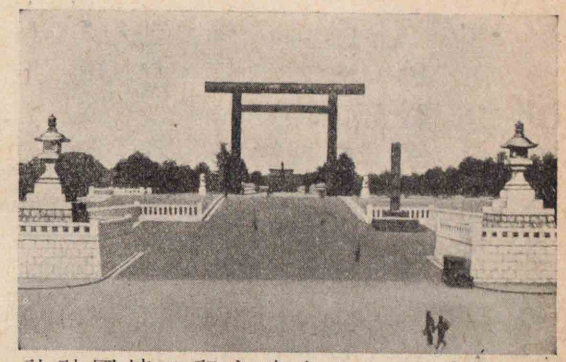
文化　大和民族は、神代から傳はる固有の文化に、或は儒教を容れ、或は佛教を同化し、或は西洋文明を融合し、以て今日の新日本文化を創定したものである。

現在初等教育の普及は、歐米に遜色なく、學齡兒童の就學率は、世界の最高位を占め、その他、中等・高等・專門等に進む教育の脈絡も、よく整つてゐる。外地の教育は、土地の事情により、特殊の制度もあるが、年毎に內地の教育に接近してゐる。



神社・宗教　大和民族は、光輝ある三千年の歷史と、その間に涵養せられた日本魂を具へ、皇室を崇め、祖先を尊び、又功臣・偉人の靈を神として祀る美風があるから、神社の數は甚だ多い。卽ち敬神の念

佛教には宗派が多く眞言宗・眞宗・禪宗・淨土宗・日蓮宗・天台宗等がある



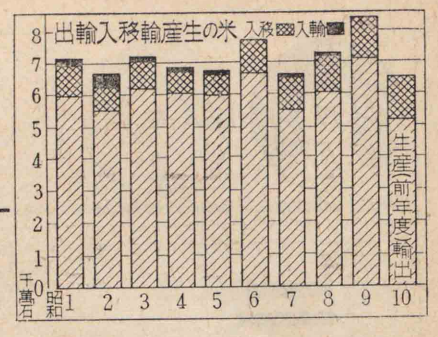
國に厚く、皇室を中心とする團結心が固く、報國盡忠を以て最大最高の信念とせることは、我が國民特有の美點で、我等が絶大の誇とする處である。

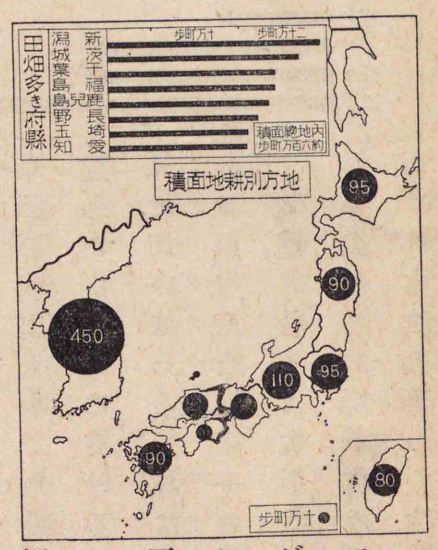
宗教は信仰の自由を許され、神道・佛教・キリスト教等が行はれてゐるが、宗教として最も信徒の多いのは佛教で、數多の宗派があり、キリスト教は主に都會住民の一部に行はれる。

國靖國神社に捧げられたる忠魂を祀る

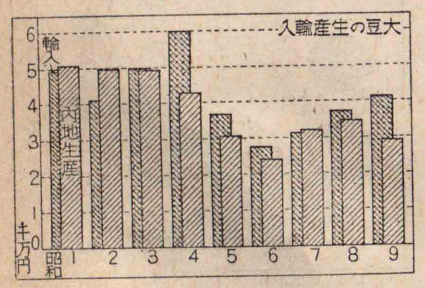
第五章　産業

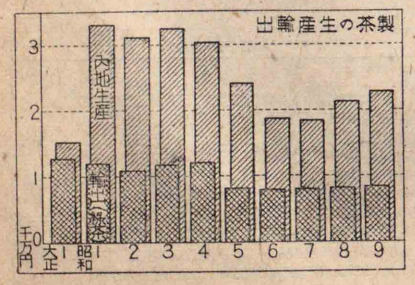
農業　我が國は、古來農を國本とし、國民の多數は農業に從事してゐるが、地勢の關係上、耕地が割合に狹く、且人口が稠密であるから、北海道・樺太等の外は、農法が一般に集約的である。

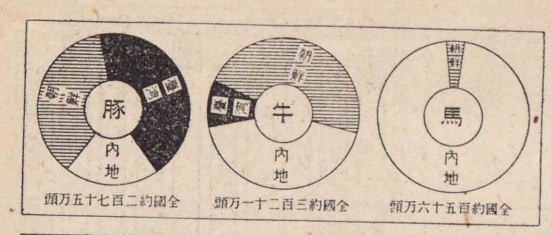


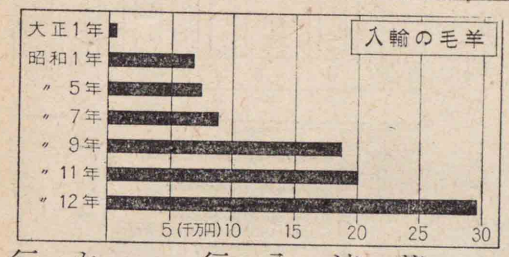


農産中、最も重要なのは米で、世界屈指の米産國であるが、消費が多いので、朝鮮・臺灣からの移入によつて、需給の平衡を保つてゐる。麥（關東別丁參照）は米に次ぐ主要な食糧で、産額は頗る多いが、製粉原料として多量の小麥を輸入し、大豆も廣く産するが、釀造その他の原料として、輸移入額は尚少くない。茶は世界屈指の産地で、主要輸出品の一であるが、近年他國の産茶に壓されてゐる。甘蔗（臺灣別丁參照）の栽培は、臺

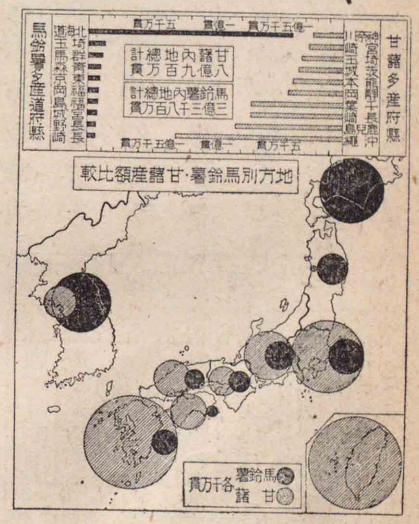




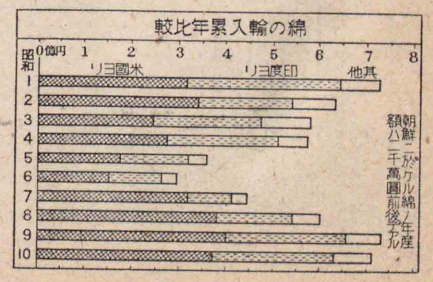




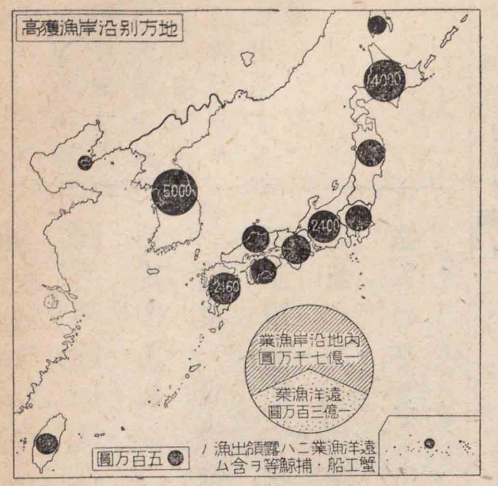
灣の製糖業發達と共に盛となり、寒地に於ける甜菜の栽培も、頗る有望である。その他、甘藷・馬鈴薯・煙草等の産出も少くない。朝鮮の綿作は、近年著しく發達したが、內地に於ける綿工業の原料は、大部分を輸入に仰いでゐる。養蠶は農家の副業として古くから行はれ、今は世界第一の養蠶國である。



牧畜　牧畜は生活狀態の變遷、軍馬改良の必要等から、公私の牧場が處々に興つて、牛・馬・豚等の飼養が行はれ、方法も著しく改善されたが、規模は尙小さい。



我が國は濕氣が多く面積が狹く且大草原がないから牧畜に適當とはいへぬ

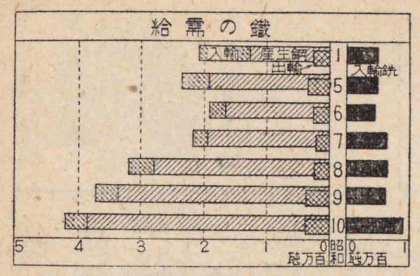


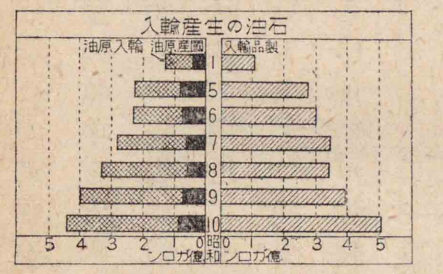
殊に羊は、尙試育の狀態で、原料羊毛の輸入が多く、之が對策として、滿蒙の牧羊を奬勵してゐる。養鷄は概ね農家の副業であるが、近年は、頗る大規模に行はれるやうになつた。

林業　內地にも處々に美林があり、朝鮮・臺灣・樺太等には、廣い天然林もあつて、建築用材・製紙原料・薪炭用等の伐材は盛に行はれてゐるが、地形が險峻で、運材に不便なので、木材の輸入は尙少くない。臺灣の樟腦は、世界需要の大半を供給し、重要な産物である。

水産業　我が國は、地勢・海洋・國民性等、總てが水産業發達の條件を具へ、殊に近年、遠洋漁業も盛となつて、漁獲額は世界の第一位を占める。漁獲物(北海道別丁參照)は魚類を第一とし、貝類・海獸・海藻等があり、其等の加工品には、重要な輸出品も少くない。特殊の産物として、志摩半島の眞珠が、國際的に

北はシベリヤ等の沿岸から南は遙に赤道を越えて南洋及び南極地方に出漁する者もある



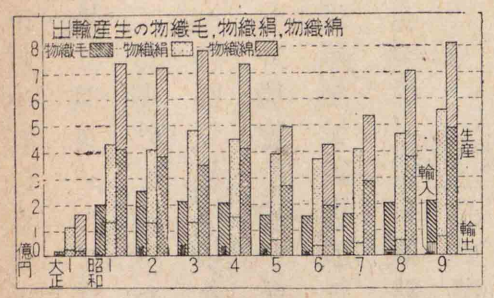


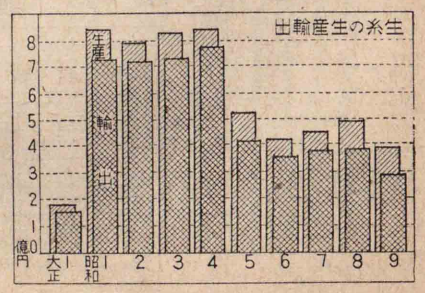
名を馳せてゐる。製鹽中國別丁參照)は、瀬戸内海地方を主産地とし、臺灣や朝鮮には、天日製鹽が行はれるが、我が國全體としては、需要に不足である。

鑛業　我が鑛産の種類は少くないが、最も重要なのは石炭で、全鑛産價額の七割餘を占め、輸出も相當にあつたが、近年は輸入の方が多くなつた。銅は世界屈指の産地であるが、工業發達の爲に、近年輸入の必要を生じ、鐵は製鐵業が發達し、鋼鐵は殆ど自給し得るに至つたが、原料鐵鑛の大部分は、移輸入に仰がねばならぬ。石油は個人の生活上にも、國策上にも重要であるが、我が國は産出が少いから、石炭の液化・乾溜又は石油代用品を以て、之を補つてゐるが、需要の約一割を自給するに過ぎない。その他、金・銀・亞鉛・硫黄・燐礦等の産出もある。

工業　我が國民は、古來手工に長じてゐたが、

近年大工業の發達と共に、在來の工業にも動力を利用し、益〻産額を増加するに至つた。生絲(中部別丁參照)は、その産額が世界の諸國に卓越し、人造絹絲も近年急激に發達して、生絲國たる我が國は、同時に又人絹國となり、此等を原料とする絹織物・人絹織物の輸出は甚だ多い。綿絲と綿織物とは、我が工業界の巨星で、綿製品(近畿別丁參照)は生絲と共に、輸出品の大宗である。その他各種の機械工業・化學工業等も著しく發展し、工業國としての地位が、年々高まつてゐる。

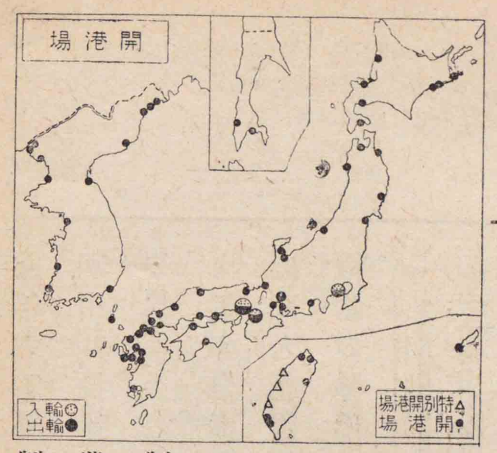


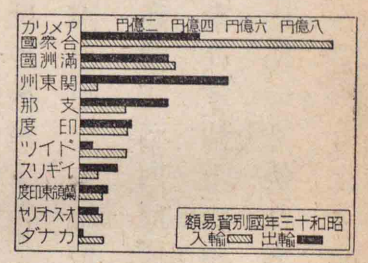


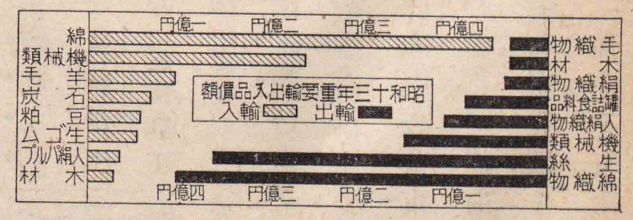
商業　國内商業の大中心は東京と大阪とで、東京は政治上の中心として、經濟・金融機關の整備に於いて優り、大阪は商業地としての古い歴史と、盛大な生産とに強味を有する。名古屋も兩

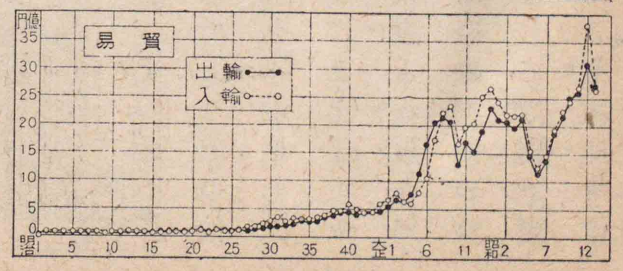
市の中間に立ち、近年商工業地として、著しく重要性を加へた。

外國貿易は、年々著しい發達を續け、殊に近年、工業の發展と共に、販路が益〻擴がり、我が商品の進出は、國際的の驚異を招いてゐる。我が國には五十に餘る開港場がある。その中、横濱・神戸とは、東西の二大商港である。横濱は製絲・機業地を背後地とする輸出が多く、神戸は阪神工業地を控へて、原料の輸入を主とし、大阪は之に對して製品の輸出が多く、この三港の貿易額は、内地貿易總額









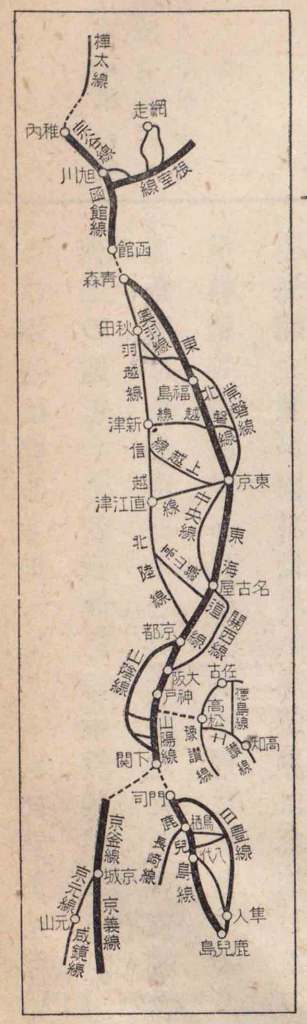
國道に於ける全國距離の起點は東京日本橋上にある道路元標である

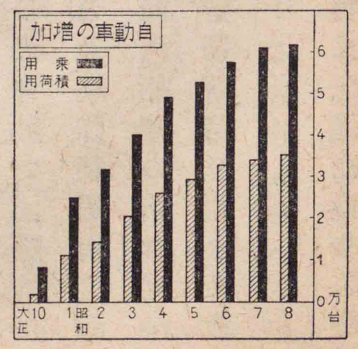
の八割餘を占める。

第六章　交　通

道路　古は道路が不完全な上に、天然の難所や人爲の關所等があつて、往來に不便を極めたが、近年自動車の普及と共に、道路の新設・改修が著しく進み、十九萬臺に餘る自動車が馳驅して、短距離の交通輸送に當つてゐる。

鐵道　鐵道は異常な發達を示し、今は延長二萬八千粁(外地合算)を超える。幹線は樺太・北海道から、九州の南部に達し、その間の宗谷・津輕・下關の三海峽及び四國

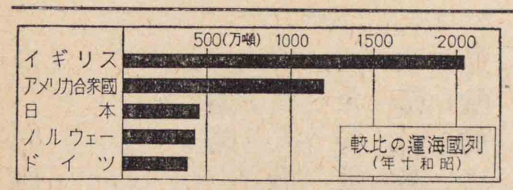


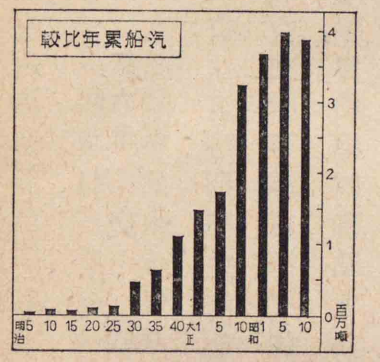


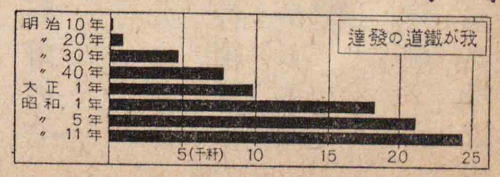
電車網の發達は京阪地方が第一である

へは鐵道連絡船を通じてゐる。別に關釜連絡船があつて、朝鮮の鐵道と連り、臺灣には縱貫線がある。鐵道の幹線が、遠距離に便を與へると共に、各地にその支線及び地方鐵道・軌道等が設けられ、地方的交通に任じてゐる。

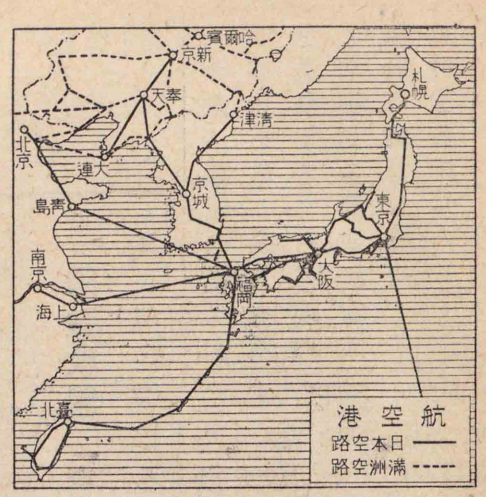
海運　我が國が、世界の海運界に參加したのは、比較的近年であるが、現在の商船噸數は、世界の第三位を占め、外國貨物の輸送運賃は、貿易の入超を償ふ最大の財源となつてゐる。日本郵船・大阪商船の二社は、共に世界有數の大會社で、國際的に勢力がある。この他、朝鮮郵船・南洋海運・山下汽船・川崎汽船等の諸會社があつて、各地に定期航路を開き、又貨物船のみを有する會社も多い。





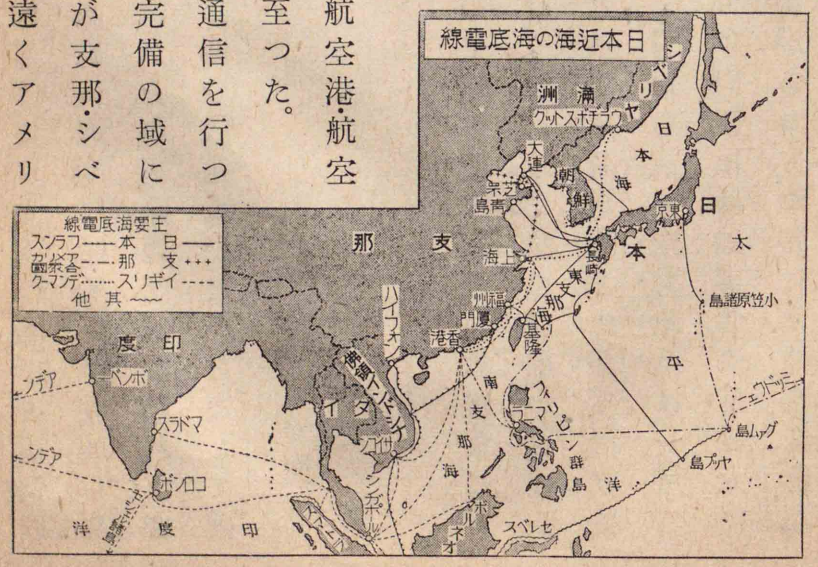


航空　航空機は急速に進歩し、今



は東京・大阪・福岡を三大中心として、東北は奥羽より北海道へ、西は朝鮮・關東州・臺灣等へ通じて、滿洲國・支那のそれと連絡し、近年南洋空路・タイ國空路等も開かれた。その他、地方的の空路は處々に通じ、航空港・航空燈臺等の施設も、次第に備はるに至つた。

通信　古は專ら飛脚によつて通信を行つたが、今は郵便・電信の制度が、殆ど完備の域に進んでゐる。國際通信は、海底電線が支那・シベリヤ等に通じ、又小笠原島からは、遠くアメリ



東京中央電信局は主としてアメリカ方面、大阪中央電信局は歐洲方面と通信する

カ合衆國の電線と連接する。無線電信は、東京・大阪の兩中央電信局が、歐米と直接通信を交換する外、多數の海岸局・船舶局が設けられ、無線電話も著しく發達して、遠く歐米との國際通話が開かれ、ラヂオの放送は全國的に普及し、歐米諸國の放送も、坐ながらにして聽かれるやうになつた。

第七章　政　治

國體・政體　我が國は、萬世一系の皇室を戴き、國體の尊嚴なことは、世界に冠絶してゐる。統治機關は、立法・行政・司法の三部から成る。

三大政治機關の外皇室の事務を掌り兼て華族を監督する宮內省、諮詢に奉答する爲の樞密院、政府の會計を檢査する會計檢査院がある

立法機關は帝國議會で、貴族院と衆議院とに分れ、行政機關は政府で、內閣及び十三省から成る。地方政治は、一道・三府・四十三縣と外地とに分け、府・縣には知事、北海道・樺太には長官、朝鮮・臺灣には總督があつて、治務に當り、南洋群島には長官が駐在し、關東州は滿洲國駐劄の大使が治めてゐる。司法機關は裁判所で、大審院(一)・控訴院(ソ)(七)・地方裁判所(五十一)・區裁判所(三百餘)等の階級がある。又朝鮮・臺灣・南洋群島・關東州等には、特別の裁判所が設けられてゐる。

海軍區	軍港	要港
第一	横須賀	大湊
第二	吳	
第三	佐世保	鎭海 馬公
第四	舞鶴	

別に關東州海軍區(佐世保鎭守府管轄)・南洋海軍區(横須賀鎭守府管轄)があり、前者は旅順を要港とする

國防　國際平和は、人類の理想であるが、他國の侮を受けない爲にも、國內の秩序を保つ爲にも、兵備の必要がある。我が陸軍は、內地を四軍管區に分けて、その下に十四の師管を設け、別に近衞師團がある。朝鮮は二箇の師團管區に分けられ、臺灣及び滿洲國には守備隊を置く外、滿洲國・支那等には派遣軍が駐屯してゐる。又國防上の要地には、要塞を設けてある。

海軍は、全國の海岸・海面を四海軍區に分け、その各區に

軍管區	師管
東部	東京 宇都宮 仙臺 金澤
中部	名古屋 京都 大阪 姫路
西部	廣島 善通寺 熊本 久留米
北部	旭川 弘前

軍港を定めて、鎭守府を置き、又要害の地には、要港を設けて防禦に備へる。

空軍は陸海軍に分屬し、近年その發達が著しい。

外交　我が國は、世界の主要國と條約を結び、大使或は公使を交換して、外交上のことを掌らせ、通商上の要地には、領事が駐劄して、通商及び居留民保護の任に當つてゐる。滿洲國とは、防守同盟を結んで一體不可分の關係を保ち、又相互の援助を約して、日・獨・伊の三國同盟が成立し、最近ハンガリーも之に加盟した。

結論

我等は、日本地理の大要を學んだ。日本は實に山水秀麗の勝地、氣候溫和の樂土で、無上の生活地帶である。斯る環境は、國民の情操を養ひ、又發展を促して、產業を隆昌ならしめ、國運を伸長せしめた。今之を要約すると、

一、國土は緯度上の好位置を占め、殆ど全部が溫帶にある。
二、永く島國であつたから、他國の侵略を受けたことがない。
三、アジヤ大陸の東邊に列り、大陸進出に都合がよい上に、更に太平洋に面して、海上發展に都合がよい。
四、土地が細長い上に山地が多く、大河や廣い平野に乏しい。
五、本土は歐洲の諸國（ソ聯邦を除く）よりも廣いが、植民地がない。
六、氣候が溫和な上に、適度の變化があつて、民心の發奮を促す。
七、人口密度が甚だ高く、移民の計畫は必然の要求である。
八、人情が淳美で、皇室を中心とする團結心が強く、滅私奉公の情に燃え、敬神崇祖の念に篤い。
九、初等教育は勿論、高等教育の普及・發達は、世界の高位にある。
一〇、固有の古代文化を基として、新日本文化を創造し、世界の平和と福祉とに貢獻しつゝある。
二、產物の種類が多く、經濟的發展が著しい。

一、農業は概して集約的であるが、産物は概ね自給自足であり、殊に食糧の自給は、絶大の強味であるが、最大工業の原料たる綿は、大部分を輸入に仰いでゐる。

二、世界第一の養蠶國で、生絲は重要な輸出品である。

三、牧畜は小規模で、工業原料たる羊毛は、大部を輸入に仰ぐ。

四、林地は廣いが、製紙用・人絹用のパルプは不足し、木材の輸入も相當に多い。

五、世界第一の水産國である。

六、鑛産の種類は多いが、石油の産に乏しい遺憾がある

七、工業は一般に驚異的發展をなし、綿製品・人絹製品等は、世界の一二を爭つてゐる

八、貿易の發展は、世界の市場を驚かし、列强はその防壓に努めてゐる

一三、鐵道は地勢の關係もあり、密度に於いて尙劣るが、施設・經營・技術等は頗る進んで、世界の模範といはれる。

一三、商船噸數は世界の第三位を占め、近年優秀船が增加した。

一四、兵備は陸・海・空共に充實し、我が國を磐石の安きに置いてゐる。

一五、日本の輿論動向は世界に波及し、國際的地位は頗る高くなつた。

我が國は、建國以來三千年、世界無比の尊き歷史に輝くと共に、地理上に有する天惠も斯の如く大である。今や國運は隆々として進み、世界の大强國に數へられてゐるが、滿洲國の獨立以來、國際關係は一層複雜となり、加ふるに支那の國民政府は、歐米に依存して抗日に狂奔し、終に支那事變を起すに至つた。皇旗の向ふ處、敵軍を風靡せしめたとはいへ、占領地の治安と建設には、尙長期を要するは當然であり、列强中には、抗日支那を援けて、我が勢力の伸長を阻止せんと、策動するものも少くない。

一、イギリスは支那に於ける傳統的な政治上・經濟上の勢力を維持せんとし、他國を誘つて蔣政權を援け、大廈の傾倒を支へんと狂奔してゐたが、歐洲に於ける自國の不安により、その力を殺がれるに至つた

二、アメリカ合衆國は、虎視眈々、極東への進出を覗ってゐたが、今は英國に代り、事々に我が東亞新秩序の遂行を妨げてゐる。

三、ソビエト聯邦は、支那の抗日政策を操り、之を共産化して、自己の利を捉へんとし、我に不利な行動を續けてゐる。

我等は斯る四圍の狀勢と、我が國の地位とを洞察し、この盛時に會して、この國土に生れたる幸福を思ふと共に、又この難局を自覺し、堅忍不撓、以て國策の遂行に力を致さねばならぬ。

中等 **最近日本地理** 三訂版 終

三訂編日地

昭和十二年八月九日 印刷　昭和十四年六月廿七日 修正三版印刷
昭和十二年八月十五日 發行　昭和十四年七月二日 修正三版發行
昭和十三年二月八日 修正再版印刷　昭和十四年十一月三十日 修正四版印刷
昭和十三年二月十二日 修正再版發行　昭和十四年十二月七日 修正四版發行
昭和十六年一月五日 修正五版印刷
昭和十六年一月十五日 修正五版發行

中等 最近日本地理（三訂版）
定價金壹圓參拾錢 ㊙

著作者　三省堂編輯所　代表者 龜井豐治
發行者　東京市神田區神保町一丁目一番地　株式會社 三省堂　代表者 龜井豐治
印刷者　東京市蒲田區仲六郷一丁目五番地　株式會社 三省堂蒲田工場　代表者 喜多見昇
發行所　（東京市神田區神保町一ノ一）株式會社 三省堂
（振替口座東京三一五五五）
（大阪市西區阿波座下通二ノ六）株式會社 三省堂大阪支店

不許複製

兒

広島大学図書
2000040709